

令和5年度

学生による授業改善のための
授業評価結果に関する
報告書

公表用

目 次

1. 「学生による授業改善のための授業評価」の取り組みについて	…	1
2. 実施方法/令和5年度学生による授業評価アンケートの調査用紙等	…	2
3. 授業担当教員による授業評価アンケート結果の考察	…	6
4. 学生による授業評価アンケート調査結果報告	…	155
5. 分析に基づく検証評価・改善について	…	167

「学生による授業改善のための授業評価」の取り組みについて

全ての授業は、学生の実態やニーズを踏まえた質の高いものでなければならない。「学生による授業改善のための授業評価」の取り組みの目的は、各授業に対する受講学生の意見や要望、自己評価等の情報を収集することで、集約したデータを各々の教員が分析を行い、指導方法の工夫・改善に具体的に生かすということである。

本学における「学生による授業改善のための授業評価」の取り組みは、平成 13 年度より実施されている。

また、平成 21 年度からは、西九州大学と同一内容の授業評価アンケート調査を実施し、大学との教育内容の共有を図りながら授業の質の向上を目指してきた。

平成 29 年度からは相互授業参観がスタートしたが、平成 31 年度に各教科の専門性のみならず、汎用的な授業力を振り返る質問項目や、大学教育に求められている「深い学習」「深い理解」「深い関与」に着目したディープ・アクティブラーニング的な授業を展開するための質問項目を加える等、評価内容を改善した。

本年度も、学生による授業改善のための授業評価を実施し考察を行った。以下、学内用報告書としてとりまとめる。なお、報告書の公表においては、授業担当者を伏せてとりまとめる。

分析、考察と合わせ、本学の授業改善に生かされることを期待する。

令和 6 年度 西九州大学短期大学部 FD 委員会

令和5年7月

授業担当教員 各位

西九州大学短期大学部FD委員会
委員長 武富 和美

学生による授業改善のためのアンケートの実施について

平素より本学FD活動につきまして、先生方におかれましては、多大なるご尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、今年度も学生による授業改善のためのアンケートを実施いたします。前期につきましては、下記のとおり実施したいと思いますので、ご協力をお願いいたします。

なお、WEBアンケートの質問項目には、先生方が自由に質問できる項目を設けております。質問したい事項（4段階評価で集計されます。）があれば実施日までにご検討ください。特になければ、ご検討いただく必要はございません。

また、本アンケート実施結果については、集計後、各先生方へ周知するとともに学生も閲覧（自由記述除く）できるよう本学図書館でも公開し、授業評価実施報告書作成のため集計結果の分析と次年度に向けての取り組みについて報告書作成のご依頼をさせていただきたいと存じますので、ご了承をお願いいたします。取りまとめた報告書は、学内外に公表いたします。

記

1. アンケート項目 : 別紙「学期末調査 評価項目」参照
2. 授業評価実施期間 : 令和5年7月10日(月)～7月27日(木)
令和6年1月10日(水)～1月25日(木)
3. 授業評価実施方法 : 別紙「学生による授業改善のための授業評価アンケート調査の実施について」参照
※学生ポータルサイトでのWeb調査になりますが、回答率向上のため、授業時間内に実施をお願いいたします。
なお、学生には掲示板及び学生ポータルサイトで回答要領を周知します。
4. 授業評価対象科目 : 前・後期開講の全科目（通年開講科目を除く）

以上

(学生用)

令和5年度 学生による授業改善のための授業評価アンケート調査の実施について 【 西九州大学短期大学部 】

このアンケートは、授業の内容をより充実したものに改善するための大切な調査です。あなたの成績評価には、一切影響しませんので、率直に回答してください。授業評価は全て学生ポータルサイト上での回答となります。

《操作手順》

1. 学生ポータルサイトを利用しますので、各自のログインIDとパスワードを準備しておいてください。忘れた場合は、事前に学生支援課窓口にお問い合わせください。
2. 学生ポータルサイト上の「授業」⇒「授業評価アンケート」にある履修科目の「回答する」ボタン（※1）を押すと授業評価シートがでできます。



③ 「回答する」ボタンを押すことにより、「授業評価アンケート」が表示されます。

※履修中の科目全てが表示されますが、担当教員から指示された科目のみ回答してください。

3. 授業評価シートの質問1～18は共通です。該当番号のチェックと自由記入をしてください。質問19～25は、先生からの質問提示がある場合に回答してください。



④ 「授業評価アンケート」回答終了後、「登録」してください。

4. 回答終了後は、授業評価シートの下にある「登録」ボタンを押すことで提出となります。

※授業評価回答は、回答期間中であれば、変更して再提出することが可能です(「登録」ボタンを押すことにより更新されます。)

前期回答期間： 令和5年7月10日(月)～ 7月27日(木)迄

後期回答期間： 令和6年1月10日(水)～ 1月25日(水)迄

授業評価アンケート（学期末調査） 評価項目

（学生ポータルサイトでの質問項目）

（あなた自身の授業参加態度について）

Q1. 授業は何回欠席しましたか。

【Q1の評価基準：4⇒0回、3⇒1回、2⇒2～3回、1⇒4回以上】

Q2. シラバス（授業計画）を活用しましたか。

Q3. 授業中に居眠り・私語等をせず真剣に取り組みましたか。

Q4. あなたはこの授業を理解するために自分で何か工夫をしましたか。

（例えば、ノートをまとめる。テキスト・参考書の活用。教員への質問。予習・復習等）

【Q2～4の評価基準：4⇒そう思う、3⇒だいたいそう思う、2⇒あまりそう思わない、1⇒そう思わない】

Q5. あなた自身の総合自己評価

【Q5の評価基準：4⇒良い、3⇒やや良い、2⇒やや悪い、1⇒悪い】

（授業内容・方法について）

Q6. シラバス（授業計画）について説明がありましたか。

Q7. 教員は授業の到達目標を明確にして、授業を展開していましたか。

Q8. 授業は興味・関心が持てる工夫がされていましたか。

Q9. 授業は分かりやすくする工夫がされていましたか。

Q10. 視聴覚機器や板書の用い方は適切でしたか。

Q11. 教科書・配布資料等は役に立ちましたか。

Q12. 声の大きさ・明瞭さ・話す速さは適切でしたか。

Q13. 授業の進む速さは適切でしたか。

【Q6～13の評価基準：4⇒十分、3⇒だいたい十分、2⇒やや不十分、1⇒不十分】

（教員の対応について）

Q14. 学生の質問等に誠実に対応しましたか。

Q15. 公平に学生に対応しましたか。

Q16. 教員は双方向的なやり取りをしながら、授業を行っていましたか。（コメントを付したレポートの返却、学生からの質問を授業で取り上げるなど）

Q17. 教員は熱心に授業に取り組んでいましたか。

【Q14～17の評価基準：4⇒そう思う、3⇒だいたいそう思う、2⇒あまりそう思わない、1⇒そう思わない】

（総合評価）

Q18. この授業を総合評価してください。

【Q18の評価基準：4⇒良い、3⇒やや良い、2⇒やや悪い、1⇒悪い】

（教員による自由項目）※授業担当教員からの指示に従ってください。（指示があれば記入すること。）

Q19.

Q20.

Q21

Q22

Q23

Q24

Q25

【Q19～25の評価基準：4⇒良い、3⇒やや良い、2⇒やや悪い、1⇒悪い】

（自由記述）

教員各位

西九州大学短期大学部FD委員会

令和5年度「学生による授業評価アンケート」集計結果の分析及び評価の報告について

本学では、例年、学生による授業評価アンケートを実施しており、コンピュータによる統計処理後の集計表を実施された各先生方に返却し、その結果をもとに分析・検討及び評価を行い各授業に反映してきました。

この度、各教員の分析・検討および評価などの内容について、教員間で共有するとともに、学生および対外的に公表するため、教員のコメントを掲載した報告書を作成することにいたしました。

つきましては、下記のとおり報告書冊子原稿のコメント文の提出をお願いいたします。

1. 分析及び評価の対象：令和5年度に実施した授業評価結果
2. 報告書の内容：学部名、学科名、科目担当者名、科目名、履修者数及び以下の(1)～(3)

<p>(1) 学生による授業評価結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・WEB（ポータルサイト）入力画面に自動表示されます。 <p>(2) 結果の分析及び評価（300～500字程度）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科平均との比較（共通教育科目については共通教育科目全体平均との比較） ・特に低（高）い項目についての考察 ・自由記述についての分析及び評価 ・本授業の目標、ねらいと照らし合わせた分析及び評価 ・授業全般に対する反省点 ・回答率が低かった理由 など <p>(3) 次年度に向けての取り組み（300～500字程度）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(1)の授業評価結果で特に低かった項目に対する改善方法 ・(2)の授業全般の反省点に対する取り組み方法 ・令和3年度に新たに導入したいと思っている授業方法 など ・授業評価そのものに対する意見を含んでも可

3. 報告科目数

授業評価結果がある全科目（※オムニバス開講など複数教員で担当する科目は代表1名の報告で可）

4. 提出方法

WEB（ポータルサイト）で提出

5. 提出期限 令和6年6月7日（金）

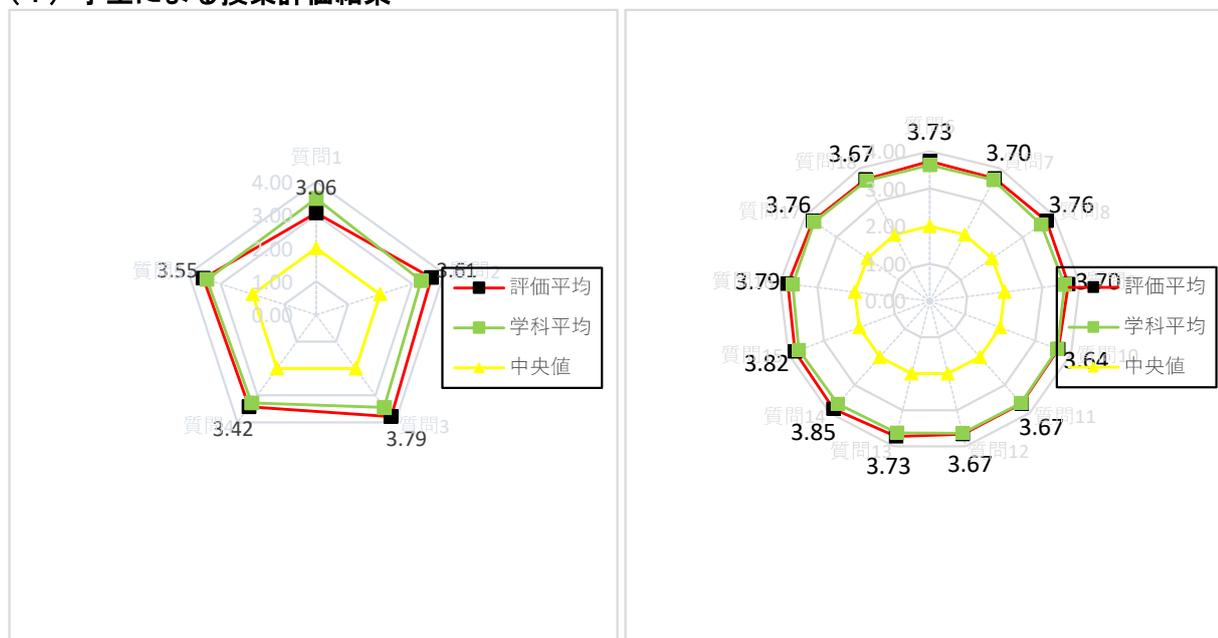
6. その他 WEBマニュアル及び参考資料（授業評価アンケート評価項目、学科別平均値）は、以下の共通フォルダに格納しています。

全学教職員（¥¥nobita (x)） ⇒ ●●●【短大部】授業評価に関する報告書●●●
 ⇒ 報告書様式&記入マニュアル等

授業担当教員による授業評価
アンケート結果の考察

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		あすなろう(大学生活のデザイン)	66名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

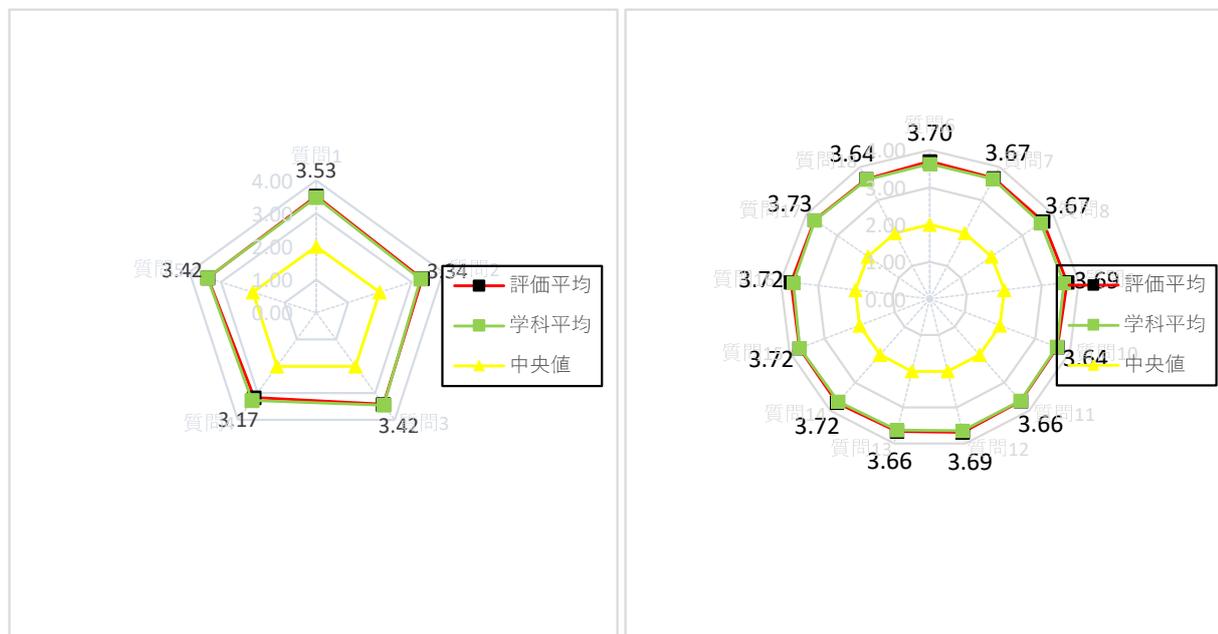
履修者66名のうち、回答者は33名(50%)であった。
 質問1～5のうち、概ね学科平均を上回っていたが、質問1「出席状況」は唯一下回っている。9名の学生が「2～3回欠席」を選択していた。
 本科目の開講数は通年で20回を超え、土日に行うケースもあるため、他科目よりも欠席回数が増えることも考えられる。この評価に回答者かどうかは確認できないが、実際に欠席回数が全体の3分の2に上って特別補習を受けさせた学生もいる。
 質問6～18に関しては、概ね学科平均と同等である。

(3) 次年度に向けての取り組み

まずは、本調査の回答率をあげたいところである。また出席状況の背景には、土日開講や不定期開講のものが原因の1つに挙げられると考えられる。
 外部へ出向くケースもあり、様々な背景から全ての受講者が参加するのは難しい。しかし、学内だけでなく、外へと学びの場を広げることもこの科目の目指すところであるため、学生にはできるだけ早く周知し、出席を促していきたいと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		あすなろう(大学生活のデザイン)	79名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

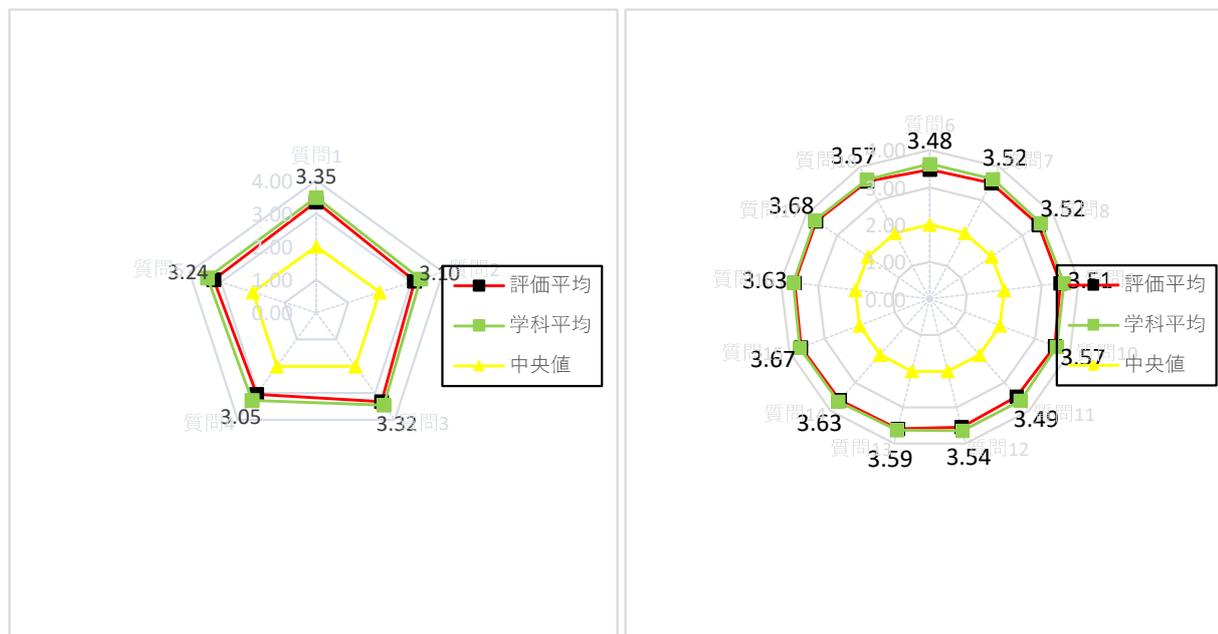
授業評価については、おおむね学科平均と同様の結果となった。自由記述では、「授業を理解するための工夫があり大変良かった」「地域の人たちと交流し、いろいろな国のことが分かった」等の記述がみられた。本科目では、学校での学びや自身の将来について、また先輩・後輩との交流や地域での活動等幅広く学ぶ科目である。特に、さまざまな交流を意識して取り組んだことが、今回の結果につながったと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も、学生が様々な価値観や文化に触れ、学生が主体的に学習できるようにさまざまな交流を取り入れていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		あすなろう(大学生活とキャリア)	71名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

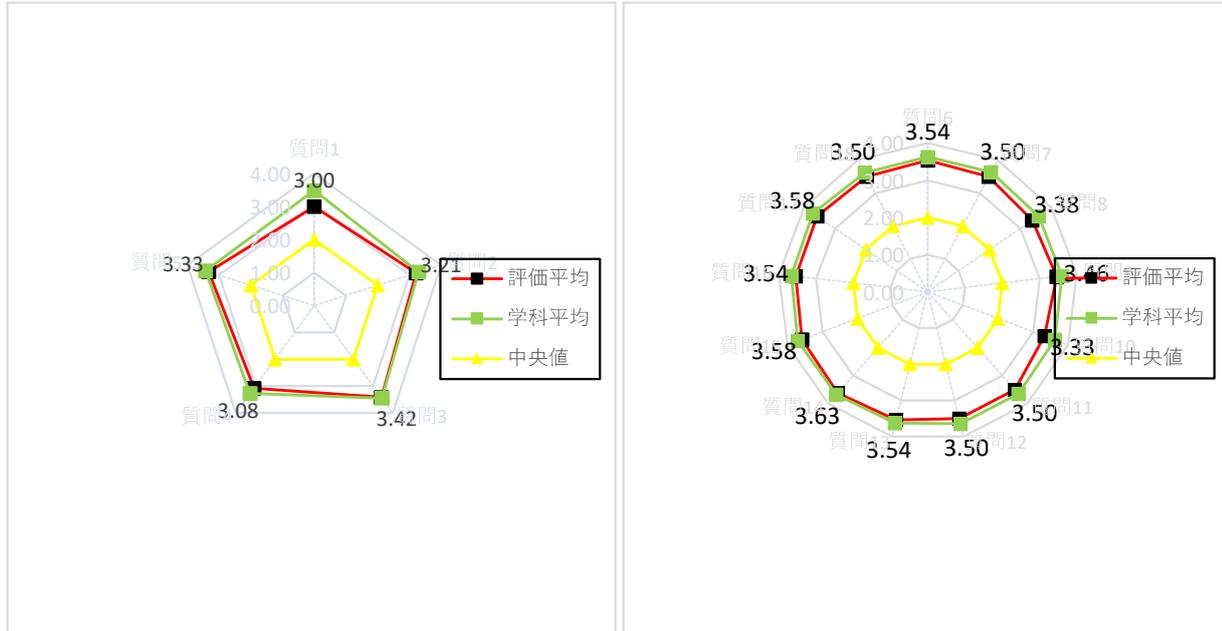
授業評価については昨年度と比較して高くなっていた。1年次のあすなろう（デザイン）の取り組みが2年次のキャリアに繋がり、授業の目的や活動内容の理解できてきたことで積極的に授業に参加できていと思われる。学生からのコメントは特になかった。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度のに向けての取り組みは、学生が積極的に授業に参加できるように授業の目的や学習内容・計画が理解できるように細やかな対応をしていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		あすなろう(大学生活とキャリア)	68名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

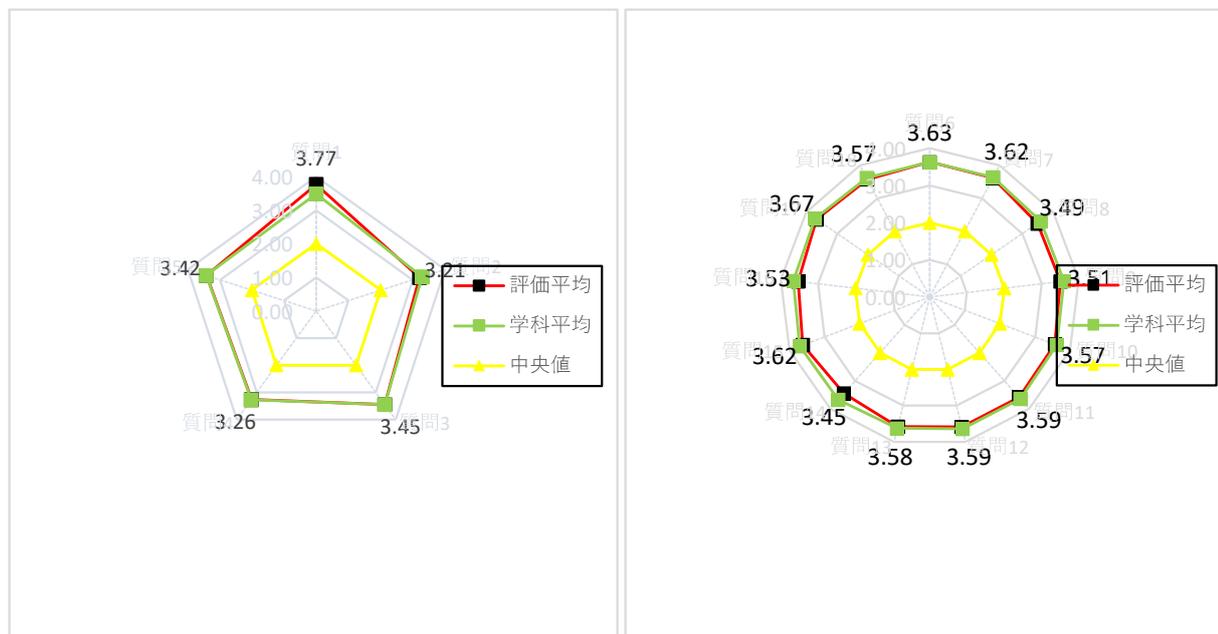
履修者68名のうち、回答者は24名(36%)である。そのため、読み取れることは一部限られてしまうが、特筆すべきところは質問1～5において、質問1「出席状況」、質問4「自分での工夫点」を中心に、すべて学科平均を若干下回っていることである。質問6～18においても、同様である。とはいえ、実際には「やや悪い」「悪い」を選択しているのは1, 2名なので、大部分の受講者は「良い」「やや良い」を選択していることがわかる。出席状況の背景には、本科目が年間を通して20回を超えて開講していること、また土日に開講することもあるため、学生が思うように出席できないケースがあるのも起因しているのではないかと考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

まずは、評価の回答率を上げるように指導を繰り返したいと考える。一部の開講日が土日になることは避けられないため、学生には早い時期の周知を心がけたい。と同時に、出席できないケースがあることも考慮し、学生が選択できるような開講方法を検討すべきだと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援 幼児保育		SDGs入門	148名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

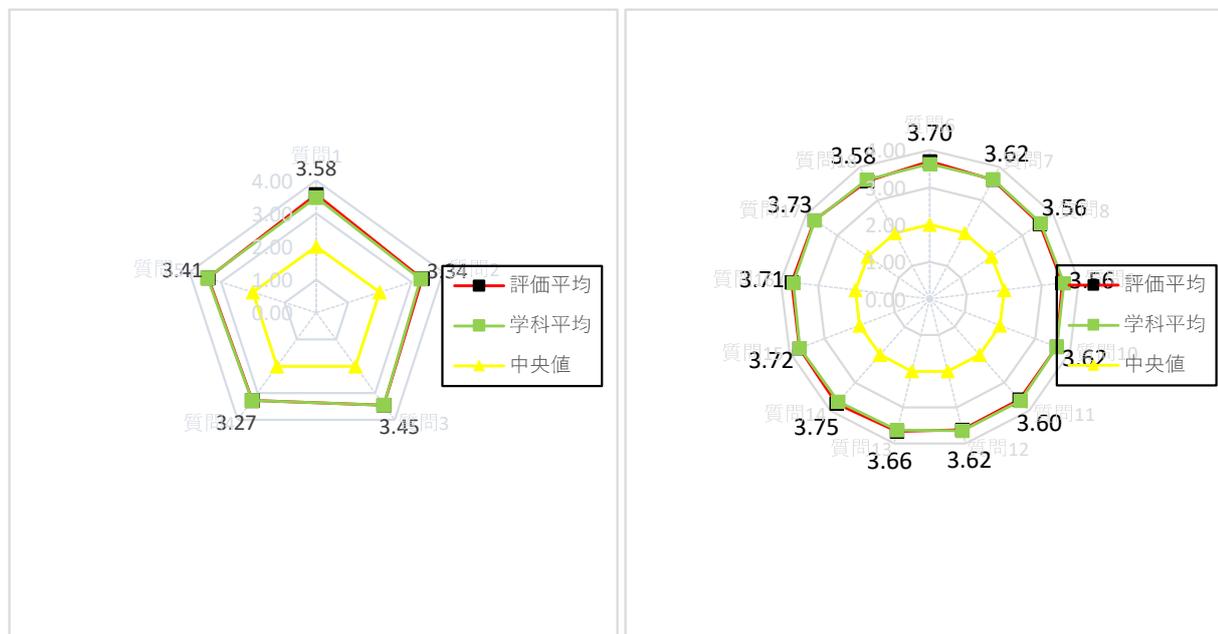
- ・回答率93.2%であった。
- ・評価は共通教育科目の平均値とほぼ同じ結果となった。
- ・本科目はオンデマンドでの実施であり、オリエンテーションで細やかな説明をおこなった。前年度の反省を踏まえ、定期的に学生の課題提出状況を把握し、遅れが生じている学生には個別に指導を行った。
- ・全体的に、前年度よりも学生評価が上がった。オムニバスの授業でもあり、授業や資料の工夫を各自で取り組み、学生理解に努めることができたと分析する。
- ・自由記述では、主に①授業方法について、②資料について、③授業内容についての3点に関するコメントが多く見られた。
- ・特に「分からない部分をすぐに確認できないデメリットはあったが、自分で追加で調べる分、身に付くことも多かった」「自分のペースで取り組むことができた」「一年目の授業の中で一番好きな授業だった」という好評価がある一方、「資料が難しい」「課題への取り組み方が分かりづらい時があった」「多くの人が動画を見ずに資料しか見ていないのではないか」という厳しい意見もあった。しかしながら、SDGsへの理解、学びの機会になったとの声が多く、概ね授業内容は学生に伝わったものと評価する。

(3) 次年度に向けての取り組み

- ・次年度もオムニバスによるオンデマンド授業を実施する。
- ・今年度は5週おきに課題の提出状況をチェックし、未提出が続いている学生には各学科、コースの担当教員を通して個別指導を行った。そのことが、学生への細やかな指導につながり、または学生の体調を含む状況把握にもつながり、評価においても適宜対応することができた。よって、次年度も定期的な課題提出状況の確認を行う。
- ・本年度、1回目の授業については対面で実施することで、授業の受け方、資料の見方、課題提出の仕方などを直接指導することができた。そのことで学生の混乱を防ぐことにもつながった。よって、次年度も初回の授業については学科別に対面で実施することで、学生の本科目へのスムーズな取り組みにつなげていきたい。
- ・提出期限を過ぎた後に課題を提出する学生のチェック体制が課題となった。授業担当者間で協力し、学期末においても再度提出状況を確認するなど、チェック体制を強化したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援 幼児保育		データサイエンスの基礎	146名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

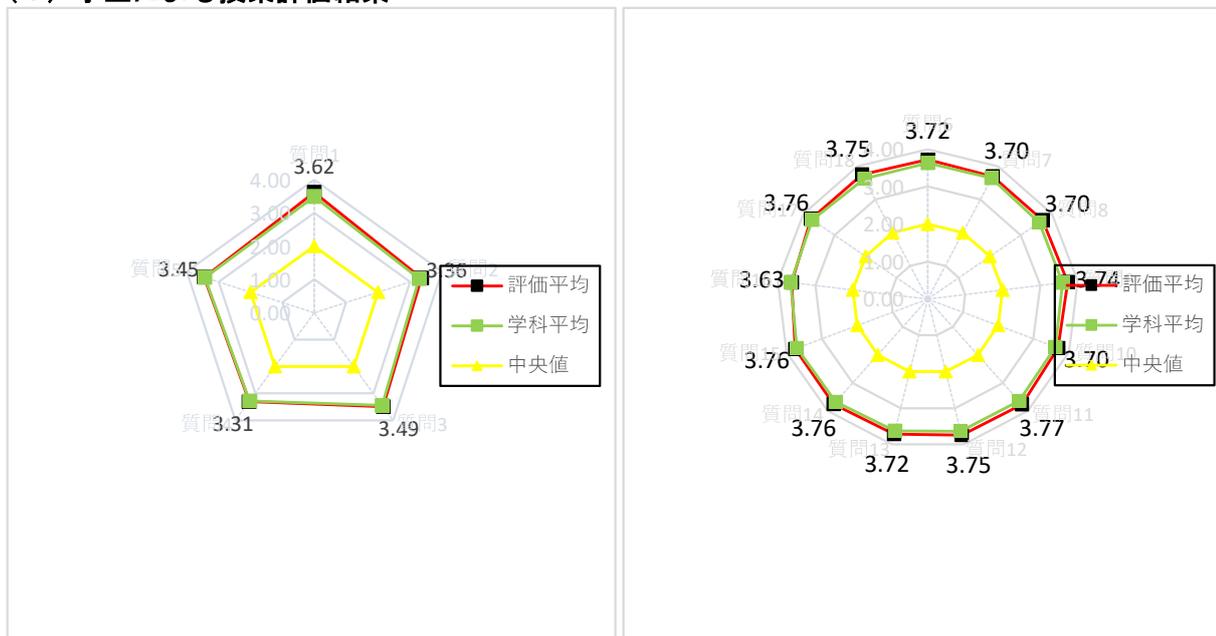
総じて、学生の自己評価並びに授業評価は平均的であった。自由記入からは、「授業を理解するために分かりやすく工夫をして教えていただいたので大変良かったと思います。どうもありがとうございました。」「データサイエンスやAIの知らないことをたくさん知れたので勉強になりました。」「データとサイエンスを繋げることは、私には難しく感じたけど毎回授業資料があったので、何とか授業を受けることができました。」「AIについての技術とかを学んだことができで AI技術進歩して生活のことにもつながるかもしれないので AIのこともっと勉強したいです」などの比較的肯定的な評価を得ている。一方では、オンライン授業展開を好まない学生もある一定数いることから、何らかの方法等を改善する必要があるだろう。

(3) 次年度に向けての取り組み

オムニバス形式で各教員が担当するなかで、それぞれのオンデマンド授業の配信方法や学習のフィードバック方法などを工夫することが必要と考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援 幼児保育		健康スポーツ理論	109名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

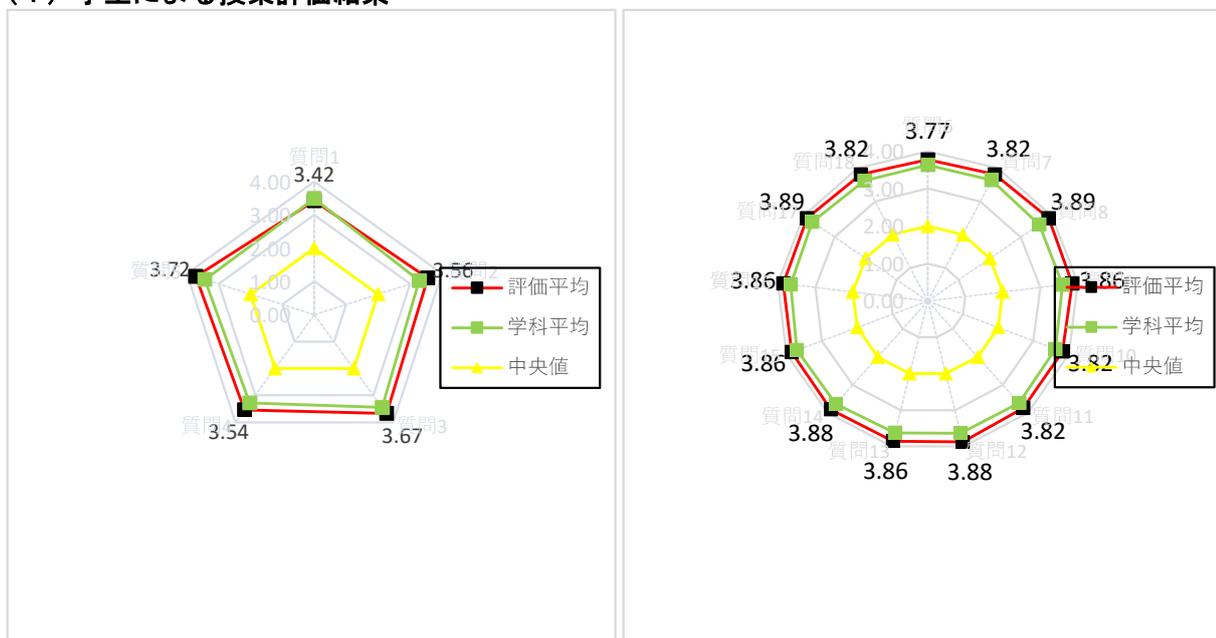
全体的に平均よりも高い評価を得ることができた。この科目は、幼児保育学科と地域生活支援学科が隔週で行う授業のため、初回授業で各学科の授業日を設定し、学生が迷わないように配慮した。授業内容においても、学生には穴埋め形式の資料を配布し、授業はパワーポイントを使用して展開をした。その際に、文字ばかりにならないよう図や写真、動画などを活用しながらスライドを作成したことが評価されたと考えられる。しかしながら、留学生の人数も増え、資料作りの難しさも痛感した。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業で使用するスライドもより分かりやすさを求め、工夫していきたい。また、教員の一方通行の授業にならないよう配慮しながら授業を展開していき、授業をととして学生たちに運動やスポーツに興味・関心を持ってもらい、日常生活の中に少しでも取り入れようとするきっかけになるよう努力したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援 幼児保育		健康スポーツ	117名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

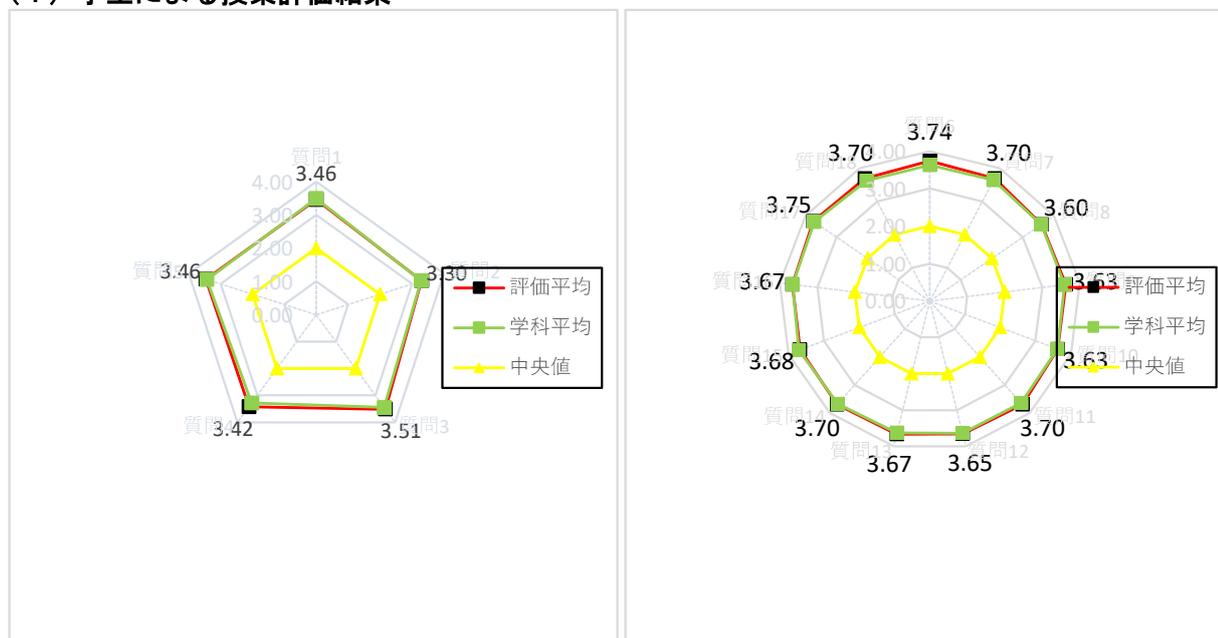
全体的に平均値を上回る結果となった。この授業はスポーツ種目とおした実技であり、学生が主体的に取り組めるように授業を展開してきたが、その部分が評価されたのではないかと考えられる。様々なスポーツに関わる中で、結果だけにこだわらず、多様なかわり方がある中で、学生がスポーツに対して前向きに取り組め、スポーツの意義を実感してもらえるように可能な範囲で私自身も学生と共に実戦することを心掛けている。今年度の履修学生は例年に比べ、両学科ともに積極的に取り組む学生が多くみられたことや、昨年度は平均を下回った質問4に関しても平均を上回り、学生自身が授業に対して前向きな姿勢で授業に取り組んだことが今回の評価結果の要因と考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も引き続き、学生が主体的に取り組めるような授業を展開していきたい。同時に、なぜ生活するうえで運動やスポーツをすることが必要なのかといった、学生自身の意識の向上につながる部分もしっかりと授業の中で伝えていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		保育原理	68名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

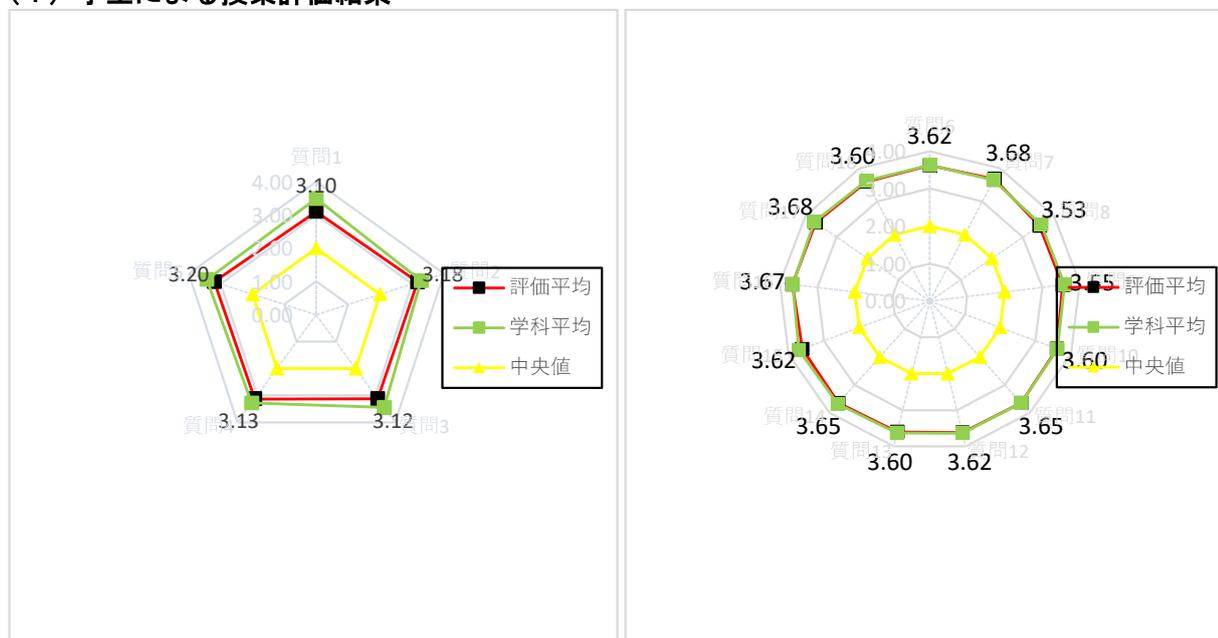
評価結果は、学科の平均値と同等であることが確認されました。学生からの評価項目において、授業内容の充実度や教師の説明のわかりやすさなどが学科全体の平均値と一致しています。一方で、学生自身の授業に対する取組についての自己評価は、学科平均よりも若干高い傾向が見られました。今後もこの傾向を維持し、さらなる教育の質向上を目指して改善を続けていきます。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度に向けて、学生の自己支援に焦点を当てます。まず、自己評価ツールを導入し、学生が自己評価を行いやすい環境を整備します。これにより、自分の学習状況を客観的に把握できるようにします。また、授業の最後に振り返りの時間を設け、学生がその日の学びを整理し、理解を深める機会を提供します。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		教育総論	68名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

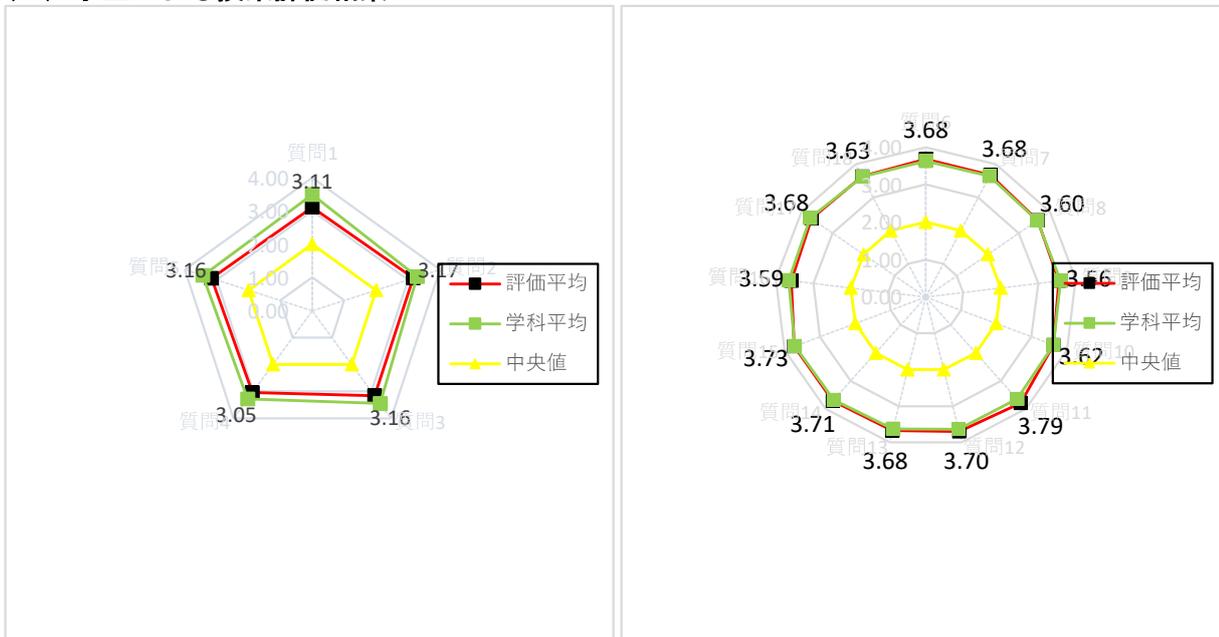
教授方法に関する評価は学科平均と同程度であり、授業内容の充実度や教師の説明のわかりやすさについては安定した評価を受けています。しかし、学生自身の授業に対する取り組みは学科平均より少し低い結果となりました。これにより、学生の学習態度や積極性に改善の余地があることが示唆されています。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度に向けて、学生が主体的に学ぶ機会を増やします。具体的には、グループディスカッションを導入し、学生が自ら考え、意見を交換し、共同で問題解決に取り組む環境を作ります。これにより、学生の参加意識を高め、学習に対する積極的な姿勢を促進します。さらに、学習支援の充実も重要です。授業の前後の時間やオフィスアワーを活用し、学生が気軽に質問や相談ができる環境を整備します。個別のフィードバックを通じて、学生一人ひとりの理解度や課題に対して適切なアドバイスを行うことで、個別の学習ニーズに対応します。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		子ども家庭福祉	66名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

63/66 (95%) の回答であった。

授業評価の各質問項目においては、ほぼ学科平均と変わらなかった。

しかし、質問3と質問4については、やや学科平均より点数が低かった。その理由として、本科目は学年全体を対象として、どうしても大人数での講義となるため、グループワーク等の学生交流が実施しにくいことが考えられる。

また、本科目は講義系となるが、熱心に取り組むことができたとの評価もあった。

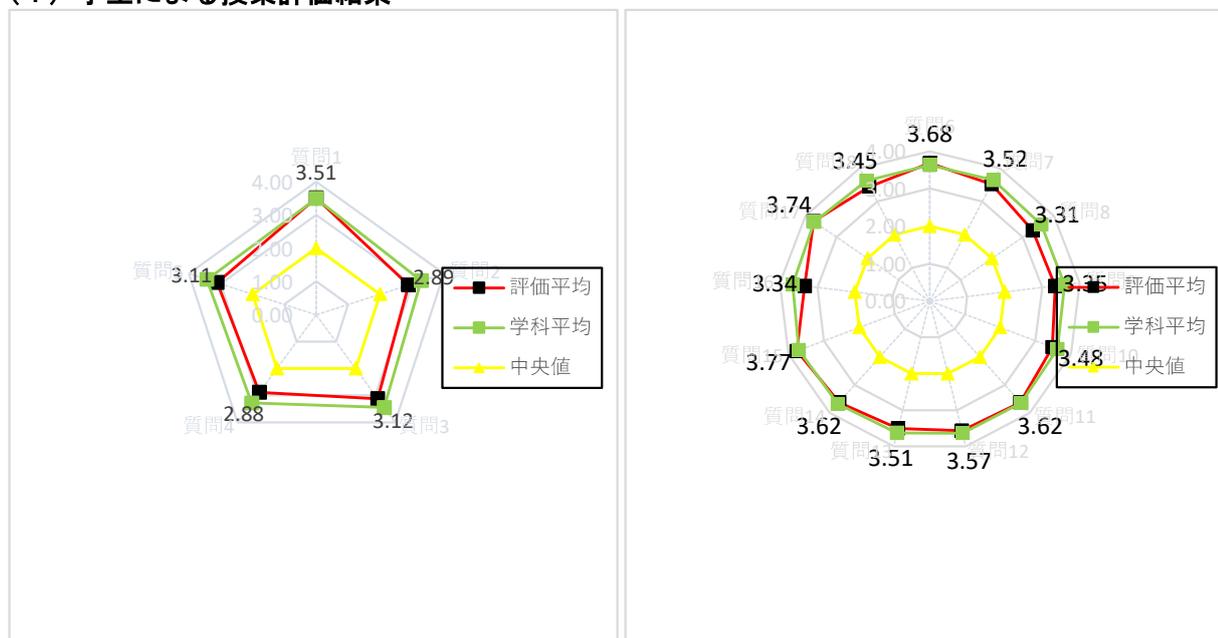
(3) 次年度に向けての取り組み

「子ども家庭支援」においては、自由記述にて、学生よりレジュメが毎回配布されていることが評価されていた。テキストのみでは重要なポイントが明確にならないと思われるので、次年度においても引き続きレジュメ配布を継続していきたい。

また、「こどもの福祉についてしっかり学べた」との記載もあった。上記の教材を上手く活用しながら、より保護者支援などの実践に役立つ授業になるように工夫を図っていくようにしたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		社会福祉	67名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

63/65 (97%) の回答であった。

授業評価の各質問項目においては、ほぼ学科平均と変わらなかった。

しかし、質問2と質問3、質問4、質問9、質問16については、やや学科平均より点数が低かった。その理由として、本科目は学年全体を対象として、どうしても大人数での講義となるため、グループワーク等の学生交流が実施しにくいことが考えられた。また、講義系科目であるため、知識や概念の説明を中心とする講義になってしまう傾向がある。

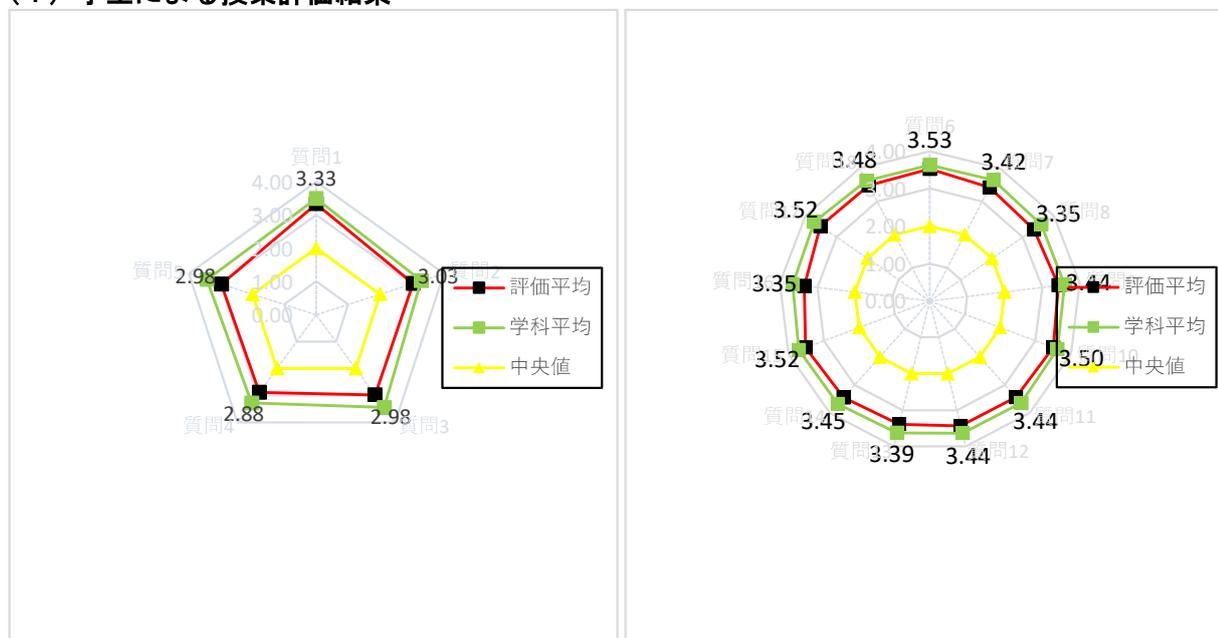
また、本科目は講義系となるが、わかりやすかったという声もあった。

(3) 次年度に向けての取り組み

受講者からの自由記述においては、「難しい内容だった」という評価があった。講義系かつ基礎知識を学ぶ科目であるため、どうしても概念や制度の理解を図る科目となる性質があるが、可能な限り学生が興味関心をもって取り組んでいけるようにしたい。具体的には、映像を用いた授業展開や小テストを活用するなど、授業のなかでメリハリをもって学生が退屈しないように工夫を図りたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		子ども家庭支援論	70名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

65/70 (93%) の回答であった。

本年度においては、グループワークや演習などを実施し、より実践的な授業となるように工夫を図った。授業評価の質問6～質問18においては、わずかに学科平均に届かなかった。また、質問3、質問4、質問5については、やや学科平均より点数が低かった。その理由として、本科目は学年全体を対象として、どうしても大人数での講義となるため、一人ひとりへの関わりが少なく傾向があるあるかと考える。また、面接技術や保護者支援のグループワークは良かったという感想もみられた。

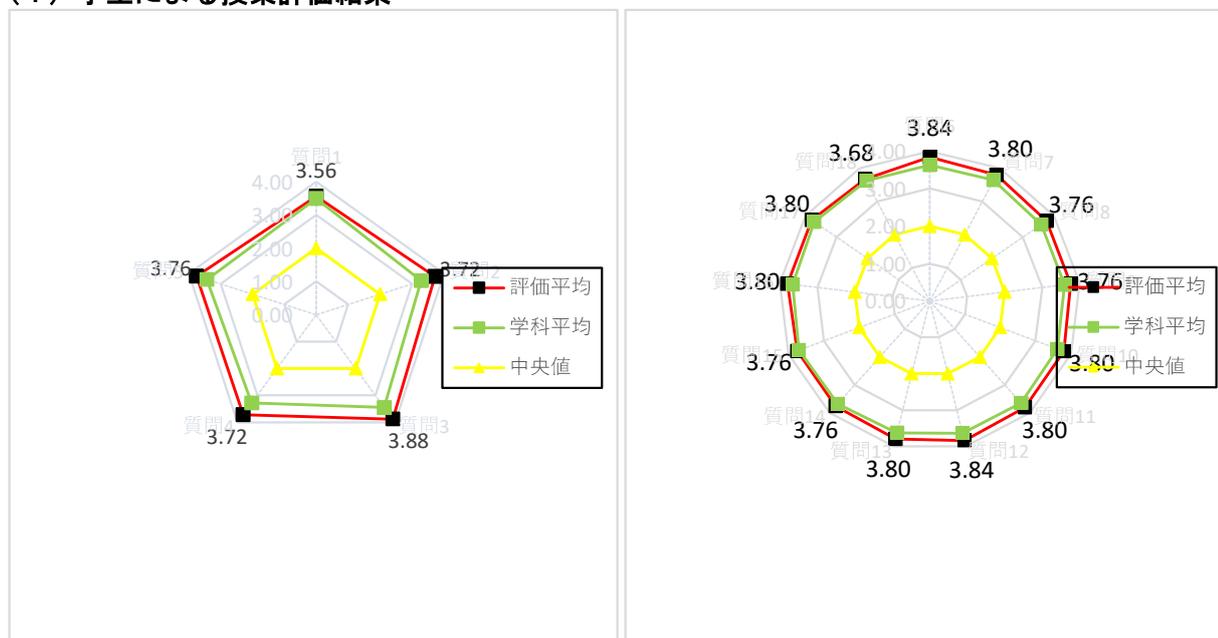
(3) 次年度に向けての取り組み

授業の自由記述においては、保護者支援の基礎となる面接や信頼関係の取り方、連携などを学べて良かったという評価があった。しかし、反面、大人数の講義ということもあり、学生の主体的な参加が発揮されなかったという反省点が残った。

次年度は、講義のみではなく、演習、映像学習を取り入れ、学生が発言や意見が言いやすいような機会やケースステディができるようにすることが課題である。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		異文化理解	29名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

授業は計画通り進行した。学生の自己評価、授業に対する評価のいずれも比較的高い評価を得ている。自由記述のコメントを照会する。「海外の方とコミュニケーションをとる機会がなかったので今回を通して海外の文化・現状について知ることができました。海外に行く機会があるときに生かしたいです。」「難しい内容もみんなで話し合う形で行われていてよかった」「グループワーク中心ですが、振り分けられたグループ内には全く話さない方が数名いたので、グループディスカッション力は鍛えられましたがコミュニケーションの難しさを感じました。」「日本人と一緒に勉強できる授業なので楽しかったです。日本のことや文化などをこの授業を受けてもっと分かりました。」「一年生前期に学んだ授業の中で一番好きな授業です。色々な国の異文化が分かりました。先生の教える方が大好きです。」

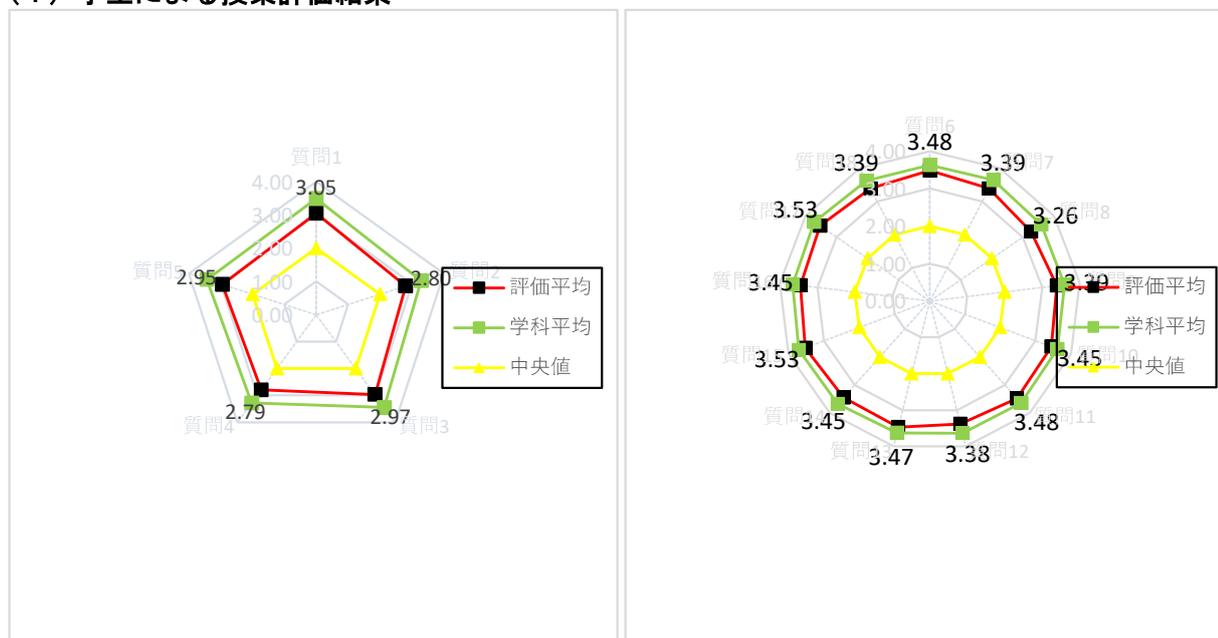
この授業の特徴は、冒頭での解説後、グループに分かれて各回課題について演習するようにしている。また、オンライン授業も特徴の一つとなっている。授業はTeamsを活用して、チームのルームでグループワークをする。OfficeやTeamsの活用スキル向上も期待する。

(3) 次年度に向けての取り組み

昨年同様の計画と方法を予定するが、必要に応じて展開等を工夫していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		社会的養護 I	70名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

66/70 (93%) の回答であった。

質問2、質問3と質問4、質問5については、学科平均より点数が低かった。その理由として、本科目は学年全体を対象として、どうしても大人数での講義となるため、グループワーク等の学生交流が実施しにくいことが考えられる。

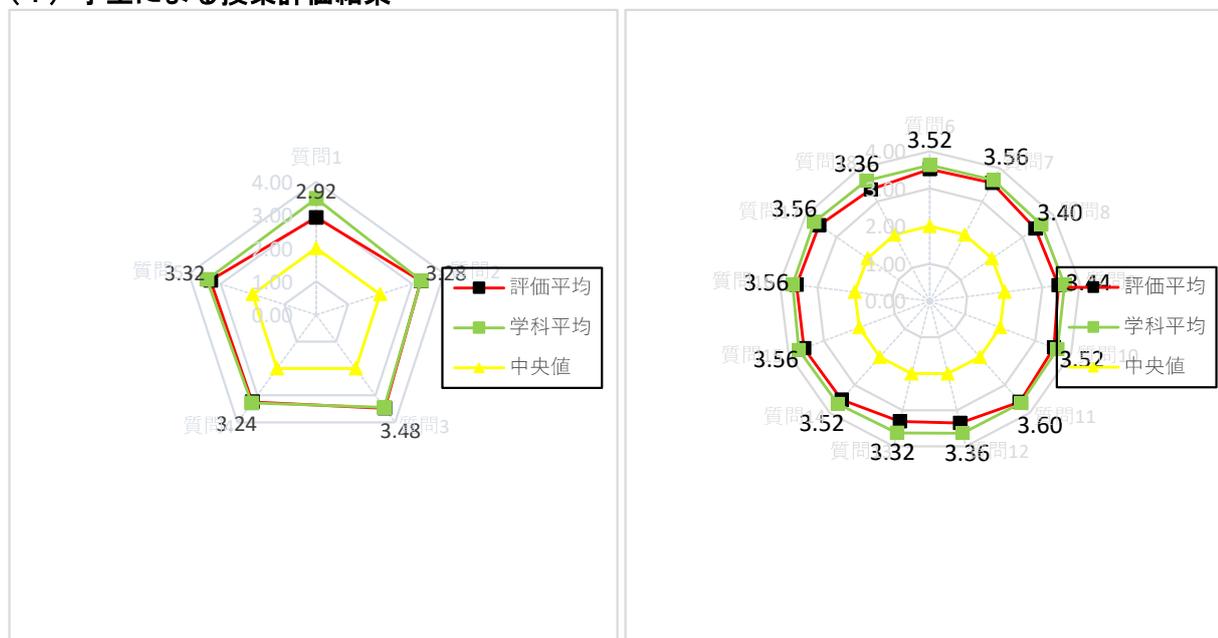
また、本科目は講義系となるが、施設実習などにつながる科目であるため、事例分析などを取りいえるような工夫を図った。

(3) 次年度に向けての取り組み

自由記述においては、「施設実習のときに役立った。動画によって社会的養護のイメージがもてた」などの肯定的な評価があった。しかしながら、先の分析と評価で述べたとおり、学生の主体的な学びには課題が残ったため、次年度においては学生が発言し、積極的に取り組めるようなグループワークなどの実施も行っていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		教育・保育者論	68名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

教授方法に関する評価では、「声の大きさ・明瞭さ・話す速さ」および「授業の進む速さ」についての評価が学科平均より低い結果となりました。

これらの点は、学生にとって授業理解に影響を及ぼす重要な要素であるため、改善が必要です。

一方で、その他の項目については学科平均と同程度の評価を得ています。

学生自身の授業に対する取り組みは、出席状況を除いて学科平均と同程度であり、

出席状況の低さが全体の取り組み評価を下げる要因となっています。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度に向けて、授業の進行速度や話し方の改善を図ります。

学生からのフィードバックを基に、話す速度を調整し、声の大きさや明瞭さを改善します。

これには、マイクの使用や発声練習を取り入れることが有効だと考えます。

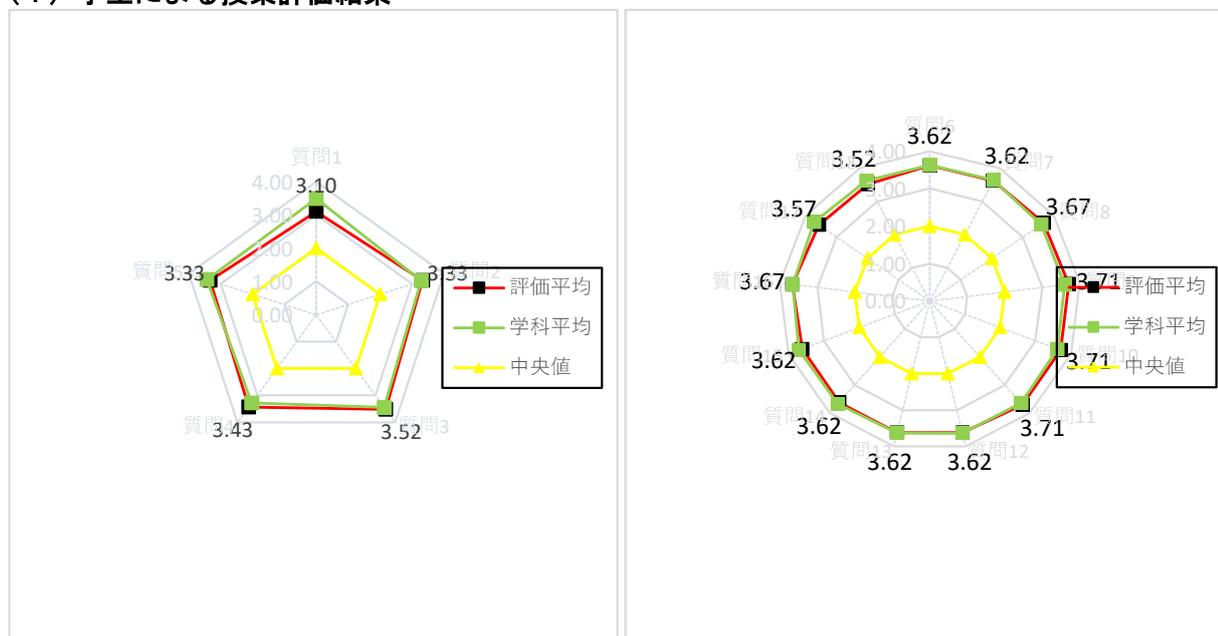
また、重要なポイントを繰り返し説明することで、理解を深める工夫を行います。

さらに、授業の進行速度については、中間でのフィードバックを取り入れ、

学生の理解度に応じて柔軟に対応するようにします。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		子ども家庭支援の心理学	67名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

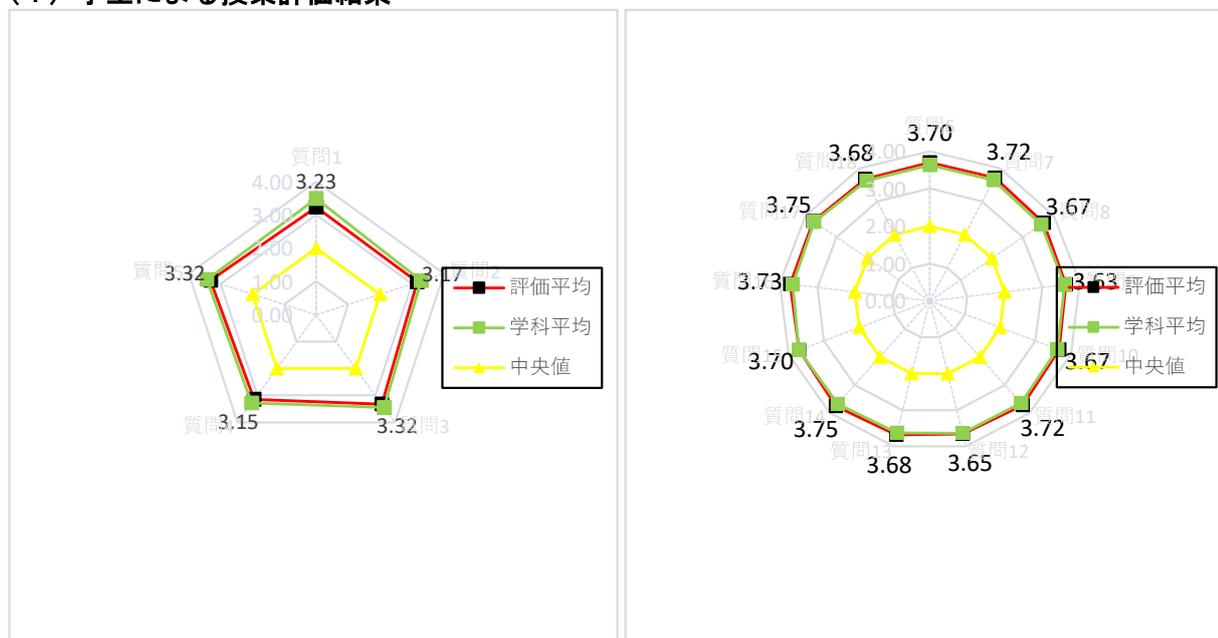
学科平均よりやや高い項目と低い項目があった。興味・関心をもてる工夫や授業の分かりやすさ、教材の有用性については比較的高い評価を得たが、教員の熱心さや総合評価はやや低くなっていた。講義形式の科目であり、基本的に教員が学生に向かって講義をする時間が長くなっていたため、学生にとっては参加意識の低い授業になっていた可能性が考えられる。ただし、回答率が非常に低いため、学生全体の評価が反映されているとは言い難い。授業評価をオンデマンドの課題としたことが回答率の低さの原因として考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

講義内容の難易度や配布資料等に関しては高い評価を得ているため、同様の内容を続けていく。加えて次年度は、ワーク等をより多く取り入れ、学生が自身の経験と結び付けながら理解できるような工夫をし、参加意識を高くもてる授業にしていく必要がある。回答率に関しては、対面授業の中で回答する時間を明確に定めることで、学生全員が回答できるような環境設定をすることが求められる。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		子ども理解と教育相談	69名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

質問1から5に関しては、全体として学科平均よりやや低い評価であった。学生が意欲をもって積極的に取り組める授業になっていなかったと考えられる。

質問6以降は、全体として学科平均と同程度かやや高い評価となっていた。教員の授業に対する熱意や、授業の進め方、分かりやすさ、学生への対応等については肯定的な評価を得ていたと言える。特に到達目標の明確さ、興味・関心をもてる工夫、配布資料の有用性、質問への対応、双方向のやりとりに関する評価が高くなっていた。演習科目ということもあり、授業内で事例を数多く扱いながら、学生自身が保育者としての対応を考え意見を共有する機会を多く作ったことで、学生と教員、また学生同士のやりとりが多くなっていたことがこうした評価に繋がった可能性が考えられる。

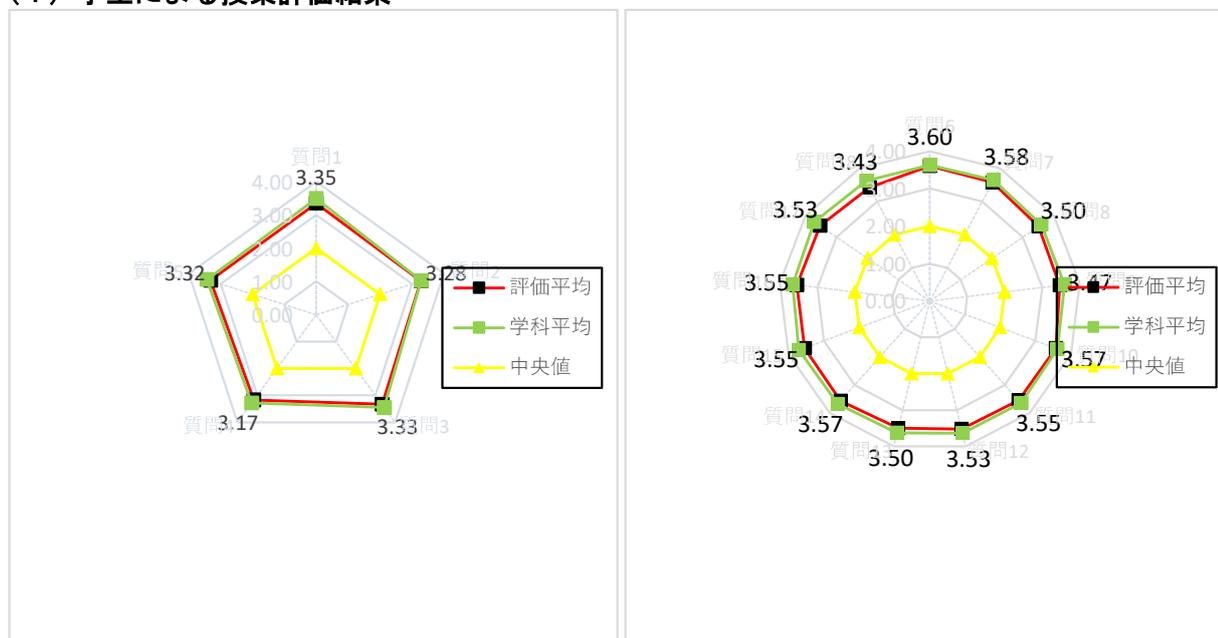
(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は評価の低かったシラバスの活用や、居眠り・私語への対応等について、より意識して授業を行う必要があると考えられる。

授業の内容や進め方、資料活用等は引き続き学生にとって分かりやすく参加しやすいものとなるよう工夫していく。学生自身の実習等での経験と結び付けながら理解できるよう、学生間で経験を共有したり、様々な事例への対応方法を話し合っ検討する時間を多くもち、現場で生かせる知識を身につけられる授業になることを目指したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		教育課程・方法論	69名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

教授方法に関する評価は、学科平均と同程度であり、授業内容の構成や教師の説明のわかりやすさにおいて、安定した評価を受けていることが分かりました。同様に、学生自身の授業に対する取り組みも学科平均と同程度であり、出席率や授業中の取り組み状況、内容理解のための工夫において、概ね良好な結果を示しています。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業のわかりやすさに関する評価が気になったため、次年度に向けて、関連事例や実践をなるべく多く紹介し、

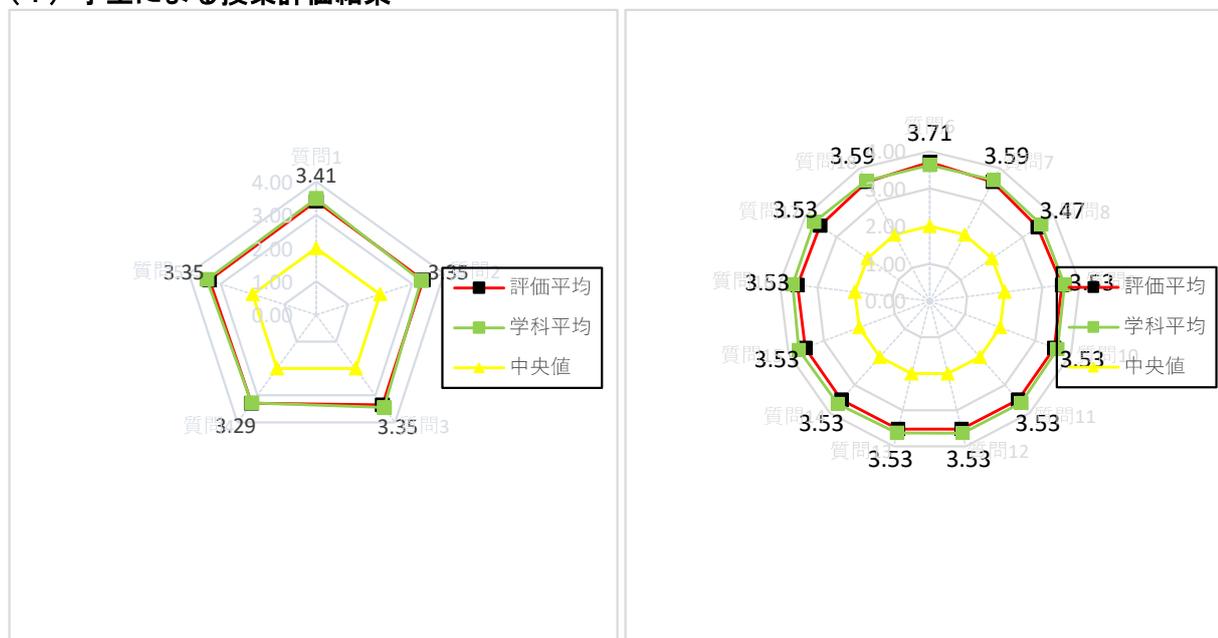
学生の興味・関心を引き出す授業内容にしていきたい。

また、適宜ディスカッションやディベート、そしてゲームやクイズなどの活用していきます。

これらの工夫を取り入れることで、学生の興味を引き出し、授業内容をより理解しやすくします。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		保育内容総論	68名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

全ての項目で学科平均とあまり変わらない評価であった。そのため、特に問題は無いものと思われる。しかし、質問6以降に関しては若干ではあるが評価が低かったため、努力しなければならないと感じている。

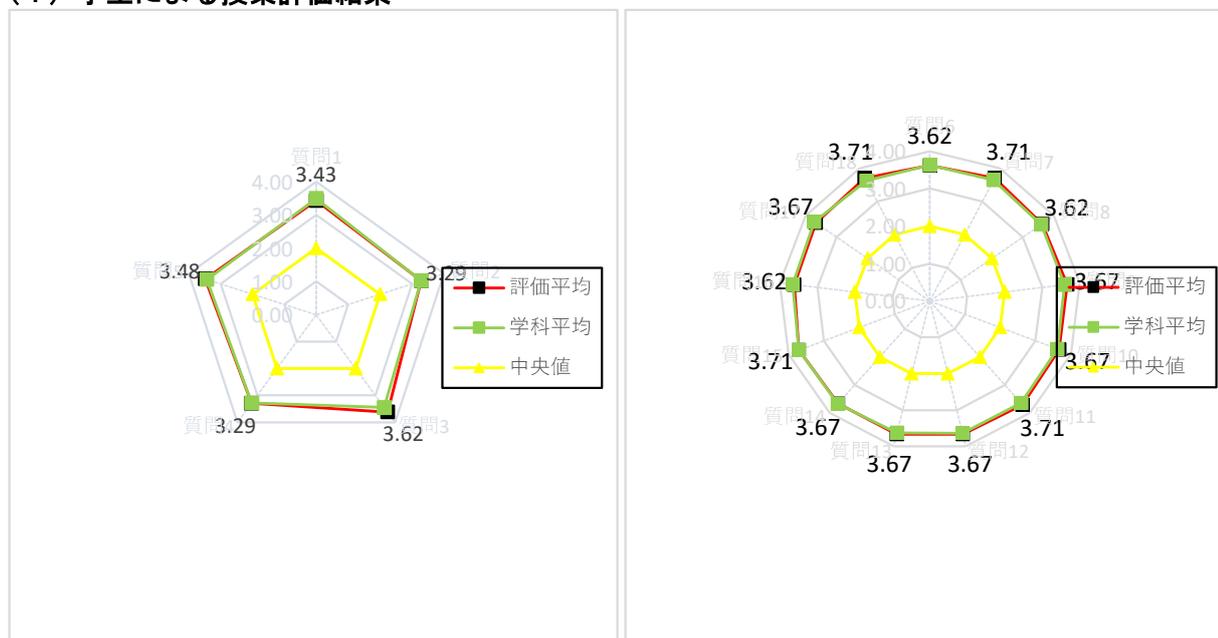
今回の回答が68名中17名であるということで回答率は25%であること、自由記述のコメントが1件も書かれていなかったことから、今回の分析と評価が正しいものであるかは疑問である。そのため、回答率を上げる必要性を何よりも感じた。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も引き続きシラバスを活用しながら授業を進めていきたいと思う。また、今回の回答者は質問1「授業は何回欠席しましたか。」に対しての評価があまり悪くはなかったものの、実際の授業は欠席者が多く、そのような学生は授業評価も未回答であった。まずは学生がこの授業内容を資格取得のためだけでなく、保育の仕事をしていく上で重要だと思えるような説明が必要だったのではないかと考える。次年度は第1回目の授業で、どのような学びがあり、それが将来どのように役に立つのかを具体的に伝えたいと思う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		保育内容（健康）の理論と方法	66名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

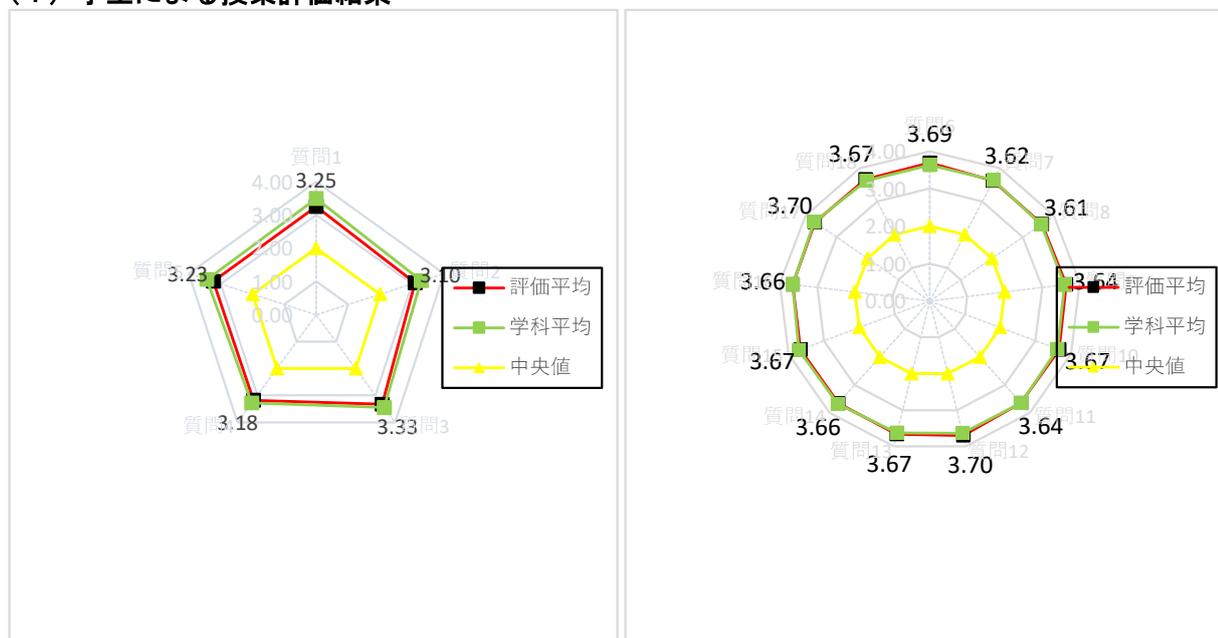
全体的に平均値と同等の結果となった。この授業は、グループワークや模擬保育を中心に授業を展開した。模擬保育でのグループワークでは、役割等を決めて学生自身が自覚をもって実践できるように努めた。また、他のグループの模擬保育も含め、子ども役、保育者役、評価者役と3者の視点から模擬保育を考えることで、様々な角度から発見があったのではないかと感じている。このように、学生の実践をとおした学びが学生自身の自己評価にも結び付いたのではないかと考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

今後もグループワークをとおした学びを展開し、模擬保育をとおした学びを引き続き実施し、学生がより主体的に学ぶ環境を作っていけるよう工夫していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		保育内容（言葉）の理論と方法	70名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

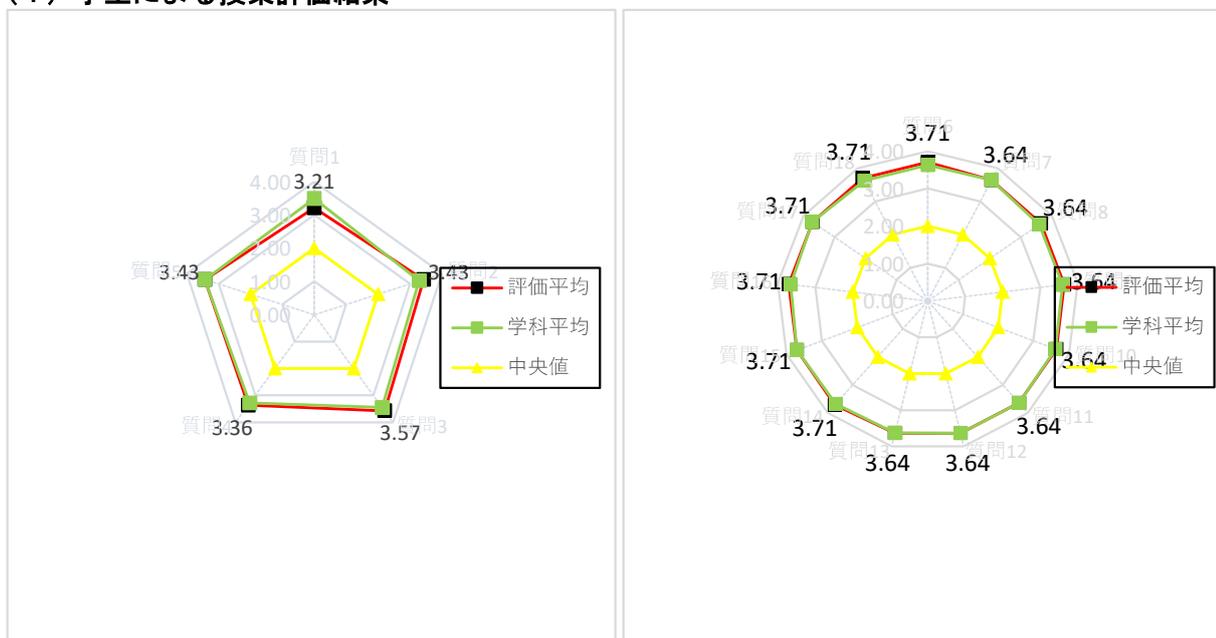
- ・ 回答率は2Aクラス84%、2Bクラス88.9%であった。
- ・ 全体的に、学生自身の授業参加態度に関する項目について、学科平均を下回る結果となった。授業内容・方法、教員の対応については、概ね学科平均と同じ結果となった。
- ・ 学生の本授業の総合評価については、Aクラス3.57、Bクラス3.73と大きく差が出た（学科平均は3.60）。Aクラス、Bクラスともに同じペース、内容で進めていった科目であるが、授業中のクラスの雰囲気や学生一人ひとりの授業の捉え方に左右される結果となった。
- ・ 自由記述では「ゆっくりと分かりやすく話され、理解しやすかった」「話し方の学びになった」などの回答があり、学生の理解度、習熟度としては一定の効果があったと考察する。

(3) 次年度に向けての取り組み

- ・ 学生の授業への意欲や理解度を確認しながら授業を行う。
- ・ 引き続き学生の実習や実践に繋がる授業内容を工夫しながら、保育所保育指針や幼稚園教育要領の言葉の領域との関連を十分に説明し、学生の理解度を高めていく。
- ・ 学生の授業への参加意欲、態度につながるような授業展開、環境づくり、学生一人ひとりへの声掛け、指導を行っていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		保育内容（音楽表現）の理論と方法	66名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

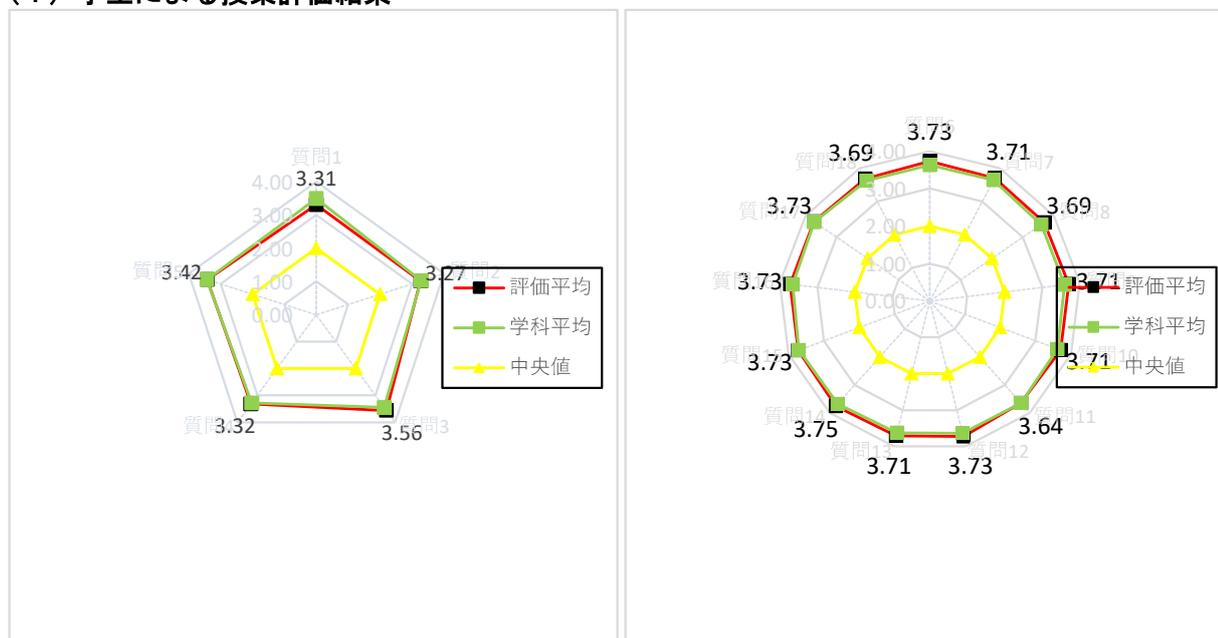
履修者66名のうち、回答者は計14名（20％）であった。
 この中で読み取れることは一部限られてしまうが、質問1「出席状況」については、学科平均よりも若干下回ることが見て取れる。
 数にして、4名の学生が「2～3回欠席」と回答していた。本科目はグループ活動による実技課題もあるため、欠席者がいると活動に不都合があるケースも生じる。出席している学生が不利益を被らないよう、グループ活動に限らない活動も検討していく必要がある。

(3) 次年度に向けての取り組み

まずは、学生に出席することの重要性を繰り返し伝え、グループ活動が円滑に進むように工夫していきたいと考えている。コロナ禍による制限もなくなったので、共同で作品や発表を作り上げる体験をさせたいと考えている。この経験は保育現場で必ず必要とされるため、機会を設けると同時に、出席に対する意識を向上させるべく指導を継続していきたいところである。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		保育内容（造形表現）の理論と方法	68名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

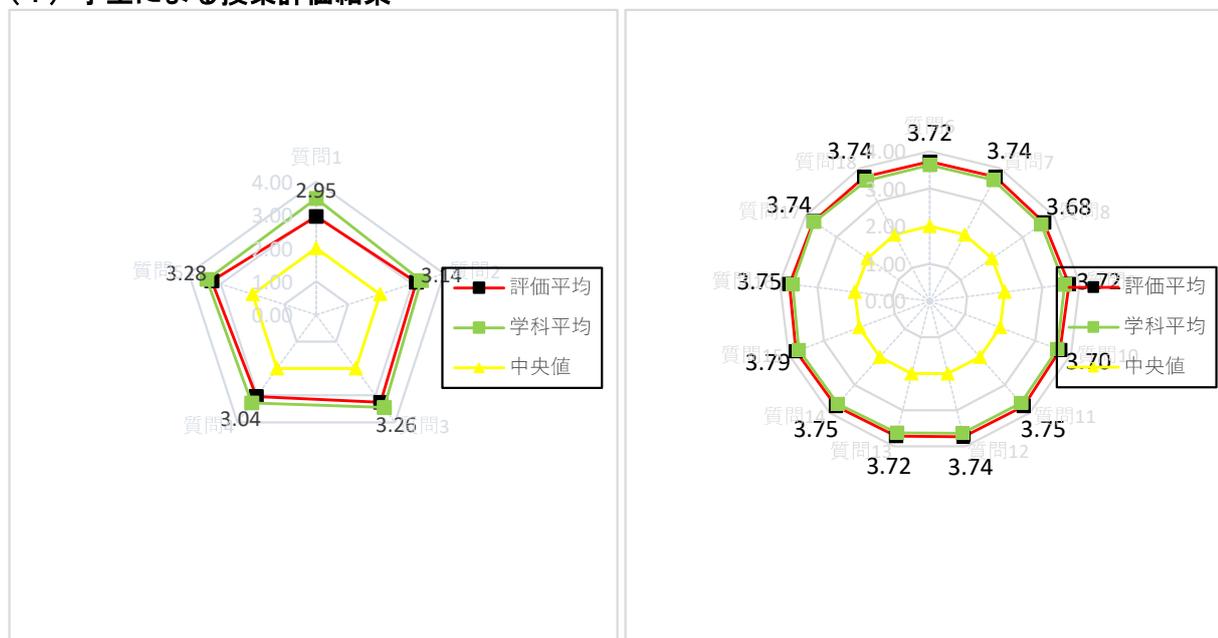
シラバス（講義の計画と内容）と、それぞれの授業は予習と復習を合わせた3つがセットになっていることへの周知徹底を行い、毎回授業始めにシラバスの確認を行ってから授業を開始した。シラバスでは幼児の造形表現の指導・支援に必要な表現技術を体験を通して身に就けさせると共に、子どもたちの自尊感情を高めるような関わり方・言葉かけを重視した「アクティブラーニング（対話的・主体的な学び）型の授業スタイル」を大切にしながら理論学習と実習をセット化した授業を展開した。そこでは、幼児の造形表現に生かす「モダンテクニック」を体験させたり、クリニカルアートを体験させたり、模擬授業を設定したりしながら現場に生かせる力を身に就けさせる工夫をした。また、保育実習や教育実習の際に造形遊びの設定授業をする場合に備えて「保育指導案」の書き方の指導と、その際の見本（サンプル）づくりにも取り組ませた。模擬授業においては、学生を園児に見立てて導入までの発表をさせ、そこでは自己評価・学生同士の相互評価もさせたことで、多角的な評価ができたと感じている。

(3) 次年度に向けての取り組み

年度ごとに、授業評価結果も参考にしながらシラバスの内容を改善している。次年度もシラバス通りに授業を展開することは大原則ではあるが、まずは計画ありきという「手段の目的化」に陥ることなく、新入生の状況を踏まえながら臨機応変に対応していくことを心がけたい。本年度の学生たちの授業評価は高評価であった。このことを踏まえた上で次年度は、造形表現を子どもたちの遊びに繋げるためのスキルを身に就けさせたいという思いがある。そのため、本年度のシラバスを踏まえながらも、次年度は子どもに体験させたい造形遊びの中に「作って遊べる造形表現」を取り入れ、【うごく虫づくり】や【ビニール凧づくり】などを取り入れていきたいと考えている。また、数年継続している「クリニカルアート（臨床美術）」的なアプローチを大切にしたいと考えている。また、子どもたちの発達段階に応じて感性を刺激するような技法体験を設定するスキルや、子どもの自尊感情を高めるような言葉かけのスキルを高めていきたいと考えている。障がいを持つ学生への合理的な配慮が義務付けられ、ダイバーシティセンターも開設され、当該学生への可能な限り支援していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		幼児と健康	66名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

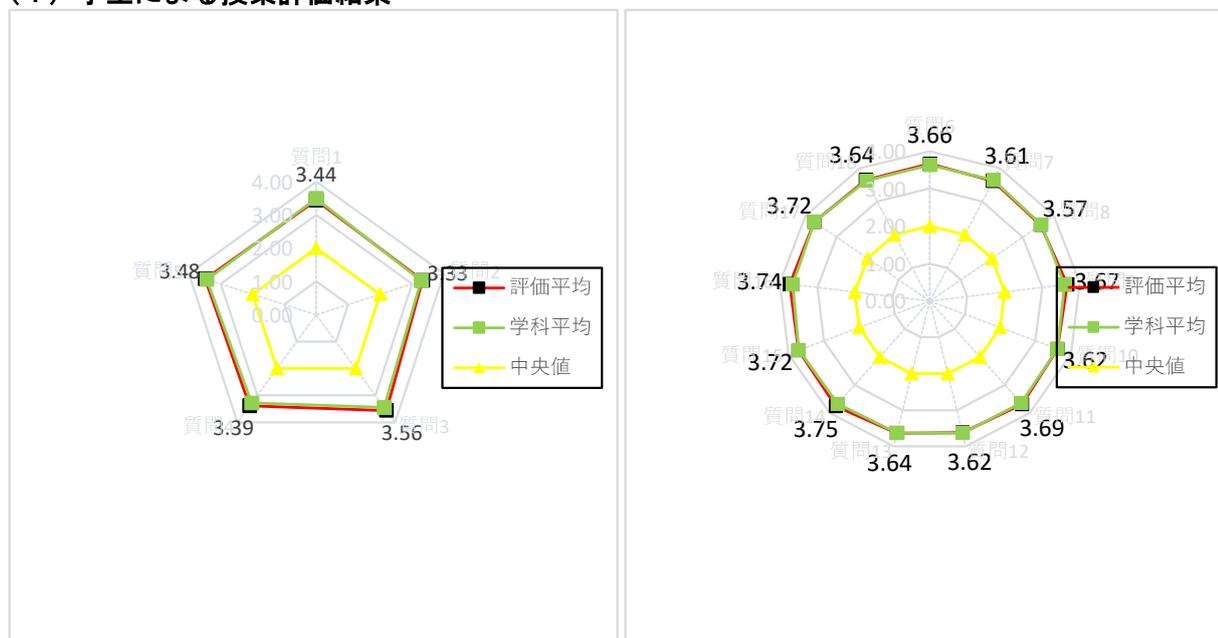
ほとんどの項目で平均値を上回る結果となったが、質問1～5については平均値よりも0.1以上下回った。初回授業でのオリエンテーションの実施、次回授業に関する事前予告の実施など学生自身が授業の準備をできるように意識したつもりであったが、上手く伝わらなかったのではないかとと思われる。学生自身が授業に対して意欲的に取り組めるような環境づくりも必要であると感じる。また、この科目は前半は講義、後半は実技演習の授業であるが、授業計画や授業の流れ、また配布資料やスライドなど学生にもっとわかりやすい工夫ができたのではないかとと思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は、学生自身の授業に対する意識を高めていけるよう、授業計画や授業の流れをしっかりと考えていきたい。併せて、授業スライドや配布資料なども工夫しながらより分かりやすい授業を目指していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		幼児と人間関係	67名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

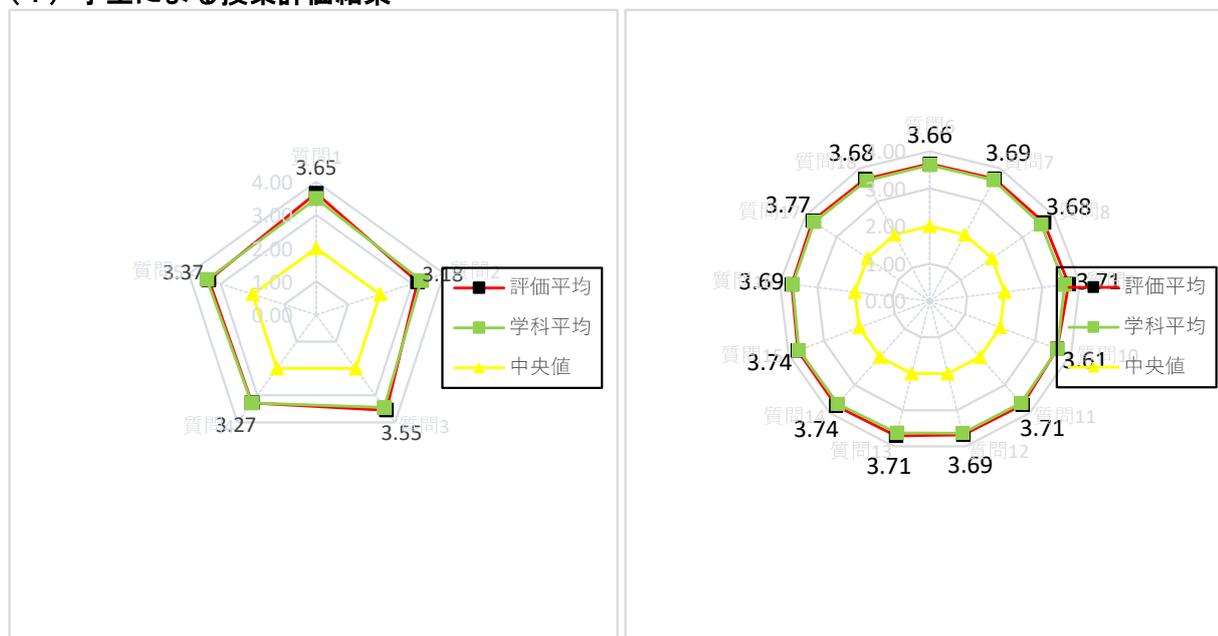
全体として、学科平均と同程度か少し高い評価であった。特に質問1から5についてはいずれも学科平均より高い評価を得ていた。学生が講義に対して比較的関心をもち、積極的に取り組んだと思われる。その他、学科平均よりもやや高い評価であったのは質問9、11、14、16であり、授業内容や配布資料の分かりやすさが学生の理解度に適していたと考えられる。質問16は特に高い評価を得ており、講義形式であっても、学生に問いかけながら授業を進めたり、毎回の授業の最後にコメントシートの提出を求め、それに対するリプライを次の回の冒頭で行っていたことなどが、授業に参加しているという意識の強さに繋がった可能性がある。実際、自由記述の中でも、前回の復習があったことが理解に繋がったとのコメントがあった。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も引き続き高い評価を得られるよう、学生とやりとりをしながら授業を進める形式を取りたい。また実習直後の授業となるため、学生自身の実習での経験と結び付けながら理解できるように、ワークも積極的に取り入れて授業を実施する。毎回の冒頭での振り返りも続け、繋がりのある授業内容となるよう留意したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		幼児と言葉	67名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

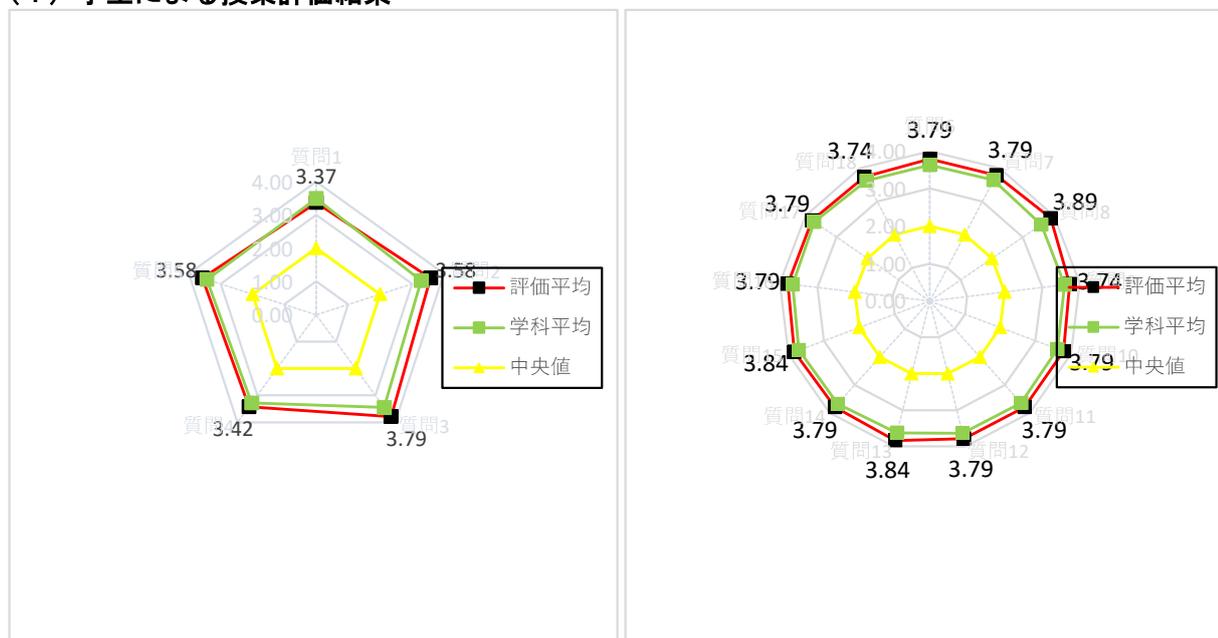
- ・ 回答率は1Aクラス85.3%、1Bクラス84%であった。
- ・ Aクラス、Bクラスともに同じペース、内容で進めていった科目であるが、学生自身の授業参加態度についてはBクラスの方が評価が低い結果となった。
- ・ 全体としては、学生自身の評価については、学科平均値とほぼ同等の結果となった。また、教員への評価については全ての項目で学科平均値を上回る結果となった。学生からの本科目の総合評価についても、両クラスとも学科平均よりも高い数値となっており、概ね良い結果となった。
- ・ 自由記述からは「分かりやすく丁寧に授業がすすめられていた」「話す速さや声の大きさがとても聞き取りやすく、とても理解できた」「絵本の読み方を教えてもらい、実習で役に立った」などの意見があり、学生の理解度、習熟度としては一定の効果があったと考察する。

(3) 次年度に向けての取り組み

- ・ 学生の授業への意欲や理解度を確認しながら授業を行う。
- ・ 引き続き学生の実習や実践に繋がる授業内容を工夫し、実践的な学びを取り入れながら幼児の言葉の理論的理解が深めていけるようにする。
- ・ 2年次の「保育内容（言葉）の理論と方法」に繋がる科目として、保育内容「言葉」の領域について、理解を深めていけるよう授業構成を考える。
- ・ 本科目で学んだ内容を、実習での実践としてどのように生かすことができたのか、授業終了後も追跡し、学生の学びの把握に努めたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		幼児と音楽表現	66名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

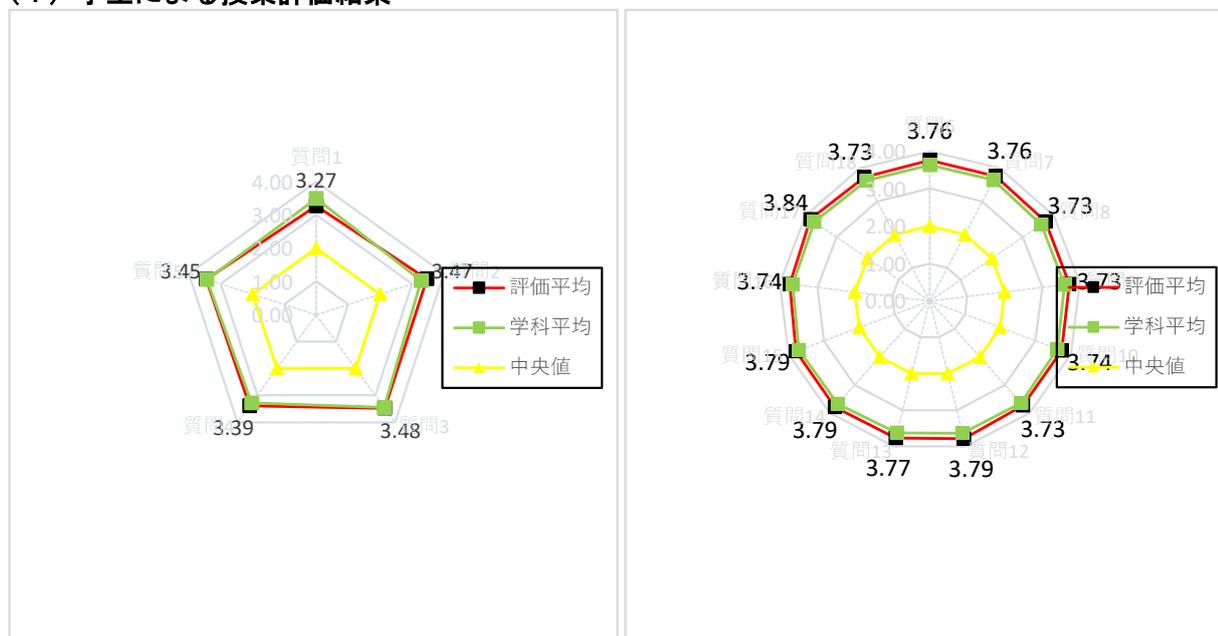
本授業は全15回を4つの単元で構成し、単元ごとのテーマに沿って、幼児の音楽表現に関するグループワークを中心に授業を進めている。学生の評価は学科平均よりやや高い数値で一定している。グループワークの課題を達成する過程では、学生同士が協力しながらも試行錯誤が繰り返し、苦勞する様子が見られるが、発表では音楽を楽しみ、保育に繋げることができた達成感を感じるとともに、他のグループの発表に刺激を受ける様子もあり、将来の自身の保育に生かせるというイメージが持ちやすいと考えられる。昨年の本評価で唯一学科平均より低い数値であった問7の「到達目標の明確化」も、今年度は毎回の授業開始時に、その時限の目標を示す形で改善を図ったことで、今年度の評価は好転している。

(3) 次年度に向けての取り組み

今年度新たな試みとして、本授業内の弾き歌いのテストにおいて、ICTの活用（グループワークの中で、弾き歌いを相互動画撮影し、Teams上で提出）を試み、授業者側、学習者側それぞれのメリット、デメリットについて考察し、実践報告にまとめ紀要に投稿した。その中で実施した学生アンケートからは、グループワークにおける改善点も見出すことができ、次年度に生かしたいと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		幼児と造形表現	67名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

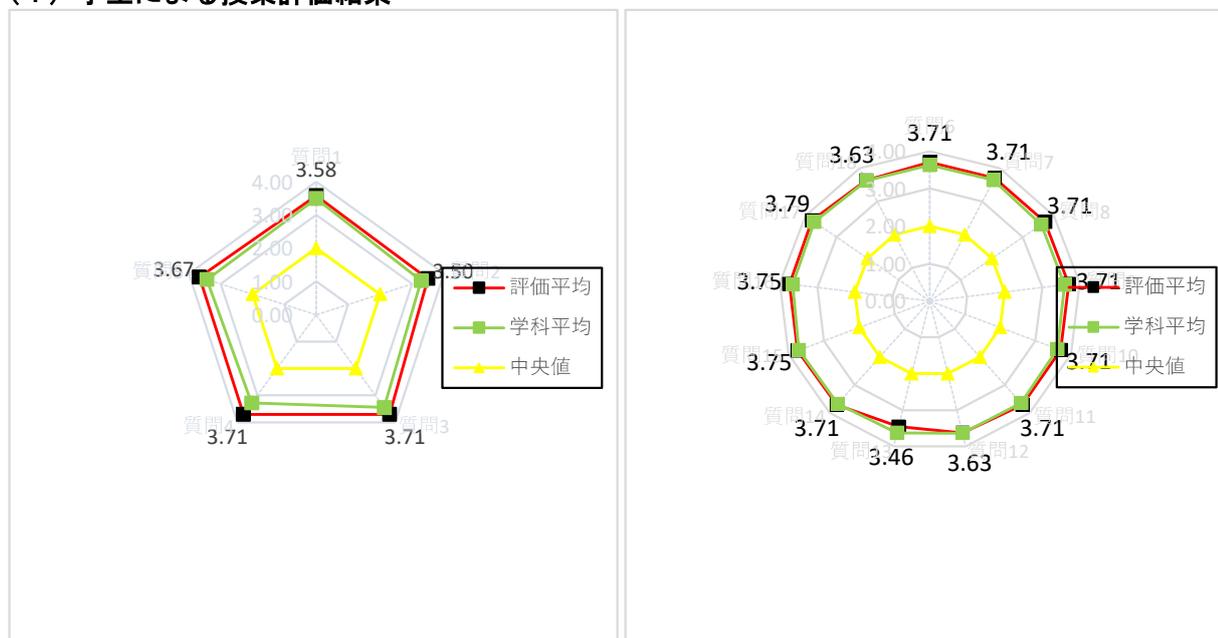
新入生の最初の授業では、シラバスと、それぞれの授業は予習と復習を合わせた3つがセットになっていることへの周知徹底を行うと共に、毎回授業始めにシラバスの確認を行った。シラバスでは幼児の造形表現の指導・支援に必要な表現技術を体験を通して身に就けさせると共に、子どもたちの自尊感情を高めるような関わり方・言葉かけを重視した「アクティブラーニング（対話的・主体的な学び）型」の授業スタイルを大切にしながら理論学習と実習をセット化した授業を展開した。そこでは、幼児の造形表現に生かす「モダンテクニック」を体験させたり、クリニカルアートを体験させたり、模擬授業を設定したりしながら現場に生かせる力を身に就けさせる工夫をした。また、保育実習や教育実習の際に造形遊びの設定授業をする場合に備えて「保育指導案」の書き方の指導と、その際の見本（サンプル）づくりにも取り組ませた。模擬授業においては、学生を園児に見立てて導入までの発表をさせ、そこでは自己評価・学生同士の相互評価もさせた。学生の授業評価から、これまでの反省を踏まえたシラバスの工夫は授業方法の改善に成果があったと考えている。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業評価結果を踏まえ、シラバスの一部を変更した。シラバス通りに授業を展開することは大原則ではあるが、毎年入学してくる学生の実態は異なる。シラバス通りに授業を展開することは大原則ではあるが、まずは計画ありきという「手段の目的化」に陥ることなく、新入生の状況を踏まえながら臨機応変に対応していくことを心がけたい。本年度の学生たちの授業評価は高評価ではあった。このことを踏まえた上で次年度は、造形表現を子どもたちの遊びに繋げるためのスキルを身に就けさせたいという思いがある。そのため、本年度のシラバスを踏まえながらも、次年度は子どもに体験させたい造形遊びの中に「作って遊べる造形表現」を取り入れ、【うごく虫づくり】や【ビニール凧づくり】などを取り入れていきたいと考えている。また、数年継続している「クリニカルアート（臨床美術）」的なアプローチを大切にしながら演習を通して、子どもたちの発達段階に応じて感性を刺激するような技法体験を設定するスキルや、子どもの自尊感情を高めるような言葉かけのスキルを高めていきたいと考えている。障がいを持つ学生への合理的な配慮が義務付けられた中、可能な限り支援していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		生化学	25名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

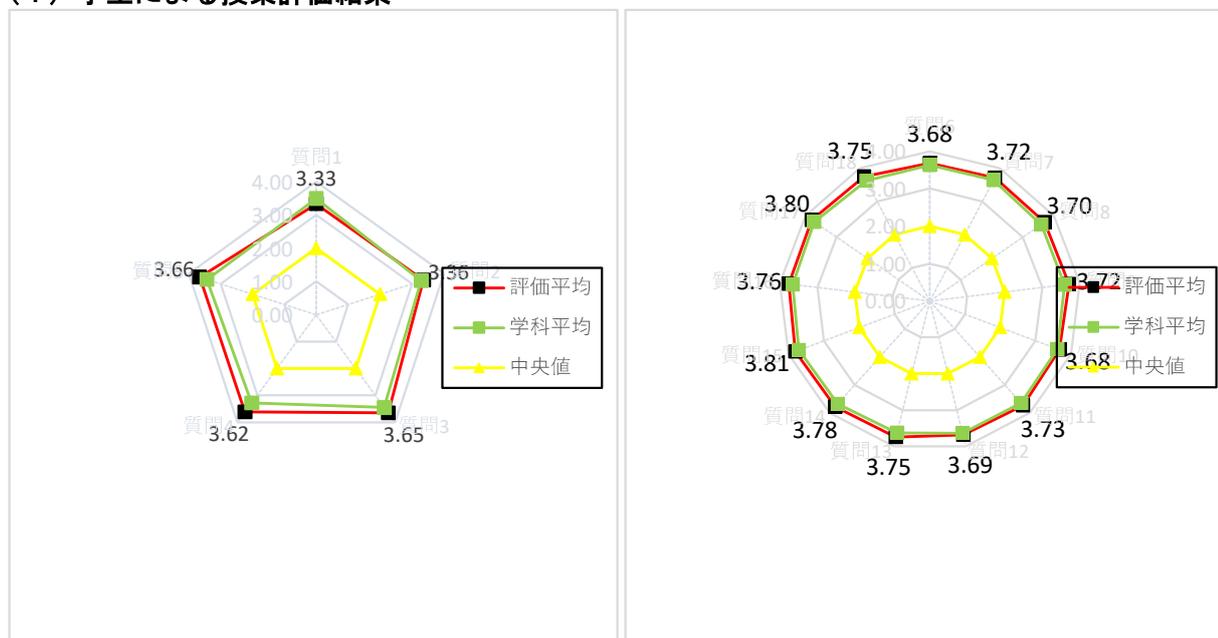
学生の自己評価は平均以上あって、この授業への平均的評価を得ている。生化学は知識理解がベースとなる座学であり、学生の興味や関心、学習意欲を如何に喚起するかが課題であったが、今回は一様の評価を得ていることは、授業の改善、可能な限り焦点を絞り、ペア学習を適宜入れたことによって評価を得たものと考えられる。自由記述を照会する。「生化学は資料無しだとノートだけでは授業に追いつけないのでチームズに入っている資料を見ながら先生の話も同時に聞き、ノートをとることで理解しようと頑張りました。」「生徒と関わろうとされてとても親近感が湧き 授業にもすんなり入ることが出来ました。」「みんなで話し合う機会やノートに書くという週間で覚えやすかったです 先生も面白くて楽しく授業出来ました」肯定的に評価を得ている。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業の進む速さの評価が比較的低い。学習内容については、必要最小限に絞りこめるように、他の科目での学習内容の取扱いを確認して、(繰り返し学習が必要な内容は除き) 学習内容が重複しないように改善を図りたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		子どもの表現のためのピアノ伴奏法Ⅰ	161名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

本調査結果は、全クラス・通年の結果および、2年次の再履修者の回答を一つにまとめたものである。また、担当教員も9名に及ぶ。

色んなパターンが混在していることを最初に申し添えておく。

学生の回答としては、概ね学科平均を上回っているか同等のものも多く見られた。質問1の「出席状況」質問2、6の「シラバスの活用」に関する設問は、比較的值が低かった。

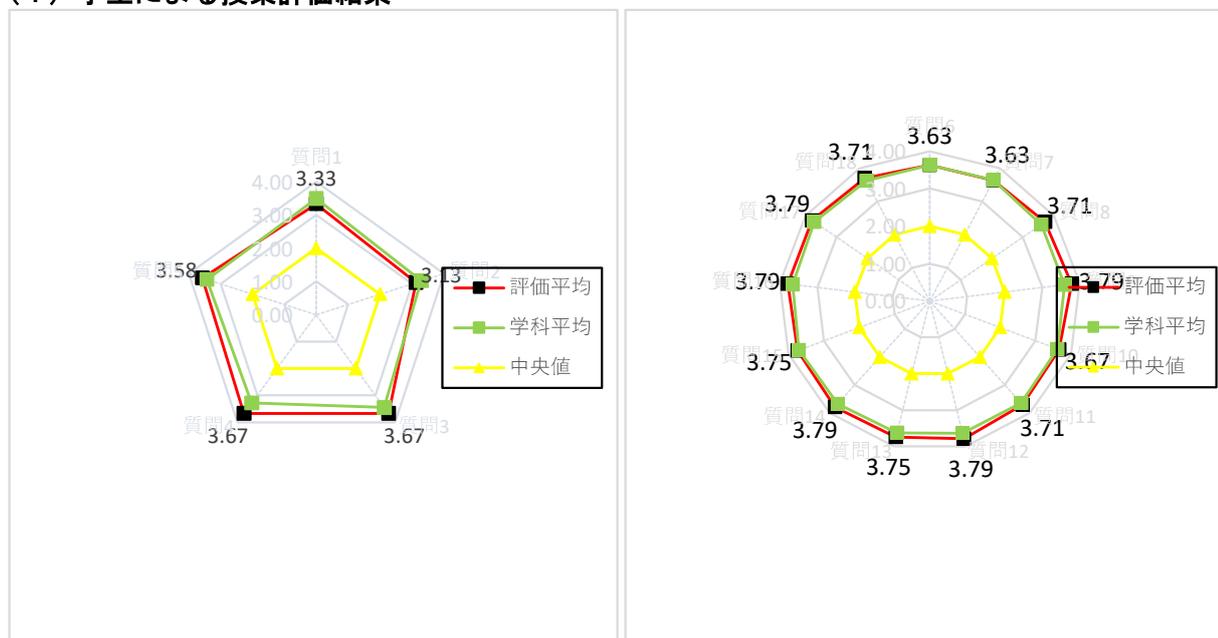
自由記述では、ほとんどの学生はマンツーマン指導に関して好意的な意見が見られたが、一部で担当変更を求める内容も見られた（1名）。

(3) 次年度に向けての取り組み

ピアノの授業は3期にわたって開講しており、授業責任者としては、1期ごとに毎回担当教員が交代しないよう配慮しながら組み合わせを検討している。しかしながらその結果には賛否あることを毎回実感している。勿論、相性によるものもあるが、レッスン方法や言動、評価方法に教員間で差が出ることなく、情報共有を頻繁に行う必要があると感じている。今回の記述には、詳しい状況は書かれていなかったが、教員編成を考える際に、参考までに学生の意見を前もって取り入れることも検討していきたい。また、個別だけではなく、全体での説明を通して共通認識を持つ場を作ること、学生間で不利益が生じることのないよう配慮していきたいと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		子どもの表現のためのピアノ伴奏法Ⅱ	26名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

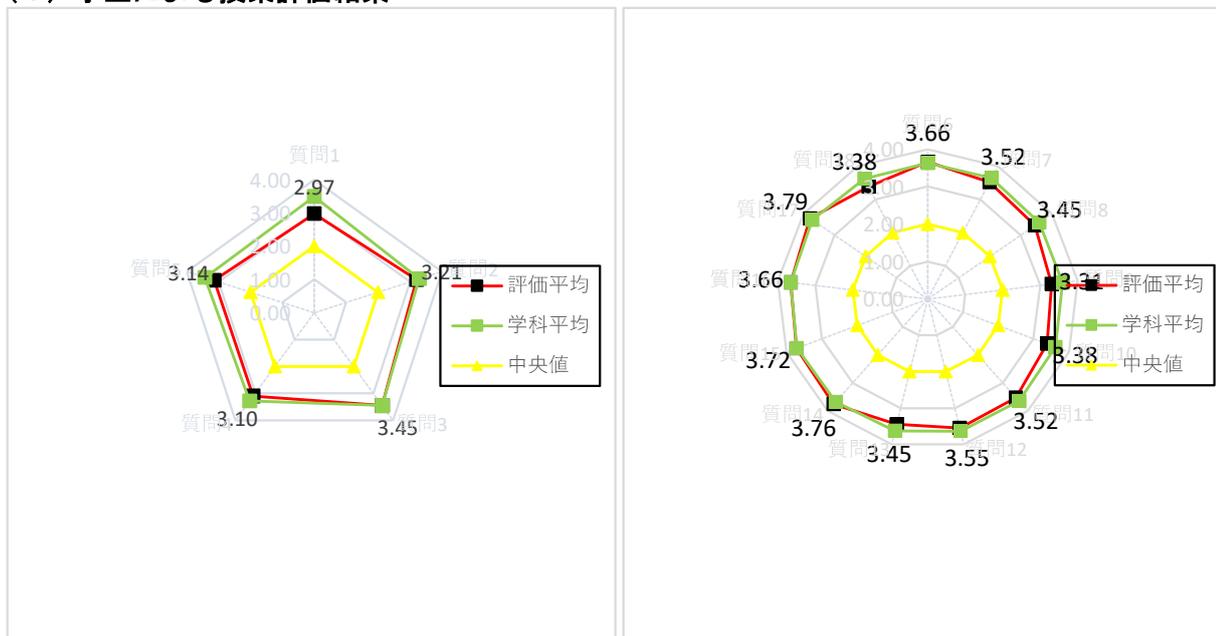
この科目は、2年次前期開講であり、1年で「ピアノ伴奏法Ⅰ」の単位取得をできた者が履修できる。そのため意欲が高い学生は比較的多かったといえる。学生の回答を振り返っても、概ね学科平均値を上回っているか、同等の値が多数見られた。自由記述での要望などもなかったため、概ね満足のいく履修だったのではないかと考えている。

(3) 次年度に向けての取り組み

まず、今回は「ピアノ伴奏法Ⅰ」を1年次で終了できなかった者が多く、「ピアノ伴奏法Ⅱ」履修者がわずか26名だったことを改めて残念に感じている。次年度は学生が毎時の授業を主体的に受講できるように、進度が見えるワークシートや授業外補習を用意し、少しずつ成果をあげているところである。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		生化学実験	29名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

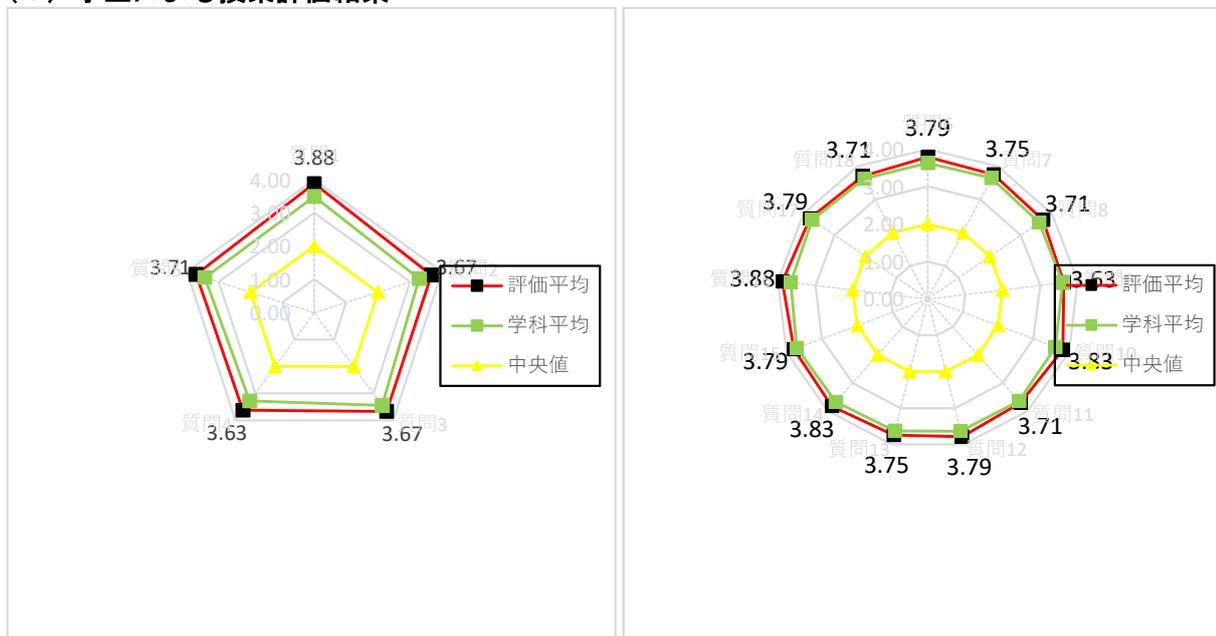
実験科目は、これまでの学生の経験や苦手意識などから、評価は3と4に二分されると考えられる。総じて学生の自己評価も平均より下回っている。比較的实验系に関心が薄い学生に、如何に取り組む意欲を促していくかが課題と考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

実験自体はだれもが取り掛かれる簡単な実験を準備している。冒頭での生化学の振返りを簡略化して、実験の時間を多くとることで、実験への関心や学習内容への理解促進につなげるよう改善を図りたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		病態生理学	24名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

前年度の同じ教科でのアンケート結果では、全ての質問事項で、学科平均を下回った結果であったが、今回は、かなり改善が見られた。

基礎医学の知識の習得が不十分である為、復習に時間を割いてしまい、毎年、本題に入るまでの時間がかかってしまう。その結果、自ずと速足になってしまっていた為、講義内容を少し減らした。初回講義時に、どのくらい、解剖生理学の基礎知識があるのか、確認の小テストを行っている。

お昼休み終わってすぐの3限目、睡魔と闘っている学生も多くみられるが、学生の様子を伺いながら、興味を惹く話題に持っていったり、時には、眠気覚ましの体操(1、2分程度)をさせたりして、講義内容そのものではないが、いかに学生を講義に集中させるか、試行錯誤の日々である。

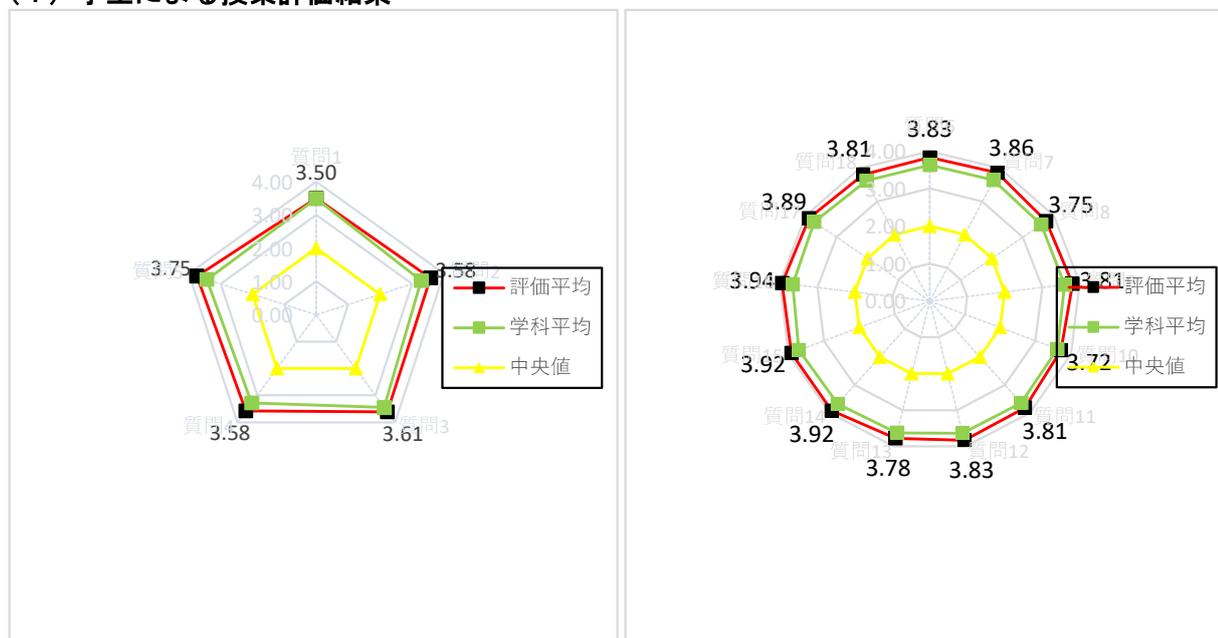
社会情勢の変化により、ここ数年に比べると、学生との距離が、若干、縮まった感じがする。講義中、学生に質問して理解度を確認しながら、授業を進めた。

(3) 次年度に向けての取り組み

この数年、コロナ禍ということもあり、講義中の学生への質問を極力控えていたため、また、以前のように、学生の反応を見ながら、表情をみながら、声を聴きながら、講義を進めていきたい。知識の定着に重点を置きながら、講義を行っているが、考える講義も取り入れたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		音楽の基礎	45名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

本授業は、ピアノ等の音楽経験や音楽の予備知識を問うアンケートに基づいて習熟度別に「未経験者クラス」「初級者クラス」「経験者クラス」の3クラス編成で行っている。今年度は「未経験者クラス」と「初級者クラス」を担当した。授業名は「音楽の基礎」であるが、内容は、音楽理論が大半であり、楽器経験のない学生にとっては難解な部分もある。しかし初心者の学生たちにも解りやすく、なるべく楽しみながら授業を受けられるよう工夫することが本授業の私自身の目標であり、授業を行う上で常に意識している点である。

授業を評価する質問6から質問18の13項目の全ての評価点が学科平均を上回り高評価である。また学生が自身を振り返る質問1から質問5の5項目についてもすべてが学科平均を上回りっており、学生が本授業に意欲的に取り組んだことが窺える。

(3) 次年度に向けての取り組み

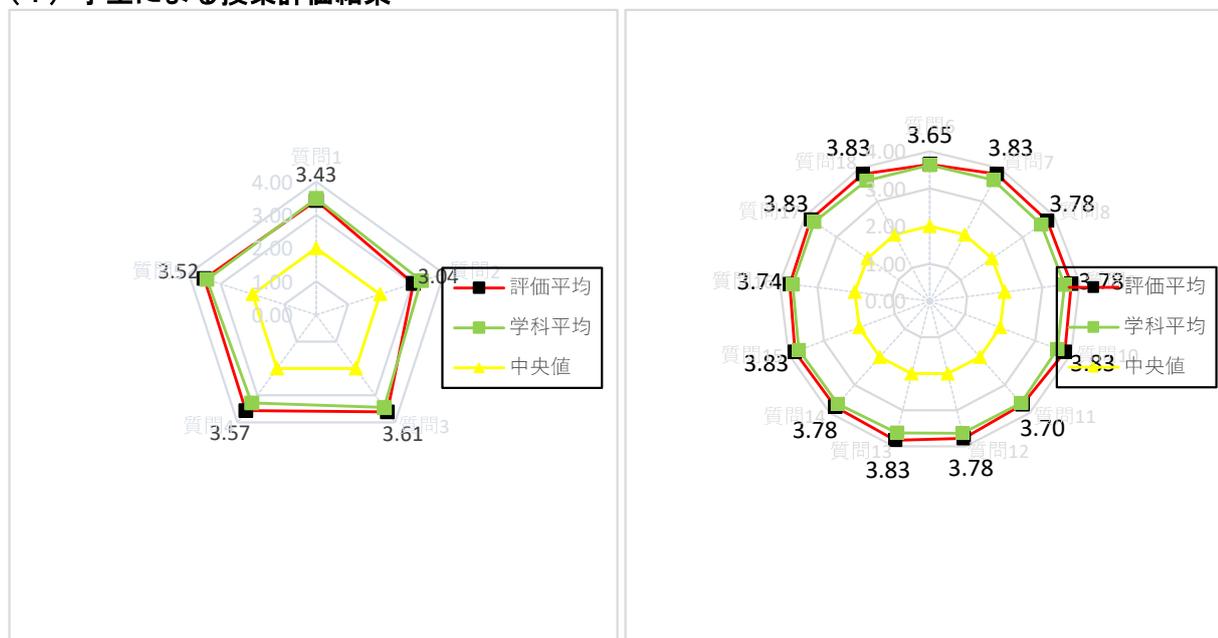
自由記述には「解り易く教えていただいたので積極的に取組めた」「難しかったが、基礎から触れてくれたので良かった」「テスト対策のプリントが配布されたので勉強し易かった」などがあり、担当者の目標が学生に評価されたことを嬉しく思う。

今年度は概ね高評価を得られたので、次年度もリトミックの手法も使い、楽しみながら理論を学べるよう授業を組み立てたいと考えている。

今年度から3クラス全てで実施した、PCを使用した授業「楽譜作成ソフトの活用」は次年度以降も内容を深め、学生がPC上で楽譜を書くスキルを身に付けられるようにしたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		リトミック	29名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

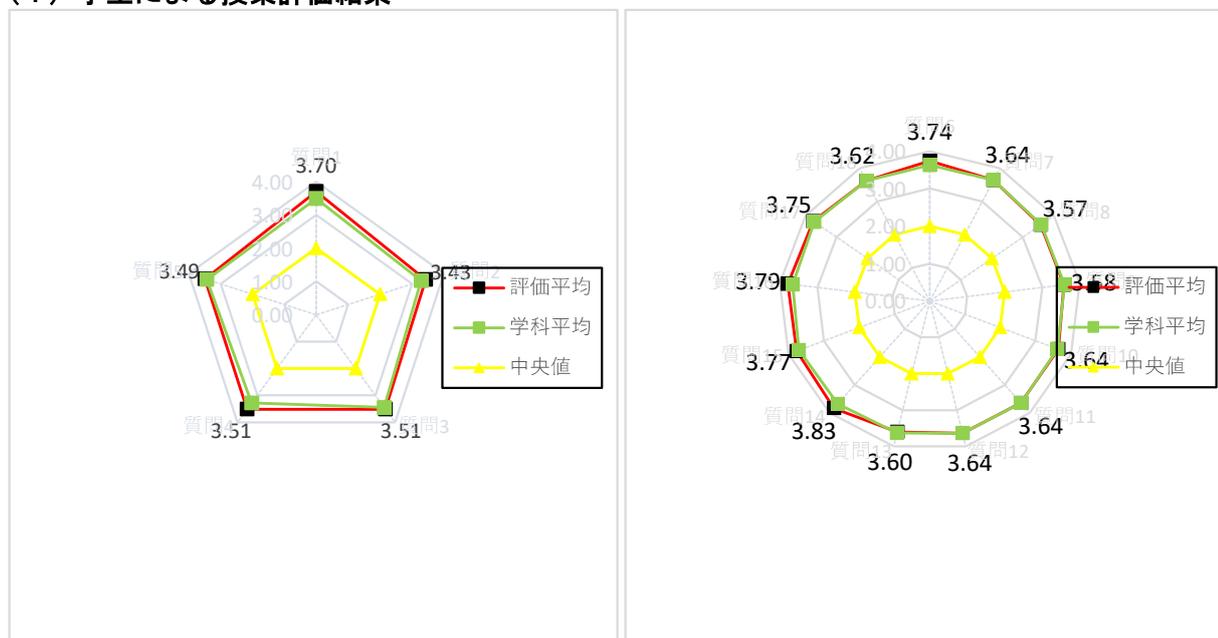
「リトミック」は多くの園で保育の一環として採用されている音楽活動であり、本学では「幼稚園・保育園のためのリトミック指導資格2級」の資格取得ができる科目として開講されている。内容は幼児保育の音楽的学びの中でも、特に保育現場での実践に特化した内容であるため、学生の評価は概ね高いものであった。授業内のグループ活動の中では、常に学生自身の発想や工夫が求められることから、学生も毎回達成感が持てるのではないと思う。毎回の授業での演習後にノート記入の時間を確保し、活動を振り返りつつ、学生自身の言葉で文字に置き換える作業を大切にしたい点も、学生の満足につながったと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

昨年度の履修者は19名であったが、今年度は29名が履修し、その内26名が「幼稚園・保育園のためのリトミック指導資格2級」を取得した。入学時においては「リトミック」という言葉すら聞いたことがないという学生も一定数いるため、1年次の音楽科目の中で、リトミックについて触れるなどし、そのスキルの習得に学生が興味関心を持ち、資格取得に積極的に取り組むよう取り組みたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		乳児保育 I	67名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

質問 1～5に関しては、全ての項目で学科平均を超えており、学生が意欲的に授業に取り組めたことが分かる。また、質問 6～18に関しても学科平均とほぼ変わらない評価となっており、学生の満足度が高かったと言える。学生の自由記述を見ても、「分かりやすかった」「詳しくてためになった」というコメントがあったことは嬉しい限りである。質問14に関しては、毎授業後の課題として授業の感想と質問や要望を提出することとしており、次回授業の初めの時間を使って質問に回答しているため、特に評価が高かったものと思われる。一方で、「質問が長すぎて授業の後半に早口になるのをやめてほしい」という自由記述があった。質問の多さは授業に興味を持ち、より深く知りたいという学生の意欲が表れたものであり、その意欲には今後も応えていく必要を感じている。

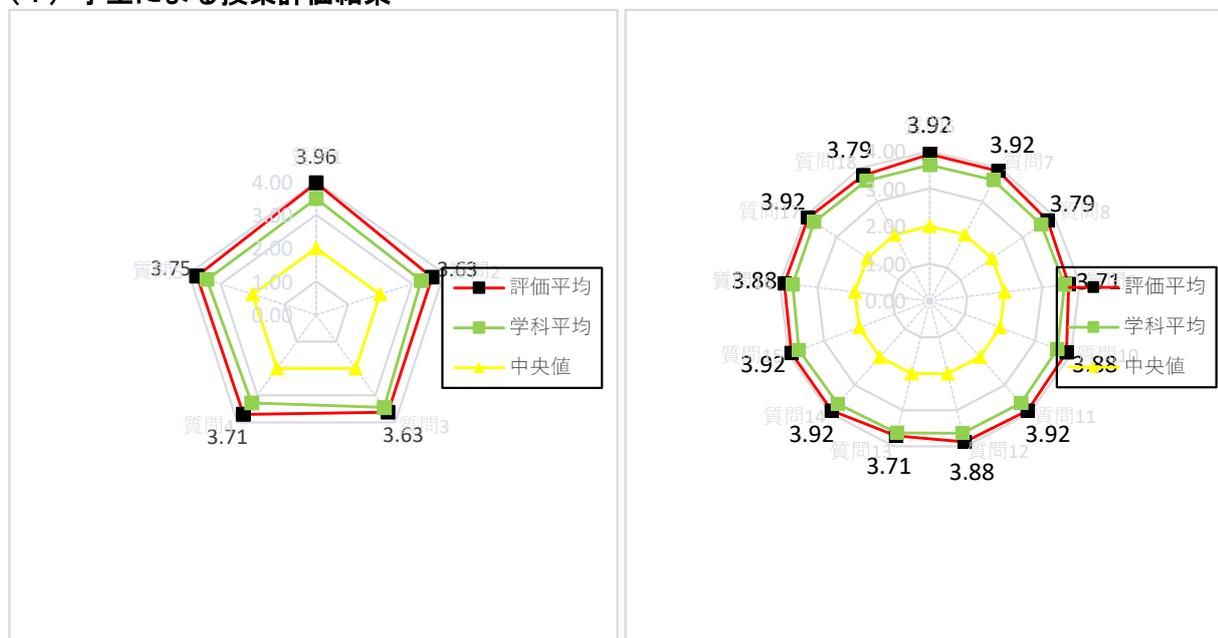
(3) 次年度に向けての取り組み

(2)でも記述した通り、「質問が長すぎて授業の後半に早口になるのをやめてほしい」というコメントがあった。全ての質問に応えたいという思いと、計画していた授業内容を時間内に伝えたいという気持ちで後半部分が早口になったのだと思う。そのため、次年度は授業内容の見直しと時間配分に留意し、対応したいと思っている。

また、他にも自由記述に「指導案を頑張って書いたのに回収がなかった」というコメントがあった。指導案のポイントを伝え、周囲の友人とのグループワークとして相互確認をしたのだが、学生は教員からのコメントが欲しかったのだと思う。次年度以降は指導案を回収した後、コメントを返す取り組みを加えたいと思う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		食品学 I	24名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

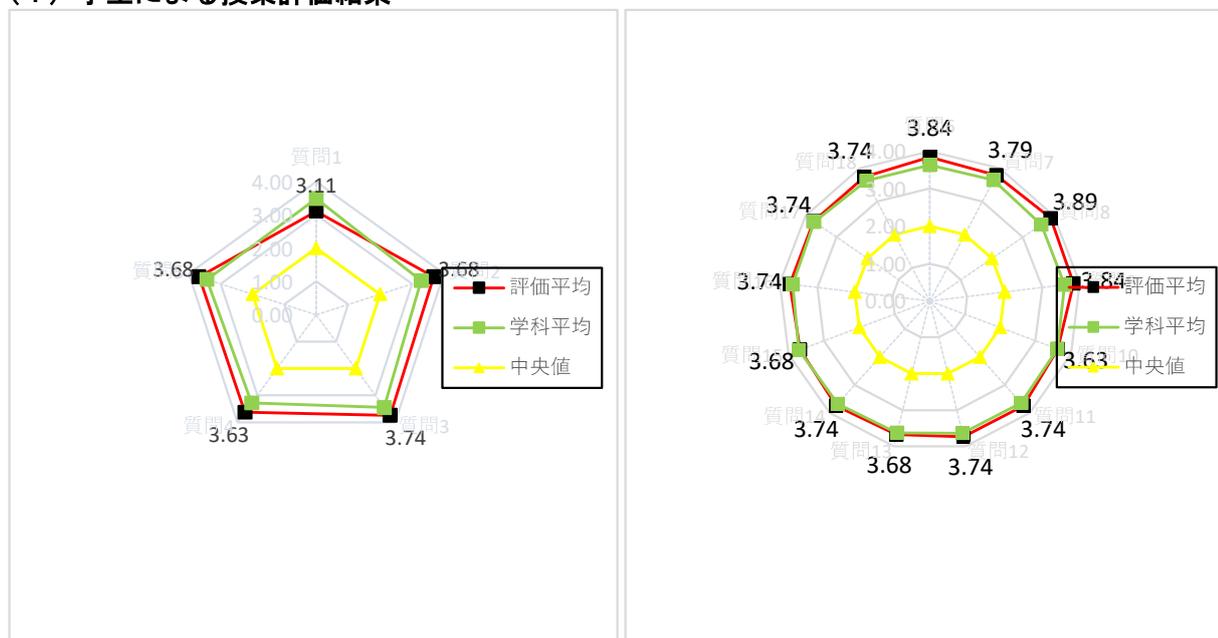
学生による自己評価は、全て学科平均より高く、質問5（総合評価）は3.75となった。今年の学生は実際の授業での取り組みも過去と比べても非常に良く、妥当な結果といえる。質問6以降の授業評価についても質問9、質問13以外は学科平均よりも高値を示した。このことから学生はやや授業を難しく感じ、授業進度も理解に比べスピードがやや速いと感じたのではないかと推察する。自由アンケートは、「食品学についてあまり知らなかったけど少しずつ理解することができるようになった。」「化学の分野で深く難しくついていくのが必死だったけど復習も忘れず覚えていきたい。理解できていないことも多いので夏休み中などに教科書を読み直して理解していきたい。」「生徒に寄り添った授業で良かったです！」「スライドの要点がわかりにくかったです。」「食品学を通してビタミンにもたくさんの種類があり、それぞれ違う役割や成分があることを学ぶことができました。」「先生が一人一人に顔を見て話してくれていたのが良かった。」「先生わかりやすくていいです！テストの出し方もさいこうでした。」など様々な学生の声があり、学生の一定の評価が得られたと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も今年度同様、学生とのコミュニケーションを重視して双方向の授業、グループワークやペアワーク、学生が主体的に考え発言できる機会を増やしたい。コロナ禍も落ち着きつつあり、何らかの学内外活動を企画したい。また、関連で興味関心に結びつく話題の提供などを行い、学生の学ぶ意欲を高める授業内容について検討して授業の充実を図る予定である。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		乳児保育Ⅱ	67名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

質問1と15を除き、全て学科平均を超える評価であり、学生はこの授業に満足したと思われる。質問1に関しては授業の形態を変えて行っていることが要因として考えられる。この授業では実践を多く伴うため、より丁寧に学生対応をするため、オンデマンドと対面を組み合わせた授業形態をとっている。そのため、他の授業に比べて出席状況が悪くなったのかもしれないと考える。質問15に関しては学科平均よりも0.01ポイント低く、誤差の範囲内だとは思いますが、今後はより公平な対応を心掛けたいと思う。

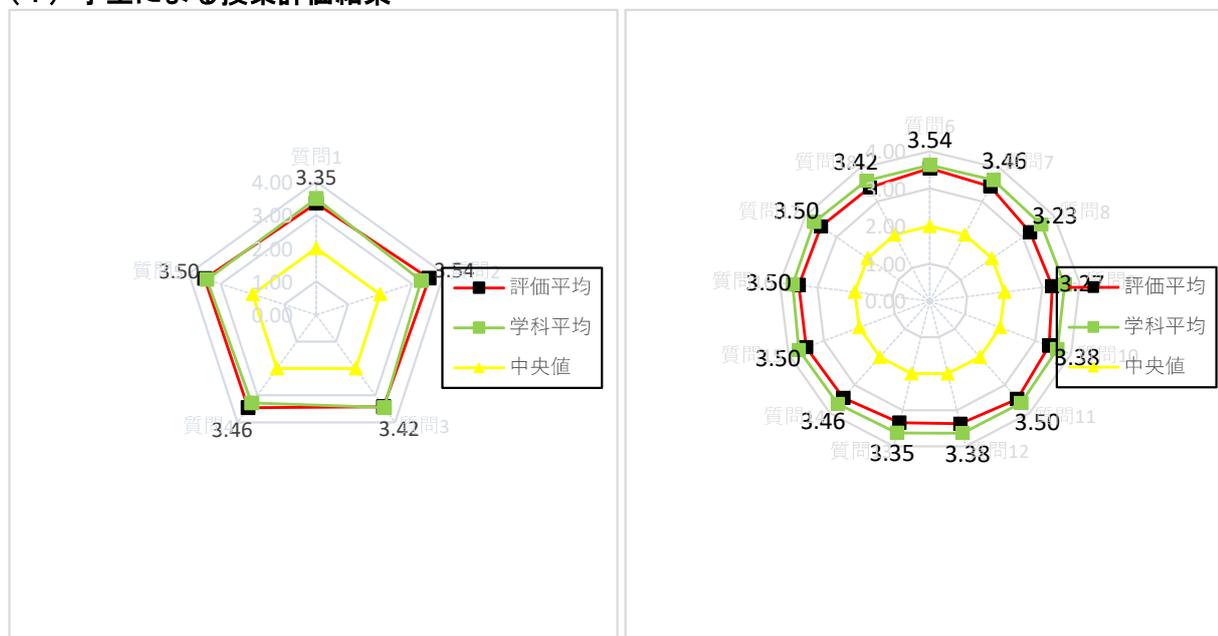
(3) 次年度に向けての取り組み

自由記述に「少数授業や実践が多くて分かりやすかった」「将来のためにとっても役に立った」「ミルクの作り方や手あそび、沐浴楽しかった」「パペットづくり楽しかった」と、授業内容を楽しめたというコメントが書かれていた。次年度も今年度の形態を踏襲し、授業をしていきたいと思う。

今回の授業評価はおおむね好評であり安心したが、回答率が低いため、未回答の学生の声が気になるところである。次年度は回答率を上げる努力をしていきたいと思う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		食品学実験	29名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

学生の自己評価は、学科平均とほぼ同等であった。授業全般の評価については、全体的に学科平均より低い結果となった。

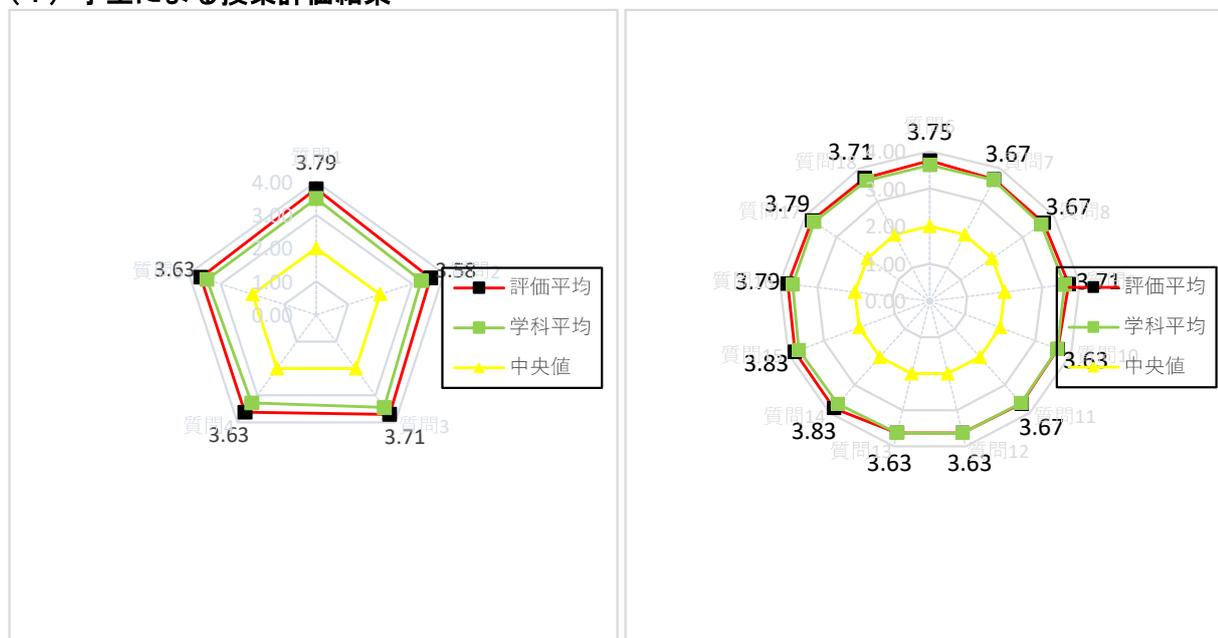
昨年の総合評価の結果を比べると、昨年は総合自己評価3.2、授業の総合評価3.1、今年は総合自己評価3.5、授業の総合評価3.42となり、昨年の評価よりは上がっていた。昨年度は時間割の都合もあり1回に3コマ(2回分の授業)の授業に変更したため、実質の授業項目は減となり、授業内容にも影響して進めるうえでも難しかった。今年は2年目で少し慣れて教えることにも少しだけ余裕がでて学生指導も昨年より手を入れることができたように思われるが、学科平均値より低い評価であり今後一層の授業改善を検討したい。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度以降も一層、時間を有効に活用した実習内容に改善していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		食品学Ⅱ（食品加工学を含む）	25名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

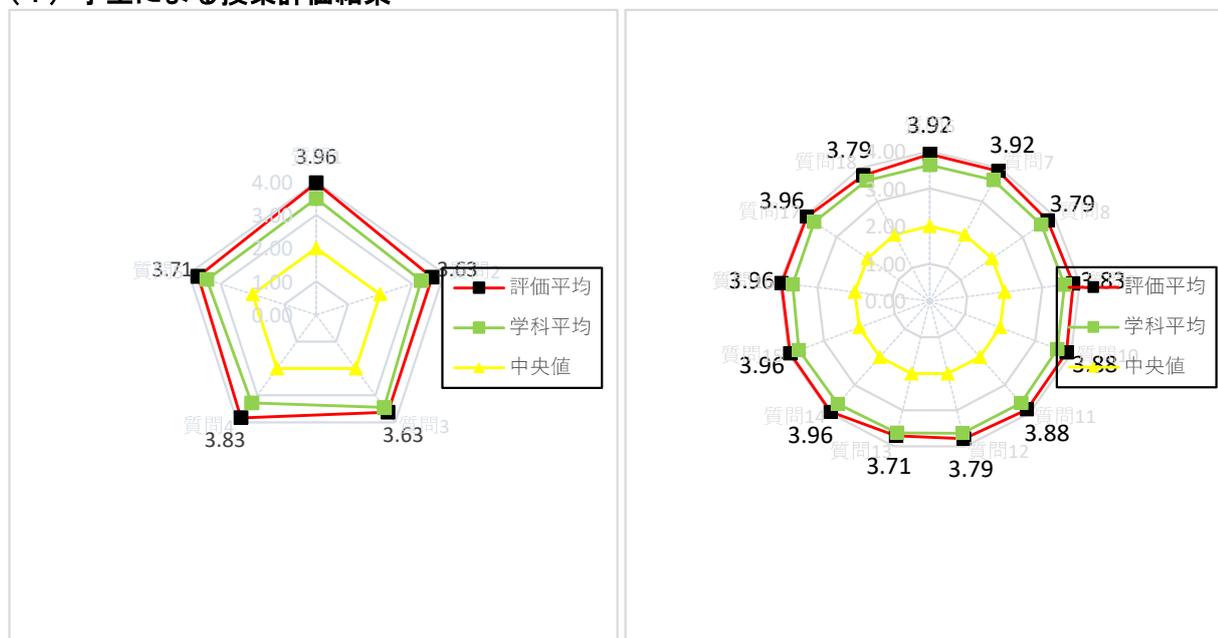
学生による自己評価は、全体的に学科平均より全て高値を示した。実際の授業においても今年の学生は後期も変わらず意欲的に取り組んでいたのが妥当な結果であるといえる。学生の授業に対する全般に対する評価は、高値を示しており、学科平均と概ね同等の結果であり、総合評価について昨年と比べると、昨年は自己評価3.17、授業評価3.07、今年は自己評価3.63、授業評価3.71となり、昨年より今年の評価が高値を示した。自由アンケートでは、「教科書通りに授業内容が進んでいったので教科書を参考に勉強を進められてよかったです。」「先生の授業が分かりやすかったです」「スクリーンで見やすかったです！」と肯定的な学生の声を得られた。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も学生とのコミュニケーションを重視して双方向の授業、グループワークやペアワーク、学生が主体的に考え発言できる機会を増やしたい。また、学生の声を大切にしながら、関連で興味関心に結びつく話題の提供などを行い、学ぶ意欲を高める授業内容について検討して授業の充実を図る予定である。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		基礎栄養学	24名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

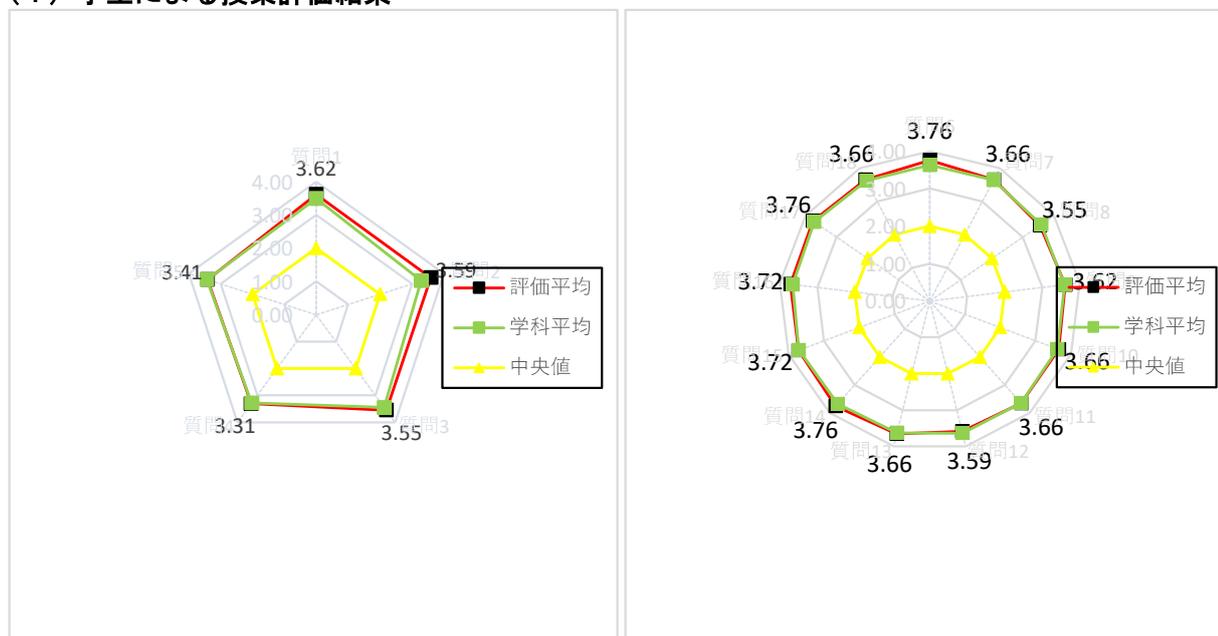
この科目は、1年前期栄養士の基礎理解の第1段階として、学習への興味関心、内容への理解を重視して、個々の学生の理解度を観察するように心がけている。学生の自己評価は平均以上あって、授業の評価も比較的高い傾向にあることから、改善が図れていると考える。自由記述のコメントを抜粋して照会する。「基礎をしっかりとっていないといけなので基礎をしっかりと覚えたいです。」「基礎栄養学は高校の時に習ってきた専門教科の授業内容と少し被っているところがありました。しかし、内容は相変わらず難しかったので日々の復習を大切にしたいです。」「難しい内容でしたが面白おかしく楽しく学生のペースで授業をして下さり良かったです!!」「教科書には書かれていない話にも触れ、勉強を更に深められる上に、教科書とスライドに沿って実力認定試験によく出る部分も教えてくださって、授業の内容がとても豊富だと思います。また、ためになる豆知識の話も聞いて面白味があるのがいいです。」「定期的に周りの人と話し合う時間を作ってくださいるので、一人でわからなかったらその都度友達に聞くことができるのがとてもいいです。」

(3) 次年度に向けての取り組み

コメントにあったように、豆知識の情報やペア学習は学生の学習意欲を高めている。また、先生が面白いといった声もある。学生がいかにしてより主体的に学習を進めて行くようになるか、今後も試行錯誤しながら改善を図りたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		病態栄養学	29名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

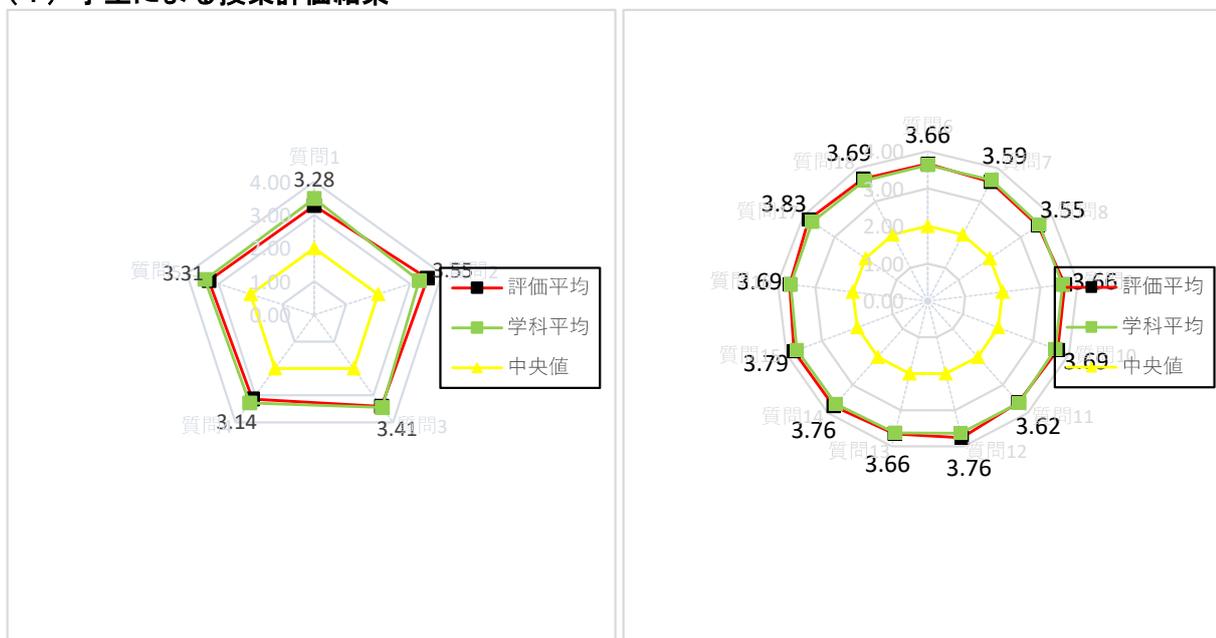
アンケート対象者は、22年度病態生理学受講者(1年次)と同じである。(2名の休・退学者を除く)
 前年度のアンケート結果では、全ての質問に対して、学科平均値より低かったが、病態生理学に引き続き、2回目の担当ということもあり、私の講義に対する慣れ(講義の進め方、小テスト、レポート提出など)もあったのか、若干、その差が縮まった。
 このコロナ禍、私語をする学生はいなかったが、極力、居眠りをさせないため、講義中に、室内換気、飲水、ストレッチなどを取り入れた。
 ほとんどスライドでの講義であるが、文字の大きさ、イラストなどの見やすさという点においては、見直しを行った。1年次に使用した教材やスライドの一部を繰り返し活用した。
 相変わらず、ほとんどの学生がマスク着用ではあったが、講義中時折、学生へ質問をしながら、理解度を確認できたことは、講義を進めるにあたって、良いことであった。

(3) 次年度に向けての取り組み

2年にわたって、同じ学生に、病態生理学→病態栄養学と、系統立てて講義を行えるため、知識の習得のみならず、実際に、栄養士として活動をする際に必要な応用力をつける学習に取り組めたらと、考えている。ここの数年、コロナ禍ということもあり、授業中の学生への質問を極力控えていたため、次年度こそは、また、以前と同様、学生の反応を見ながら、表情をみながら、声を聴きながら、講義を進めることができるよう、願う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		臨床栄養学	29名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

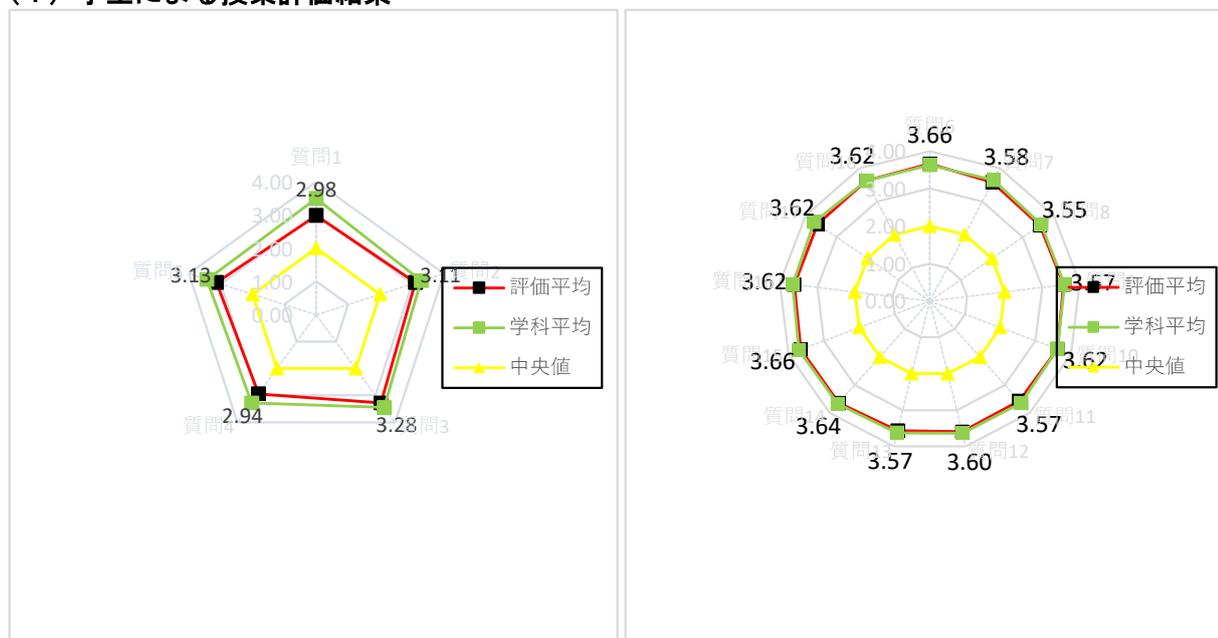
授業の総合評価は3.69であった。質問6～18について学科平均と大差はなく、ほとんどの質問項目で7割程度が評価4.0であった。概ね高評であったと思われる。特に、声の大きさ・明瞭さ・話す速さについての評価が高かった。

(3) 次年度に向けての取り組み

概ね高評であったと思われる。今年度は自由記述への記載が見られずどういった点がよかったのか、どういった点をもっと工夫したほうがいいのかの判断がしづらいが、質問12については特に評価が良かったため、その点は継続していく。動画の活用やトピックを適宜交えながら印象に残る分かりやすい授業展開を心がけていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		子育て支援	68名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

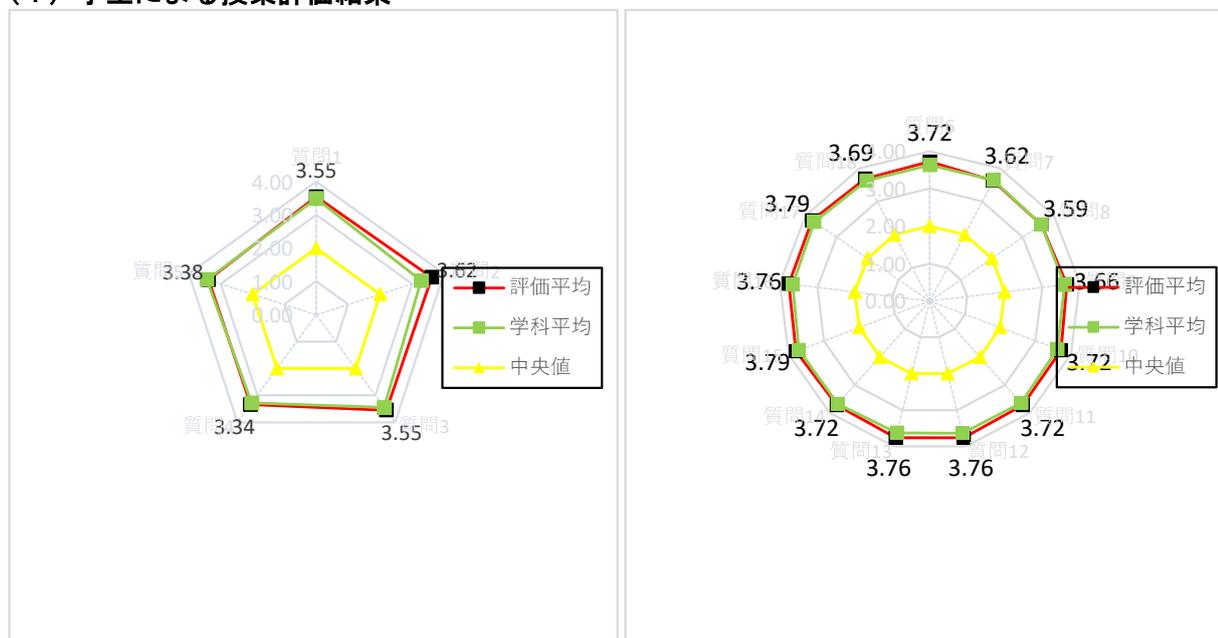
- ・ 回答率は2Aクラス70.8%、2Bクラス81.1%であった。
- ・ 学生自身の授業参加態度については学科平均よりやや低い結果となった。一方、授業内容・方法、教員の対応については、学科平均とほぼ同程度の評価であった。
- ・ 総合評価は2Aクラス3.66、2Bクラス3.70と概ね良い結果であったと分析する。
- ・ 自由記述では「スライドが分かりやすく配布資料もあり、自宅での振り返りもできた」、「ゆっくり授業が進められ、焦らず落ち着いて授業を受けることができた」などの回答があった。自由記述の回答者数が少ないため、一概には評価できないが、授業の進め方、資料提示の仕方については概ね良好だったと分析する。スコアとしての評価は平均に留まるものの、学生の習熟度としては一定の効果があったと考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

- ・ 学生自身の授業参加態度についてやや平均を下回る結果であったことを踏まえ、次年度は学生自身の授業参加意欲が高まるような工夫、声掛けを試みたい。
- ・ 学生間で授業に対する感受性が異なる（理解度も異なる）ことが予想される。引き続き、次年度に向けて全体の学生の理解度が高まるような工夫（言葉の使い方等）に配慮していく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		臨床栄養学実習	29名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

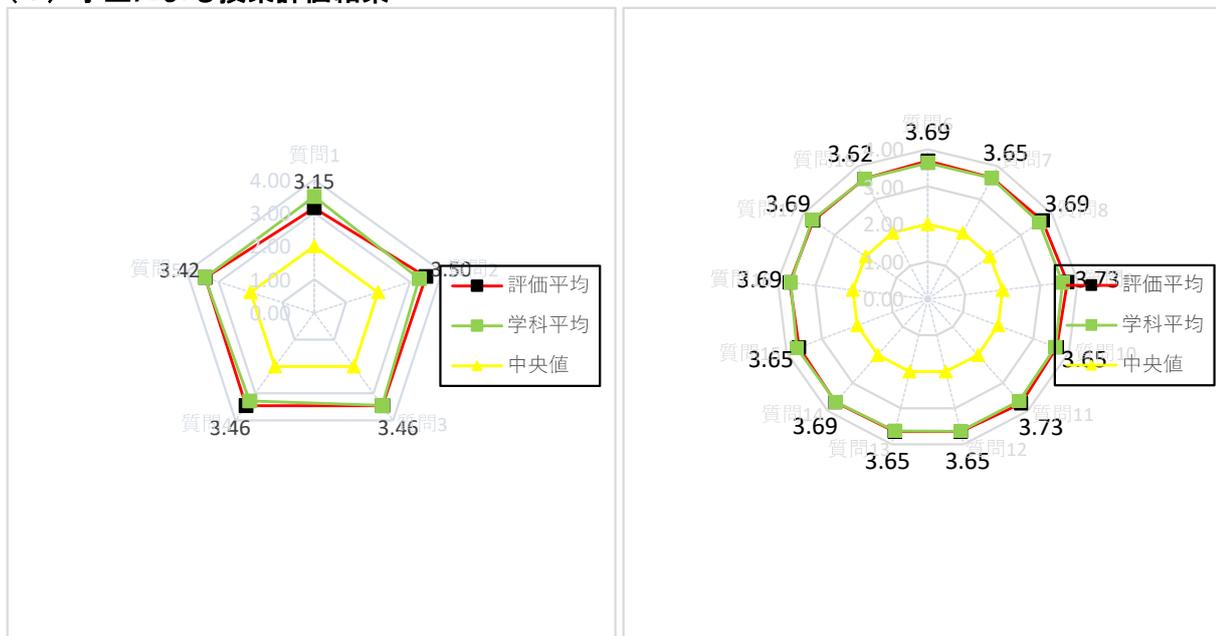
授業の総合評価は3.69であった。質問6～18については学科平均と大差はなかった。ほとんどの質問項目で7割以上が評価4.0であった。概ね高評であったと思われる。特に、声の大きさ・明瞭さ・話す速さ、授業の進む速さについての評価が高かった。

(3) 次年度に向けての取り組み

概ね高評であったと思われる。本授業は、1, 2回目に調理の基礎の振り返りを、その後、常食の献立作成や常食から治療食への展開法、特別食の調理実習を柱として構成している。基礎の振り返りではお米の炊き水や重量変化、乾物の戻し率や調味の割合などこれから現場で必ず使っていく内容を実際に体験をして理解するようにしている。また、献立作成や献立の展開については、提出させた課題をしっかりとチェックすることで学生の理解度を把握し、授業法の改善へとつなげている。この授業展開へ変更してから学生からの評価は良いのでしばらくの間継続していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		栄養学実習	29名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

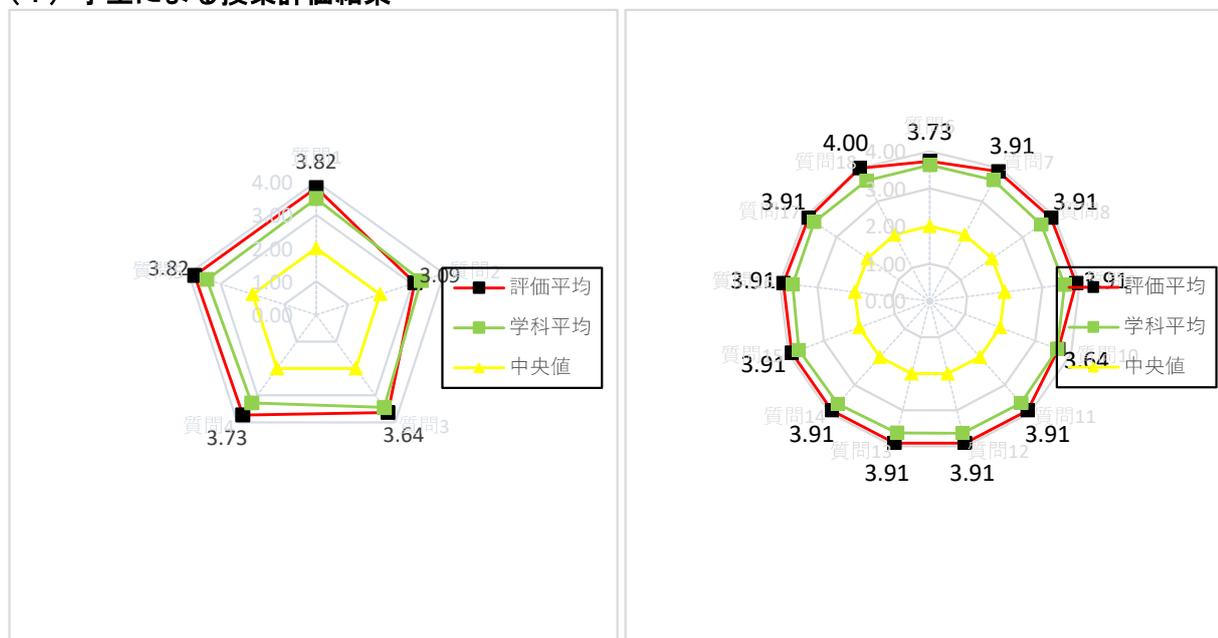
授業の総合評価は3.62であった。質問6～18については学科平均並みであった。

(3) 次年度に向けての取り組み

本授業は、主に食事摂取基準（2020年版）とその活用について、栄養ケアマネジメントについて、POSについて等他の授業内で教えることが出来なかった内容を組み合わせて構成している。どちらかという管理栄養士よりの内容となるが管理栄養士の補佐として仕事をしていく場合もあるため理解しておく必要がある。授業の中では基礎的知識の部分を演習をまじえて教えている。学生の様子を見ていると難しいながらもしっかりと取り組んでいるためこれからも実践に則した授業内容を心がけたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		歌唱表現	13名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

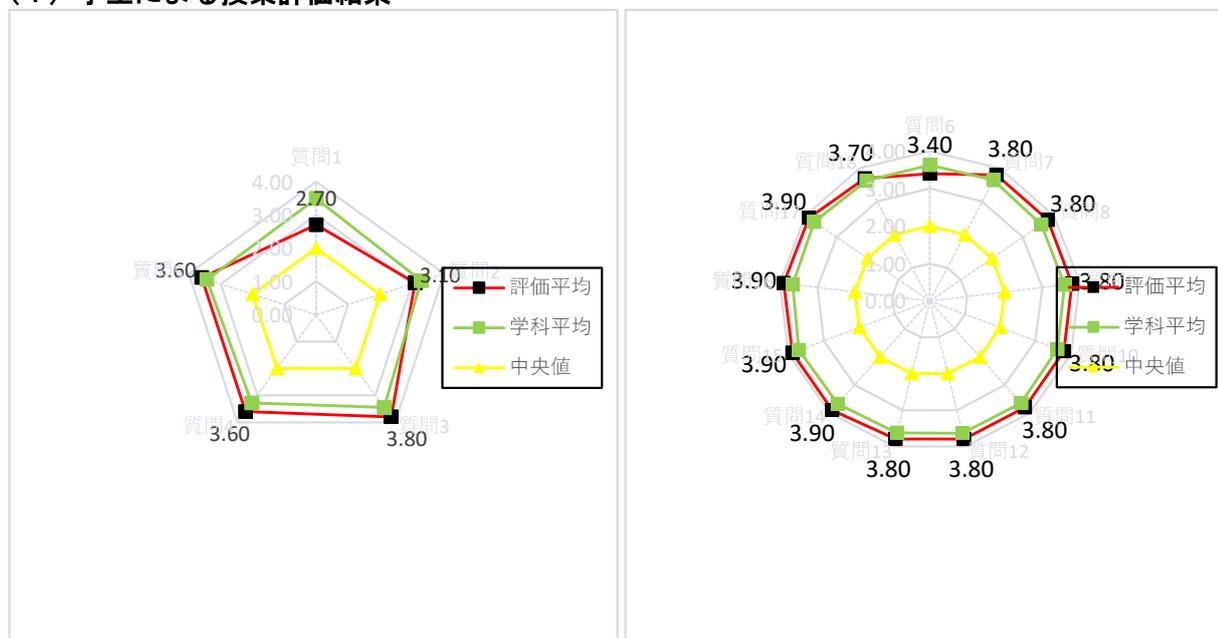
本授業は卒業課題研究でミュージカルを選択した学生が履修し、ミュージカルの発表のための歌唱について呼吸法、発声法等声のトレーニングを体験しながら歌唱技術を向上させるとともに、声によって表現することについて学ぶ内容である。学生の評価は概ね高く、自由記述には「とても楽しく取り組むことができた」「ミュージカルでも生かすことができる内容もあり、真剣に取り組めた」「歌う時の基礎知識をイメージしやすく学ぶことができた、以前より歌うことに自信を持ち楽しく取り組んでいる」などの記述がみられ、本授業を通して、歌うこと、表現することに対して受講以前に感じていた苦手感や恥ずかしさを払拭し、歌唱に対する印象が好転したと感じた学生がいることには嬉しく思った。

(3) 次年度に向けての取り組み

歌唱は目に見えず成果が判り難いが、学生が自身の歌唱力が向上したことを実感できるような声掛けを多くしたい。教材として過去に取組んだミュージカルの楽曲を用い、個人やグループで取り組む。発表後に実際の実技発表会のミュージカルの歌唱部分を視聴し、自己課題や求められる表現を見出し、発表会に向け学生一人ひとりが具体的な目標を設定できるようにする。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		器楽表現	12名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

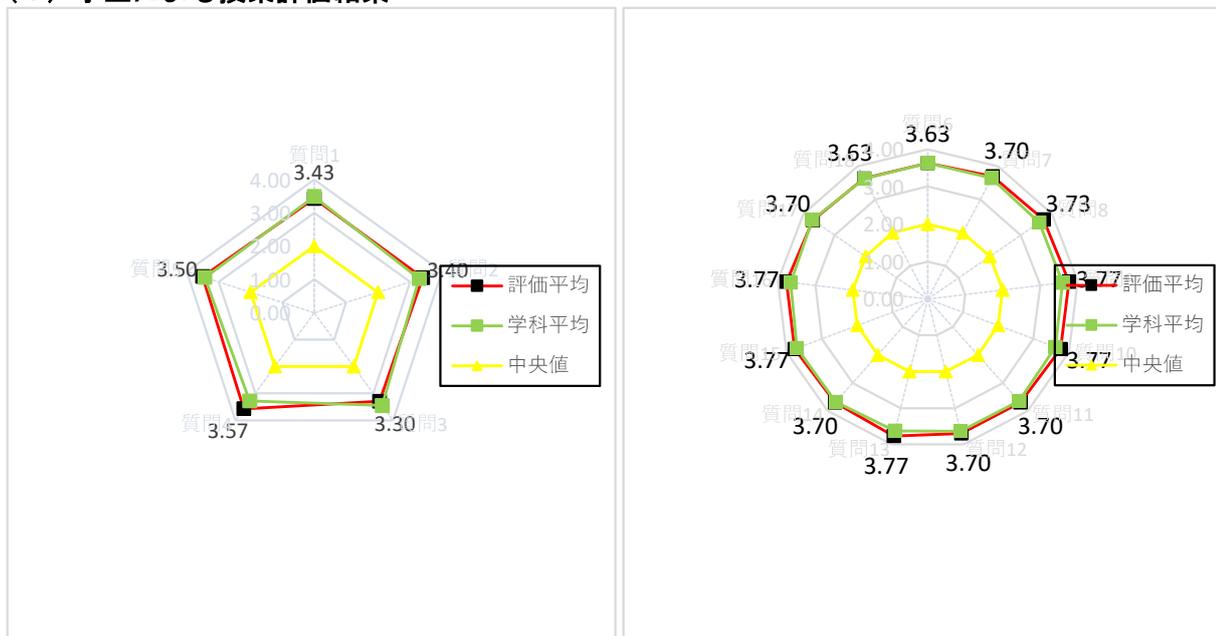
履修者12名のうち、10名が回答している。質問1～5においては、質問1「出席状況」と質問2「シラバス活用の有無」について学科平均を下回っていることがわかる。質問1については、実際4名の学生が「2～3回以上欠席」を選択していた。本科目の開講日は、この科目と「卒業課題研究Ⅰ」の2つのみであり、内容は若干異なるが、年末の「実技発表会」に向けた準備のための科目という意味では目的が同じであり、受講メンバーと教員も同じである。この科目を欠席する日は、「卒業課題研究Ⅰ」も欠席する傾向があり、個人的には、この曜日の開講科目を他にも増やせば、学生の出席状況も改善するのではないかと考えている。質問6の「シラバス」の説明については、不十分を感じている学生もいたようである。

(3) 次年度に向けての取り組み

受講者には日頃から細かい目標を提示して、本番までの道筋を示してきたつもりであったが、欠席した学生も確認ができるよう、今以上に繰り返し説明や資料配布をする必要があると感じている。また、2人体制での授業であるため、担当者同士でさらなる情報共有と授業展開の検討を行うべきである。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		発達と老化の理解Ⅱ	39名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

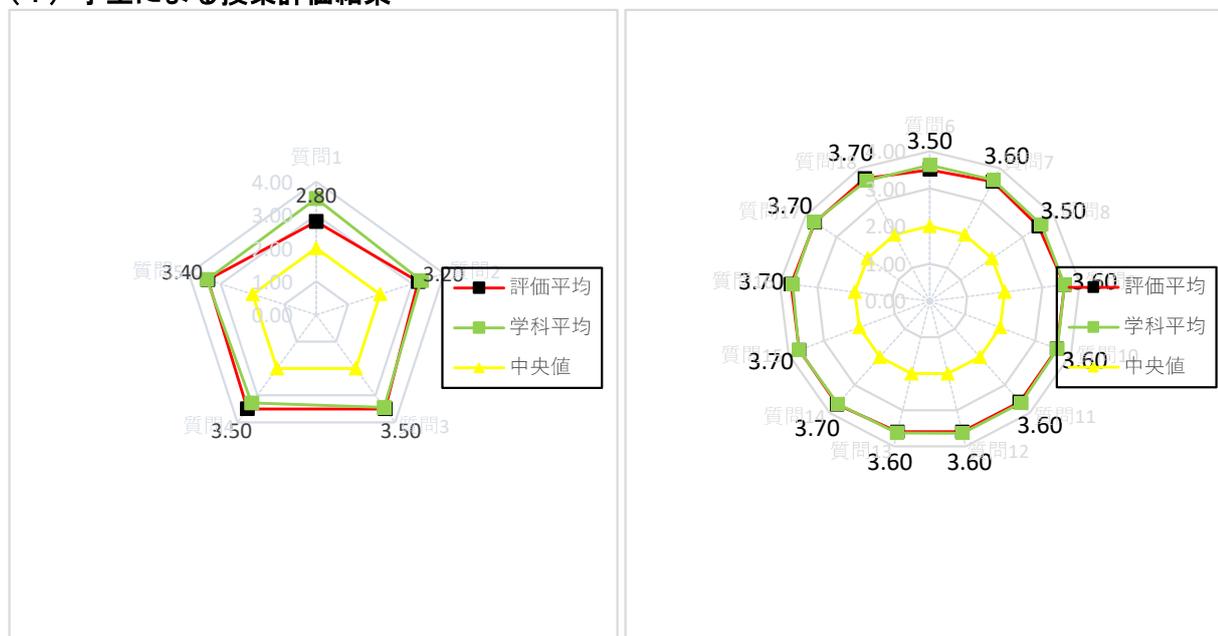
学生自身の自己評価は20%に欠席等がみられた。シラバスの活用真剣さの項目に対し13%の学生が低く評価していた。教員への評価は進む速さについては一番評価が高かったが一人だけ評価が低かった項目も進むスピードであった。自由記述ではわかりやすい工夫があり大変良かった。高齢者の理解や介助に役立ったとの記述があった。質問がない項目に11名が解答していた。

(3) 次年度に向けての取り組み

きちんと理解できると大変役立つ科目であるので、欠席、遅刻がないように指導していく。活用しやすいシラバスの改善、授業の理解度を確認しながら進めていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		こどもの遊び	44名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

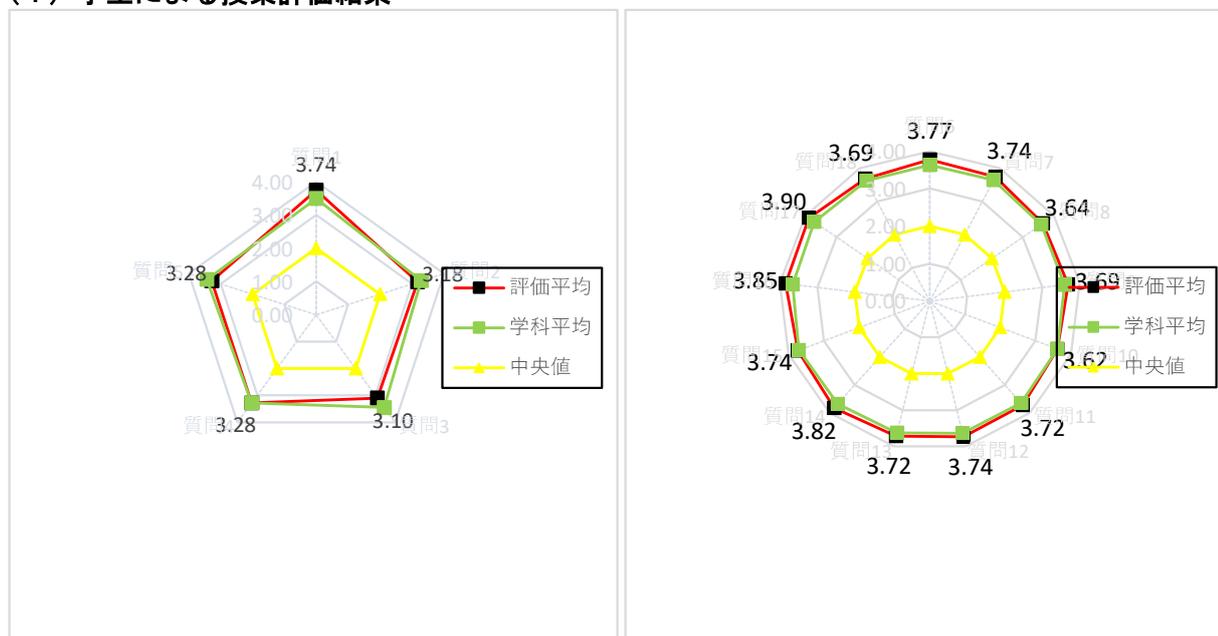
- ・ 回答率は22.7%と、かなり低い結果となった。授業中の声掛けの徹底が必要だった。
- ・ 学生自身の評価については、項目によっては学科平均値を下回るものもあったが、ほぼ学科平均値と同等の結果となった。特に質問1については学科平均値を大きく下回ったが、本科目は通年の科目であること、さらには毎週予備時間も授業として実施するなど、授業回数が多かったため、4回以上の欠席に該当する学生が多くなったと分析する。また、質問4「あなたはこの授業を理解するために自分で何か工夫をしましたか」の項目については、高く評価をしている学生が多く、親子いきいき広場を開催するにあたり、毎時間自身の課題を持ちながら、各自がアイデアを出し合い、工夫を凝らしながら活動していたことがうかがえる。
- ・ 教員への評価については、一部学科平均値を下回るものもあったが、概ね学科平均値と同等の結果となった。

(3) 次年度に向けての取り組み

- ・ 本科目は複数教員で担当する科目であるが、引き続き教員間での分担や役割を明確にしながら、グループの話し合い等に細やかに入り込み、学生一人ひとりがやりがいを感じられる取り組みにしていくよう工夫する。
- ・ 基本的に学生による主体的な活動ではあるが、より良い取り組みになるよう適切に指導を行う。その際、学生に指導する内容の意図、意味、背景を具体的に示し、学生が納得しながら取り組めるようにする。
- ・ 本科目は「親子いきいき広場」に係る科目である。適宜、シラバスに記している到達目標や、本科目を学ぶ意義について確認する時間を設けながら、学生の理解につなげていく。
- ・ 回答率を上げるため、授業のまとめや振り返りの時間を活用して、回答する時間を設けるなどの工夫をする。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		認知症の理解 I	39名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

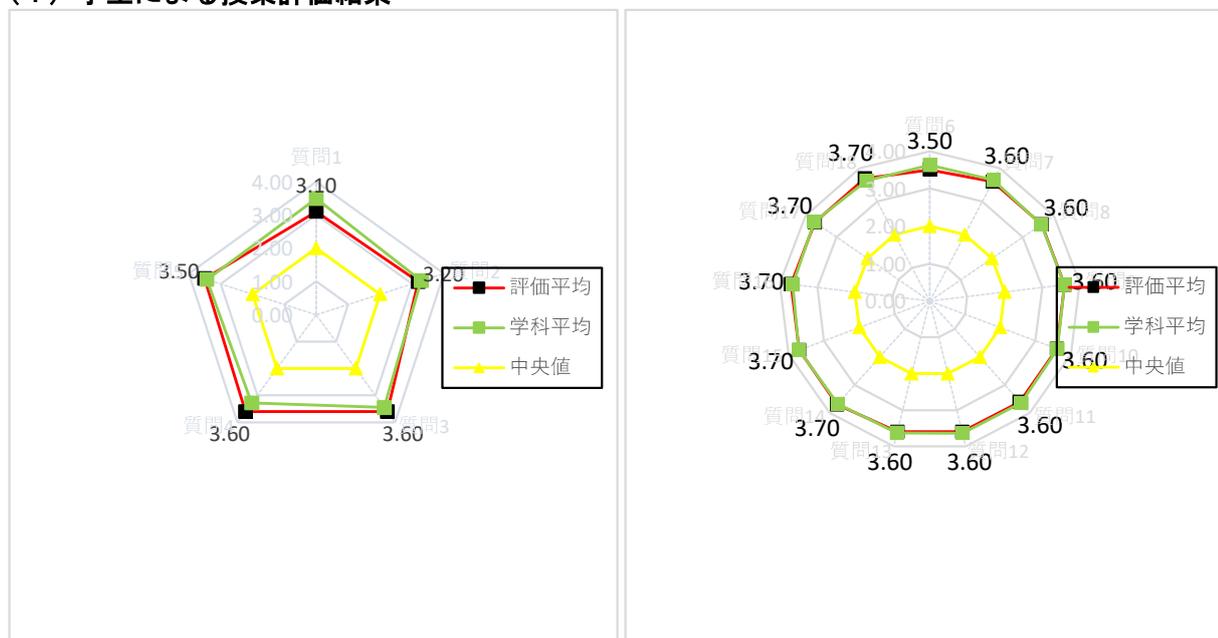
質問2～質問5においては学科平均より低い結果となった。
 シラバスの活用については、学科平均に比べ活用できていないと感じている学生が多い傾向にあった。学生がシラバスを活用し、より効率的に学習を進められるような指導が必要であると考え。
 また、授業中の居眠りや私語等について、授業の理解に向けての工夫も同様に学科平均より低い傾向にあった。授業中の居眠りや私語等が極力少なくなるような授業の工夫、自身で理解促進するための工夫が出来るような指導が必要であると考え。
 質問16の学生、教員との双方向のやり取りを行いながら授業を行ったか、質問17の教員は熱心に授業に取り組んだかの質問については学科平均より高い結果となった。
 授業の中で出来るだけ一方の授業にならないように質問等も交えながら授業を行ったことが今回の結果につながったと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

学科平均より評価が低かった、シラバスの活用や授業中の居眠りや私語、授業を理解するための学生の工夫については、学生がシラバスを活用し、効率的予習や復習ができるように、シラバスの活用について説明していく。
 授業中の居眠りや私語等については、授業中に学生が主体的に取り組めるようなワーク等を取り入れていく。また、学生が自分で理解を促進するための工夫ができるように、なぜ、その学習が必要なのかについて、学習のための動機をもてるような説明を行っていく。
 学科平均より高かった項目については、次年度も同様な取り組みを行っていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		保育カウンセリング	44名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

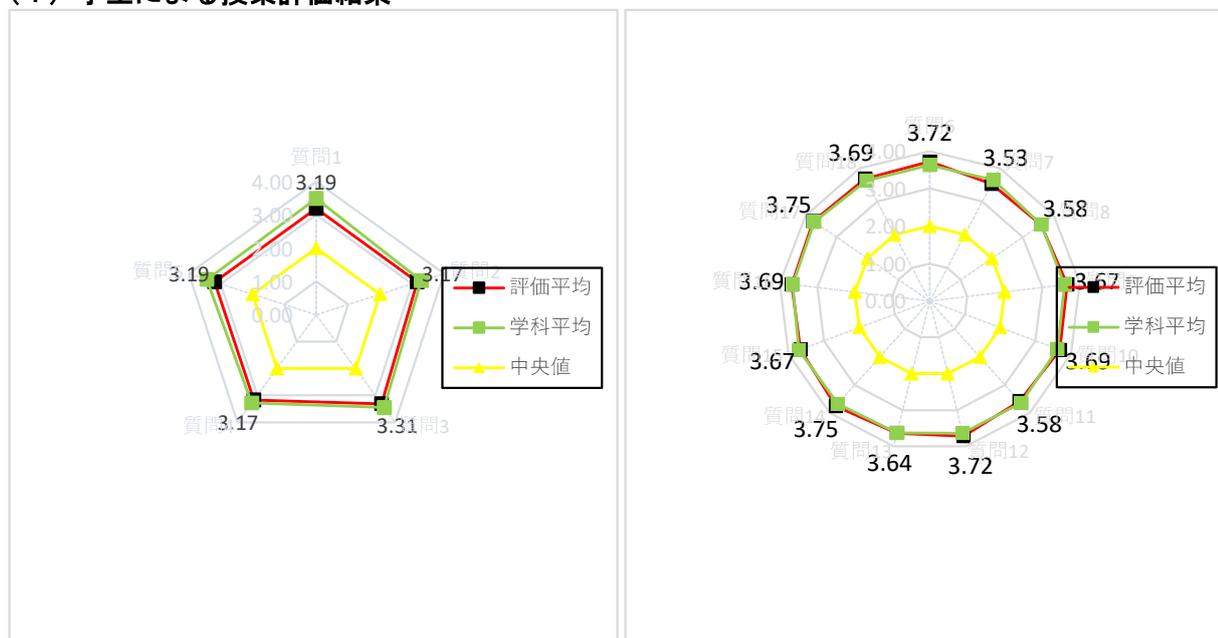
- ・ 回答率は22.7%と、かなり低い結果となった。授業中の声掛けの徹底が必要だった。
- ・ 学生自身の評価については、項目によっては学科平均値を下回るもの、上回るものがあった。特に質問1については学科平均値を大きく下回ったが、本科目は通年の科目であること、さらには毎週予備時間も授業として実施するなど授業回数が多かったため、4回以上の欠席に該当する学生が多くなったと分析する。また、質問3と質問4については高く評価する学生が多く、親子いきいき広場を開催するにあたり、毎時間自身の課題を持ちながら、各自がアイデアを出し合い、工夫を凝らしながら活動していたことがうかがえる。
- ・ 教員への評価については、一部学科平均値を下回るものもあったが、概ね学科平均値と同等の結果となった。総合評価については3.70と、概ね良い結果となった。
- ・ 本科目は3名の学科教員が空き時間も含め細やかに関わりながら、また学生の声を拾いながら進めていくことで、学生の理解度や満足度に繋がるよう取り組んだ。複数教員がいることでの指導の差がでないような工夫をしてきたが、その点については学生の声が多かったため拾うことができなかった。

(3) 次年度に向けての取り組み

- ・ 回答率を上げるため、授業のまとめや振り返りの時間を活用して、回答する時間を設けるなどの工夫をする。
- ・ 本科目は複数教員で担当する科目であるが、引き続き教員間での分担や役割を明確にしながら、グループの話し合い等に細やかに入り込み、学生一人ひとりがやりがいを感じられる取り組みにしていくよう工夫する。
- ・ 基本的に学生による主体的な活動ではあるが、より良い取り組みになるよう適切に指導を行う。その際、学生に指導する内容の意図、意味、背景を具体的に示し、学生が納得しながら取り組めるようにする。
- ・ 本科目は「親子いきいき広場」に係る科目である。適宜、シラバスに記している到達目標や、本科目を学ぶ意義について確認する時間を設けながら、学生の理解につなげていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		認知症の理解Ⅱ	36名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

質問7「授業の到達目標を明確にして、授業を展開していたか」は、やや学科平均値より低い値だった。確かに、学習項目が変わる際には、到達目標を伝えていたが、授業ごとには行っていなかった。また、質問1「教科書・配布資料等は役に立ったか」の値も学科平均より低く、配布資料の工夫が必要だったと反省している。一部の学生から、「せっかく教科書を買っているのだから教科書を使いたい」「配布資料が多いと困る」という意見があったため、できるだけ教科書を使用し、その分配布資料を減らしていたのは事実である。また、DVDやインターネット上の動画を活用してディスカッションや個人の考えをまとめるなどの方法も多く、その際も、資料の配布を行うことはあまりしていない。それらのことから、今回の評価につながったと考えられる。

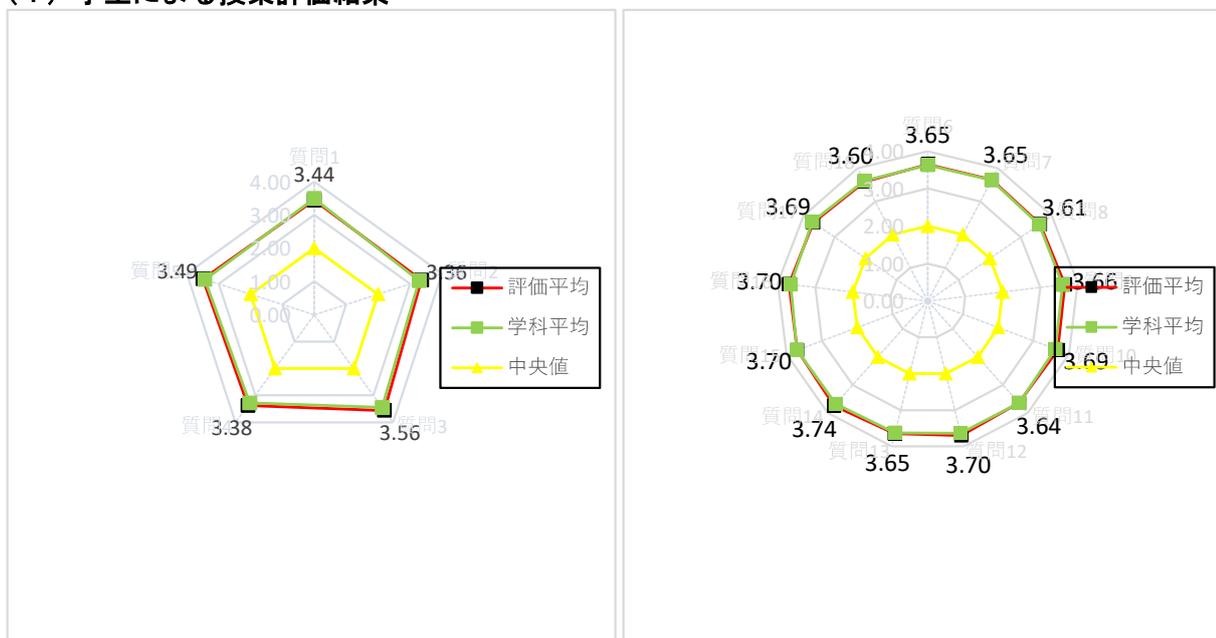
質問1～質問5は、すべて学科平均値よりも低い値だった。教員からすると、やや自己評価が低いように感じられるが、学生自身が、授業に積極的になるための工夫が足らなかったと反省するところである。

(3) 次年度に向けての取り組み

まずは、授業の冒頭に、その回の到達目標を明確にしたい。また、学生の意見を尊重しながらも、教科書の活用に併せて配布資料の内容や配布回数を検討したい。さらに、学生自身の自己評価、あるいは自己評価向上のための意識を向上させるためにも、授業の到達目標を明確にすることは重要だと考えられるため、学生自身にも目標を持たせるなどして工夫したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		保育実習指導 I	135名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

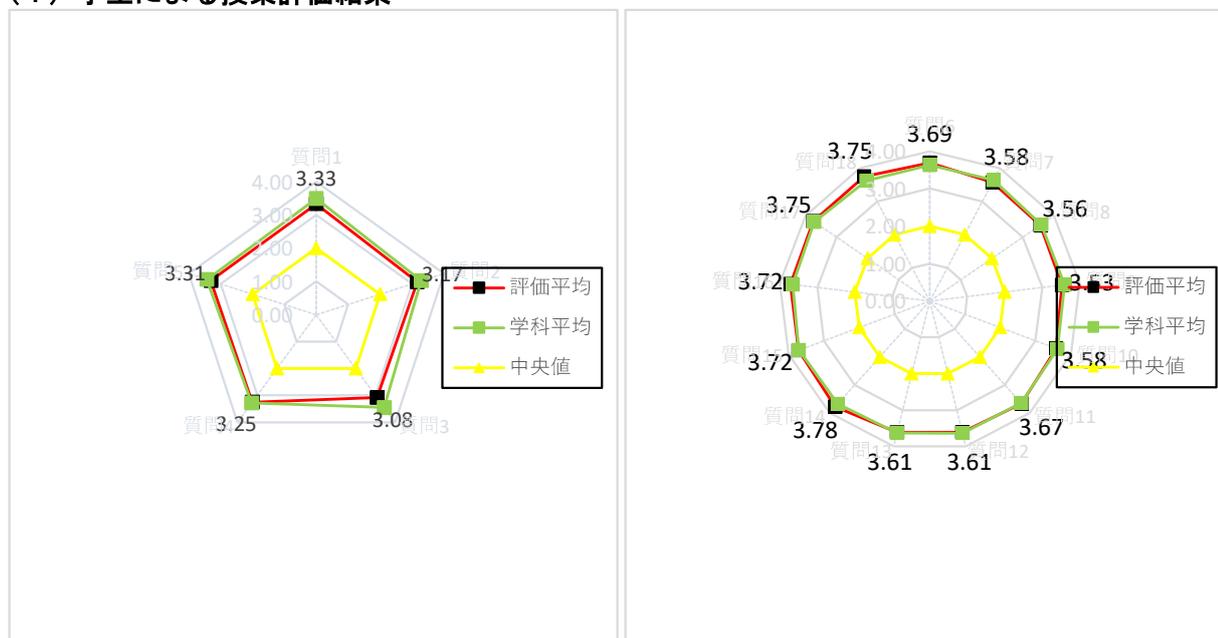
どの項目も評価が高く、学生はこの授業に満足していることが分かる。また、自由記述には「相談や実習に向けての指導案などを適切に丁寧に教えて頂き感謝します。ありがとうございました。」という記述もあり、教員の対応が学生の実習に対する不安解消の手助けとなったことを嬉しく思った。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も学生一人一人の不安感に寄り添い、前向きに実習を行うことができるよう、授業を進めていきたい。また、授業外でも対応できる体制を整えておくことが学生にとっては安心材料となるため、引き続き学生のニーズにその都度対応しながら実習に向けての指導を続けたいと思う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		障害の理解 I	39名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

36/38 (95%) の回答であった。

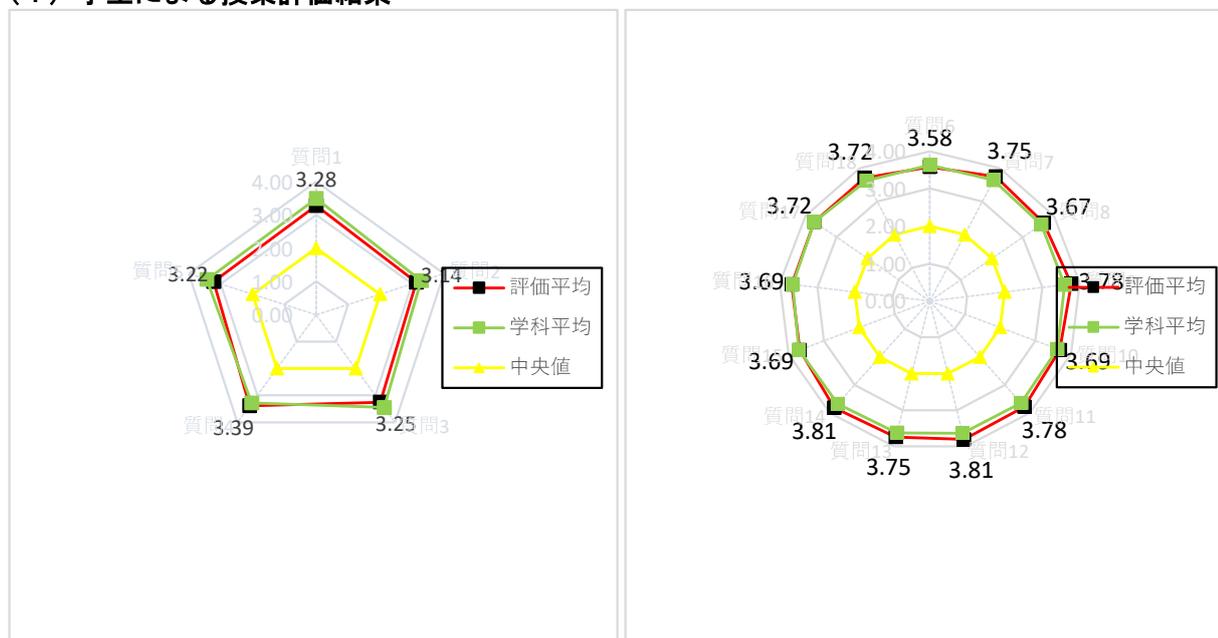
学生による授業評価結果は、概ね学科平均と変わらなかったが、質問 1、3、4 については平均を下回っていた。本科目の担当教員が他学科ということもあり、履修意識について差が出ていたと思われる。他は概ね学科平均であった。毎回レジュメを作成配布し、テキストのみではなくオリジナルの資料を作成し配布することを心掛けた。

(3) 次年度に向けての取り組み

自由記述においては、「分かりやすく、熱心に教えてくれた」等の記載も多数見られた。本科目は、留学生が半数以上を占めるため、日本語表記や話すスピードなどがわかりやすく伝わるように工夫した。しかしながら、留学生においても、よく分かったという学生とそうでなかったという学生の両方がみられたようである。一概に留学生といっても、日本語能力に開きがあるため、この点に関してグループワークを設けたり、ディスカッションを通じて、なるべく学生の個性性に合った授業ができればと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		障害の理解Ⅱ	36名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

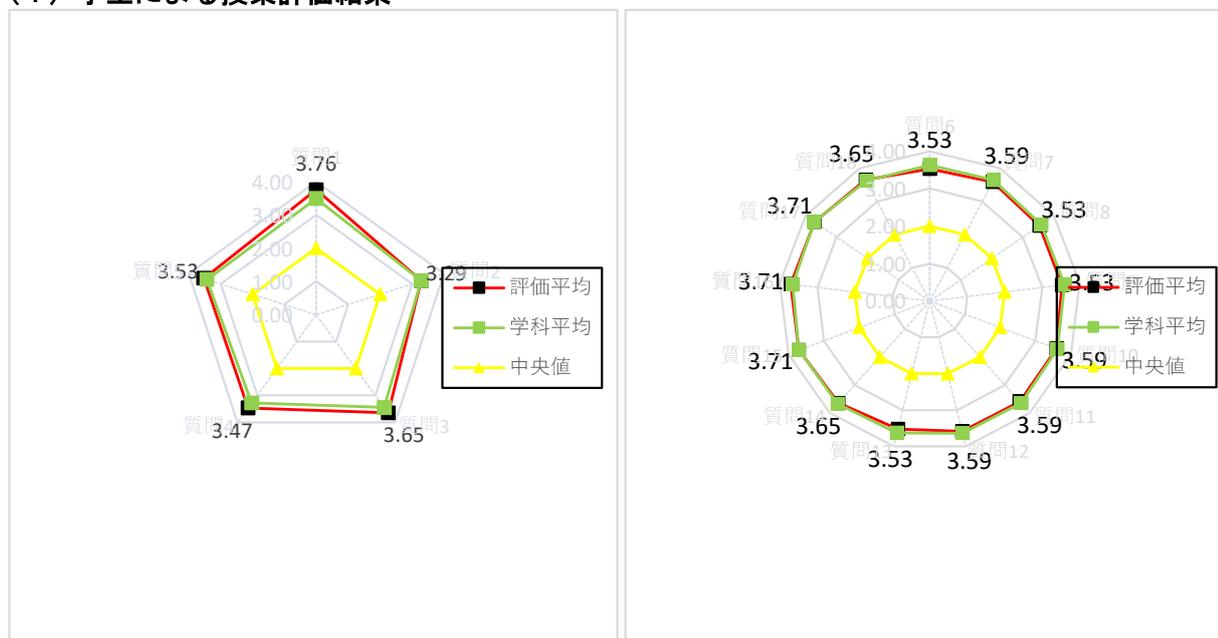
質問2～質問5においては学科平均より低い結果となった。
 シラバスの活用については、学科平均に比べ活用できていないと感じている学生が多い傾向にあった。学生がシラバスを活用し、より効率的に学習を進められるような指導が必要であると考え。
 また、授業中の居眠りや私語等について、授業の理解に向けての工夫も同様に学科平均より低い傾向にあった。授業中の居眠りや私語等が極力少なくなるような授業の工夫、自身で理解促進するための工夫が出来るような指導が必要であると考え。
 質問9の授業はわかりやすく工夫されていたか、質問12の声の大きさ明瞭さ、話す速さは適切かの質問については学科平均より高い結果となった。
 本科目の受講者は、留学生も多いため、特にわかりやすい説明や話すスピードについて工夫を行っことが、本結果につながったと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

学科平均より評価が低かった、シラバスの活用や授業中の居眠りや私語、授業を理解するための学生の工夫については、学生がシラバスを活用し、効率的予習や復習ができるように、シラバスの活用について説明していく。
 授業中の居眠りや私語等については、授業中に学生が主体的に取り組めるようなワーク等を取り入れていく。また、学生が自分で理解を促進するための工夫ができるように、なぜ、その学習が必要なのかについて、学習のための動機をもてるような説明を行っていく。
 学科平均より高かった項目については、次年度も同様に取り組みを行っていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		保育実習 I (保育所・施設)	67名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

60/65 (92%) の回答であった。

学生による評価平均においても、概ね学科平均をわずかに上回る結果となった。また、資格取得に関わるため質問1の出欠や質問3の授業への集中は厳密に運営している。

実習指導は、保育士資格取得に直結するが、様々な理由によりモチベーションを保てない学生も散見される。しかしながら、実習担当教員が個別かつ丁寧に学生指導を継続的に行っていることが評価されていると思われる。

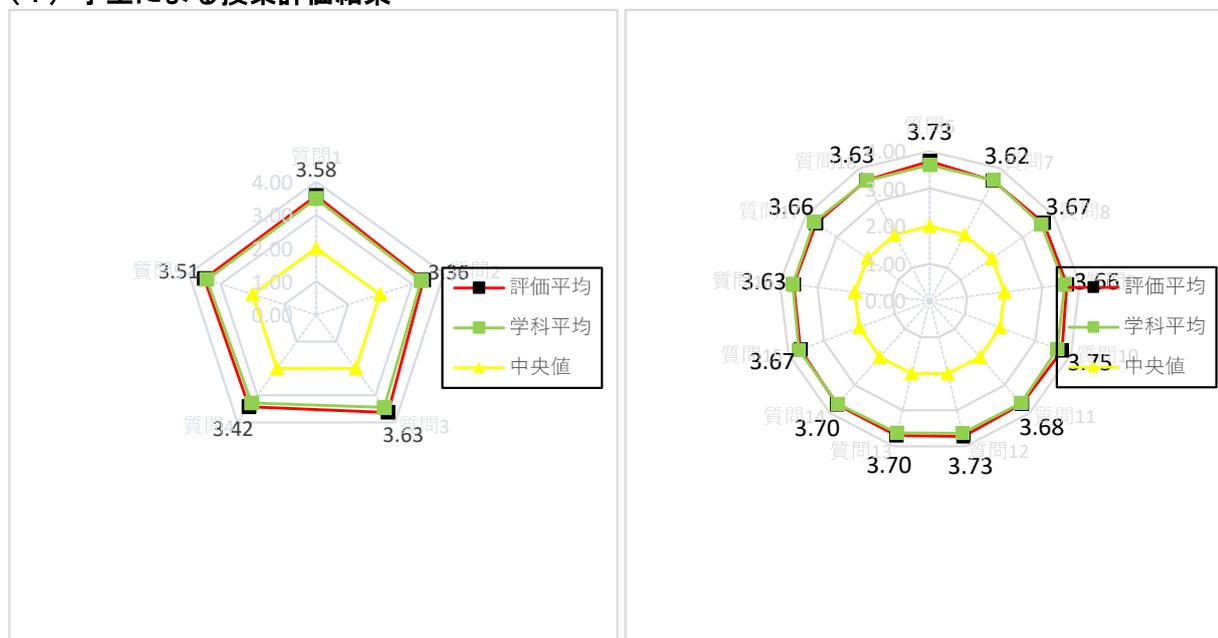
(3) 次年度に向けての取り組み

配慮が必要な学生増加など、年々実習指導を行う教員の負担も重くなっている。また、実習先よりお叱りを受けることも増加している。

次年度に向けては、実習担当者間で連携しながら授業運営を計画し、これまでの丁寧な関わりとサポートを継続できるようにしていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		保育実習 I (保育所・施設)	135名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

60/65 (92%) の回答であった。

学生による評価平均においても、概ね学科平均をわずかに上回る結果となった。また、資格取得に関わるため質問1の出欠や質問3の授業集中については厳密に運営している。

実習指導は、保育士資格取得に直結するが、様々な理由によりモチベーションを保てない学生も散見される。しかしながら、実習担当教員が個別かつ丁寧に学生指導を継続的に行っていることが評価されていると思われる。

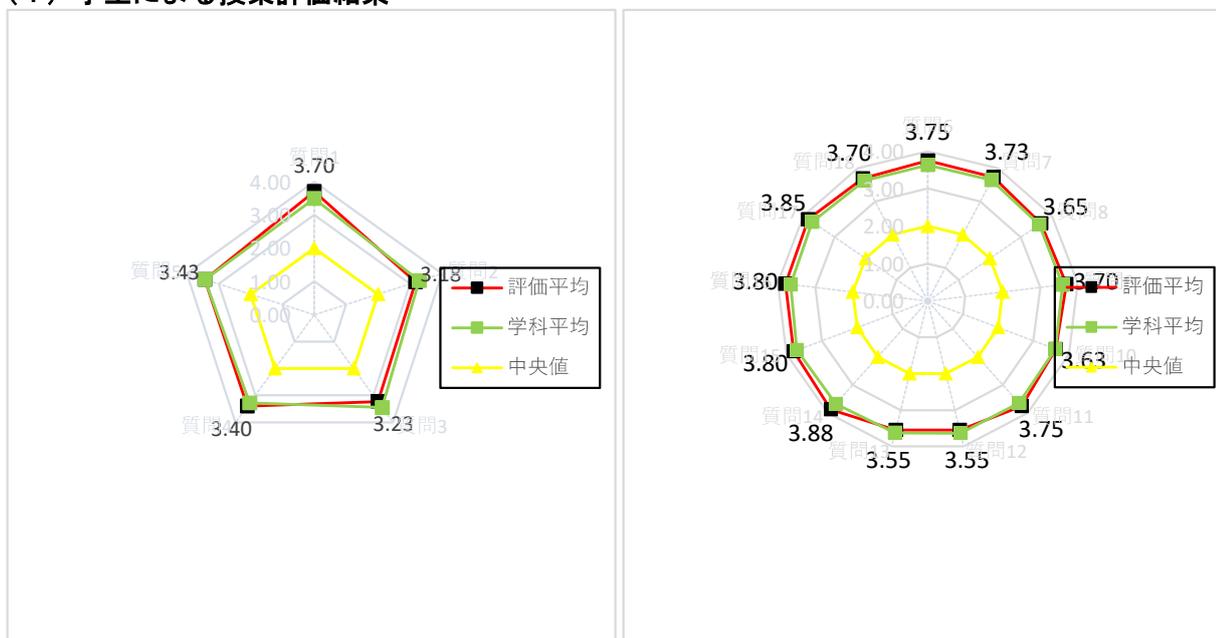
(3) 次年度に向けての取り組み

配慮が必要な学生増加など、年々実習指導を行う教員の負担も重くなっている。また、実習先よりお叱りを受けることも増加している。

次年度に向けては、実習担当者間で連携しながら授業計画を立て、これまでの丁寧な関わりとサポートを継続できるようにしていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		こころとからだのしくみ I	40名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

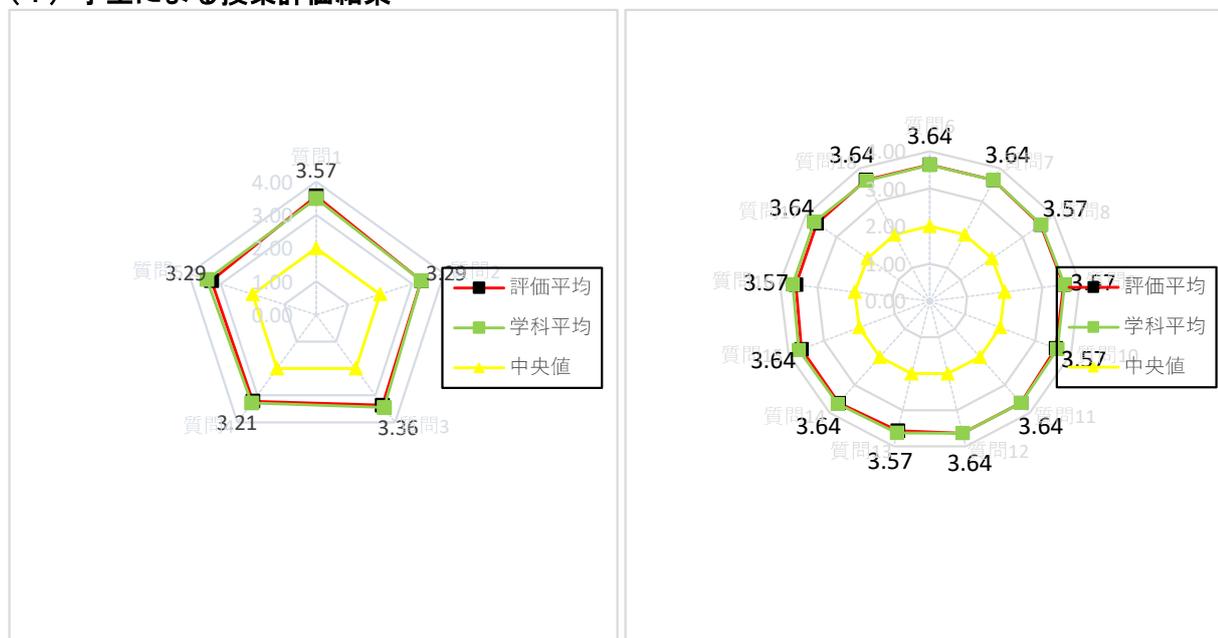
学生自身の評価としてはシラバスの活用をしなかった学生が20%、真剣に取り組まなかった人が18%であった。教員への評価としては話すスピードが速かったと答えた学生が10%いた。また、質問がないところに回答した学生が16名いた。自由記述では、プリントに書く時間が短かった。スピードが速くついていくのに必死の時があった。とのことであった。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生の表情、理解度をみながら進める。書く時間を少々長くとする

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		保育実習指導Ⅱ	52名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

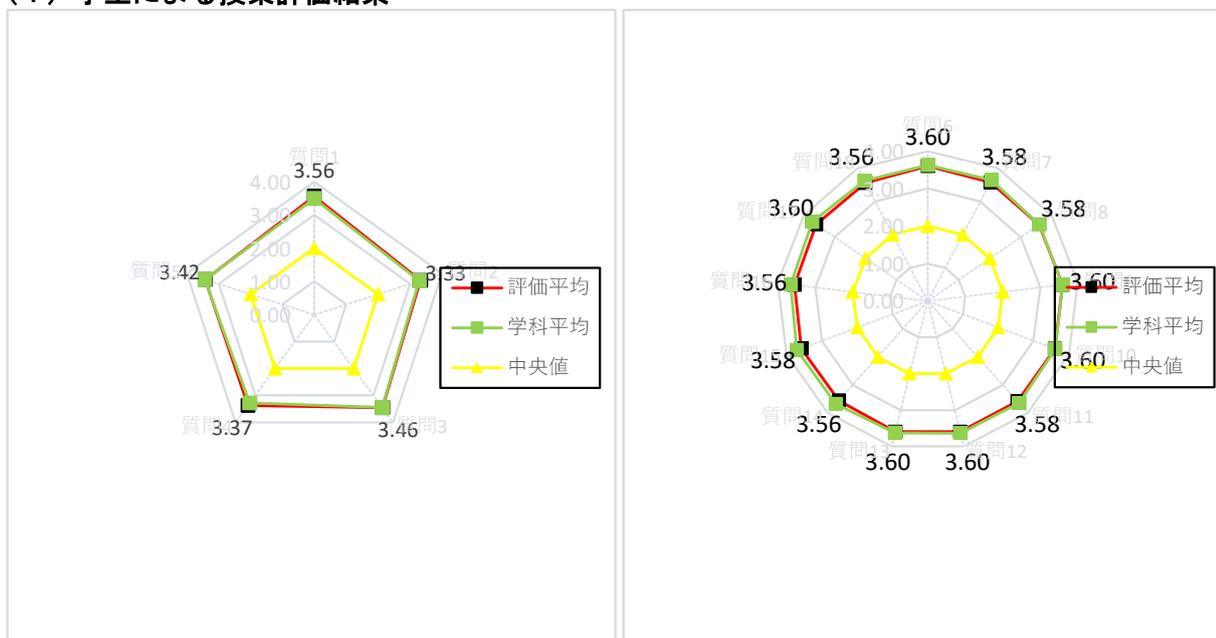
どの項目も学科平均と大差なく、学生は概ねこの授業に満足したものと思われる。しかし、今回の評価は52名中わずか12名のみから得られた回答であり、多くの学生の声を拾うことは出来ていない。授業の評価を正しく分析するためには、回答率を上げる必要があると感じる。

(3) 次年度に向けての取り組み

(2)でも述べた通り、授業評価の取り組みを有意義なものとするためには、学生の回答率を上げる取り組みが必要であると感じる。今年度も授業課題としてアンケートに回答するよう呼びかけたが、回答率は上がらなかった。次年度は授業課題として取り上げるだけでなく、アンケートを行う意義を何度も繰り返し伝え、学生の回答率上昇に努めたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		保育実習Ⅱ（保育所）	108名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

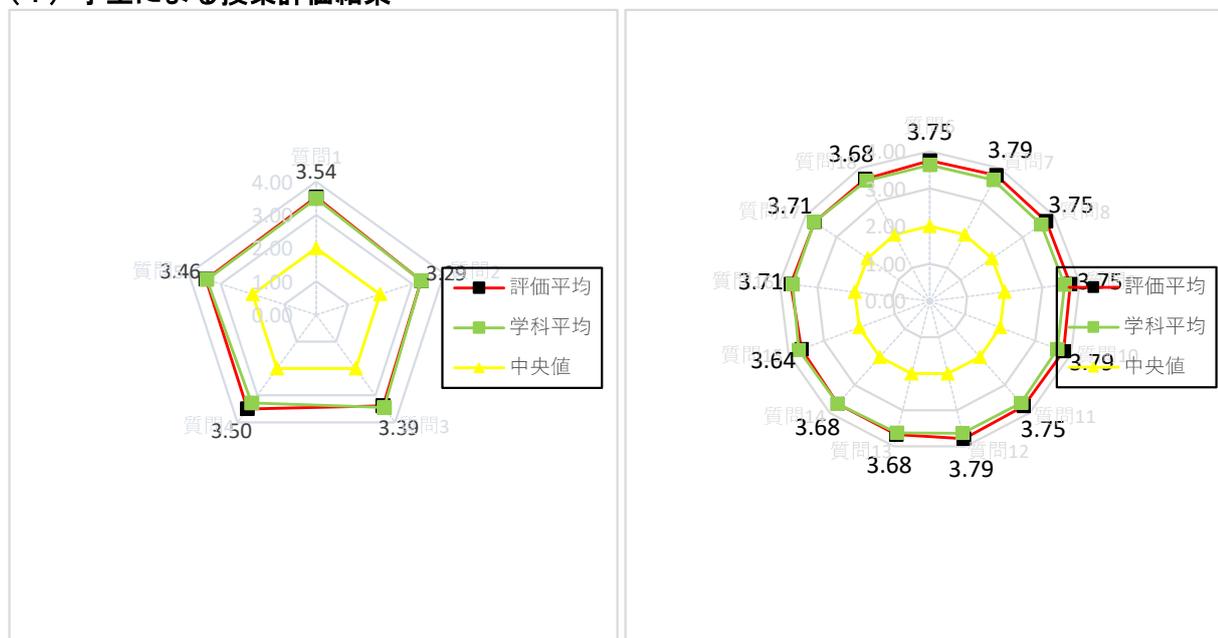
本科目は学外実習の為、評価項目と一致していない。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も引き続き、実習園と連携をとりながら学生指導をすすめたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		こころとからだのしくみⅡ	39名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

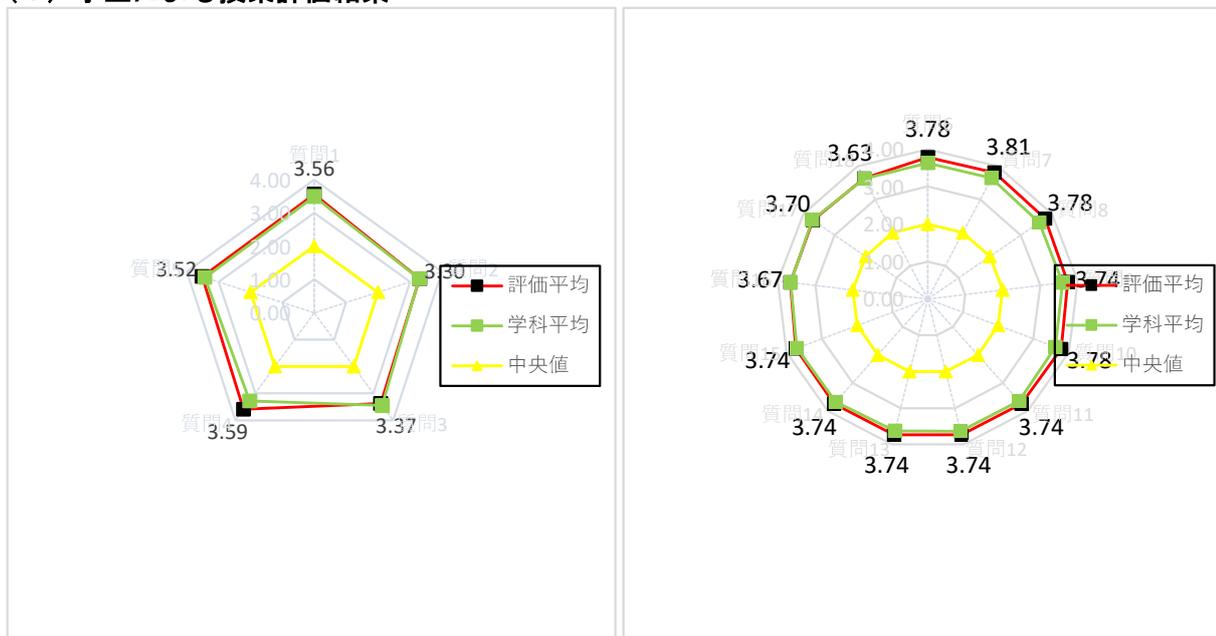
学生の自己評価ではシラバスをあまり活用しなかった学生が10%、教員への評価では、進むスピードに1人が改善を希望。自由記述では、毎回のテストで覚えたり理解することができた。わかりやすかったとの記述があった。

(3) 次年度に向けての取り組み

シラバス活用しやすく改善する。(7年度分) 進むスピードに対しては少しだけ遅らせてみる。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		こころとからだのしくみⅢ	39名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

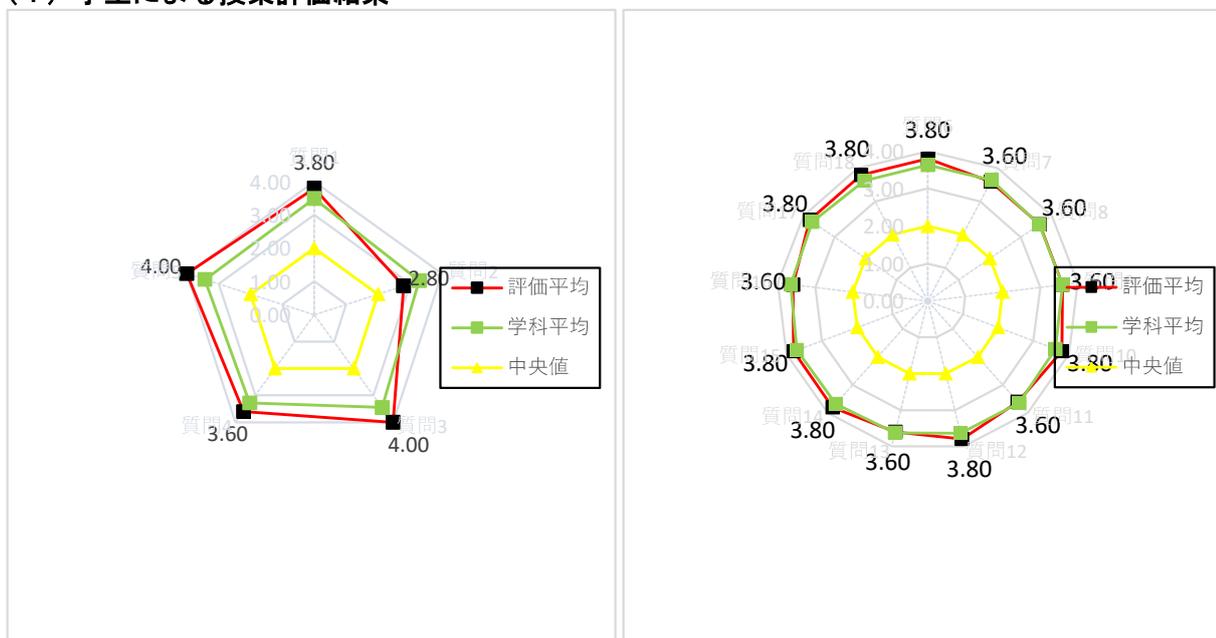
学生自身の評価ではシラバスの活用をしていない学生が4名（10%）、真剣に取り組まなかった学生が2人いた。毎回のテストで低い点数を取っていた学生と思われる。教員への評価では特に大きな問題はなかった。4の評価を増やす努力をする必要がある。自由記述では、わかりやすかった。毎回のテストで理解と記憶に役立ったとの記述があった。問題がないところへの評価を書いた学生が10人いる。

(3) 次年度に向けての取り組み

活用しやすいシラバスへの改善。全員が真剣に受けることができる工夫、授業評価時にしっかり問題を見て回答することへの指導。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		保育実習指導Ⅲ	15名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

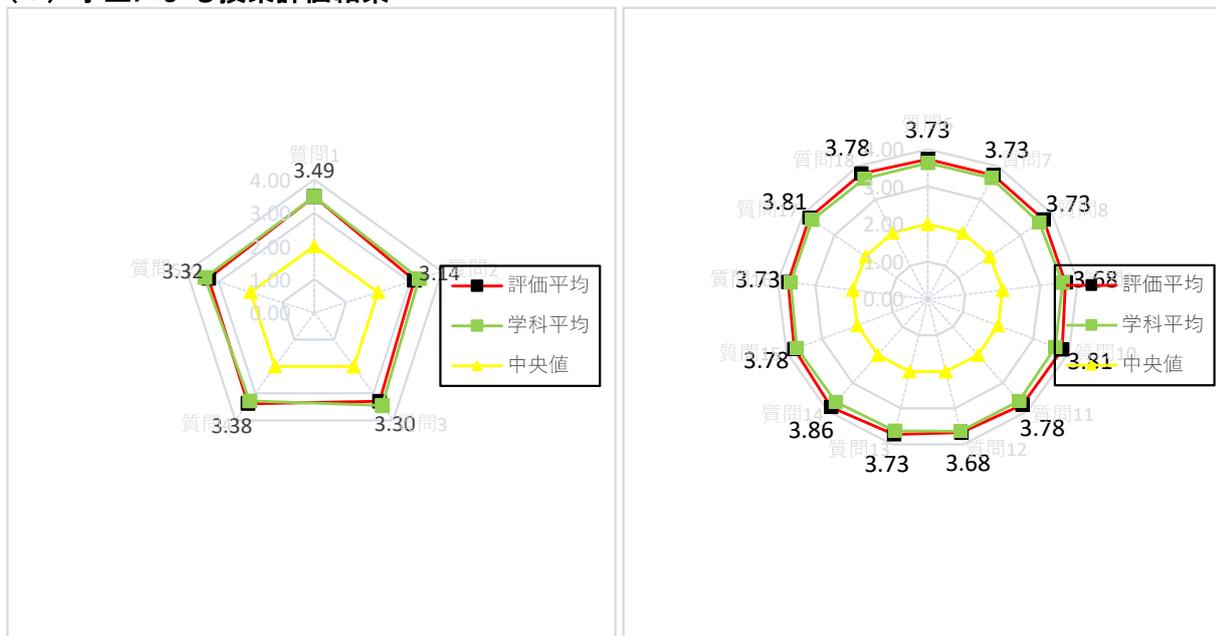
5/15 (33%) の回答であった。回答数が少なく、母集団を反映していない可能性がある。
 質問2以外においては、概ね学科平均を上回る評価平均であった。保育実習Ⅲは、資格取得や就職活動に直結するため、モチベーションを高く保つことができたと思われる。
 実習指導にあたっては、学生ニーズをできるだけ対応できるように工夫と調整を図った。

(3) 次年度に向けての取り組み

回答数が少なかったため、自由記載もみられなかった。
 次年度に向けては、上記で述べたように学生の進路に直結する。そのため、個々の学生ニーズに応じた実習調整や指導を丁寧に継続していきたいと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		こころとからだのしくみ IV	37名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

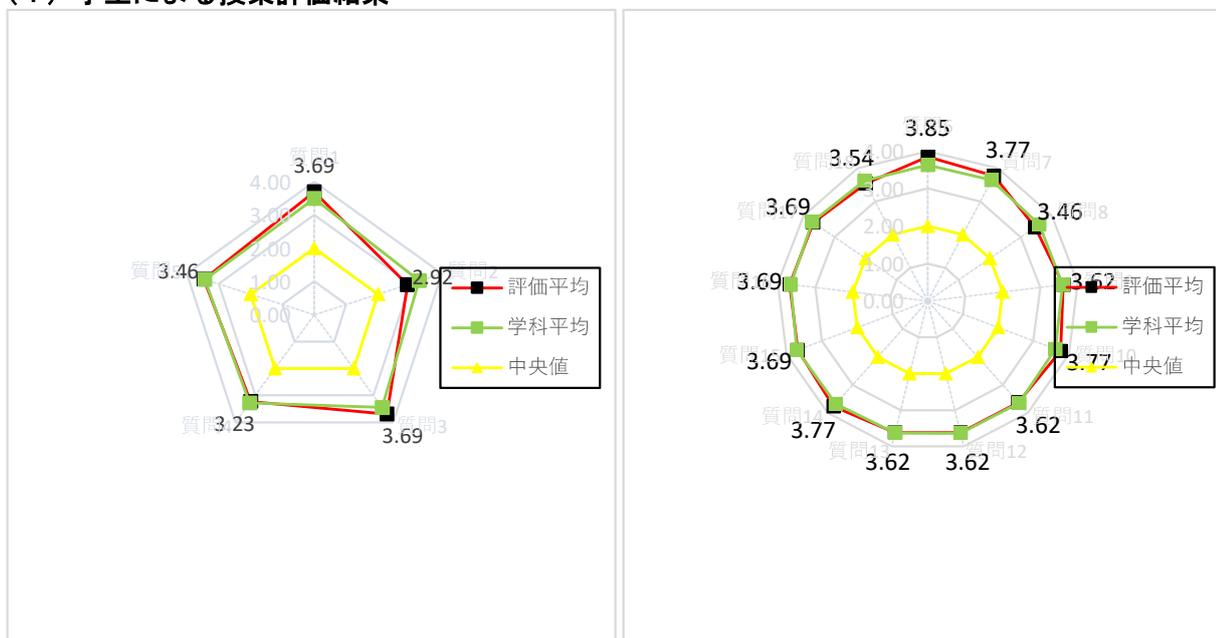
学生の自己評価では、総合評価が3名高くなかった。全員が熱心に取り組めるようにする必要がある。教員への評価では双方向的やり取りに対し1名低かった。30%が3につけているわかりやすさ、話す速さについて改善の必要がある。
自由記述では、毎試験があってよかったとに記述があった。毎週で大変だったと思うが最終的にはよかったと思ってもらってよかった。

(3) 次年度に向けての取り組み

理解できたかを確認しながら進む。小テストの紙にわからなかった内容を書いてもらいつぎの授業で説明を行う。話すスピードを少々遅くしてみる。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		保育実習Ⅲ（施設）	15名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

13/15 (87%) の回答であった。

概ね学科平均をやや上回る評価平均であった。保育実習Ⅲは、保育士資格取得につながる実習となるため、それだけ学生もモチベーションを保って臨んでいたと思われる。

また、指導にあたっては、学生と実習先のニーズがなるべく一致するように調整に努めた。

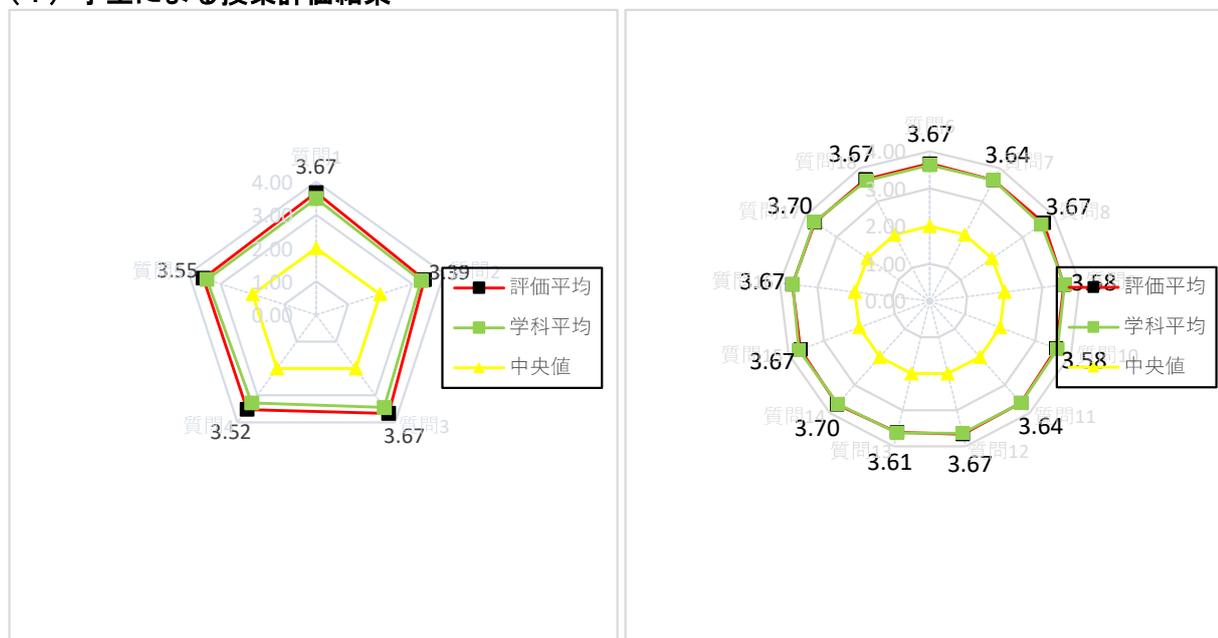
(3) 次年度に向けての取り組み

保育実習Ⅲは、学生の資格取得や就職にも直結していく。

そのため、可能な限り学生のニーズを踏まえたながら、実習先との調整を行っている。学生の資格取得をサポートするため、丁寧な関わりや調整を続けていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		教育実習指導	133名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

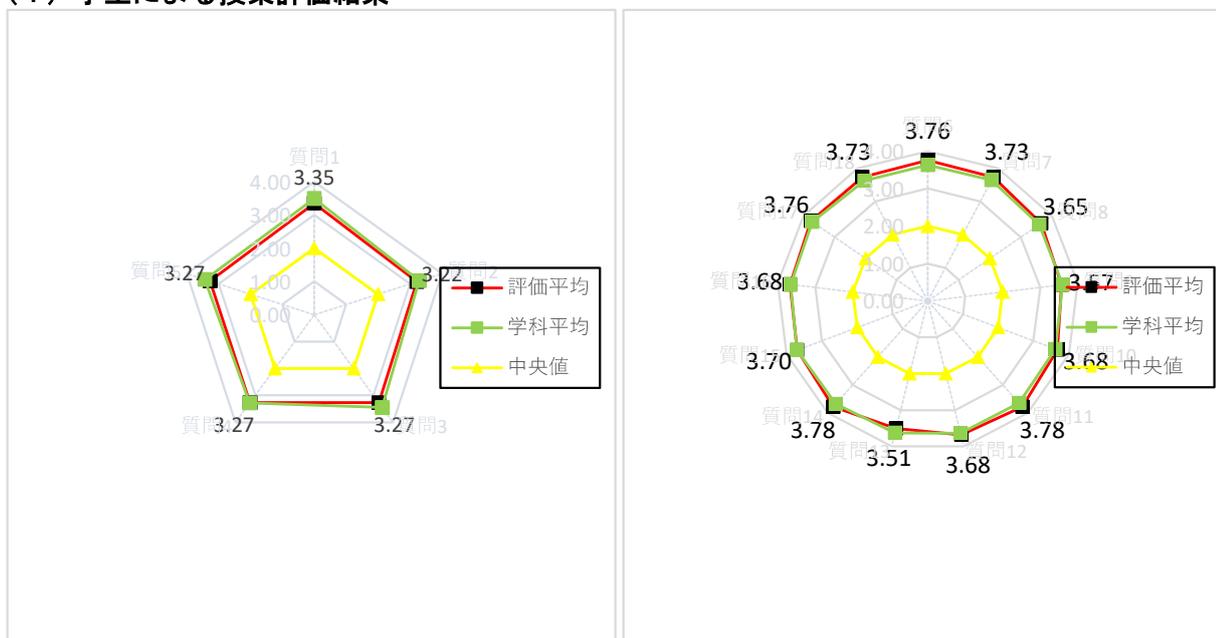
どの項目も評価が高く、学生はこの授業に満足していることが分かる。学生の自由記述にも熱心な実習指導に対する感謝の言葉が記されていた。実習という学生にとっては緊張と不安の大きな取り組みに対し、一人一人に寄り添いながら丁寧に対応できたことが評価に繋がったと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業に対しては満足度が高かったものの、自由記述に髪色指導に対する苦情が書かれていた。学科での規定に沿って、実習に向けた身だしなみの指導を早期から行っているものの、学生にはその必要性や意義などが十分に伝わっていなかったのかもしれない。次年度は指導が学生のためにされていることを理解できるように、指導の意義をより丁寧に説明し、学生一人一人が納得した上で自主的に取り組むことができるよう改善したいと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		医療的ケア I	37名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

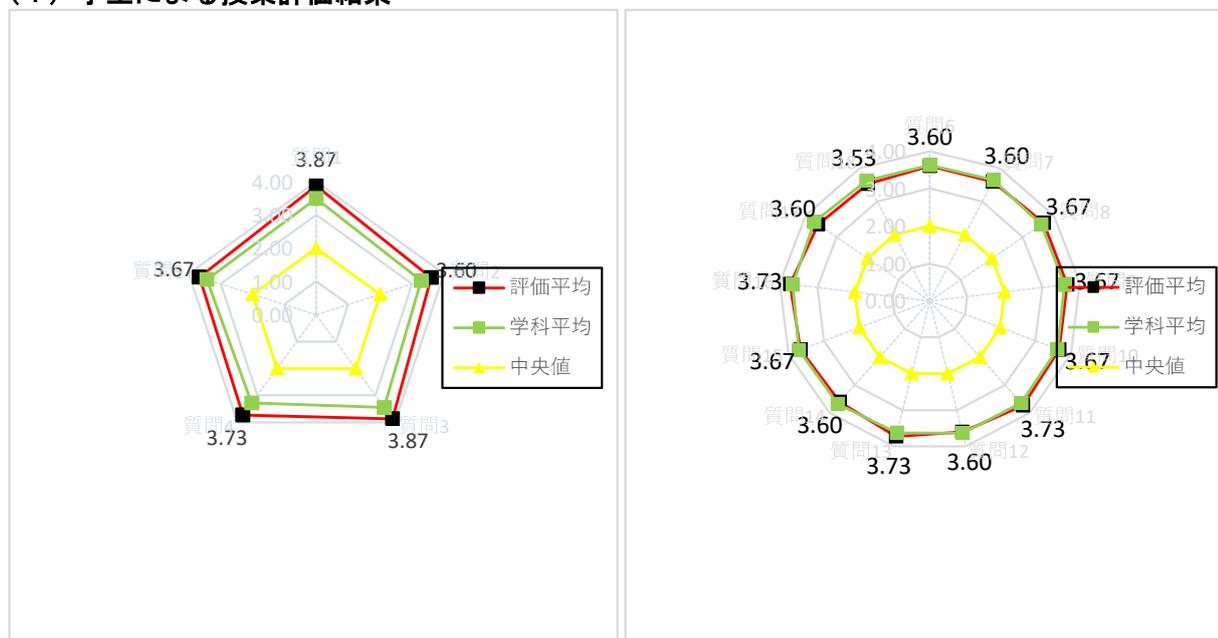
学生自身の自己評価では、高くない学生が20%ほどいた。教員への評価では、工夫、速さ、やり取りに対し1名が2の評価であった。
自由記述ではとても良い授業でした。学生のためになりました。医療的ケアについて介護の私語とはどんな立場かわかるようになりましたとの記述があった。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生が活用しやすいシラバスの工夫、真剣に取り組みやすいように環境の工夫等を行う。学生の反応をみながら速すぎないようにする。わかりやすいように視聴覚資料等の改善を行う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		教育実習 I	66名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

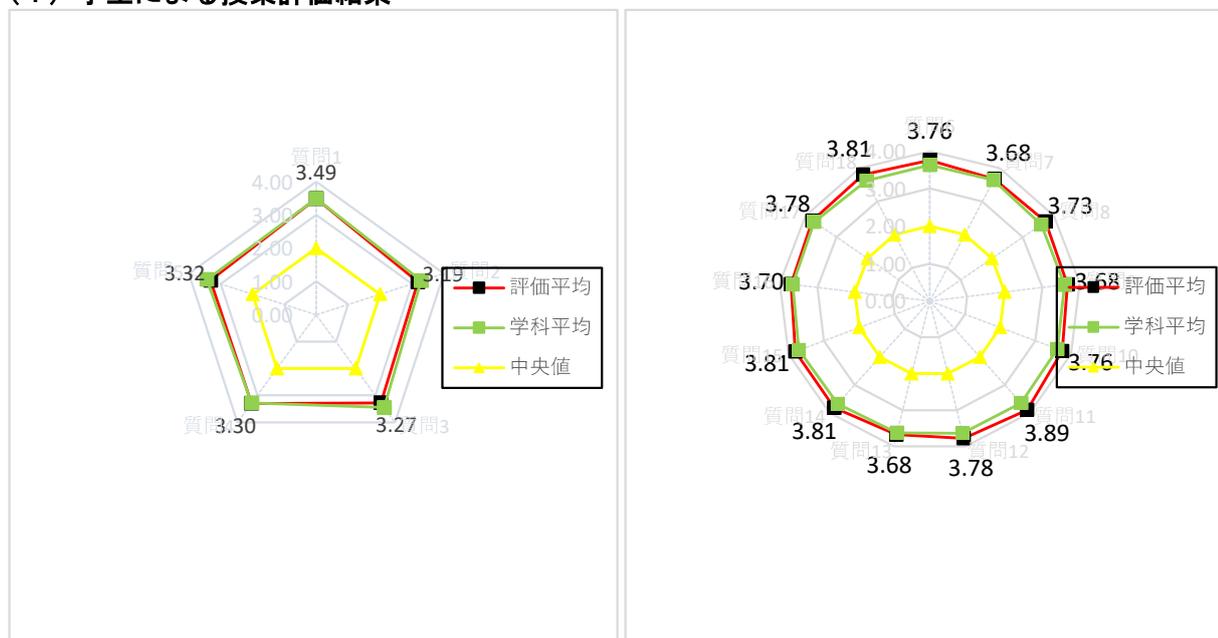
学科平均と比較して質問1から5では非常に高い評価を得ていた。質問6以降は、学科平均よりやや低い項目もあればやや高い項目もあった。質問1から5の評価の高さについては、実習の科目であることから、学生が積極的に取り組んだことが反映されていると考えられる。質問6以降では、授業の進む速さや分かりやすさ、配布資料の有用性、双方向的なやりとりでは比較的高い評価を得たが、教員の熱心さ、質問への対応に関してはやや低い評価であった。実習の科目であるため、実習中の学生の疑問等に教員が即時に対応することが難しく、結果として低く評価されたことが原因として考えられる。ただし、回答率が非常に低かったため、今回の評価が学生全体の評価を反映しているとは言い難い。前期科目と比べても大変低い回答率であり、原因としては授業評価を対面授業ではなくオンデマンドでの課題としたことが大きいと思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

まず妥当な評価を測るために、一定の回答率を得ることが重要である。そのためには、対面授業の中で授業評価の時間をとることが有用であると考えられる。この科目は実習の科目であり、実習中に評価を求めることは困難なため、実習指導の授業や、あすなろうなどの学年全体の科目の中で、授業評価をする時間を明確に定めることで回答率が高くなると思われる。今回評価が低かった点に関しては、実習中でも教員がこまめに巡回し、学生の質問に対応したり、実習園との連携をよりスムーズにしたりすることによって改善される可能性があるため、次年度以降の実習に向けて対応方法を検討していく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		医療的ケアⅡ	37名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

学生自身に対する評価はシラバスの活用がよくできていない学生が15%程、1名が全体的にやや低い評価であった。4を付けた学生は3割ほどであった。教員に対する評価はシラバス、質問への誠実さ、双方向のやり取りに対し1名が2と記載していた。到達目標、わかりやすさ、進む速度は3が30%であり改善を検討する必要がある。

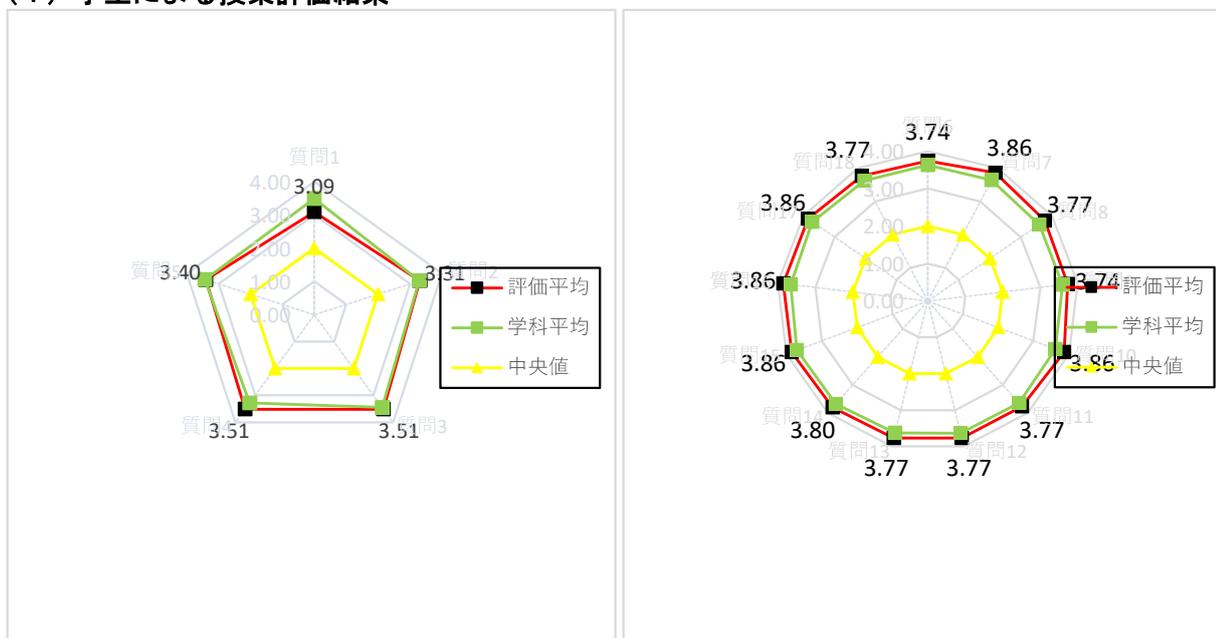
自由記述では経管栄養や吸引、救急法を学ぶ良いチャンスでいい授業でした等の記述があった。質問がない分に対して13名程が解答していた。

(3) 次年度に向けての取り組み

シラバスを活用しやすい方に検討する。学生自身が自己評価を高めることができるように課題を出すことも検討する。双方向のやり取り、質問に対する返答、進む速さに気を付けながら授業を行う。解答時よく質問を読むように促す。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		医療的ケアⅢ	36名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

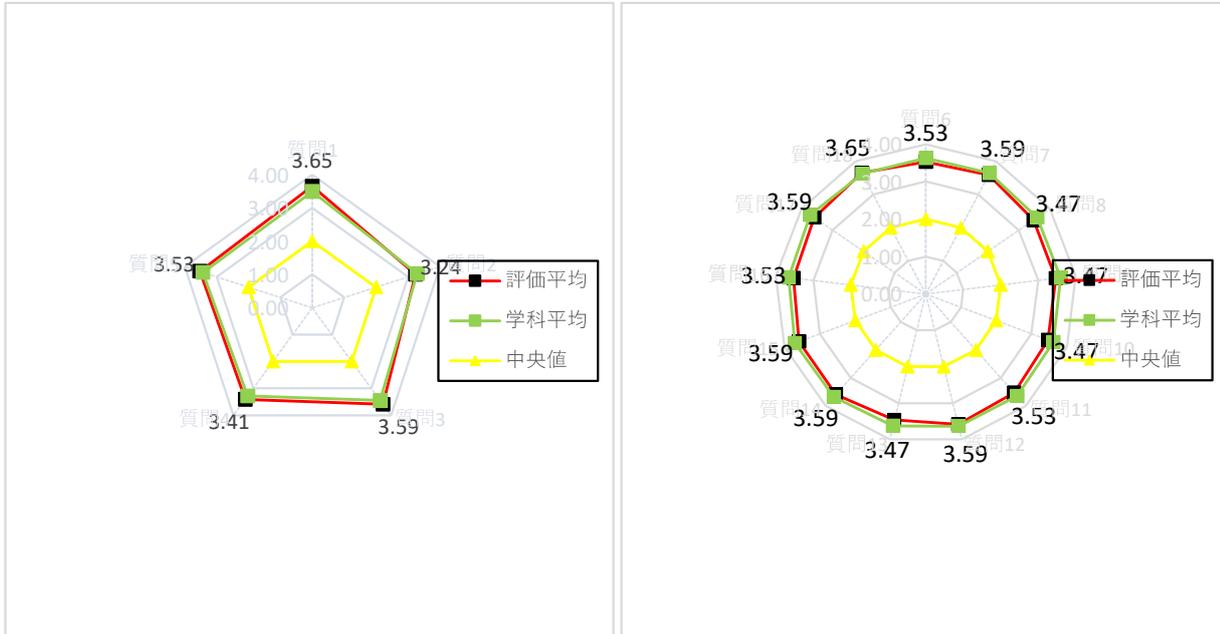
学生自身の評価は、技次が多く、覚えることも多かったので他の教科に比べると頑張ったという意識が高いようであった。ほぼ八割が4であったが1名2の評価がいた。自由記述では現場でしっておく必要がある大事なことを資料も実施も教えてくださいましたので良い授業だと思います。国家試験にも役立つ授業でしたとの記述等があった。

(3) 次年度に向けての取り組み

全員が充実して授業を受け、理解し。実施できるように細やかに指導していく。昨年に引き続き、ある程度の会話内容の表示や主義の統一、根拠の理解に努める。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		教育実習Ⅱ	63名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

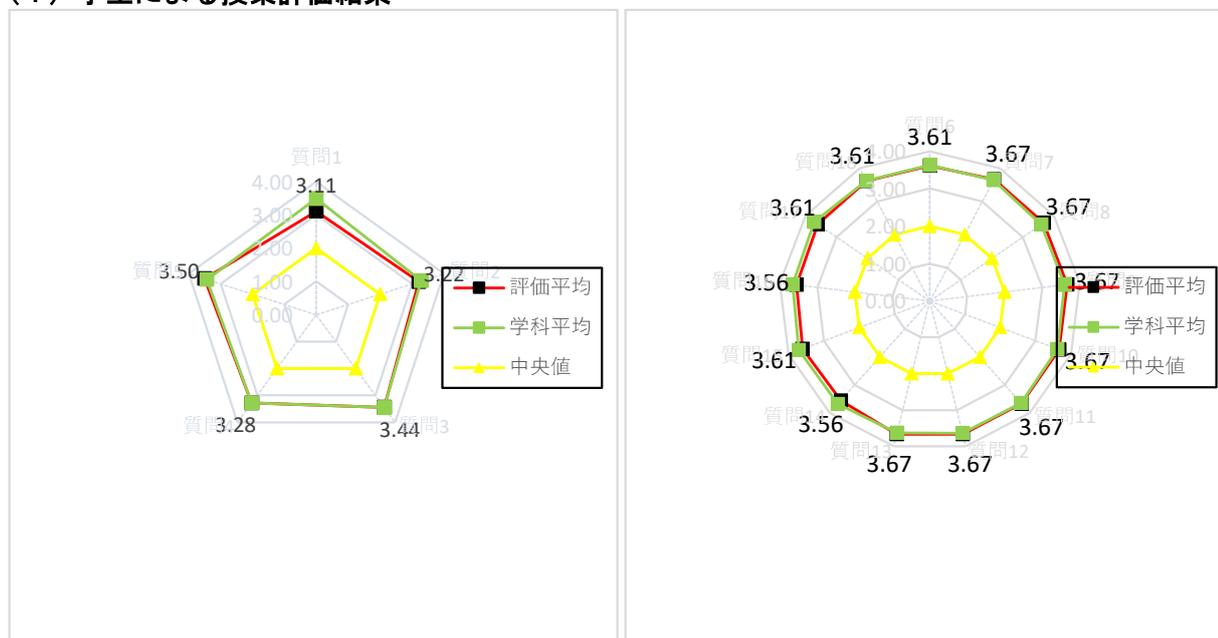
本科目は学外実習の為、評価項目と一致していない。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も引き続き、実習園と連携をとり学生指導を行いたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		保育・教職実践演習(幼)	68名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

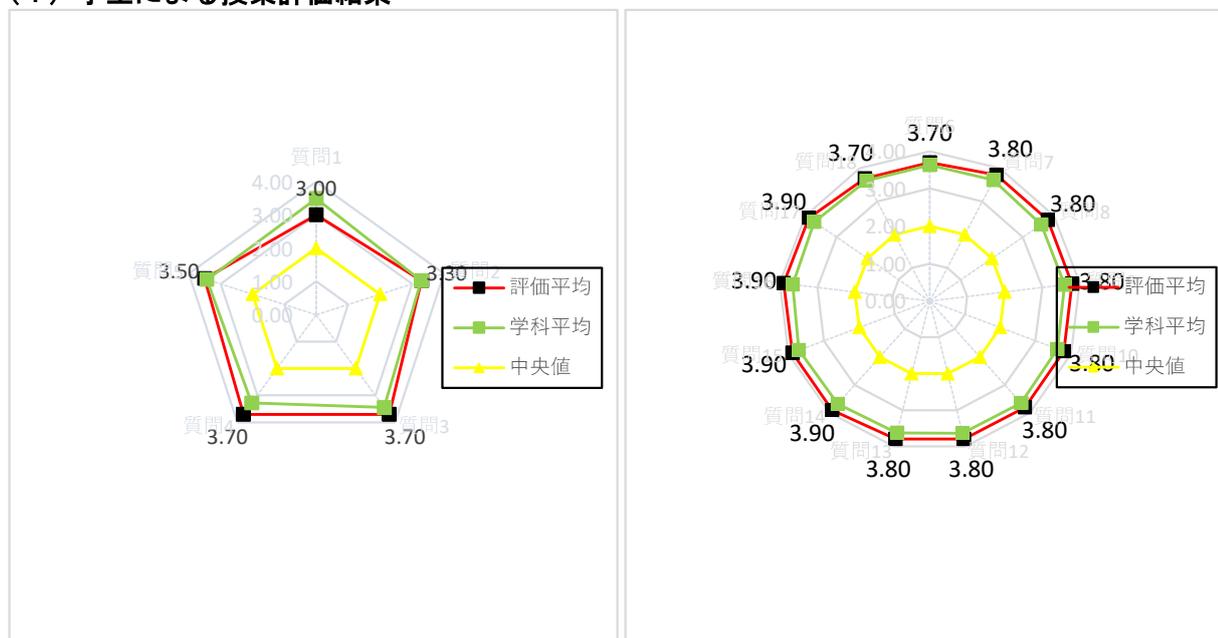
18/68 (26%) の回答であった。そのため、評価においては母集団を反映していない可能性がある。学生による授業評価結果においては、ほぼ学科平均と変わらない結果であった。本科目は、学科教員によるオムニバス科目であり、毎回担当する教員が異なっている。それにも関わらず、ある程度の評価が得られた理由として、それぞれの教員による専門や個性が上手くオムニバス教科として展開できているのではないかと考えられた。個々の担当教員の工夫により、実践的な演習が図られた結果とも思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

近年は、各教員が遠隔授業や個別ワークなどの手法を多く取り入れて演習科目の役割を果たせるように工夫を図ってきた。しかしながら、演習科目という性質を考えると、より実践的なグループワークやロールプレイ、ケーススタディなどの授業手法も取り入れていく必要があると思われる。次年度は、学内行事などとの連携も含め、より演習科目としての授業展開が図れるように学科内にて議論を深めていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究 I	12名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

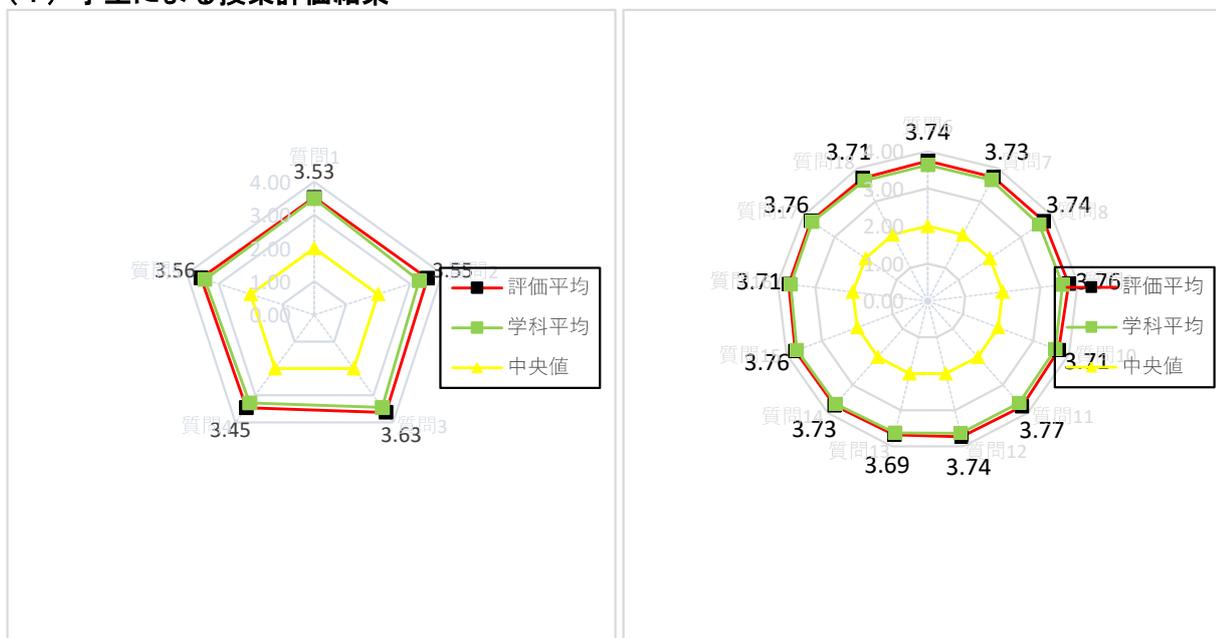
履修者12名のうち回答者は10名である。質問1～5においては、学科平均を下回っているのが質問1の出席状況に関する事項である。器楽アンサンブルをテーマに活動しているが、実際2～3回以上欠席していた学生が2名いた。しかしながら前期末の中間発表会に向けて、学生が自主的に活動回数を増やした時期もあり、総合的にみると活動状況は活発だったといえる。その他、質問6「シラバス」に関して、説明が少し不足していたと回答していた学生が1名いたが、実際には初回にシラバスよりも詳しいスケジュールを配布しているため、活用方法について都度説明をする必要がある。

(3) 次年度に向けての取り組み

いずれの質問も、8割以上の回答者が「良い」「やや良い」を選択しているが、本科目は実技科目であり、評価方法の統一が難しい部分もある。学生によりわかりやすい説明と資料を用意していき、授業の中で繰り返し指導していく必要があると思われる。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		地域生活支援学（演習含む）	79名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

授業評価については、学科平均と同様の結果となった。

質問8、9については、学科平均よりやや高い結果となった。

本科目では、外部講師による講義や学生同士の交流、地域での交流等を実施している。

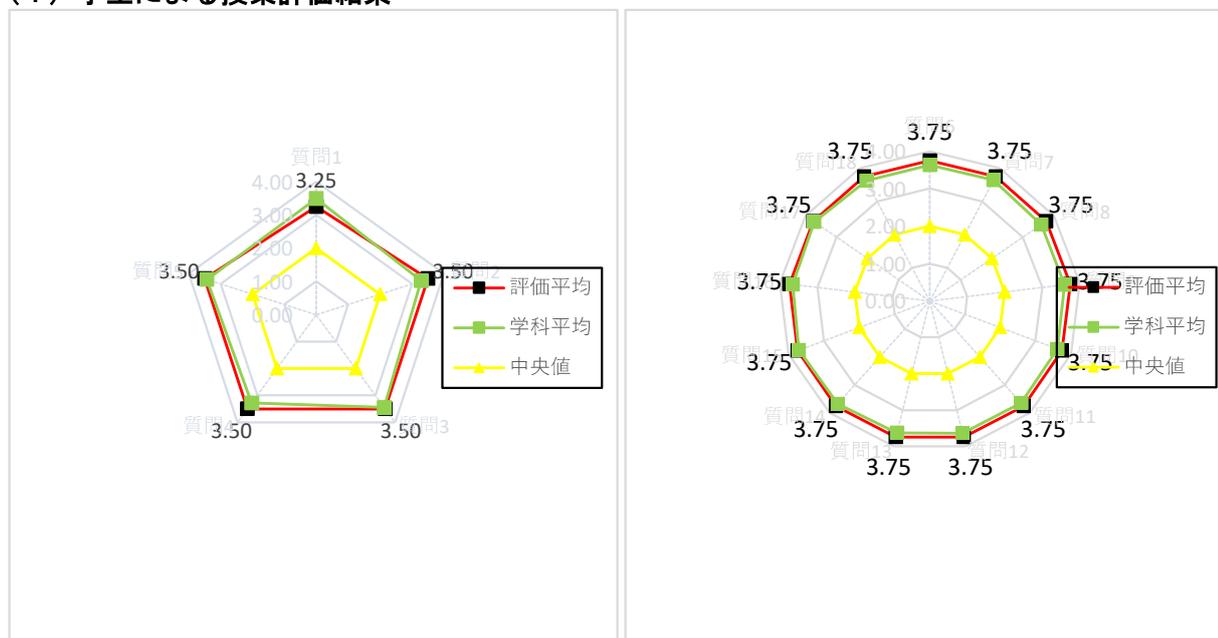
自由記述で、「みんなと交流しながら勉強でき、相手の事も理解できて、コミュニケーションをとりやすくなった」との記述もあり、様々な交流や講義を展開できたことが本結果につながったと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も、外部講師による様々な講義や多様な交流を伴う活動を取り入れ、学生の主体的な学びを促進していく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究 I	4名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

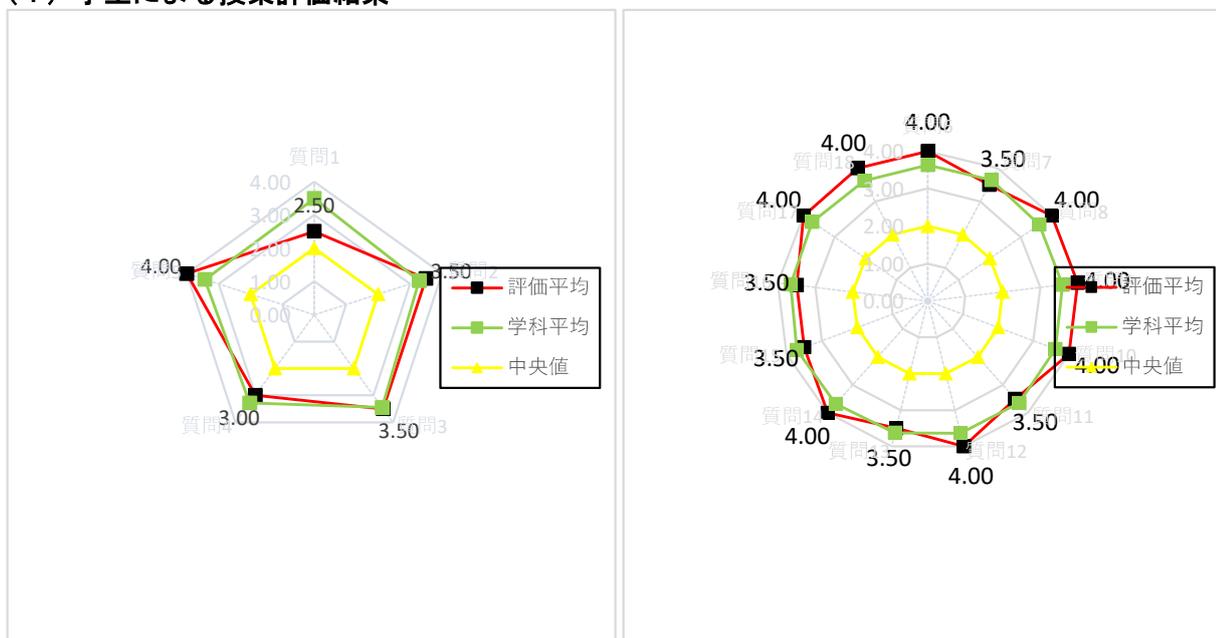
全体として学科平均と同程度か、やや高い評価であった。
 学生の興味・関心に沿って課題を選択し、本人たちのペースに合わせて進めていったことが高い評価につながったと考えられる。また少人数であったため、学生と教員とのやりとりや学生間のやりとりも多く、個々の学生の授業への参加意識も高くなりやすかったことが推察される。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も引き続き、学生の興味・関心に応じてテーマを選び、学生のペースに合わせて進めていくことが求められる。また、単に抄録を作成することを目的とするのではなく、就職後にも活用できる知識を得られる卒業課題研究となるよう、授業を通して学んだことを学生が明確に振り返る機会を作ること重要であると考えられる。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究 I	3名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

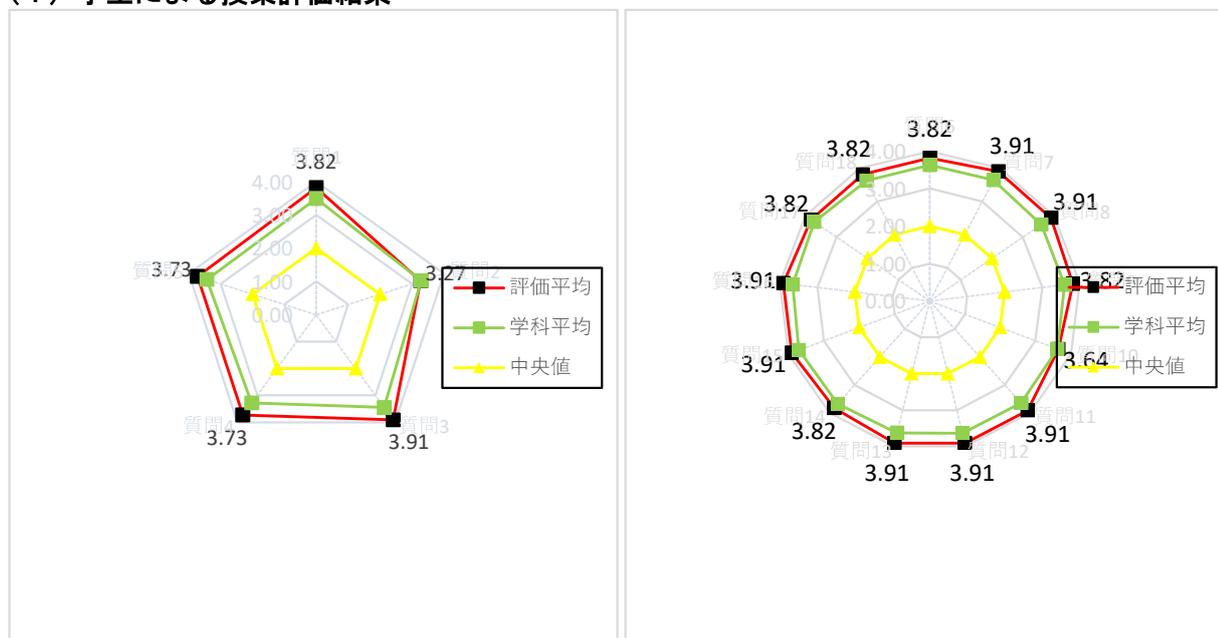
2/3 (67%) の回答であった。
 学生による授業評価においては、学科平均を上回っていた。しかし、質問1の欠席回数が多かったことが課題に凝った。
 4名という少人数教育にて授業ができたため、より積極的な学生主体の授業が図れたかと思う。また、フィールドワークも実施し、学生が楽しんで学べる機会を提供できるように努めた。

(3) 次年度に向けての取り組み

今年度の評価は、フォールワークによる地域支援に取り組むことが良い評価につながったかと思う。そのため、次年度においても、机上の学びのみではなく、より地域におけるフォードワーク学習と学生へのフィードバックを意識して授業を展開できるようにしたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究 I	13名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

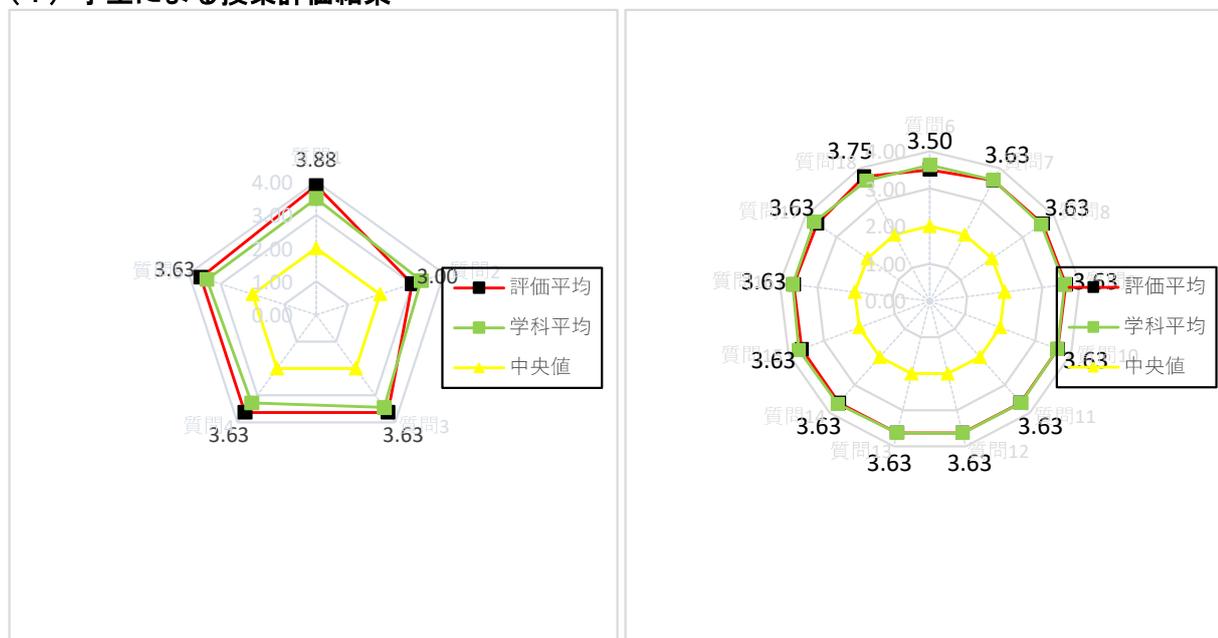
学生による本授業の評価は「シラバス」に関する項目以外は概ね高評価であった。卒業課題研究のシラバスは学科統一のものとなっているが、授業初回のオリエンテーション時に本授業の「授業概要」「授業目標」「スケジュール」について資料で示すようにしている。しかし、表現・音楽コースの卒業課題研究は「表現フェスタ」に向けた取り組みの中で、日々現れる新たな課題を一つ一つ解決しながら進めていくため、シラバスの活用が難しい。学生自身の評価、教員の授業に対する評価の両方で「シラバスの活用」に対する評価が他と比較して低いのはそのためである。それ以外の項目では、学生、教員に共通して高評価である。「表現フェスタ」という目標に向けて学生自身が意欲をもって本授業に取り組み、授業最後の中間発表会でも一定の達成感を持ったことの表れであり、大変嬉しく思う。

(3) 次年度に向けての取り組み

昨年度まで「ミュージカル」「ミュージカル器楽」の両方を一人で担当していたが、今年度はミュージカルのみを担当し、学生たちと時間をかけて演技、ダンスなどに取組み、中間発表までを終えることができた。学生たちは、演技、歌唱、ダンスなどの表現技術の向上だけでなく、発表のための衣装や小道具の製作のための準備も計画的に進めており、後期も12月の発表会に向け、一人ひとりと向き合いながら、最後の表現フェスタを充実した発表で終わりたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究 I	9名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

○分析

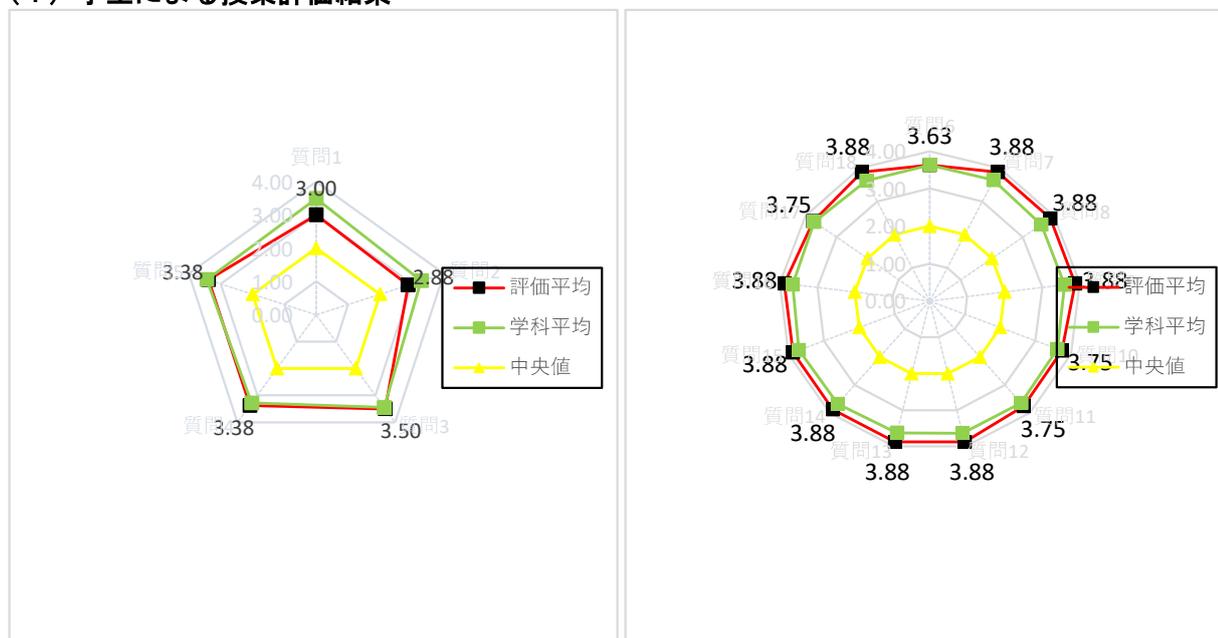
9名の学生たちは、学外での研究実践にも真面目に取り組んだ。質問2の「シラバス（授業計画）を活用しましたか。」という問いに対する学生自身の自己評価が評価が低い点については、ゼミの取り組みの内容の多くが研究実践を行う学校や施設との折衝の中で進んだので、臨機応変な準備や対応が求められたことによると思われる。例えば、異文化交流ワークショップイン多久のイベントにおけるワークショップについては、佐賀県の国際課や多久市と何度も打ち合わせを重ねながら進めなければならなかったし、小城市立牛津小学校、小城市立芦刈小学校でのワークショップ、放課後児童クラブや放課後デューサーサービスに通う子ども対象のワークショップも、それぞれきめ細かな打合せが求められた。したがって、質問2に対する回答結果は決してネガティブなものではなく、実践を進める上でそうならざるを得なかった結果である。質問6～質問18については高い満足度である。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も主として臨床美術（クリニカルアート）を通して、保育現場、教育現場、介護現場、異文化交流に貢献するという意識やスキルを高めるゼミ活動を展開していきたいと考えている。そのために、前期においては、先ず「造形活動に関する新しい指導・支援スキルの基礎を身につける」ためにクリニカルアートに関する理論学習とワークショップを体験させたいと考えている。体験を通して「アート（造形活動）によって自尊感情を高めることに気づかせたいからである。制作の途中で「他と比べない」ことの大切さや、シェアリングでは「五感を生かして言葉かけをすること」の効果を自分ごととして体感させたい。アート（造形活動）は単に作品を完成させることだけが目的ではなく、作品を通してそれぞれの子どもたちの存在や思いを認める場にもなるということを学修した後に、放課後児童クラブや地域の保育園、幼稚園、子ども園でのワークショップ、社会教育団体主催の親子アートワークショップ、認知症予防のためのワークショップ、佐賀県や多久市等での異文化交流イベントにおけるワークショップ等も継続したい。また韓国の学生や中学生等との交流も展開していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究 I	8名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

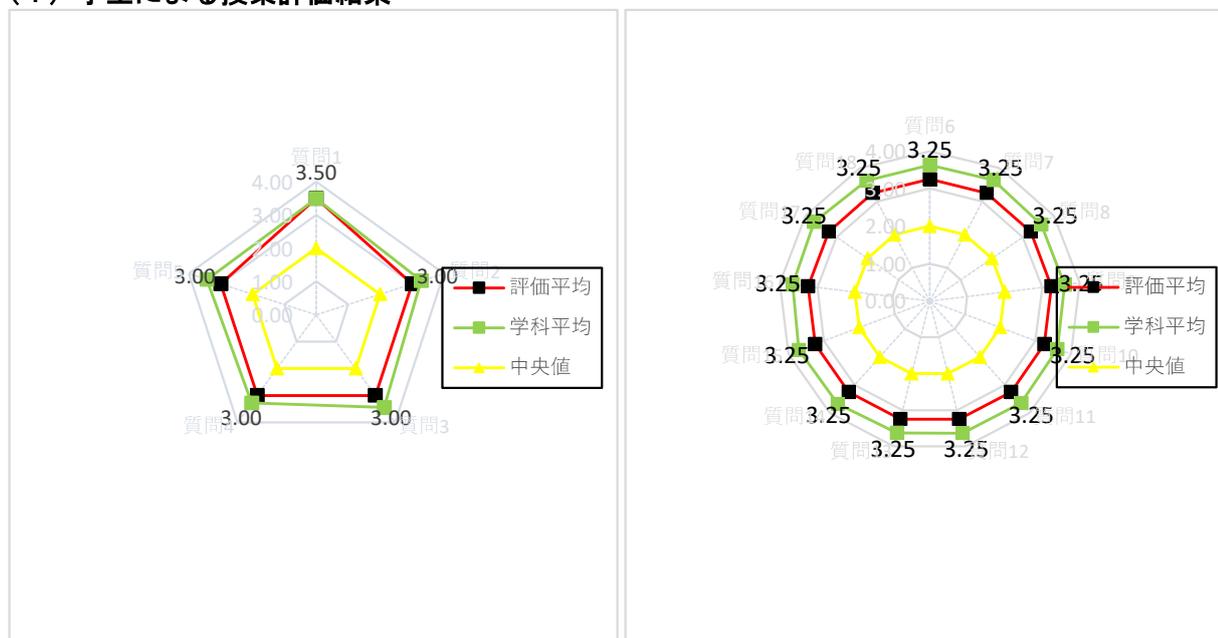
質問2と質問6以外の項目では全て学科平均を上回っており、学生はこの授業に対し満足度が高かったと言える。評価の低かった2項目はいずれもシラバスに関するものである。卒業課題研究という授業の特性上、学生の関心事や希望に応じて柔軟に授業内容を対応させた。そのため、シラバスの計画通りとはいかないことが多く、この結果となったと思われる。しかし、授業のねらいや到達目標に関しては逸脱することなく学びを提供することができた。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も引き続き、学生の関心に応じて授業を組み立てたいと考えている。学生一人一人が意見を言える雰囲気を作ることで、主体的で対話的で深い学びができる場を提供したいと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究 I	4名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

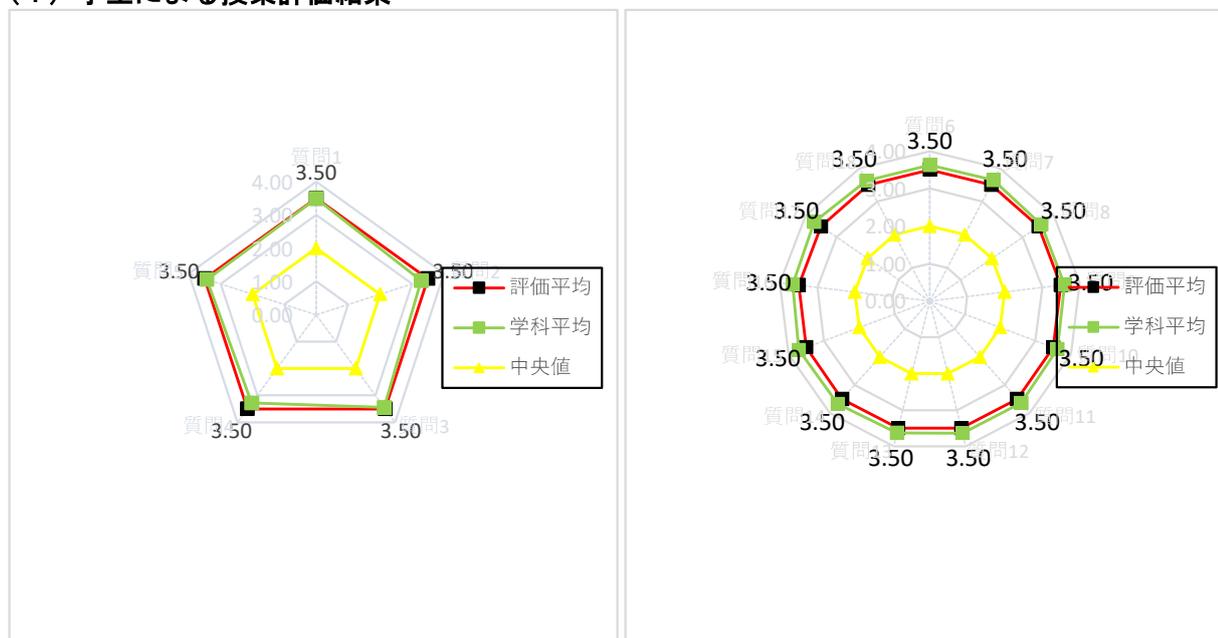
教授方法や学生自身の授業への取り組みに関する評価が学科平均を下回った。活動の見通しを十分に示せなかったことが原因だと考えられます。授業の進行や内容についての適切な説明や計画が不足していた可能性があります。また、学生自身の授業への取り組みが低かったことも、活動の見通しを示せなかったことの影響を示唆しています。学生が授業に対して積極的に参加し、自ら学びを深めるためには、授業の目的や進行予定、課題の内容や重要性などを十分に明確に伝えることが必要だと考えます。

(3) 次年度に向けての取り組み

教授方法の評価が低かった原因として、活動の見通しを十分に示せなかったことが挙げられます。これは、授業内容や進行について学生に十分な情報を提供できなかったために起こったものと考えられます。この点を改善するためには、教員と学生のコミュニケーションを強化し、授業の内容や進行予定を明確にしていきます。また、教員は学生の関心やニーズに応えるための努力を継続し、学生が授業に積極的に参加できる環境を整えていきます。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究Ⅱ	9名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

○分析

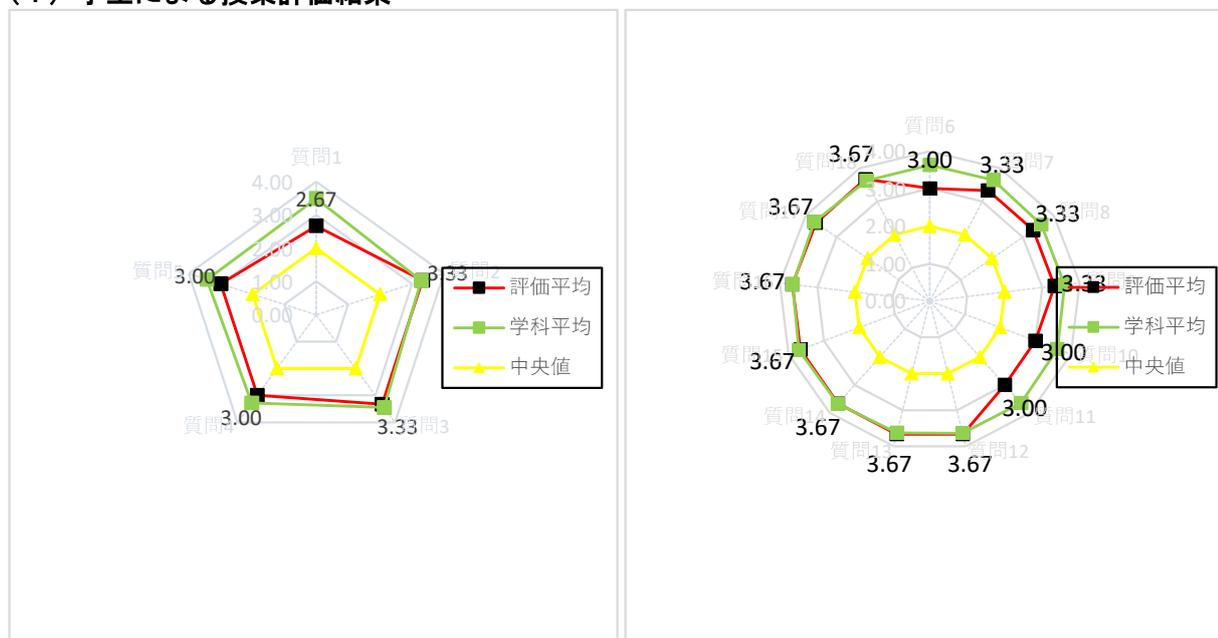
卒業課題研究Ⅰでは、質問2の「シラバス（授業計画）を活用しましたか。」という質問に対する学生自身の自己評価が評価が低い点については、ゼミの取り組みの内容の多くが研究実践を行う学校や施設との折衝の中で進んだので、臨機応変な準備や対応が求められた。例えば、異文化交流ワークショップイン多久のイベントにおけるワークショップについては、佐賀県の国際課や多久市と何度も打ち合わせを重ねながら進めなければならなかったし、小城市立牛津小学校、小城市立芦刈小学校でのワークショップ、放課後児童クラブや放課後デサービスに通う子ども対象のワークショップも、それぞれきめ細かな打合せが求められた。したがって、質問2に対する回答結果は決してネガティブなものではなく、実践を進める上でそうならざるを得なかった結果である。それぞれ計画していた学外での実践は予想していた以上に素晴らしい成果をあげることができた。実践した現場からは、次年度への継続を望む声もあがった。卒業課題研究発表会でのプレゼンテーションも立派な発表態度であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も主として臨床美術（クリニカルアート）を通して、保育現場、教育現場、介護現場、異文化交流に貢献するという意識やスキルを高めるゼミ活動を展開していきたいと考えている。そのために、前期においては、先ず「造形活動に関する新しい指導・支援スキルの基礎を身につける」ためにクリニカルアートに関する理論学習とワークショップを体験させたいと考えている。体験を通して「アート（造形活動）によって自尊感情を高めることに気づかせたいからである。制作の途中で「他と比べない」ことの大切さや、シェアリングでは「五感を生かして言葉かけをすること」の効果を自分ごととして体感させたい。アート（造形活動）は単に作品を完成させることだけが目的ではなく、作品を通してそれぞれの子どもが存在や思いを認める場にもなるということを学修した後に、放課後児童クラブや地域の保育園、幼稚園、子ども園でのワークショップ、社会教育団体主催の親子アートワークショップ、認知症予防のためのワークショップ、佐賀県や多久市等での国際課主催の異文化交流イベントにおけるワークショップ等を継続したい。また韓国の学生とのワークショップ交流も実施したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究Ⅱ	8名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

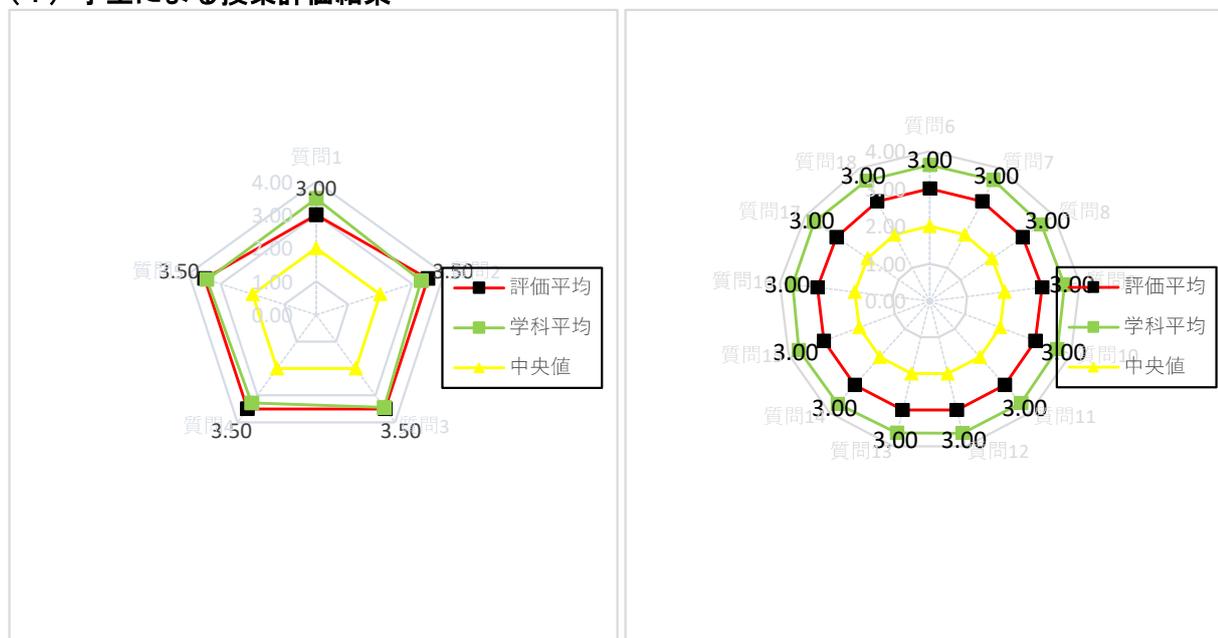
評価を見ると、項目ごとの評価のばらつきが多いように思える。学生の興味を生かした活動を中心に展開した前期に比べ、後期の卒業課題研究は卒研発表会に向けての準備が中心となったため、このような結果になったのではないかと考える。しかし、総合評価としては決して悪い結果ではないため、授業としては満足度の高いものだったと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

今回の授業評価に関しては対象学生8名に対し、わずか3名の回答しか得ることができなかった。そのため、今回の結果が学生全体の意見を反映した物とは言い難い。次年度は授業を正しく評価し改善に向けた手がかりとするためにも、回答率を上げることがまず必要であると考え。今年度は例年通り授業の一環として回答を依頼したが、回答率は低かった。このことより、授業内での取り組みは引き続き行いつつ、学生に対し繰り返し回答を求めることを徹底したいと思う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究Ⅱ	12名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

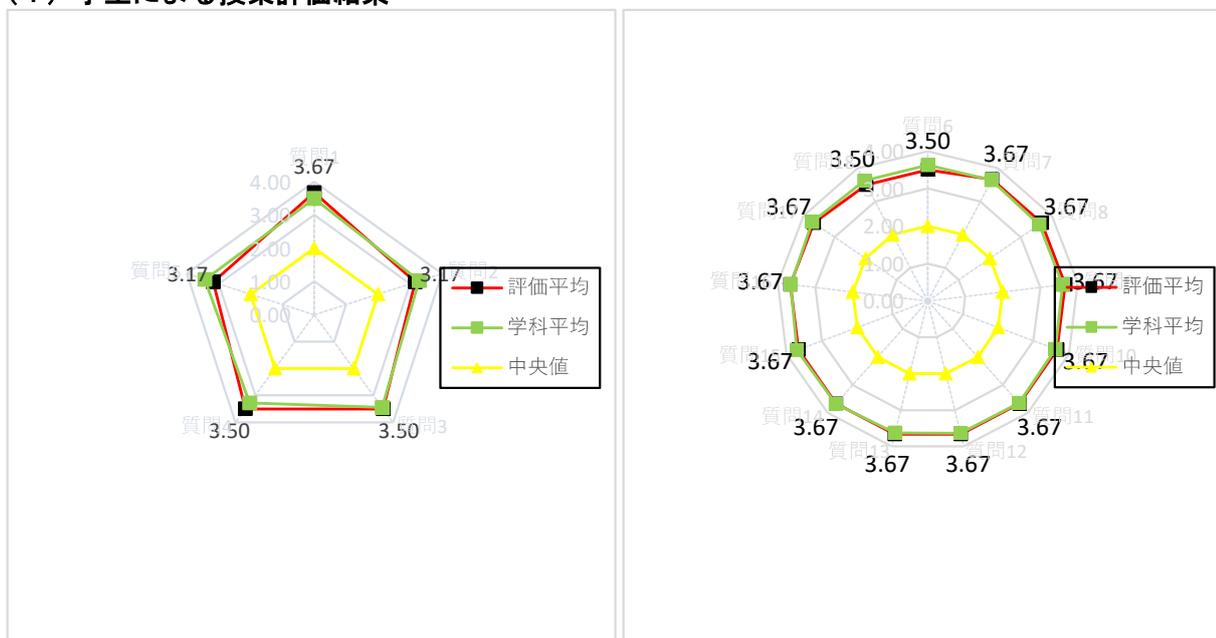
履修者12名のうち、回答者は2名と低かった。そのため、この結果だけで分析することは難しい。質問1～5に関しては、質問1の「出席状況」を問う項目において学科平均を下回っていることがわかる。本科目は12月の表現フェスタ「実技発表会」に向けて、表現・音楽コース選択者が受講するものであり、実際は授業回数よりも多い練習時間を費やしている。総合時間から見た時に、「全ての時間に参加できなかった」という印象から、「2～3回欠席した」という回答をしたのではないかと読み取れる。質問6～18について学科平均を下回っているが、回答者2名がすべて「良い」を選択しているという実情である。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度に向けては、まずは授業評価の入力について、指導を徹底するべきである。「あすなろう」授業やクラスミーティングなど、多くの場面において指導を繰り返してきたものの、それ以上回答率が伸びなかったことは残念である。科目に関する課題としては、実技系ではあるが、資料や機器類の使用を一段と工夫し、学生にとってよりわかりやすい伝え方を意識していきたいと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		地域生活支援演習（卒業研究）	6名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

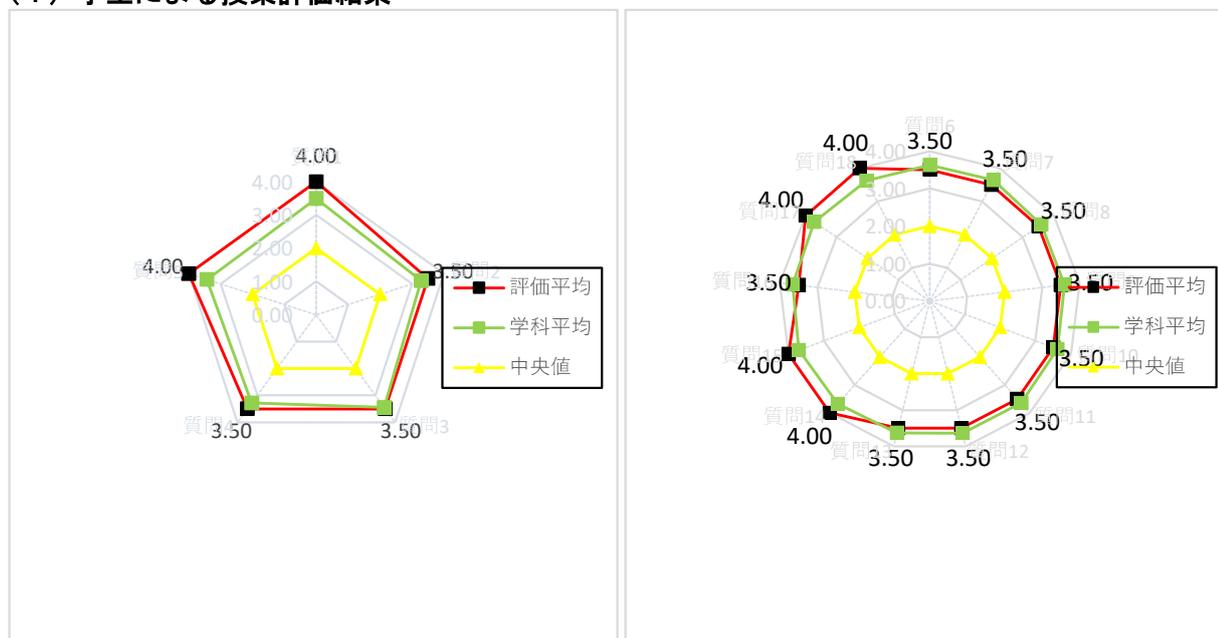
学生の自己評価は、概ね平均的であるが、強いてい言えば総合評価が低い。このことは、授業評価で教員の対応の評価が若干低いことから、教員の肯定的なはたらきかけが不足していたと考える。今年度の展開では、学生の主体性を重んじ、できるだけ教員からの指示を出さず、道標を与えるだけにしてきたためと考えている。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生グループのディスカッションに直接入り、活動を展開していく際には、個々の学生に声掛けを十分に行っていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究Ⅱ	3名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

卒業課題研究Ⅰと比較して、卒業課題研究Ⅱでは、教授方法の評価が向上しました。これは、教員が学生の質問や関心に真摯に応え、公平かつ熱心に授業を行った結果だと考えます。このような姿勢は、学生の学習意欲を高め、積極的な参加を促す要因となります。また、学生自身も実践活動に積極的に取り組み、授業への関与度を高めたことが評価されました。

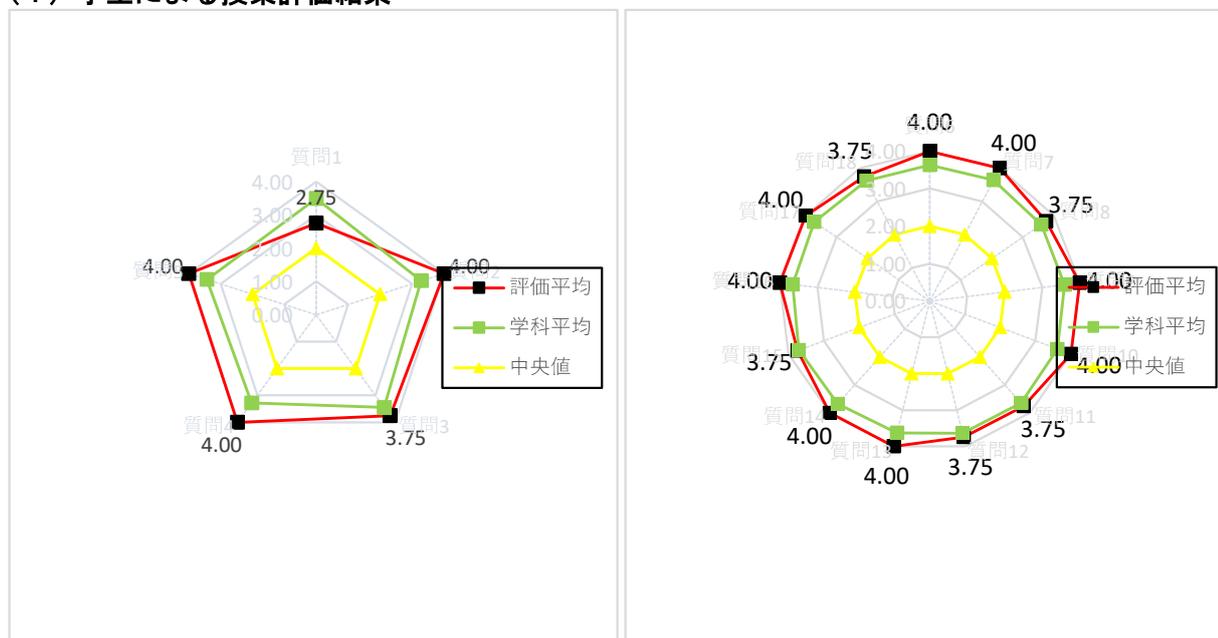
(3) 次年度に向けての取り組み

改善策としては、まず卒業課題研究Ⅰと連動して、1年間の活動の見通しを十分に示すことが大切だと考えます。

そうすることで、学生が授業の方向性や目標を理解しやすくなるはずです。学生とのコミュニケーションを取りながら、引き続き学生の質問や関心に真摯に応え、公平かつ熱心に授業を行うよう心掛けていきます。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		地域生活支援演習（卒業研究）	6名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

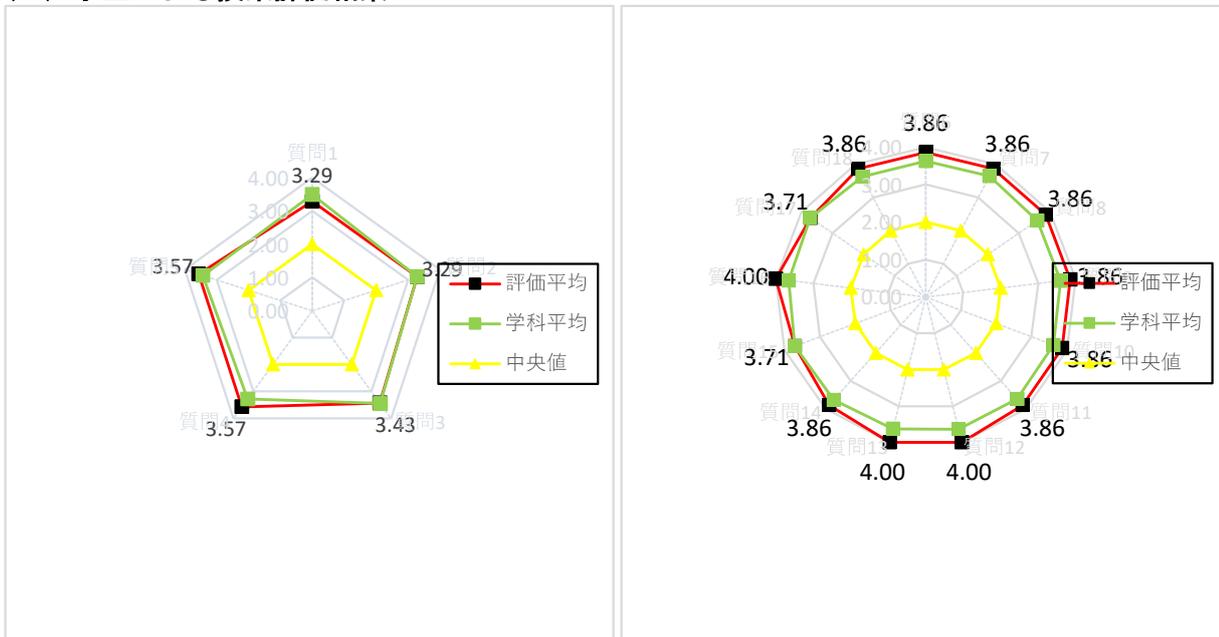
学生の自己評価では、質問1の授業の出席以外は全て学科平均を上回り、質問4, 5は4点（満点）で自己評価も非常に高かった。このことは、今年度のテーマ、産学連携でレシピ開発によって学生の得意分野を活かす取り組みができたことが大きな要因と考える。授業評価全般についてはほとんどが学科平均を上回り一部は同等の数値を示した。授業はグループ研究で全体とパン作りのリーダーと総菜・スイーツのリーダーが中心となり自主性の優れた活動ができた。レシピ開発と他大学や企業との交流を交え、多くの取り組みを達成する中で反省点はあるが、学生の達成感と満足度は高かったといえる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は、今年度の開発レシピを活かした取り組みに加え、新規な食材によるレシピ開発に取り組む予定である。その際も学生と密にコミュニケーションを取り、テーマについて話し合い、学生の興味関心を成果に結び付けたい。学外の地域活動など学生の食、栄養の知識、技術を実践できる活動を効果的に取り入れる工夫をして取り組む予定である。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		地域生活支援演習（卒業研究）	8名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

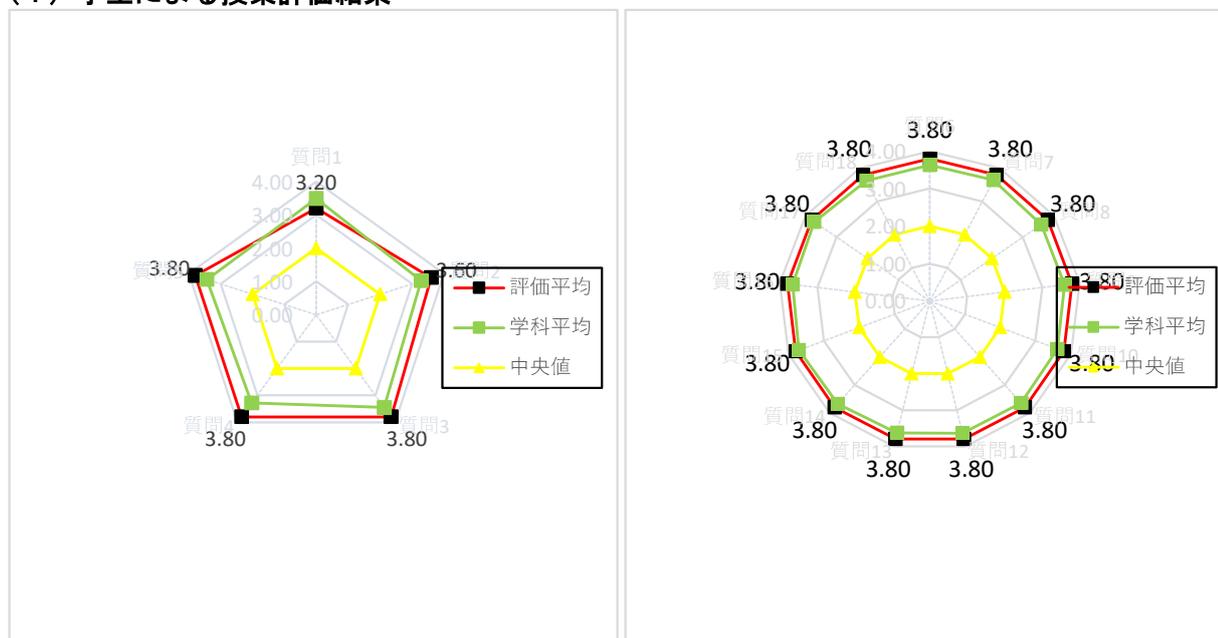
おおむね良い評価ではあるが、公平さ、熱心さで3の評価が2人あった。
自由記述では、最後の最後まで指導を受け、内容が明確になった、との記述があった。

(3) 次年度に向けての取り組み

積極的員に来る学生だけでなく、全体的に個別に声掛けを毎回行う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		地域生活支援演習（卒業研究）	6名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

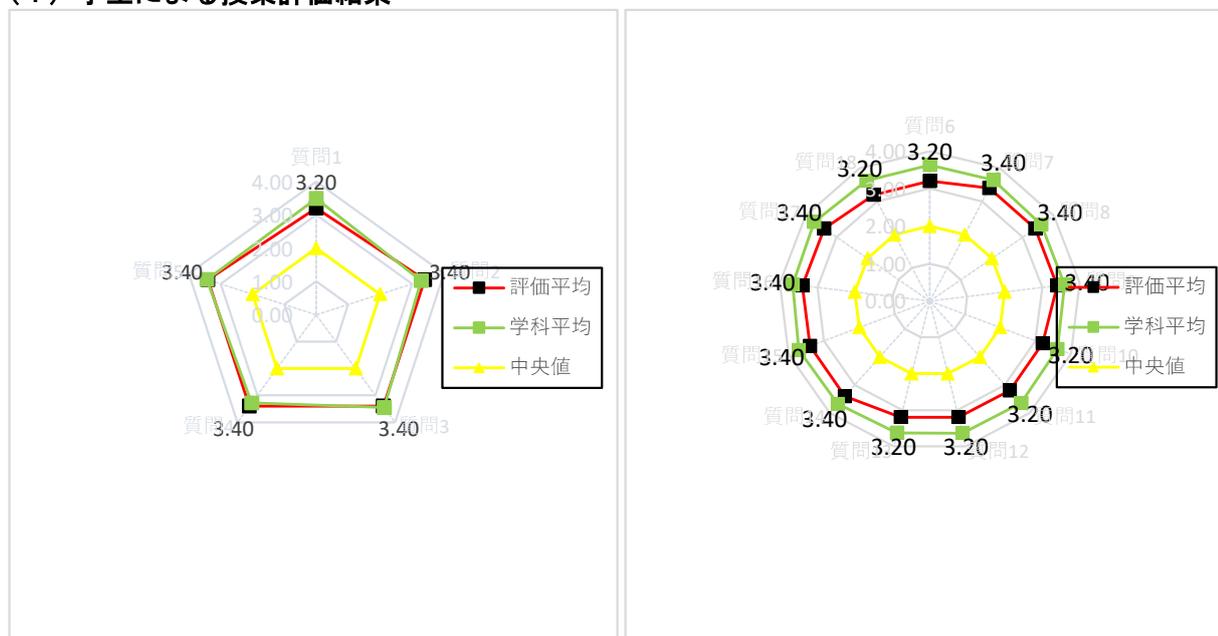
授業の総合評価は3.80であった。質問6～18について学科平均を上回っており、全ての質問項目で8割が評価4.0であった。高評であったと思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

卒業研究は、例年、学生が取り組みたいテーマで行っている。コロナ禍が明け、比較的自由に行動ができるようになったため、今年度は学外での起業体験をテーマに取り組んだ。学生達は起業をするために必要な一連の流れを経験していく中で大変さを実感したようであったが、同時に、終了した後の達成感、満足感も大きかったようである。次年度も学生達と意見交換を重ねながら自ら考え動き解決する能動的な卒業研究としたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		地域生活支援演習（卒業研究）	5名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

この授業の特徴は学生自らテーマを設定し目標を立ていくため、グループ内でのコミュニケーションにも趣きを置いて授業に取りでいる。評価の結果は学生自身のQ4「授業の出席回数」3.20と低く、総合自己評価は3.40であった。教員側の授業内容・方法においては全ての項目は3.20～3.40であった。この総合評価は3.32である。学生のコメントは、特になかった。

全体的に評価が低かったことから、積極的に参加できるように双方向的なやり取りを工夫し、質疑応答の時間を設けて興味・関心をもたせながら双方向的な学習につなげていきたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

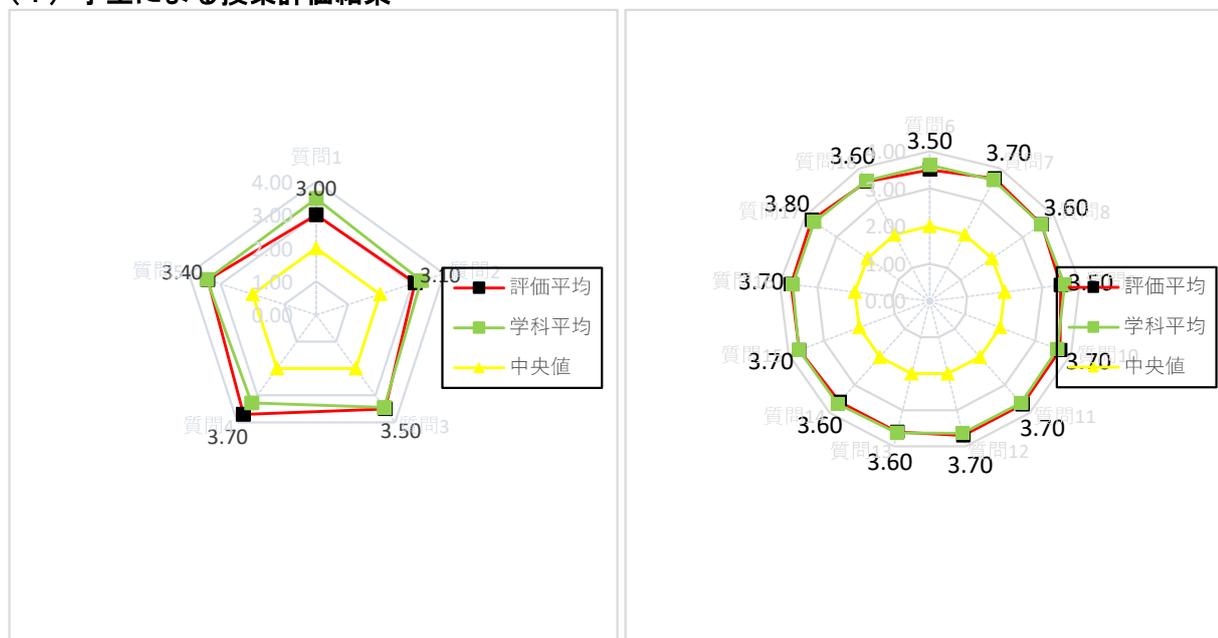
授業の特徴は学生自らテーマを設定し目標を立ていくため、グループ内でのコミュニケーションが重要になってくることから、引き続き、満足いく授業を実施していきたい。

次年度に向けての取り組みは次の通りである。

- ①評価が低かったシラバスの活用についてはしっかり確認し活用させる。
- ②グループ活動では互いが意見を出し合い、ディスカッションできる環境をつくっていく。
- ③机上・学内だけでなく地域との連携ができるような体制で実施し実践力を高めていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		地域生活支援演習（卒業研究）	10名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

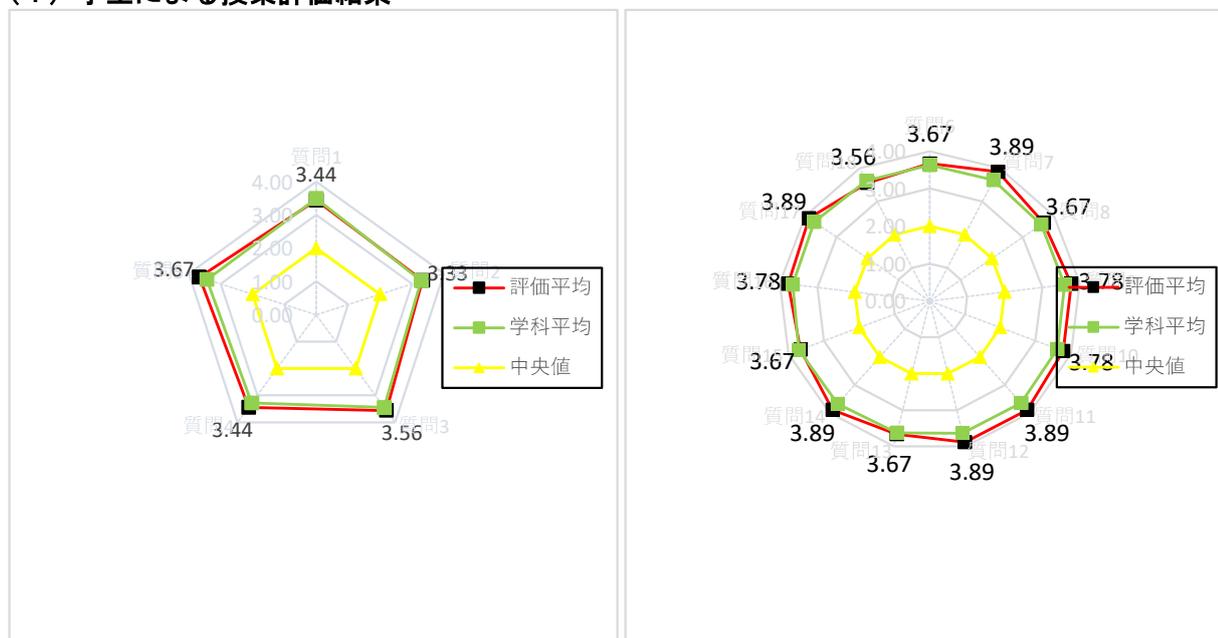
質問6、質問9、質問14については、学科平均より、低い結果となった。
 シラバスの活用については、卒業研究では、学生の進捗状況にもよりシラバスの内容が異なるため、十分な説明が出来なかったことが要因であると考え。学生が、どのように授業が進んでいくかをイメージしやすいように、モデルとなるシラバスの作成を行っていく必要があると考える。
 質問9については、本科目は、学生のそれぞれのテーマに沿って指導していくため、学生個々に合わせたわかりやすい説明の工夫が必要であると考え。
 質問14については、一人一人の指導に時間がかかり、十分に質問への対応が出来なかったことが評価が学科平均より低くなった要因であると考え。

(3) 次年度に向けての取り組み

卒業研究の特性に合ったシラバス作成の検討や個々に合わせた柔軟な説明を行っていく。
 学生の質問等に対する対応については、質問が行いやすいような雰囲気づくりや、学生が疑問に思ったときにタイムリーに質問、回答できるように、対面での指導のほかLINEやTeams等を、より活用した取り組みを強化していく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		地域生活支援演習（卒業研究）	9名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

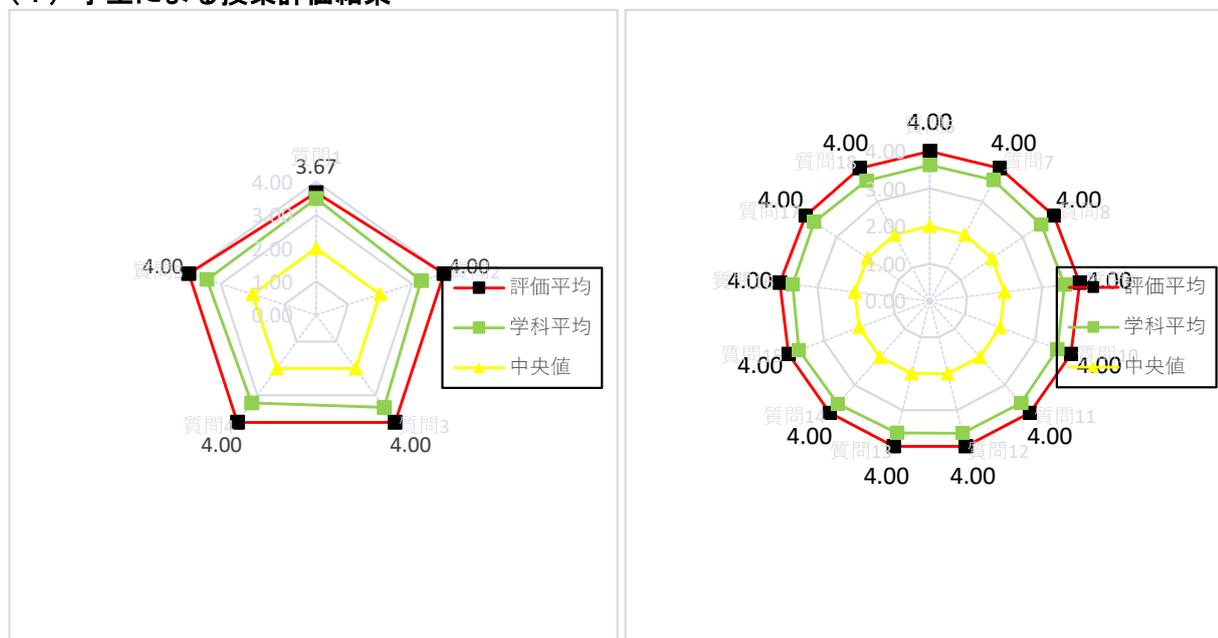
本科目は、いわゆる卒業研究であり、学生は自身が興味関心を持ったテーマについて研究を行うものである。この科目の特性もあってか、学生は、積極的に学習・研究に取り組んだ印象がある。質問1～質問5の評価は、学科平均とほぼ同等で、概ね高い数値だった。総合自己評価は、学科平均値よりもわずかに高い。これは、学生自身が研究したいと思うテーマを教員の意思によって変更することなく、また、研究方法も学生の主体性を尊重したことが影響しているものと考えられる。学生の主体性を尊重することが学生自身の自己評価の向上につながることを実感している。教員に対する評価も、学科平均値とほぼ同等である。授業は、少数（9名）を対象としていたため、ほぼ毎回個別指導を行うことが可能であったことが、今回の評価結果につながったものと推測する。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も、今回と同様の方法で授業を行う予定である。今回の評価結果から、学生の考え・意思を尊重し、学生自身が学びたいこと、研究したいことを、側面からサポートしながら授業を進めたいと考えている。毎年、夏休みが介護実習でかなりの時間を費やしてしまい、後期に研究実践が偏る傾向にあるため、研究計画の見直し・修正を含め、学生が焦らず順調に研究を進められるように、助言しながら授業をしていくこととする。通年開講授業だが、数回は、ゼミの中で進捗状況を報告し合うことも組み入れたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究Ⅱ	12名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

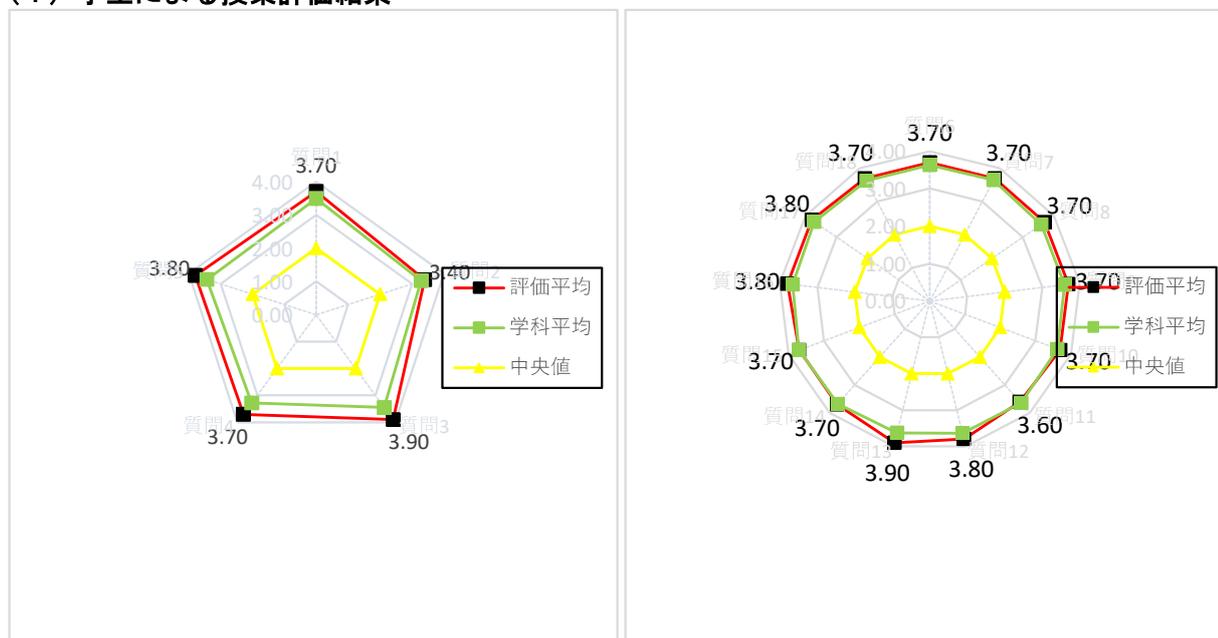
本授業は前期の卒業課題研究Ⅰに引き続き、表現フェスタ（実技発表会）に向けて、ミュージカル「ピーターパン」の演技、歌、ダンスなどの舞台発表に向けた準備と発表会までの過程である。評価は全体的に非常に高い値であり、ミュージカルづくりの過程と舞台発表での学びに対する学生たちが達成感や満足度の高さが窺える。

(3) 次年度に向けての取り組み

表現音楽コースの学生減少により、今年度はミュージカルチームのみを担当した。前期の卒業課題研究Ⅰから後期の卒業課題研究Ⅱまで、1年間を通したの取組みであることで、学生のモチベーションを保ち続けることが難しいと感じることもあるが、次年度も毎回の授業の目標を明確に示し、学生の意欲を引き出せるよう努めたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援 幼児保育		レクリエーション概論	10名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

全体的に平均的な結果となった。

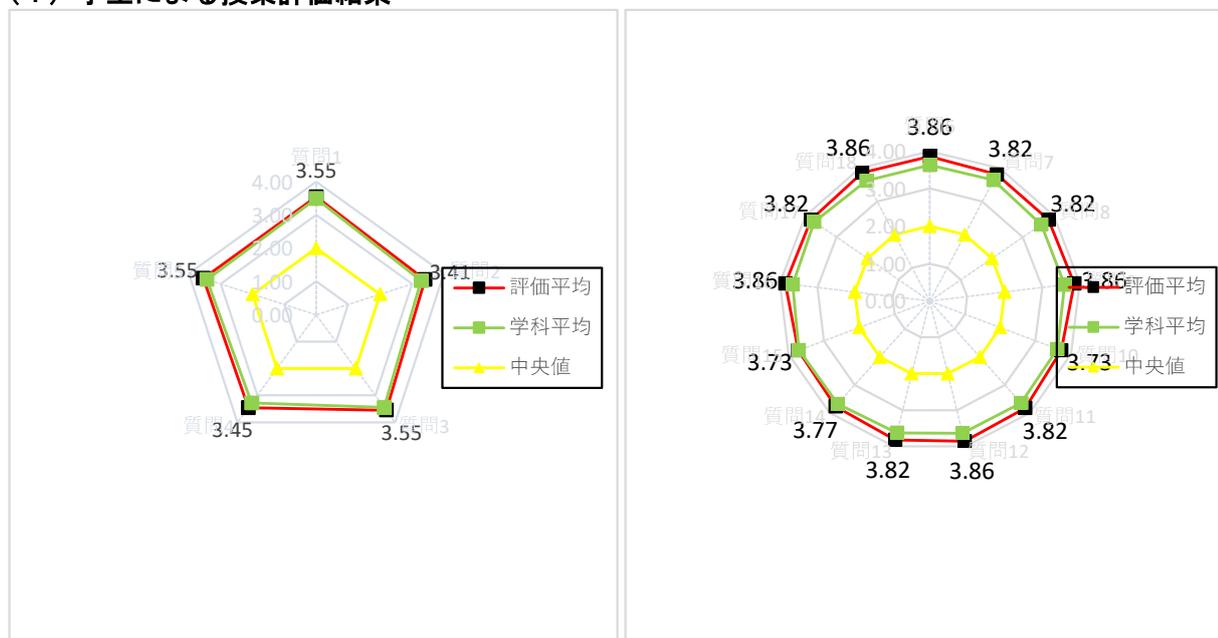
この科目は全て遠隔授業ということで、オンデマンドとオンラインを使い分けながらの授業となった。オンデマンドでは、しっかりと学生にこちらの意図が伝わっているか不安な部分もあり、オンラインで実施する際に、授業内容を振り返りながら授業を展開した。しかしながら、学生の表情や反応がなかなか感じ取ることができないため、授業で伝えなかったことがしっかりと伝わっているか不安であった。授業内容はパワーポイントのスライドを活用したが、遠隔のため、文字の大きさなどに気をつけながら準備をしたことが評価につながったと思われる。また、今年度は履修者が少なかったことでオンライン上でも学生一人一人に発表する場を多く設けるなど、教員の一方的な授業ばかりにならないよう意識したことも評価につながったと思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も遠隔授業のため、オンデマンドでも学生にしっかりと伝わるように意識したい。オンラインにおいても、学生の主体的な学びを意識しながら「レクリエーションとは何か」、「レクリエーション支援に求められるもの」について学生と共に考える授業を展開していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		レクリエーション演習	23名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

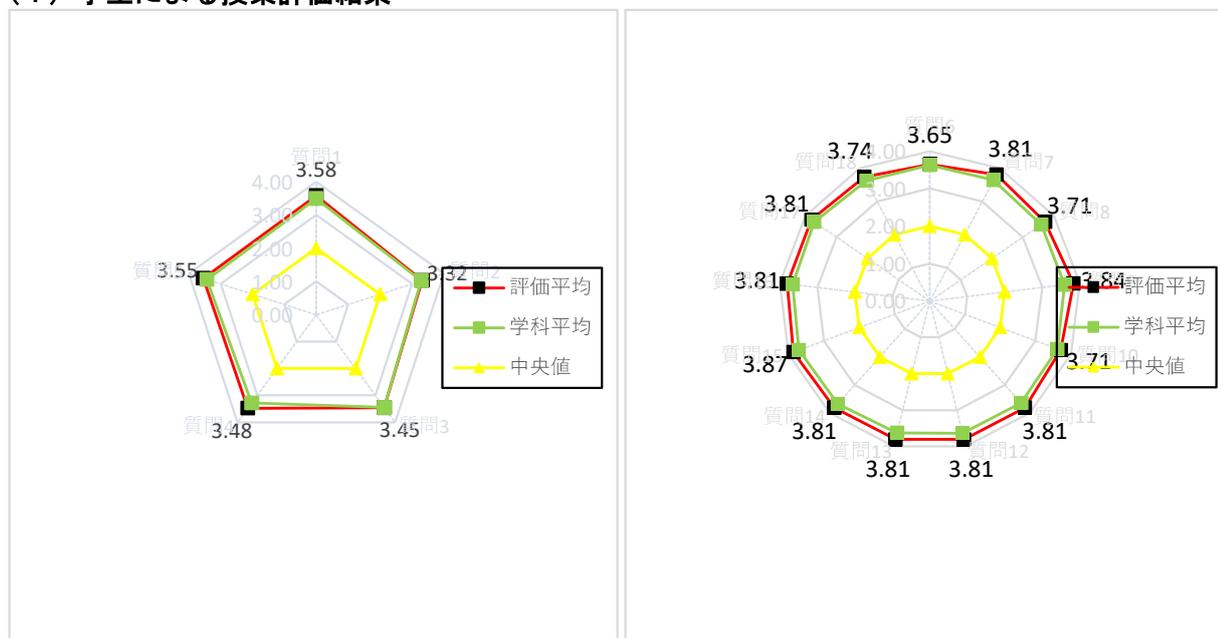
全体的に高い評価を得ることができた。この科目はレクリエーション指導者資格取得のための科目であるが、実技を中心とした授業内容ということも学生が意欲的に取り組むことにつながったと考えられる。また、実践演習として学生が企画するレク活動の発表や授業内容のレクノート作成などを実施したことも学生自身が授業に対して意欲的に学ぼうとする機会につながったのではないかと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度はレクリエーションの意義やレクリエーション活動の楽しさを実技をとおして学生に実感してもらうことはもちろんのこと、レクリエーション支援の中でのインストラクターの役割も実感できるような授業計画、授業の展開を工夫していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援 幼児保育		レクリエーション実習	20名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

この科目はレクリエーションインストラクター取得のための科目であり、授業内容は現場実習のため、他の科目との単純比較は難しいと思われる。その中で、学生が希望した実習先では、レクリエーション活動を支援者や参加者の立場から考える機会になったのではないかとと思われる。学生自身が真剣に取り組み、自己評価も高いことから積極的に取り組んでいたのではないかと考えられる。しかしながら、実習先のエリアが限定的だったため、学生にとっては参加しづらい地域もあり、実習先の確保が課題である。

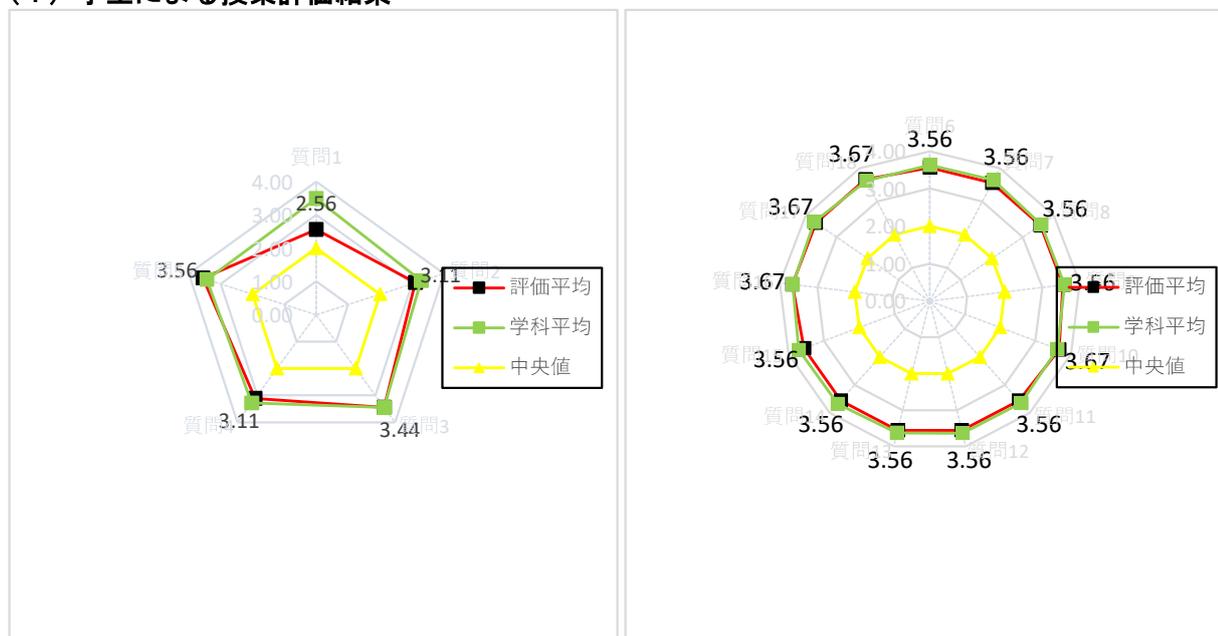
(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も、さまざまなレクリエーション活動の取り組みをとおして、地域貢献の大切さや様々な人との交流などレクリエーションの意義やレクインストラクターとして、どのような役割があるのか考える機会をしっかりと設けたい。

また、実習先を確保し、その中で学生が参加しやすいように年間計画や余裕をもって事前連絡をしていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援 幼児保育		アートマネジメント演習	16名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

多文化コースの学生と幼児保育学科学生との混合クラスであるために、アートに係る授業の履修状況がことなる。そのために、幼児保育学科の学生が保育現場で生かせるアートの知識やスキルだけではなく、多文化コースの学生が目指すであろう観光関係、ホテル業等の業務においても生かせるようなグローバルな内容をシラバスには盛りこんだ。特にアートに関するグローバルな視点からのアプローチを工夫した。授業に対する学生たちの評価では、「質問8 授業は興味・関心が持てる工夫がされていたか。」「質問9 授業は分かりやすくする工夫がされていたか。」「質問12 声の大きさ・明瞭さ・話す速さは適切でしたか。」に対する評価が高い。「質問10 聴覚機器や板書の使い方は適切でしたか。」についてはやや低いが、これは授業の性格上、ワークショップやプリントをもとにした中心の授業で当たった目だと考える。

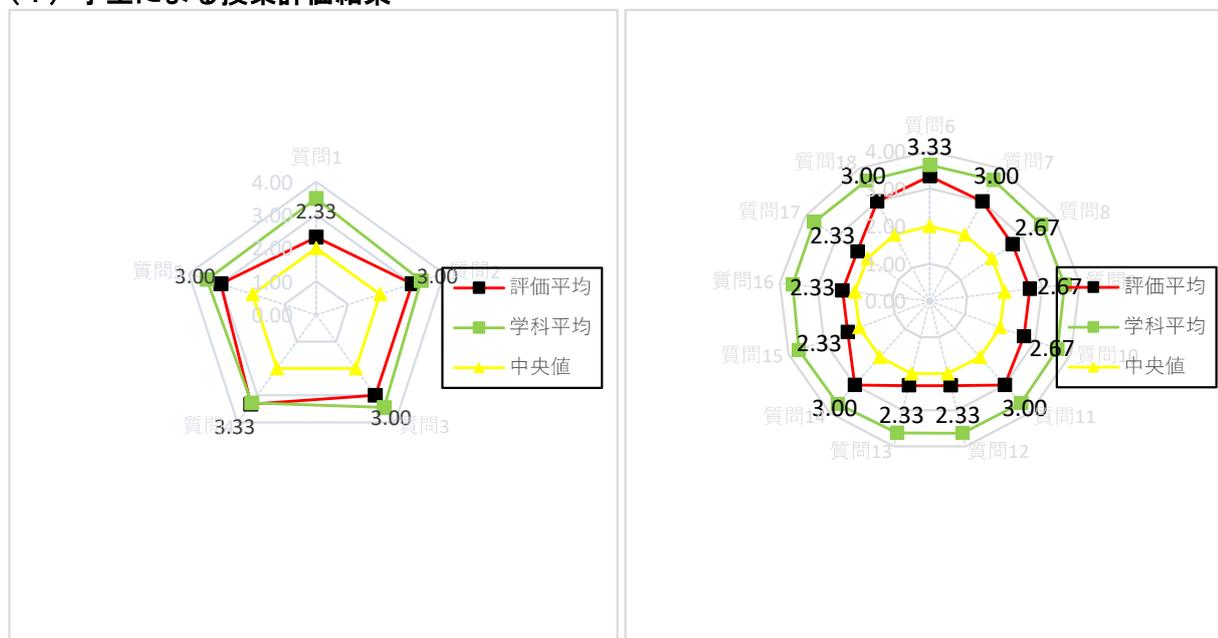
ICT機器の使用は、あくまで授業の目標達成の手段（ツール）であり、ICT機器を多用すること自体が目的とならないようにしている。シラバスについては授業のたびに内容確認をしていたが、更に意識づけをする工夫が望まれる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も、牛丸ゼミの学生を含む多文化コースと幼児保育学科コースの混合クラスの予定である。幼児保育学科は、1年次、2年次と「幼児と造形表現」「保育内容（造形表現）の理論と方法」等の授業を通して、アートに関する知識や技能は身に就けてきているが、多文化コースの学生については「日本文化事情」の中で、アートに係るワークショップなどを体験するものの、幼児保育学科の学生と比較するとその量は少ない。そのことを踏まえ、この授業では次年度も「アート」に関する基礎的な学びからスタートする。幼児保育学科の学生については、既習内容もあるが振り返りの場としてとらえさせたい。修行の進め方は理論学習に留まらず、体験型、空くてリブラーニング（主体的・対話的学習スタイル）を可能な限り取り入れながら学びを深めさせる。特に、近年注目されてきている「クリニカルアート（臨床美術）」のアートプログラムも積極的に取り入れながら、技術だけに注目するアートではなく、作品自体や作品制作の家庭における「言葉かけ（コミュニケーション）」の大切さに気付かせながら、アートを通して良好な人間関係を構築する力も育みたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		ピアノ I	3名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

本科目は、復学者の旧カリキュラムとして開講しており、実際は「ピアノ伴奏法 I」の中で同時に行っている。該当者は3名であった。他の科目においても比較的欠席の多い受講生であるため、調査結果はどれも低い値が見られるのが特徴である。それでもこの3名は全員単位取得できたため、休学前よりも高い成績で履修終了することができているといえる。

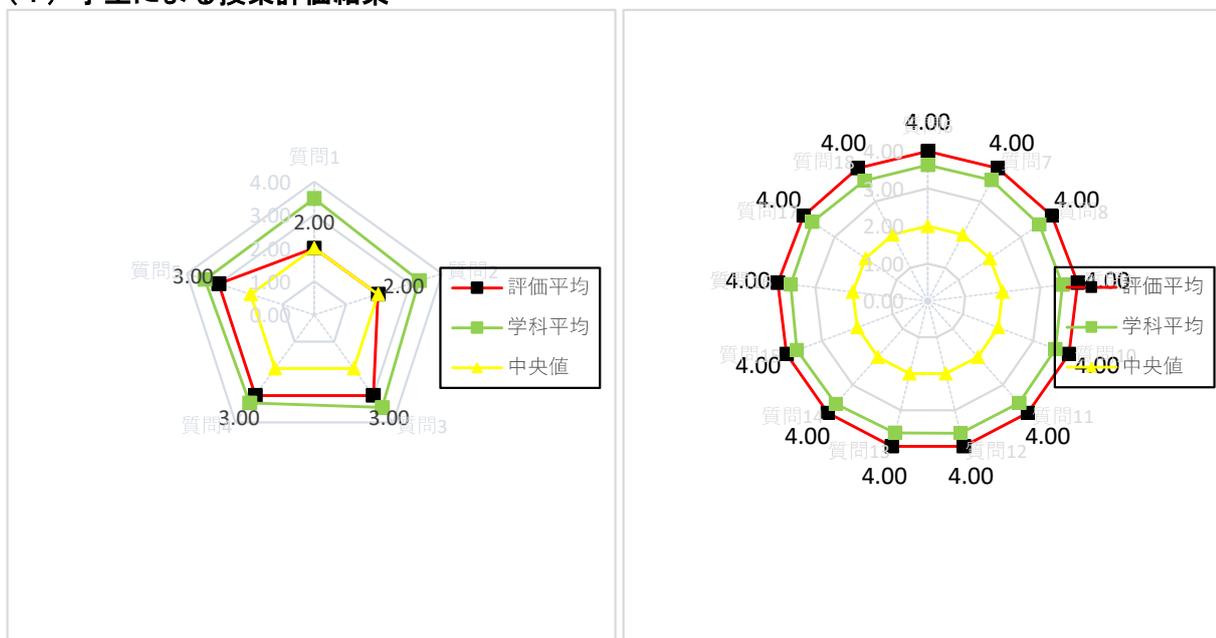
(3) 次年度に向けての取り組み

この科目は、「ピアノ伴奏法 I」の中で同時開講しているので（名称のみ異なる）、本来はこの3名についても「ピアノ伴奏法 I」と同じ調査結果に入れてよいと思われる。

本科目は保育士資格の必須科目であるため、ピアノの単位の有無で資格取得に大きくかわることとなる。休学等で一度は諦めかけた単位取得について、再び気持ちを奮い立たせて、学年の異なる受講生と共に最後まで学びきった頑張りについては称賛したいところである。今後もピアノの単位で資格取得が危ぶまれることがないよう、早い時期からサポートする仕組みを用意しておきたいところである。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		ピアノⅡ	1名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

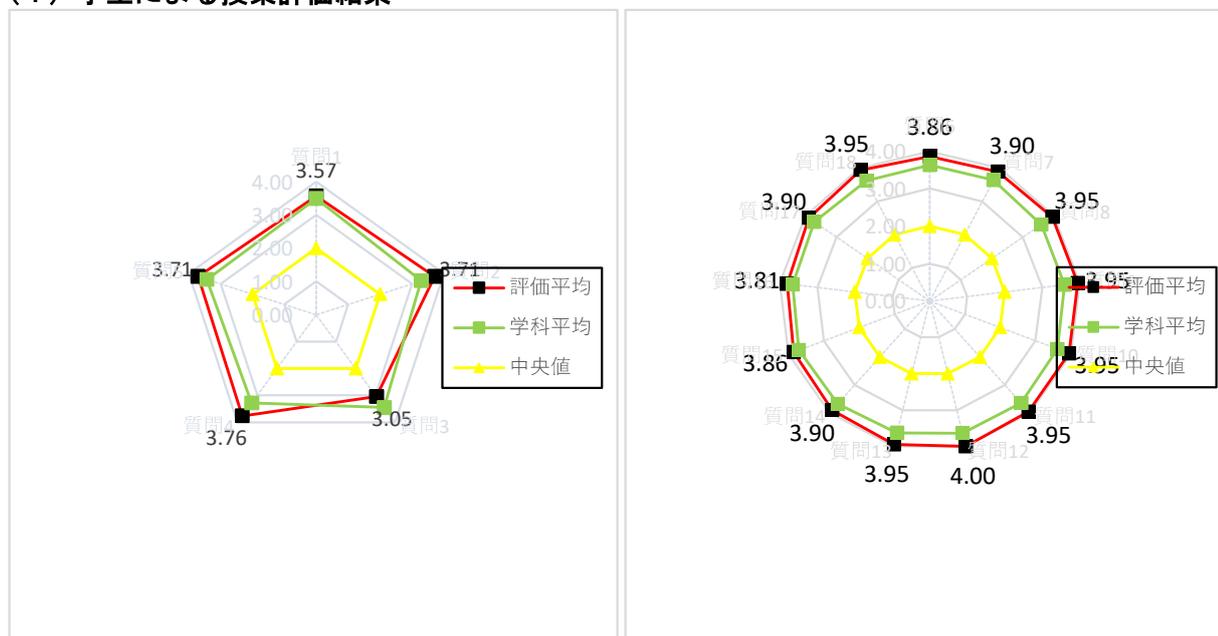
本科目は、復学者のための旧カリキュラムであり、「ピアノ伴奏法Ⅱ」と同じ時間帯に開講している。該当者は1名であるが、ピアノ経験があるため、積極的に受講している様子が見られた。尚、質問1「出欠状況」については、芳しくない結果であるが、これは家庭の事情によるものも含まれるようである。それ以外は概ね、学科平均を上回る回答が見られた。

(3) 次年度に向けての取り組み

当該学生は、ピアノ授業に積極的であり、「ピアノ伴奏法Ⅱ」が求める幼児曲のレパートリーの開拓も進んで行っている様子が多く見られた。意欲の高い学生がさらに力を伸ばせるような指導、そして課題の設定をさらに検討していきたいところである。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		日本語 I	22名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

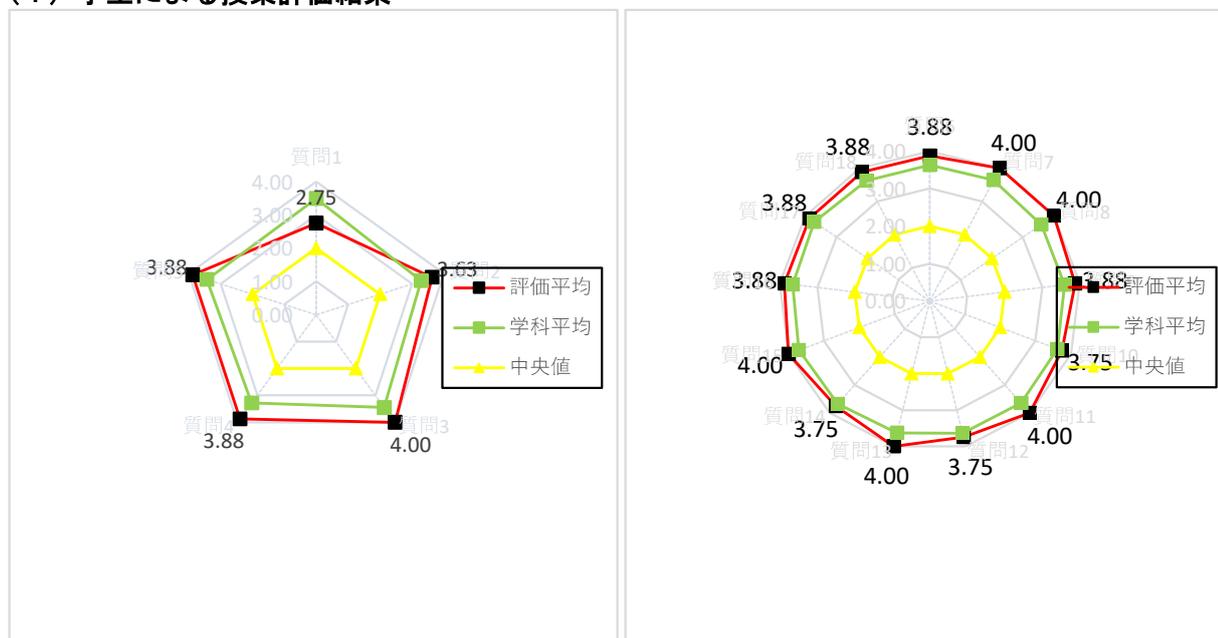
留学生向け授業である。教授方法に関する評価が学科平均を上回り、また学生自身の授業への取り組みも学科平均を上回っています。これはオンデマンド授業の特性が影響している可能性があります。オンデマンド授業では、学生は自身のペースで授業内容を学習できるため、個々の学習スタイルやペースに合わせた柔軟性があります。この自己ペースでの学習が、学生の興味や理解度を高め、教授方法に対する評価を向上させた要因と考えられます。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は対面授業への移行を予定しています。受講者は留学生であるため、ゆっくりと丁寧に話すとともに、板書等の文字もきれいに書くことを心掛けます。そのうえで、対面授業では教室内でのコミュニケーションやディスカッションが活発化するため、学生との対話を重視していきます。また、教室内でのグループ活動やペアワークを導入し、学生同士のコミュニケーション能力や協調性を育む機会も用意するようにします。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		日本語検定 I	11名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

教授方法に関する評価が学科平均を上回り、また学生自身の授業への取り組みも学科平均を上回っています。

この結果は、日本語の学習だけでなく、関連する日本文化の理解を深めるよう授業の構成を工夫したことが評価されたためと考えられます。

授業では、日本語の文法や表現だけでなく、日本文化に関する知識や理解も重視しています。

これにより、学生は言語だけでなく、その言語を使用する文化的背景や習慣についても理解を深めることができ、

より実践的な日本語の習得が可能となったようです。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度に向けて、学生の出席状況を改善するための方策が求められます。

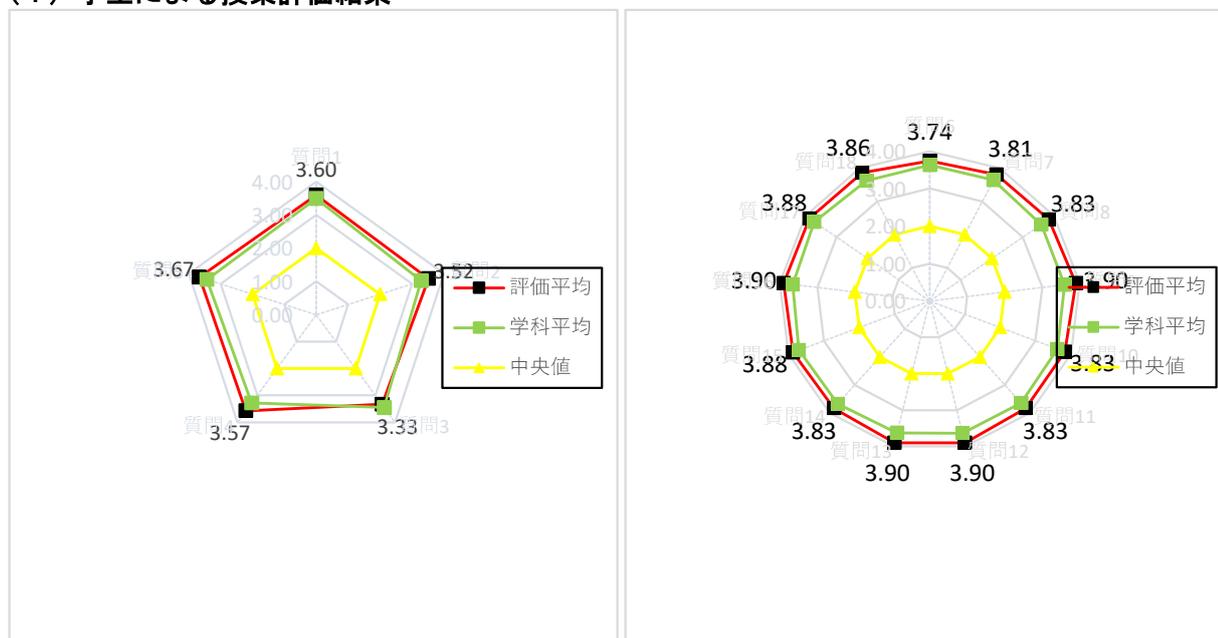
まず、授業の魅力を高めるために、教材や教授方法の工夫が必要です。

例えば、対面授業では実践的な演習やグループワーク、ディスカッションなどを積極的に取り入れることで、

学生の関心やモチベーションを高めていきます。また、授業の質を向上させるために、学生とのコミュニケーションを密にし、学生のニーズや要望に応じていきます。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		日本語応用（方言と介護）	53名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

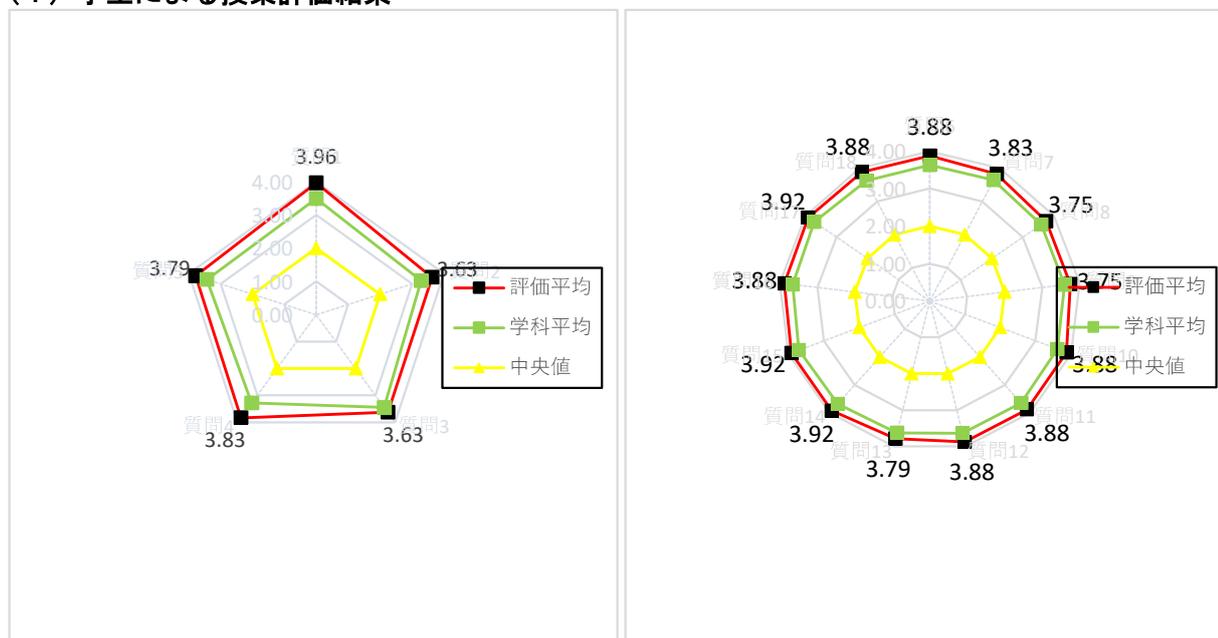
みんな楽しく受講していたが、学生自身の自己評価が高くない学生が10%ほどいた。方言や日本の歌等を中止に学習を進めたが4の評価が95%程であった。自由記述への記入は特になかった。

(3) 次年度に向けての取り組み

資料を作成して後日配布を行う。歌だけでなく介護現場で使えるレクも取り入れる。実習でわからなかった方言等も調べて取り入れていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		食品衛生学	24名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

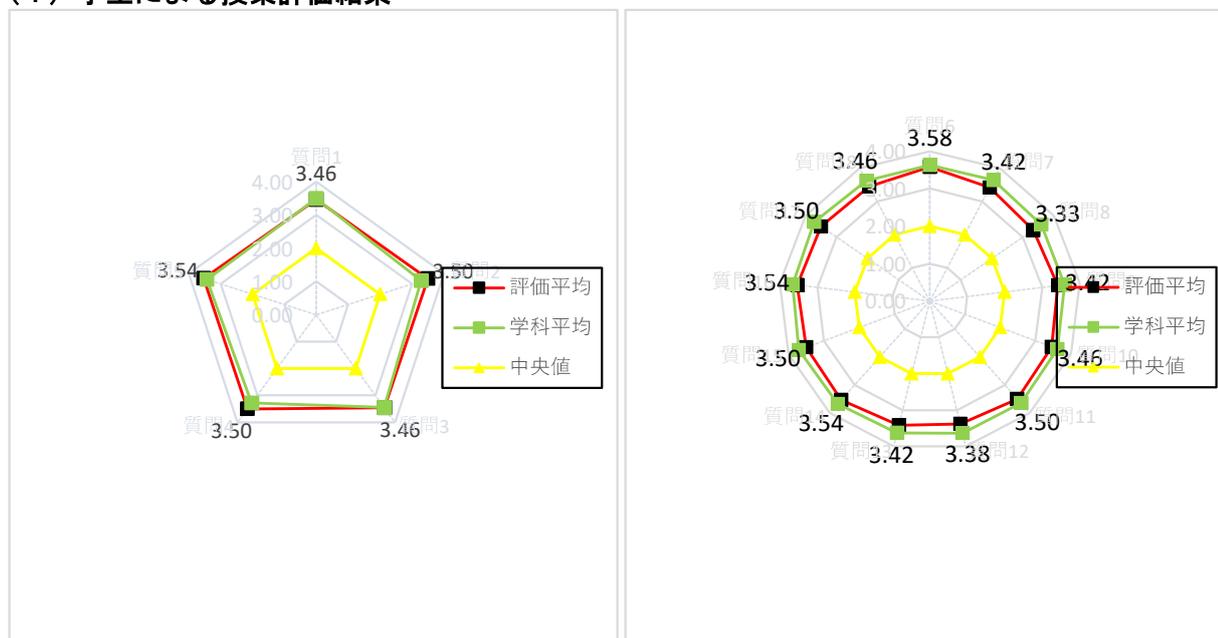
学生による自己評価は、学科平均と比べ全て高値を示し、自己評価が高かった。実際の授業においてもクラス全体がよい雰囲気の中で熱心に取り組んでおり妥当な評価であった。授業評価についても差は小さいが学科平均と比べ全て高値を示した。本年は昨年と授業方法を変え、グループワークを適宜取り入れたこと、実際の食材を教室に持ち込み、それを毎月題材に学生とコミュニケーションをとる授業を展開した。このような授業展開の工夫が学生の興味関心と理解の手助けとなったと考える。自由アンケートの中に「教科書だけではなくいろんな知識をプラスアルファで教えてくださり良かったです!」「わかりやすいです」「特に食中毒が難しく種類も多く聞いたことのないものも多かったのが覚えるのが大変だった。食中毒はこれから働いていくうえでとても重要なものになると思うのでしっかり理解し知識として身につけておきたい。」「テスト勉強でもしっかり食中毒のことなどを勉強することができた」などの声が寄せられた。このような学生の声を参考と励みにして、今後も更にその時の学生に対応した授業展開の工夫を行い授業改善に努めたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も今年度同様、学生とのコミュニケーションを重視して双方向の授業、グループワークやペアワーク、学生が主体的に考え発言できる機会を増やしたい。また、関連で興味関心に結びつく話題の提供などを行い、学生の学ぶ意欲を高める授業内容について検討して授業の充実を図る予定である。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		食品衛生学実験	29名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

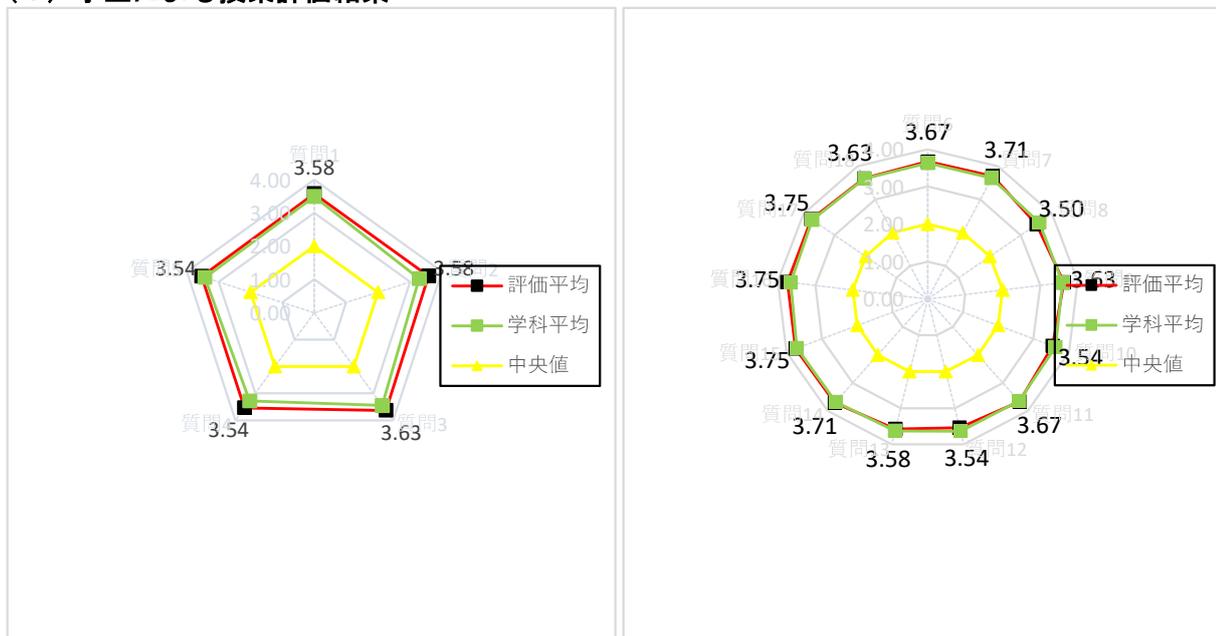
学生の自己評価は、ほぼ学科平均値と同等となっている。
授業評価全般的には、昨年度より高値を示し改善されてきたが、全ての項目が学科平均値を下回っていた。
当該科目は昨年度から新規に担当した授業であり、授業時間も長いことから内容、展開の一層の工夫が必要である。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は、今年度の授業を振り返り、授業内容を再検討していきたい。前半は食品学実験で後半を当該科目で展開しているので両科目の棲み分けを更に検討し実験内容と授業展開を改善に努めたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		栄養指導論 I	25名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

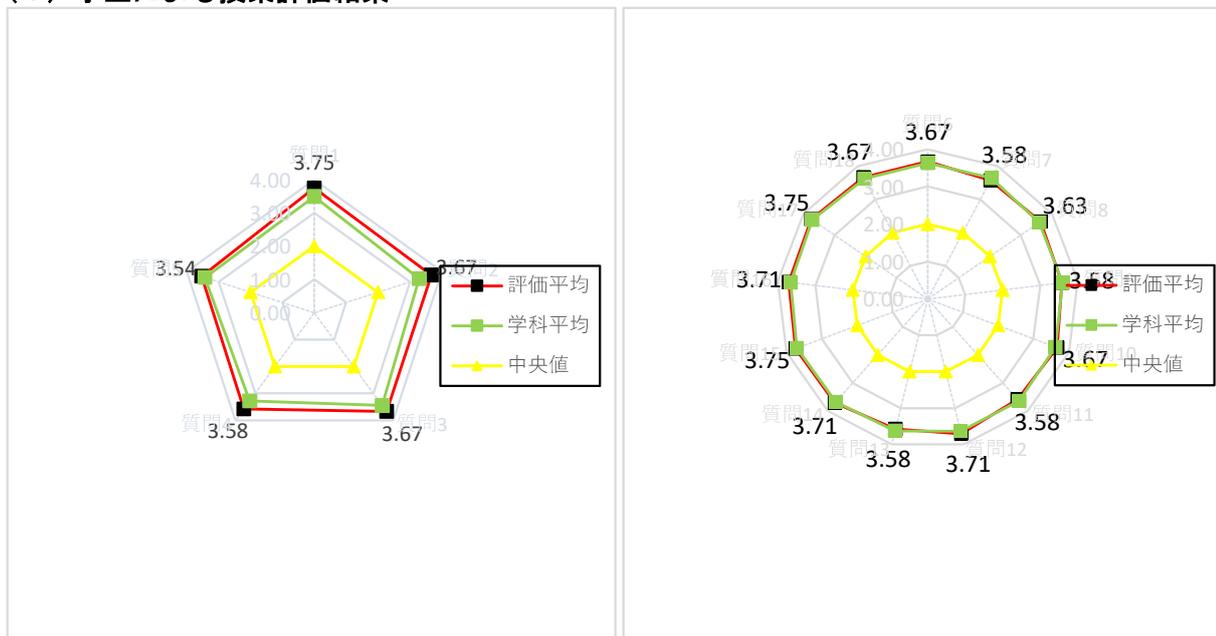
栄養指導論 I は、栄養士の専門科目で、人々の健康・維持増進をはかるために正しい食生活を確立させるための実践的に取り組みやすい学問である。評価の結果は学生自身の総合自己評価は3.54であった。教員側の授業内容・方法においては、Q15「公平に学生に対応しましたか」。Q16「教員は双方向的なやり取りをしながら、授業を行っていましたか」Q17「熱心に授業に組んでいた」はともに3.75で高い値であった。低い値はQ8「授業は興味・関心を持てる工夫がされていきましたか」3.50であった。この総合評価は3.62である。学生からはコメントに「授業ごとに資料があり、それを参考に問題を解きながら授業も進んでいったので良かったと思う」があった。

(3) 次年度に向けての取り組み

総合評価はおおむね良好であった。その中でも評価が低かった「授業の在り方として、興味・関心を持てる」の項目については創意工夫をして、授業に興味・関心を持てるようにしていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		栄養指導論実習 I	24名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

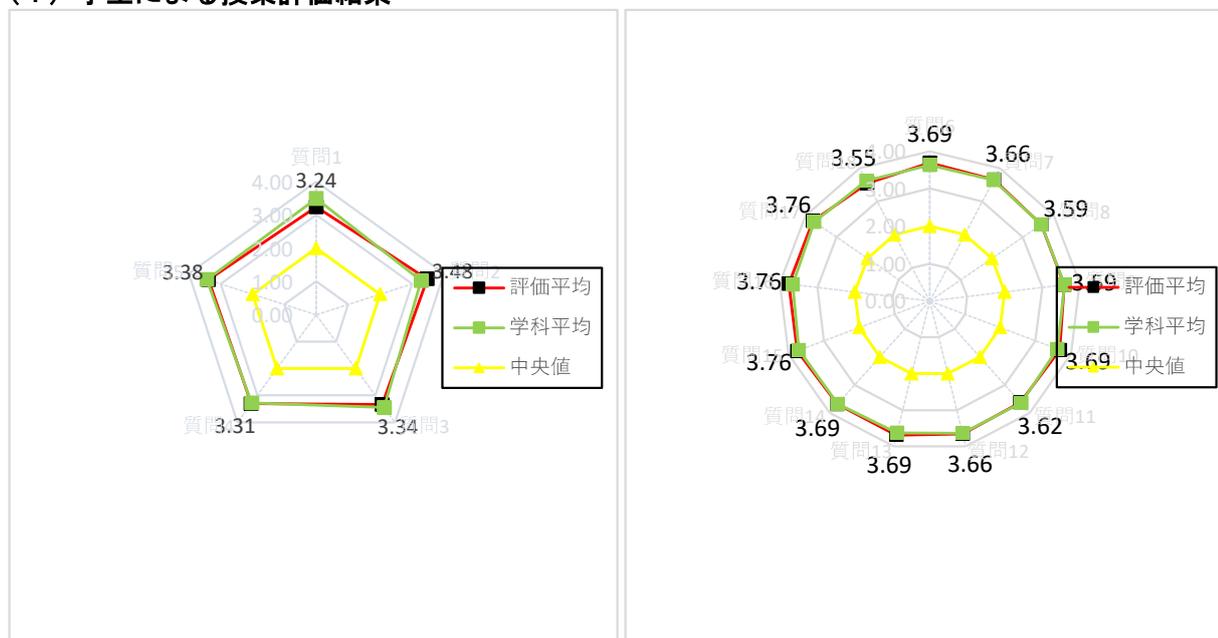
この授業は栄養士の専門科目である栄養指導論で習得した知識を実地または実物について実際に学ぶ、そして将来現場での栄養指導で役立つように学んでいく授業である。評価の結果は学生自身の総合評価3.54であった。教員側の評価は3.58~3.75の値で総合評価は3.67であった。全体で高評価を得ることができている。学生からはコメントに「動画鑑賞の中から聞き取りしたり、グループ活動で発表があったりなど様々な経験ができました。」があった。

(3) 次年度に向けての取り組み

今後の取り組みとして各項目の評価を高めていくことと、この科目の実習は実践的要素が含まれているので理解しやすい科目である。今後も興味・関心が持てるように分かりやすい内容で授業を展開し、予習・復習を習慣化させ積極的に学ぶ力を修得させていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		栄養指導論Ⅱ	29名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

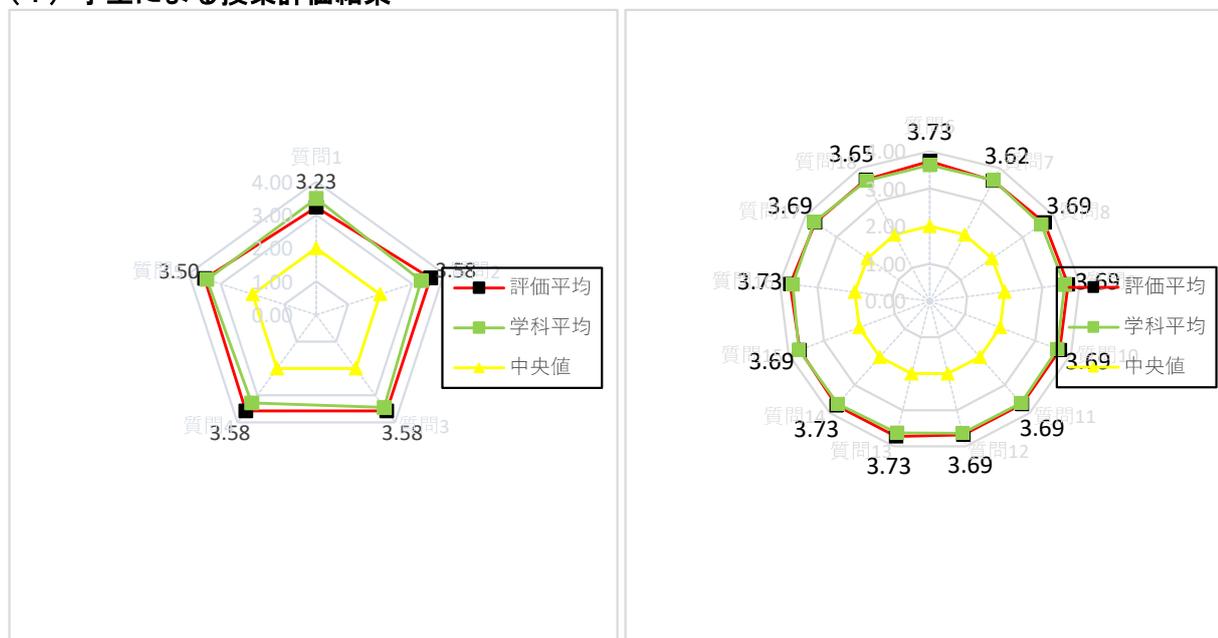
栄養指導論Ⅱの科目は栄養士資格必修科目である。栄養指導論Ⅰの授業内容を踏まえてライフステージ別に日常生活に即した内容である。評価の結果、学生の参加度であるQ1～5までの評価は3.24～3.48であったが学生の総合自己評価をみると3.38と低値であった。授業に対する教員側の総合評価は3.55であった。教員側で高い値は「16公平に学生に対応しましたか。Q 17教員は双方向的なやり取りをしながら、授業を行っていますか。Q 18教員は熱心に授業に取り組んでいましたか。はともにも3.76と高い値であった。この授業を総合評価は3.55である。学生コメントは特になし。

(3) 次年度に向けての取り組み

今回の授業評価は概ね良好であった。今後は学習の成果をさらにあげていくために、課題には丁寧に解答解説をしていくことで学力向上につなげていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		栄養指導論実習Ⅱ	29名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

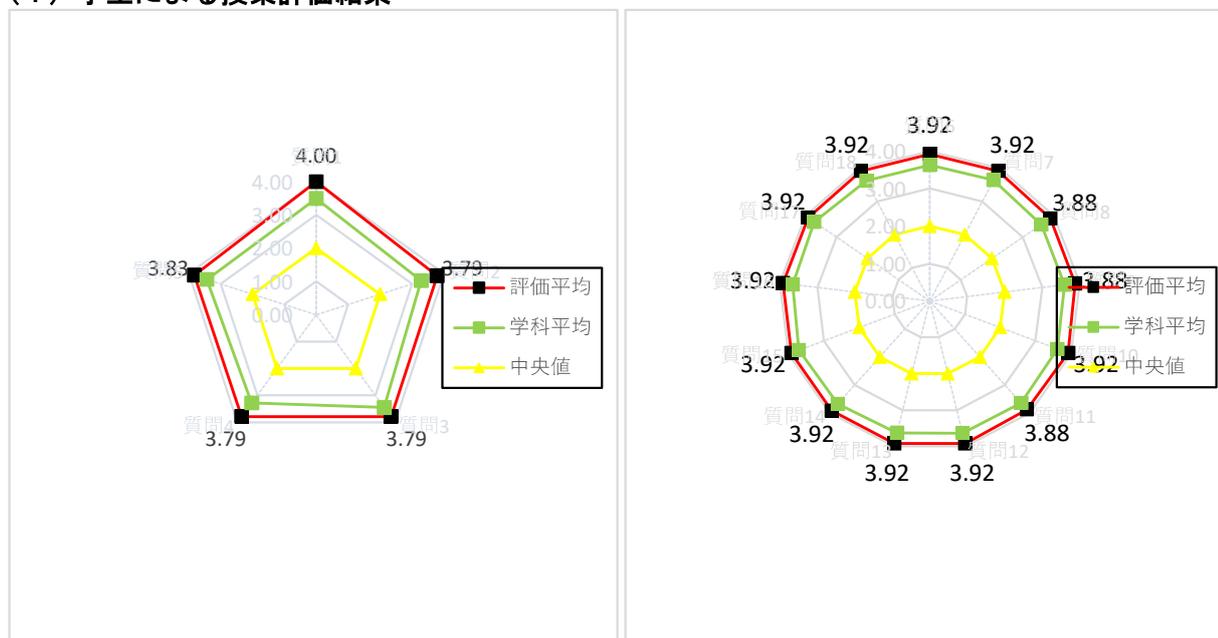
授業の総合評価は3.65であった。質問項目6～18については学科平均並みであった。

(3) 次年度に向けての取り組み

本授業ではほとんどの回でPCを活用して実施している。学生の中にはPCを苦手とする者もいるが将来現場に出た時には必ず必要となるため、PCに慣れさせるためにも授業の中で機会を設けている。特に、栄養教育・調査に必要な統計処理については、扱うデータも栄養の分野に関わりあるものとし、できるだけ学生が興味を持って取り組めるようにしている。今年度はどういう場面で活用するのかをイメージさせながら実施した結果、比較的熱心に興味を持ちながら取り組んでいたように思う。次年度も同様の方法で実施し学生の様子を見ながら改善につなげていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		調理学	24名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

調理学は日常的な調理操作の基礎を科学的に学んでいく科目であるため、調理実習に結びつけることができるような内容で授業を進めていった。学生の評価で、特に高い値はQ1の授業は何回欠席しましたかの問いに全員出席の4.0であった。その他もおおむね良好で総合自己評価3.83である。教員側の評価も良好で総合評価は3.92である。

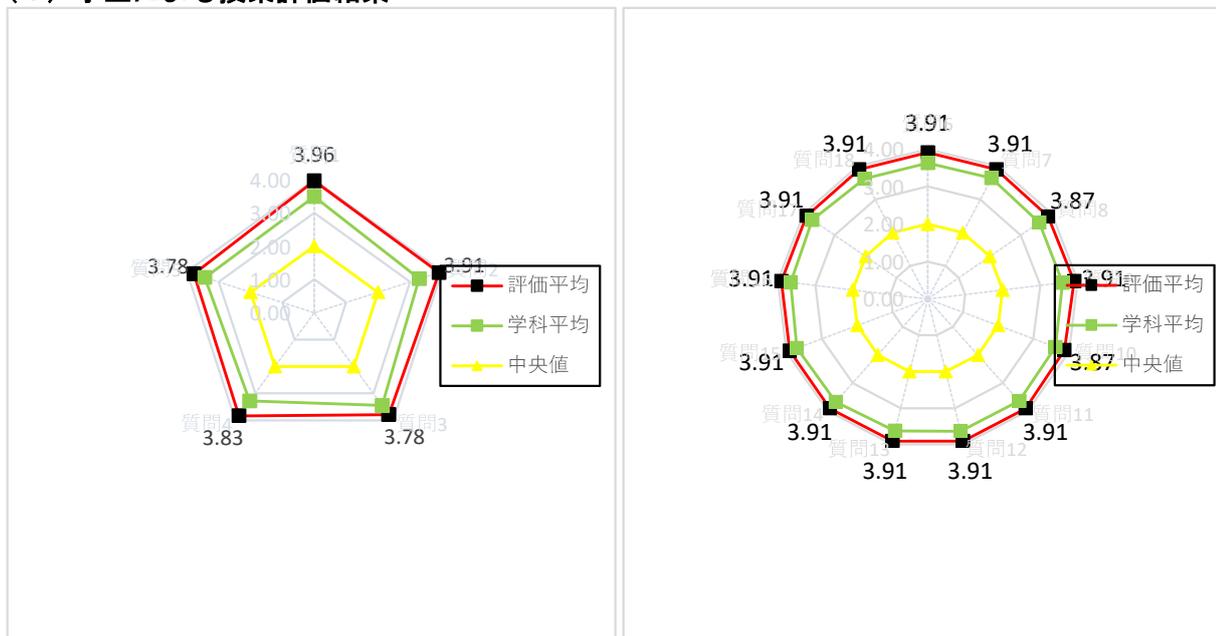
学生からのコメントは料理をするうえでの大切なことについて学んだので、これからの生活に生かしていきたいです。「調理に関することでこの先沢山使う分野だと思うのでしっかり覚えておきたい。今まで料理をしてきて褐変したり多くのことに疑問を持っていたけどなぜそうなるのかどうしたら予防できるのか学ぶことができた。」「食材の扱い方などを学ぶことができてよかったです」「スライドもとても見やすく分かりやすい授業で良かったです。」「食物の詳しいことをこの授業で学ぶことができた。」「パワーポイントにたくさん写真が使われているので教科書と一緒に勉強するととても分かりやすいです。」「調理についてが基本なので楽しく授業を受けることができた。」「食べ物について詳しく学ぶことができ、器具類などの名前も一緒に

(3) 次年度に向けての取り組み

教科書と併用したスライドの中に語句の解説や写真を取り入れてたことで分かりやすい授業であったことが伺えた。次年度はさらに分かりやすいスライドの作成を行っていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		調理実習（日本料理）	24名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

この授業は栄養士として即戦力を高めるために必要な調理技術等を習得させる基礎調理である。初回は調理と栄養計算の目的や算出方法の理解から展開していった。実習では、技術を習得させるために、材料の特殊な切り方や調理操作が理解できるように出来る限りデモンストレーションをおこないながら授業を進めていった。結果は学生自身のQ1「授業参加態度」3.96と高く、総合自己評価は3.78であった。授業内容・方法においても高い値で、低い値は特にみられなかった。総合評価は3.89である。学生からのコメントは「今まで作ったことのないものばかりで難しかったが、日本料理に関心を持った」「どのように分したら効率よく綺麗に仕上げることができるのかを考えることができ、作ったことのない料理や調理法に触れ学ぶことができた、家でも実践して身につけたい」「後期の調理実習で前期で学んだことが生かしていきたい」「とても先生も優しく丁寧な説明で楽しい授業となりました」「実際に先生が回ってきて様子を見に来てくれるので安心して実習ができた」「日本料理について深く学ぶことができた」「みんなと協力し合う大切さも学べた」等があった。

(3) 次年度に向けての取り組み

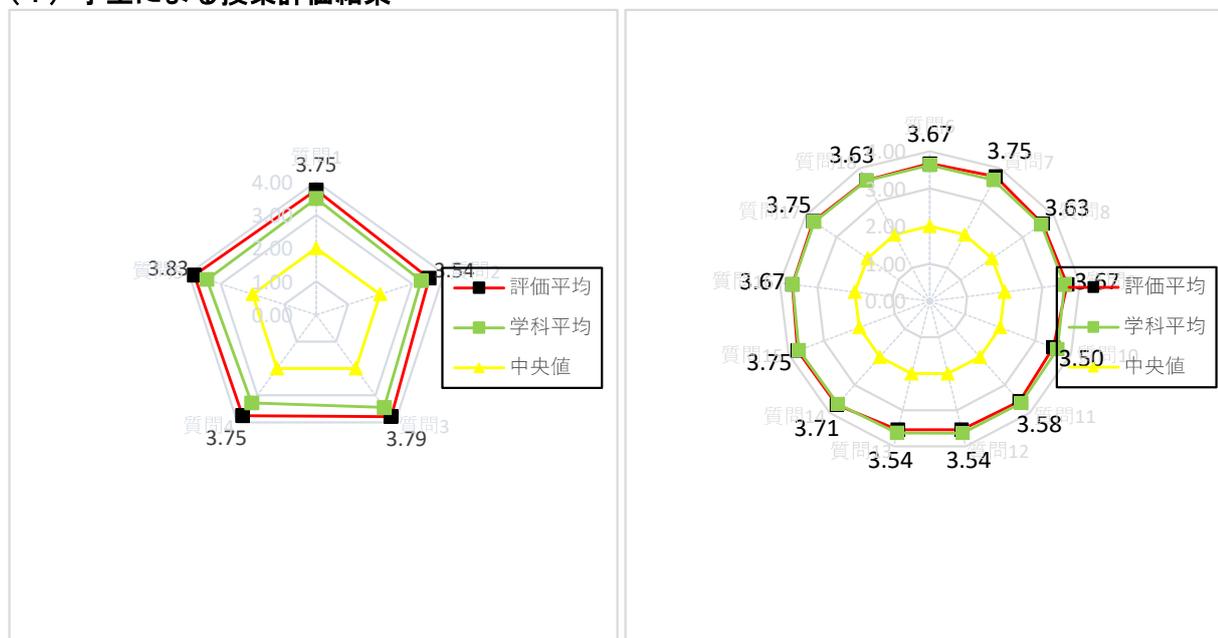
概ね良好であったことから、次年度も工夫しながら魅力ある授業にしたい。

引き続き、これまでと同様に下記の内容を中心に実習を展開していく。

- ①授業の理解のための自己工夫としてこれまでと同様に実習カードを事前に配布し予習させ、実習後は家庭で必ず再実習を行なうなど、実習前後は、家庭学習が出来るよう指導する。
- ②学生の学習意欲、技術能力、生活環境により個人差が大きいため、技術能力を習得させるだけでなく、グループ実習を通し、積極性、協調性、指導力、マナー等も併せて学ばせる。また、人間形成の場として互いに学びあいながら、実践実習が出来るよう、指導していく。
- ③包丁扱いなど調理技術の向上努めると同時に大量調理へスムーズに展開できるように訓練していく。
- ④実習時間の時間配分を明確にしてメリハリある実習を展開し学習意欲を高める。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		調理実習（西洋料理）	24名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

この授業は栄養士として即戦力を高めるために必要な調理技術等を習得させる基礎調理である。技術を習得させるために、材料の特殊な切り方や調理操作が理解で出来るような説明をイメージさせながら、特殊操作についてはデモンストレーションと併用しながら授業を進めていった。結果は、あなた自身の総合自己評価は3.83であった。授業内容・方法においてはQ15「公平に学生に対応しましたか。」わかりやすく工夫されている」とQ17「熱心に授業に組んでいた」3.75で、低い値は特にみられなかった。総合評価は3.66である。学生からのコメントは「西洋料理は日常で作る機会がめったにないと思うのでいい機会だったなと思った。だけど、最初の説明が長く時間に間に合わないことは当然だなと思った。」であった。

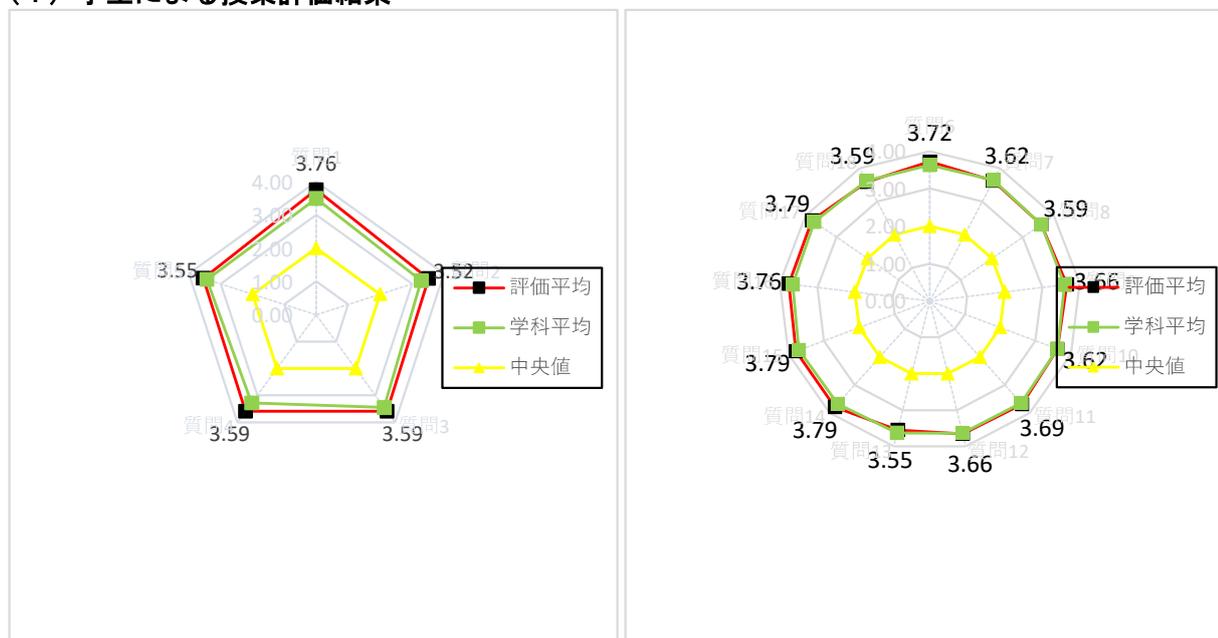
(3) 次年度に向けての取り組み

今回の授業評価のコメントに「最初の説明が長く時間に間に合わないことは当然だなと思った」があったことから、調理のポイントを絞って説明し、時間内に終了できるように工夫する。その他の授業評価では概ね良好であったことから、これまでと同様に下記の内容を中心に実習を展開していく。

- ①自分で調理操作と出来上がりがイメージできるように、家庭でも調理をする機会を増やすように促す。
- ②授業の理解のための自己工夫としてこれまでと同様に実習カードを事前に配布し予習させ、実習後は家庭で必ず再実習を行なうなど、実習前後は、家庭学習が出来るよう指導する。
しかし、過去の経験で実習時にカードを“忘れる”“紛失する”といったことから、カード管理も十分にできるように指導する。
- ③学生の学習意欲、技術能力、生活環境により個人差が大きいため、技術能力を習得させるだけでなく、グループ実習を通し、積極性、協調性、指導力、マナー等も併せて学ばせる。また、人間形成の場として互いに学びあいながら、実践実習が出来るよう、指導していく。
- ④包丁扱いなど調理技術の向上努めると同時に大量調理へスムーズに展開できるように訓練していく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		調理実習（中国料理）	29名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

この授業は2年後期に開講される。栄養士として即戦力を高めるために必要な調理技術等を習得させる基礎調理である。既に1年次に日本料理と西洋料理を修得している。初回の授業では中国料理の特徴と特殊素材、特殊器具の説明を行った。技術を習得させるために、材料の特殊な切り方や調理操作が理解出来るように出来る限りデモンストレーションをおこないながら授業を進めていった。結果は学生自身のQ1～4までのあなた自身の授業参加態度は3.52～3.76の評価であったが、総合自己評価は3.55と低かった。授業内容・方法においては全ての項目で3.55～3.79で、授業の総合評価は3.59であったことから、概ね満足している授業であったことが伺えた。学生のコメントは特になかった。

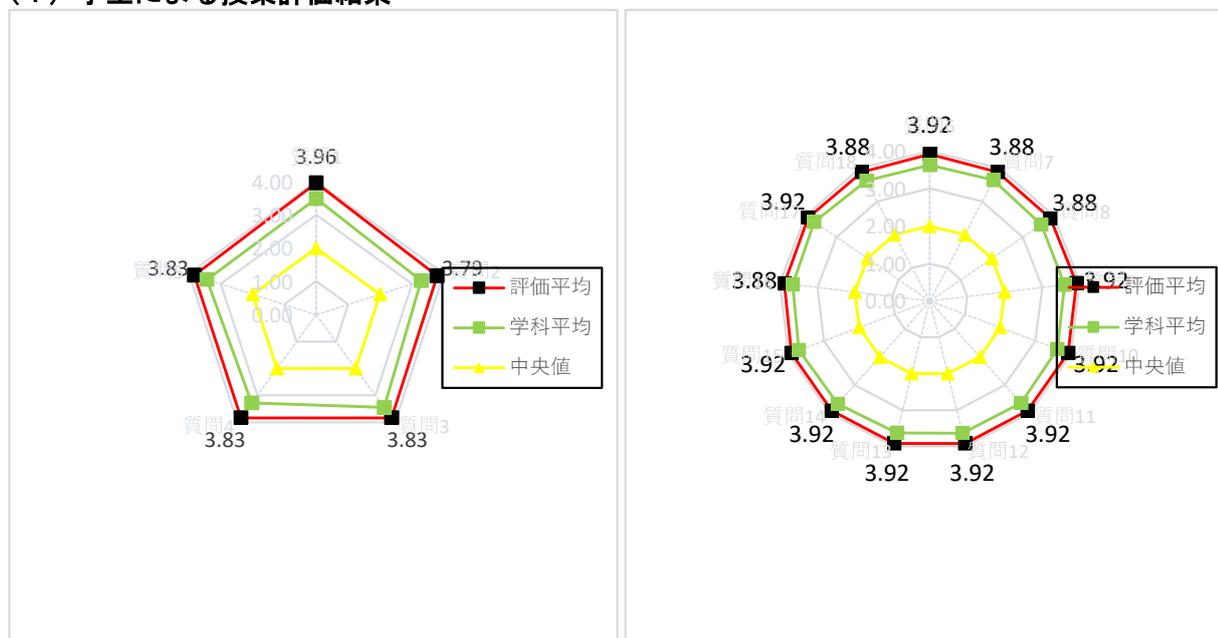
(3) 次年度に向けての取り組み

今回の授業評価では概ね良好であったことから、これまでと同様に下記の内容を中心に実習を展開していく。

- ①授業の理解のための自己工夫としてこれまでと同様に実習カードを事前に配布し予習させ、実習後は家庭で必ず再実習を行なうなど、実習前後は、家庭学習が出来るよう指導する。
- ②学生の学習意欲、技術能力、生活環境により個人差が大きいため、技術能力を習得させるだけでなく、グループ実習を通し、積極性、協調性、指導力、マナー等も併せて学ばせる。また、人間形成の場として互いに学びあいながら、実践実習が出来るよう、指導していく。
- ③包丁扱いなど調理技術の向上努めると同時に大量調理へスムーズに展開できるように訓練していく。
- ④説明時間の配分を工夫し、ポイントをおさえながら授業を進めていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		給食経営管理論	24名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

授業の総合評価は3.88であった。質問6～18のすべての項目について学科平均よりも評価が高く約9割が評価4.0であった。

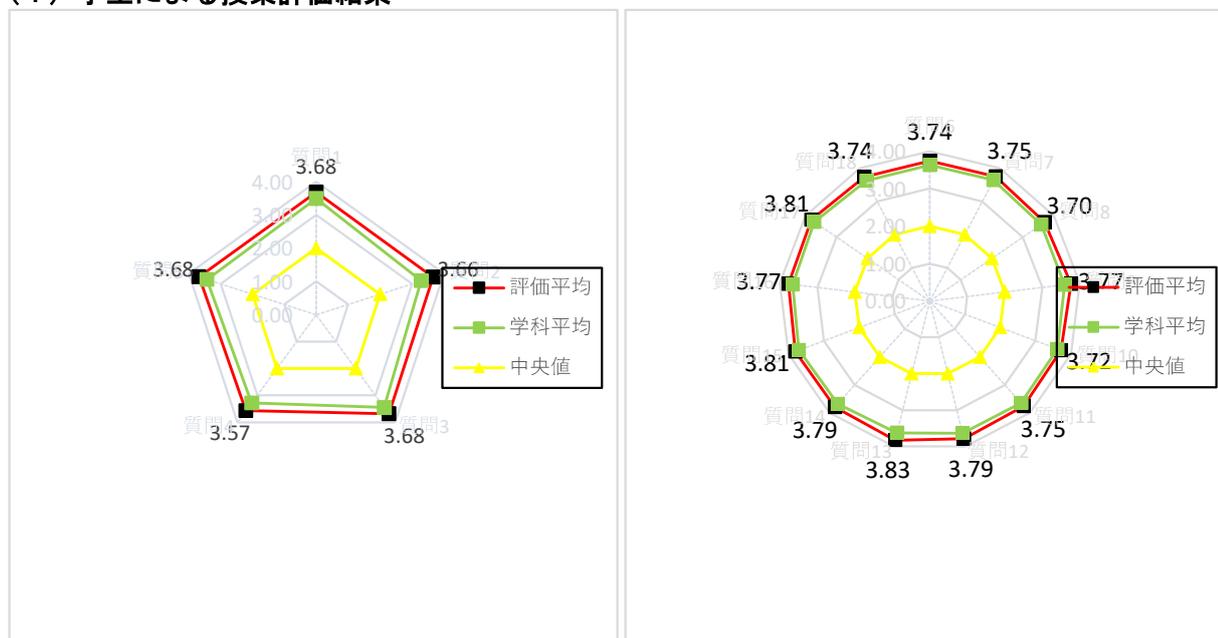
(3) 次年度に向けての取り組み

今年度の受講生は欠席をせず、授業中も私語や居眠りをする事なく非常にまじめであった。これは質問1～5の評価結果からも明白である。自由記述には「栄養士になるにはマーケティングなども知る必要があると思いました」「給食施設では特に衛生管理が徹底されていることが分かり、今まで食べてきた給食の裏側でどんな努力がなされているのかを学ぶことができた」「多くの制限の中で安全な給食が完成されていることがわかった」「給食について施設別の業務内容を学ぶことができてよかった」「小学校や中学校の給食室を思い出しながら授業を受けた」などの意見があり、実際見たり、食してきた給食と授業とを関連づけながら学ぶことができていたようである。

授業の内容については「無駄のないシンプルで分かりやすい授業でした」「話すスピードは速すぎず遅すぎずで聞き取りやすかったです」との評価であったため来年度も継続していこうと思う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		給食管理実習 I	53名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

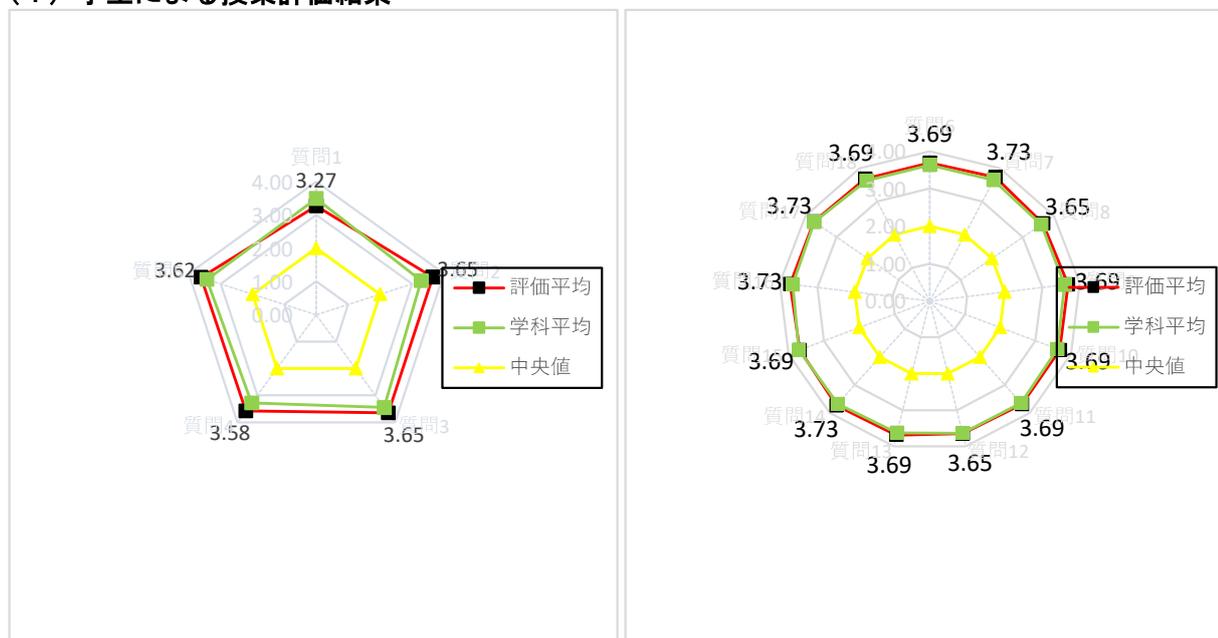
本授業について、ここに示された評価は、1年生と2年生の分の平均値となっている。この授業は1年を通して実施するものだが、この評価者は1年生と2年生は同一ではないため、結果を分けて評価をする。1年生の授業の総合評価は3.75であった。2年生の授業の総合評価は3.72であった。質問6～18について、1・2年生共に学科平均を上回っており、ほとんどの質問項目で約8割が評価4.0であった。この結果から、本授業の教育指導法は概ね高評であったと思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

本授業は1年を通して実施する授業ではあるが、1年後期と2年前期で行う授業内容は異なっている。1年後期は、給食の運営に関する講義（演習）と西九州大学附属三光幼稚園での実践実習、2年前期は1年後期に学んだことをベースとして学内給食を実践することを目的としている。講義と実践では学生の学習意欲、理解度もかなり異なってくるが、例年、学生からの評価は比較的よい。このことから授業そのものはおおむね上手く展開できているのではないかとと思われる。次年度は留学生在が複数名受講する予定となっているため、留学生にも分かりやすい授業方法を検討していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		給食管理実習Ⅱ	29名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

この授業は2年後期に開講される。栄養士として即戦力を高めるために必要な調理技術等を習得させる基礎調理である。既に1年次に日本料理と西洋料理を修得している。初回の授業では中国料理の特徴と特殊素材、特殊器具の説明を行った。技術を習得させるために、材料の特殊な切り方や調理操作が理解できるように出来る限りデモンストレーションをおこないながら授業を進めていった。結果は学生自身のQ1～4までのあなた自身の授業参加態度は3.52～3.76の評価であったが、総合自己評価は3.55と低かった。授業内容・方法においては全ての項目で3.55～3.79で、授業の総合評価は3.66であったことから、概ね満足している授業であったことが伺えた。学生のコメントは特になかった。

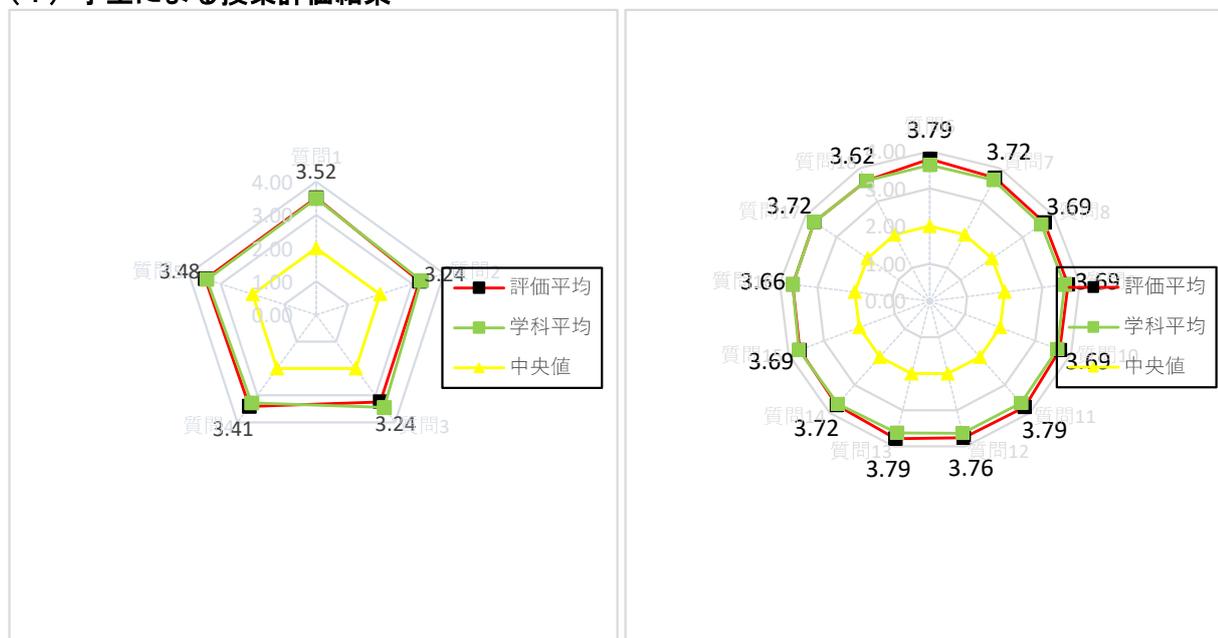
(3) 次年度に向けての取り組み

今回の授業評価では概ね良好であったことから、これまでと同様に下記の内容を中心に実習を展開していく。

- ①授業の理解のための自己工夫としてこれまでと同様に実習カードを事前に配布し予習させ、実習後は家庭で必ず再実習を行なうなど、実習前後は、家庭学習が出来るよう指導する。
- ②学生の学習意欲、技術能力、生活環境により個人差が大きいため、技術能力を習得させるだけでなく、グループ実習を通し、積極性、協調性、指導力、マナー等も併せて学ばせる。また、人間形成の場として互いに学びあいながら、実践実習が出来るよう、指導していく。
- ③包丁扱いなど調理技術の向上努めると同時に大量調理へスムーズに展開できるように訓練していく。
- ④説明時間の配分を工夫し、ポイントをおさえながら授業を進めていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		社会の理解 I	39名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

29/38 (76.5) の回答であった。

学生による授業評価結果は、概ね学科平均と変わらなかったが、質問3・4については平均を下回っていた。その理由としては、本科目が日本の社会保障などの制度を対象とするため、やや難易度が高かったことが挙げられると考える。

また、介護福祉士の国家試験に対応するため制度論が中心となるなり、学生にとっても難しく感じていると思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

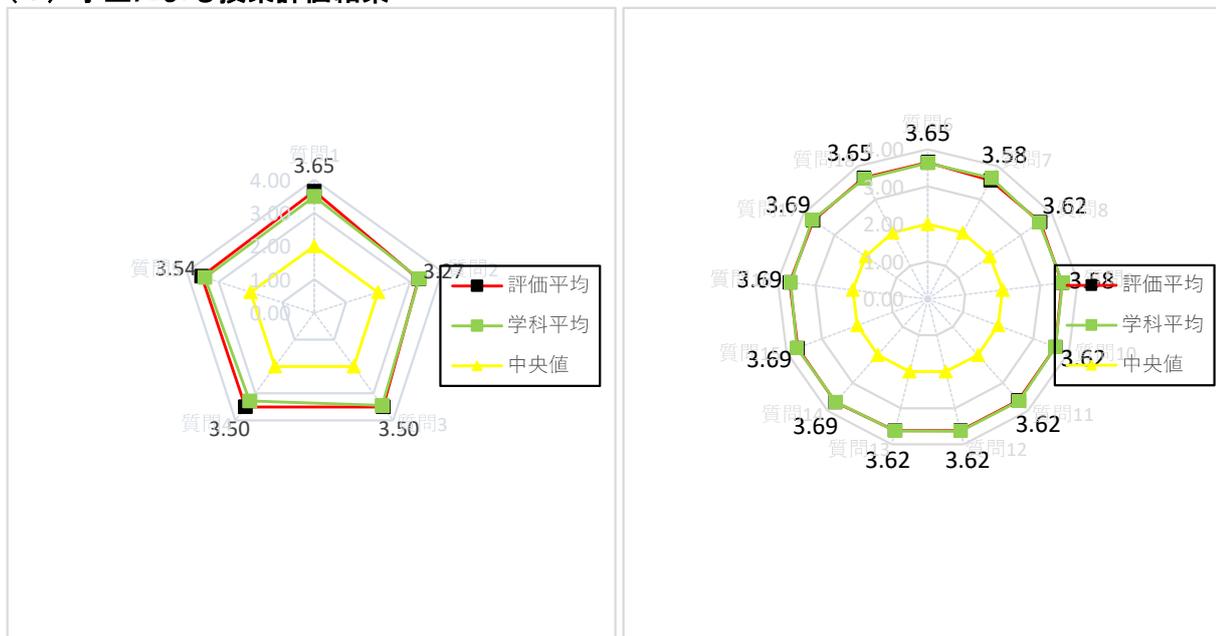
自由記述などにおいては、「映像教材が良かった」「難しかった」などの感想があった。

担当教員としても、国家試験に出題される科目であり、かつある程度の理解や暗鬼が求められるため、広範囲でテンポよく授業を展開することを意識していた。しかしながら、特に留学生にとっては、それが難しく感じてしまう理由になったと思われる。日本人の学生は、あまりゆっくりと進めると退屈に感じてしまうため、その辺りにジレンマを生じている。

そのため、次年度以降においては、国家試験に対応できるポイントを押さえつつ、留学生にとってもわかりやすい内容やスピードとなるよう工夫したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護総合講座	39名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

学生自身への評価はシラバスの活用について2や1を付けた学生が15%ほどいた。教員に対しての評価は4が60%ほど3が49%弱であり、2や1の評価はなかった。中でも低かったのは目標の明確さと分かりやすさであった。

自由記述では、わかりやすく工夫してよかった、介護の事を考えて教えていると思います。面白いけどちゃんと勉強しないといけないと思う等の記述があった。

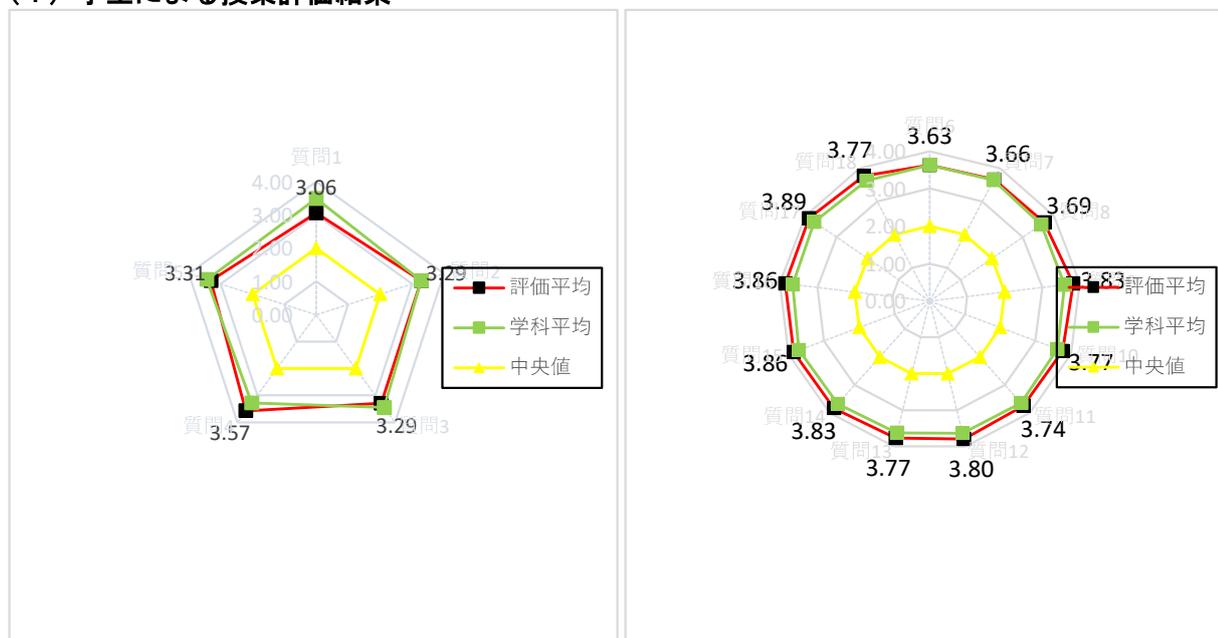
質問がない項目への回答も10名見られた。

(3) 次年度に向けての取り組み

より、わかりやすく説明を行う工夫をしていく。きちんと勉強できるように指導していく。きちんと問題をよんでアンケートにこた減るように促す。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護総合講座	37名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

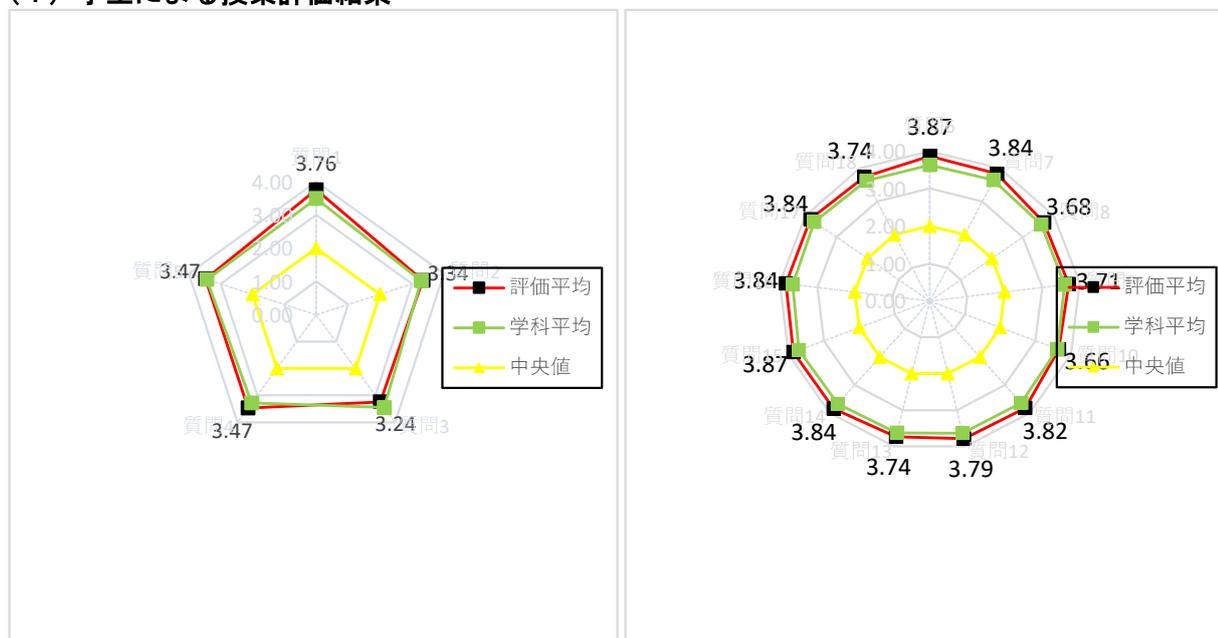
学生自身に対する評価では多く欠席した学生がみられた。カリキュラム外で行っている国試対策講座の方も評価しているのだと思われる。多く欠席した学生は国試で点数が取れていない傾向もあった。教員に対する評価は1人が2をつけていた。8割～9割が4の評価ではあった。自由記述には何も記入がなかった。事後のアンケートでは、国試に5年前以前の過去問の内容がみられたとの記述もあった。

(3) 次年度に向けての取り組み

2023年度から科目を固定化した。2024年も固定化し、国試対策講座をこの科目の中で行い、より出席するように誘導していく。過去問についての説明も少し範囲を広げていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護の基本 I A	39名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

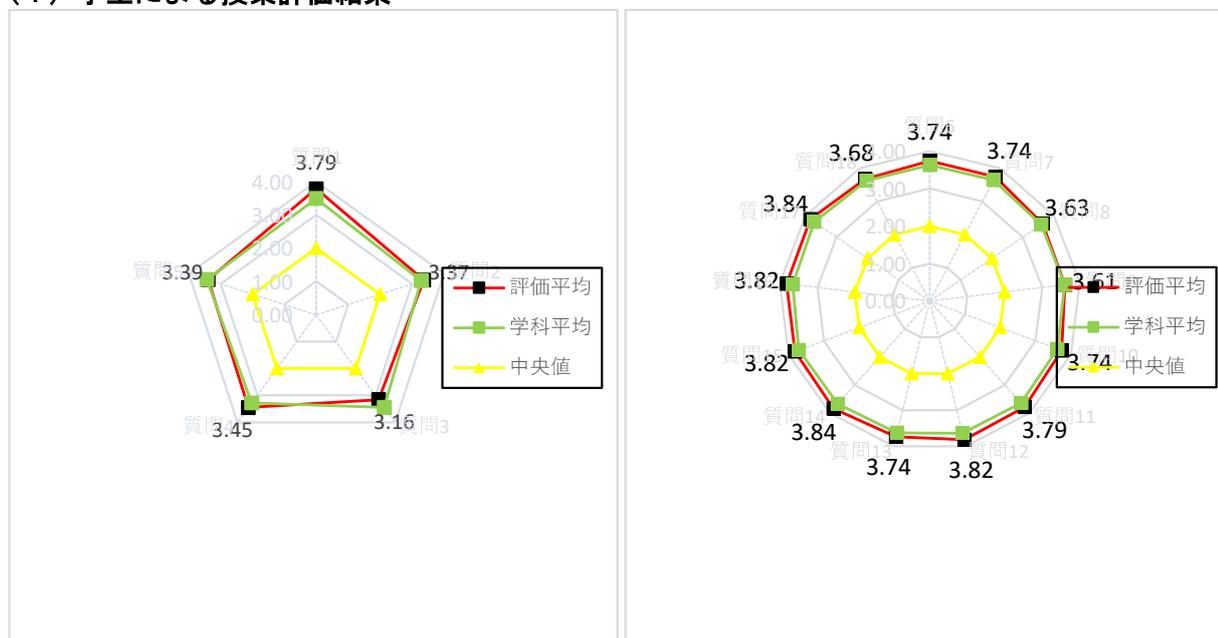
この科目は1年前期に開講され、介護全般の基本を学ぶ。特に I A では介護福祉の歴史や基本理念を学ぶ。学生の授業参加度については、学科平均を下回っている項目が多く、上回っている項目は、質問1「授業の欠席」のみであった。評価が一番低かったのは、質問3「授業中に居眠り・私語」であった。しかしながら、授業全体的において目立った居眠りや私語は多くなかった印象であるため、真剣に取り組めない時間があつたことの反省が含まれているのではないかと考える。授業内容および教員の対応については、学科項目を下回ったのは、質問8「興味関心が持てる工夫」1項目のみであった。学科平均を上回ったのは、質問6「シラバスの説明」と質問7「授業の到達目標の明示」であった。これらの項目の評価が高かったのは初めてのことであった。また最も評価が高かった項目の1つにであった。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業内容が介護福祉の歴史や基本理念であることから、留学生には難しく感じることもあると考える。母国の時代背景を合わせて説明したり、興味・関心が持てる授業を工夫していきたい。評価が高かった質問6「シラバスの説明」質問15「公平な対応」においては、引きつづき高評価をいただけるよう努めたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護の基本 I B	39名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

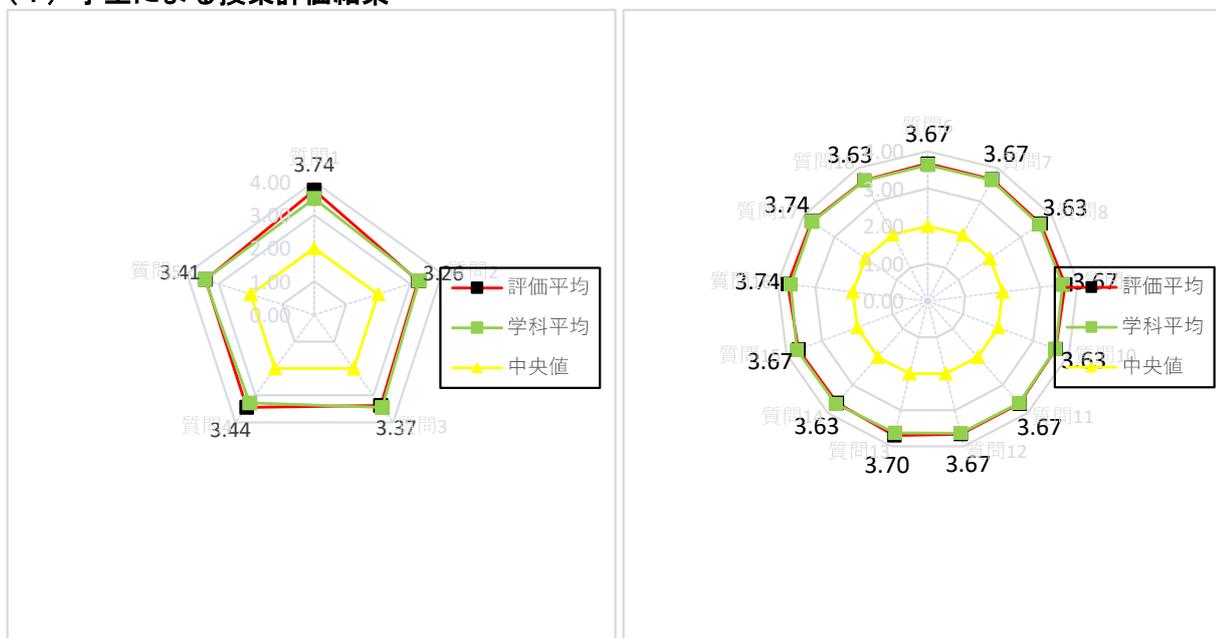
この科目は1年前期に開講され、介護全般の基本を学ぶ。特に I B では介護福祉士の役割と機能、職業倫理を学ぶ。学生の授業参加度については、学科平均を下回っている項目が多く、上回っている項目は、質問1「授業の欠席」であった。評価が一番低かったのは、質問3「授業中に居眠り・私語」であった。しかしながら、授業全体においても目立った居眠りや私語は多くなかった印象であるため、真剣に取り組めない時間があつたことの反省が含まれていると考える。授業内容および教員の対応については、学科平均を下回ったのは、質問8「興味関心が持てる工夫」質問9「授業を分かりやすくする工夫」であった。学科平均を大きく上回ったのは、質問12「声の大きさ・明瞭さ・話す速さ」であったが、評価が最も高かった項目は、質問14「学生の質問等に誠実に対応」であった。学生に誠実さは伝わっているものの、もっとわかりやすく興味を持てるような授業のが求められており、工夫が必要である。

(3) 次年度に向けての取り組み

この科目は、介護保険や法律の内容が多く出てくるため、留学生には特に難しく感じるのではないかと考える。もっとわかりやすい事例を用い、理解しやすく興味を持てる授業にしていきたい。評価が高かった質問12「声の大きさ・明瞭さ・話す速さ」と質問14「学生の質問等に誠実に対応」においては、引きつづき高評価をいただけるよう努めたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護の基本ⅡA	39名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

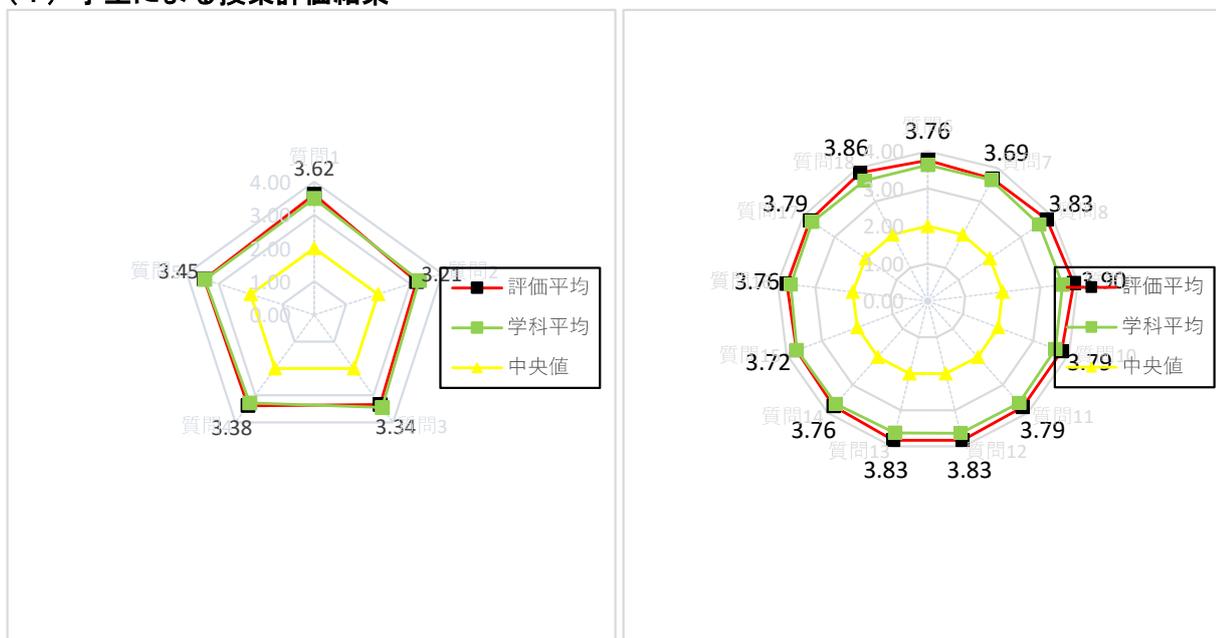
おおむね学科平均と同様の評価となった。
 質問1、授業の欠席回数については、学科平均より高い結果となった。
 欠席の理由としては、体調不良等、仕方ない理由での欠席であった。
 自由記述アンケートでは、「授業を理解するために分かりやすい工夫があり大変良かった」との記述がみられた。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生が欠席した場合でも、授業を録画し、学生が授業を見返せるようにし、学生の学びが遅れないように、また学びが促進されるように工夫していく。
 また、「授業を理解するために分かりやすい工夫があり大変良かった」との記述も見られたため、現状の工夫を継続して取り組んでいく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護の基本ⅡB	39名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

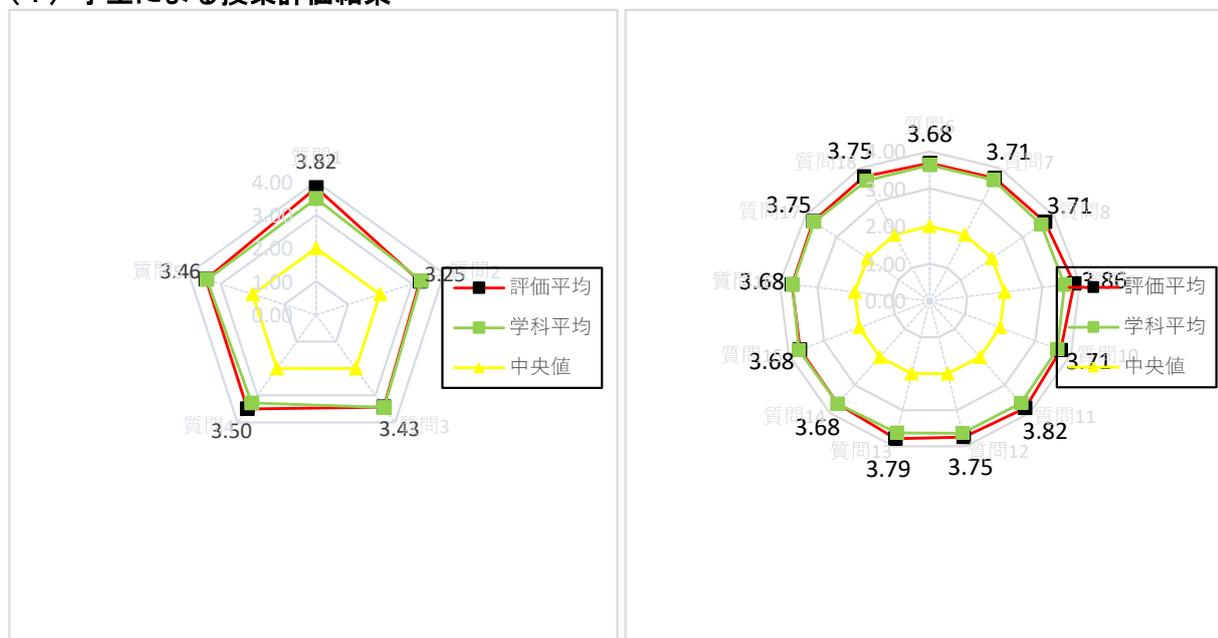
全体的には、概ね学科平均値と同等程度の評価である。ただ、自己評価の中の質問2「シラバスの活用」は、学科平均よりやや低い数値である。これは、学生側に原因があると言うよりも、教員の指導不足だったと言える。毎年、初回の授業でシラバスの説明を行う際、シラバスをプリントアウトするか、もしくは、すぐに確認できるよう準備するようにはしているものの、実際授業ごとに教員がそれを促すことはしていなかった。初回授業に言われただけでは、十分にシラバスを活用することは難しいのではないだろうか。教員に対する評価は、ほぼ学科平均値と同様である。本科目は介護福祉士養成の指定科目であり、学生から、毎年「難しい」「覚えることが多い」などの意見が出る。さらに、受講者の半数以上は留学生であるため、話すスピードはもちろん、言葉や文章の意味をできるだけ学生に伝わるように解説するなどしていた。質問9「分かりやすくする工夫がされていたか」が高い値だったのは、そのことが評価されたものだと捉えられるのではないだろうか。

(3) 次年度に向けての取り組み

本科目は、介護福祉士国家試験の問題にも多く出題される内容を学習するものであり、介護福祉士を目指す学生には、しっかり習得してほしい内容が非常に多い。日本人でも、難しいと感じる内容であるが、受講者の半数以上が留学生であることを踏まえ、これまで同様、分かりやすい説明を心がけ、学生の理解度を確認しながら授業を行いたい。ただ、その分授業の進行速度が若干遅くなることがあり、1回の授業内容（ボリューム）を再考する必要があるとも考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護の基本ⅢA	39名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

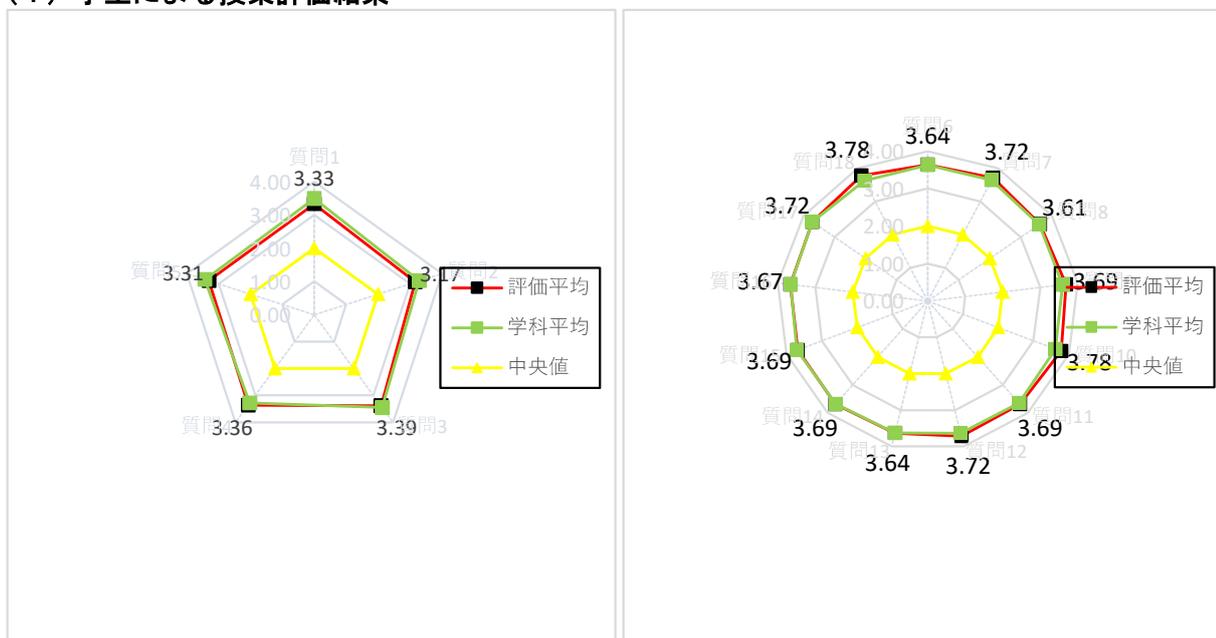
評価は、学科平均とほぼ同等の数値だった。質問1～5の評価数値も良く、学生自身の満足度も高い授業だったことが推測される。教員への評価も特に低い数値はなく、概ね学生の理解を得ることができたのではないだろうか。また、自由記述には、「授業を理解するためにわかりやすく工夫して教えてもらったことが大変良かった」、「介護の基本を勉強して、日常性kつを小さいところまで無視せず気づくようになると思う」という記述があり、受講者の中に、この科目を学ぶことの意義まで考えることができた学生がいたことがわかった。授業の中で、繰り返し伝えていたことを、自身の日常生活まで落とし込んで理解しようとする学生がいたことは、今後の授業内容を考えるうえで、大きな励みとなる。同時に、学生が授業を十分に理解するためには、十分な授業準備が必要であることも改めて実感した。

(3) 次年度に向けての取り組み

今回の評価は、全体的に概ね高い評価であった。しかし、本科目の内容は、介護福祉士国家試験の問題にも多く出題され、毎年、不正解になる問題（項目）も多い。そのことから、実際には、本科目の受講者の中には、授業内容を十分に理解できなかった学生も少なくないと推測している。ある程度学力のある学生と、そうではない学生がいることを考慮して、授業の進め方を再度考えていきたい。できれば、理解度別にグループ化して学生同士で教え合うスタイルを取り入れるなど、新たな授業方法で、理解不足の学生がいないよう工夫したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護の基本ⅢB	36名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

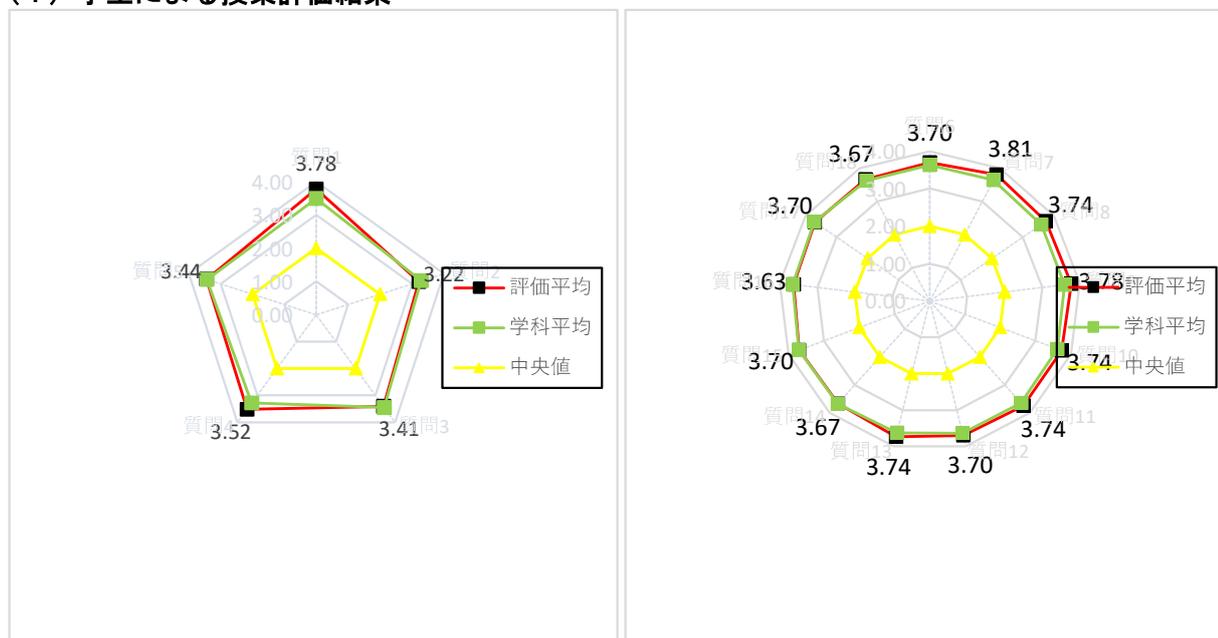
評質問2のシラバスの活用、質問4の学生自身の授業を理解するための工夫については学科平均より率い結果となった。
留学生も多く、十分にシラバスの活用方法について説明が不足していたことが原因であるとする。

(3) 次年度に向けての取り組み

シラバスの活用については、シラバスの目的や活用方法について学生が理解できるように説明を行っていく。
また、学生自身の授業を理解するための工夫については、学生が積極的に学べるように、なぜこの科目を学ぶ必要があるかを学生がイメージできるように説明し、学習動機を高めていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		コミュニケーション技術 B	39名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

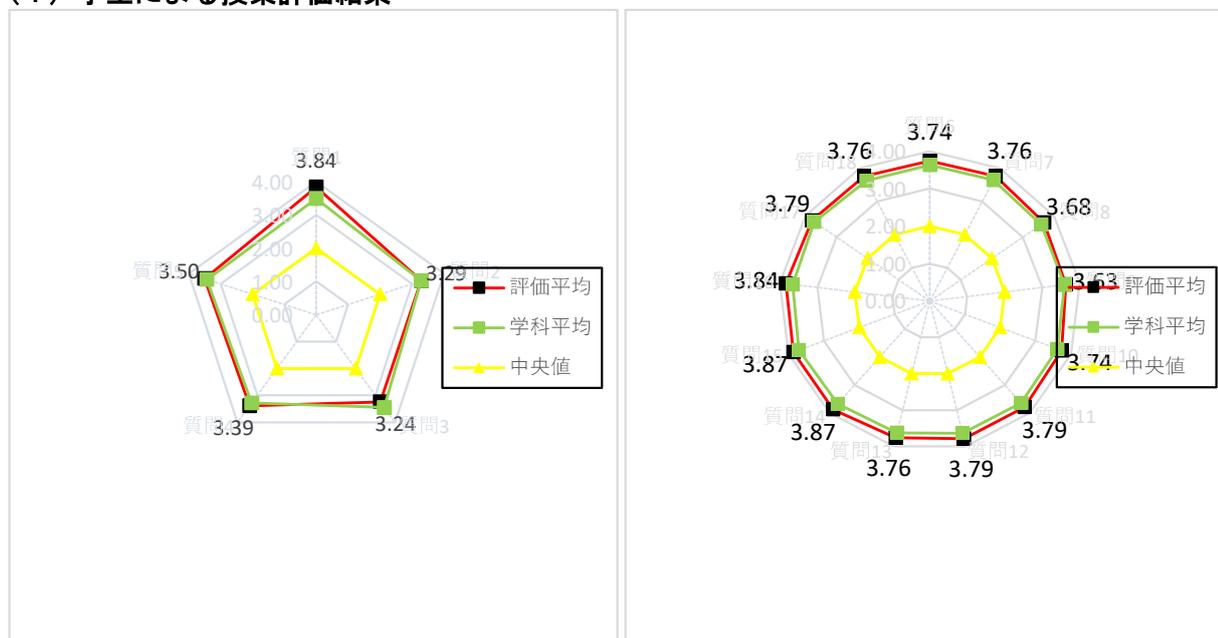
この科目は、二人の教員が授業を半分ずつ担当している科目である。
 質問14、15、16、17については、学科平均よりやや低い結果となったが、ほとんどの学生は、4の評価をつけていた。
 留学生も多いクラスのため、授業時に理解度の確認を行いながら進めていったが、十分に理解度の把握や質問の促しできていなかったと考える。
 反面、質問7、8、9については、学科平均より高い結果となった。
 学生は、目標を明確に授業が展開され、興味・関心をもてる工夫やわかりやすい工夫がされていると感じていた。
 授業では、学生がより理解しやすいような説明や図やイラストを活用した資料作成等を心がけていたことがこの結果につながったと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生の理解が促進されるように質問しやすいような雰囲気づくりや授業後も質問できるようにLINEやTeamsを活用していく。
 評価が高かった、項目については、今後も継続した取り組みや学生の声を聴きながら、さらに理解しやすいように工夫を行っていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		生活支援技術A	39名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

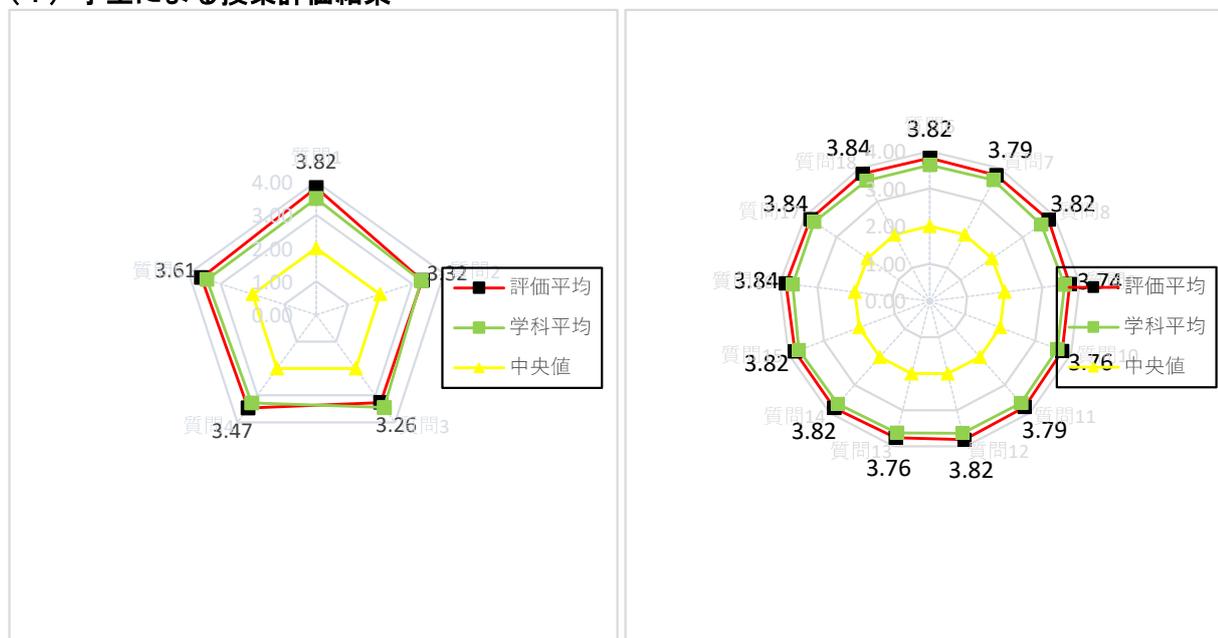
この科目は1年前期に開講され、生活支援技術Bと連動して展開し、介護技術の理論的な内容を理解する授業である。学生の授業参加度については、学科平均を下回っている項目が3項目あり、上回っている項目は、質問1「授業の欠席」のみであった。評価が一番低かったのは、質問3「授業中に居眠り・私語」であった。しかしながら、授業全体にわたって目立った居眠りや私語は多くなかった印象であるため、真剣に取り組めない時間があったことの反省が含まれていると考える。欠席も少ない授業であった。授業内容および教員の対応については、学科平均を下回ったのは、質問8「興味関心が持てる工夫」質問9「授業を分かりやすくする工夫」であった。学科平均を上回ったのは、質問14「質問等に誠実に対応」質問15「公平に対応」の2項目であり、それらは、最も評価が高かった項目でもある。介護技術の基本的な手順やチェックリストなどの確認事項を含めた授業であるため、質問8・質問9の評価が低すぎる印象が残る。私の担当する他の科目と同じようなイメージになっているのかもしれない。

(3) 次年度に向けての取り組み

それぞれの介護技術の実技に入りやすいよう基本的なことをわかりやすく説明してきたが、高い評価は得られていない。動画や実際の道具等を用い、もっと理解しやすく興味を持てるような授業を考えたい。評価が高かった質問14「質問等に誠実に対応」質問15「公平に対応」の項目においては、引きつづき高評価をいただけるよう努めたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		生活支援技術B	39名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

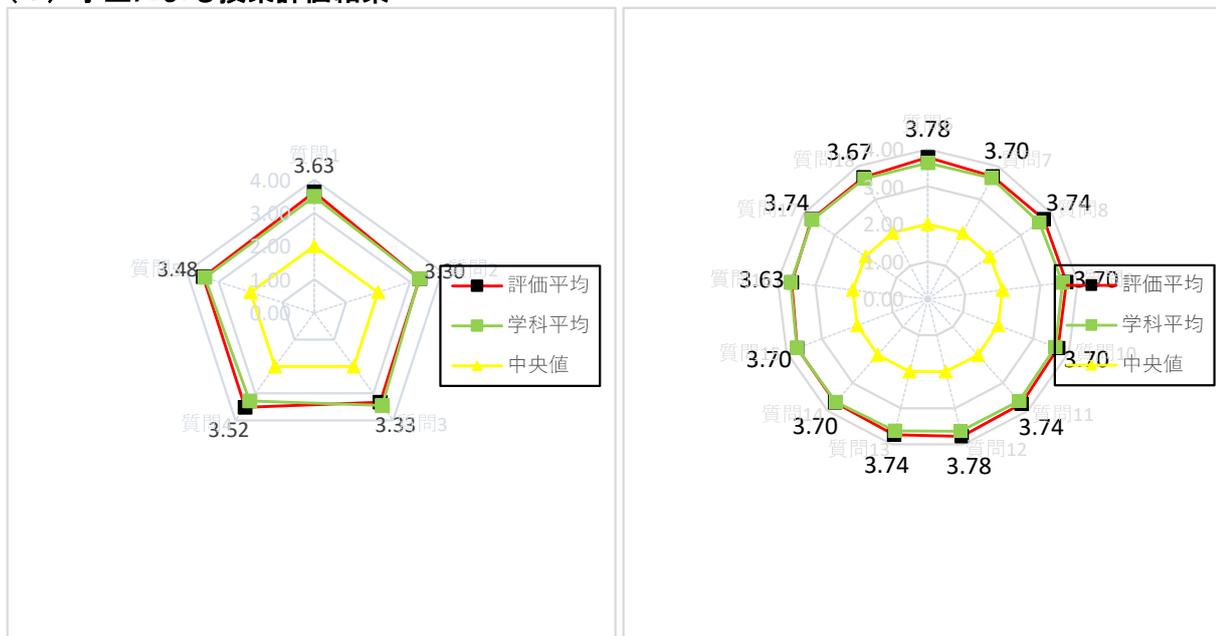
本科目は、事前に得た介護技術の知識を演習を通して体得する授業である。その内容は、移動、移乗、食事、衣類着脱、入浴、排泄等、介護技術の基礎の多くをグループ演習を通して学ぶが、座学とは異なり実際に体を動かしての学習ということもあり、学生は積極的に演習に取り組んでいた。ただ、質問3「授業中に居眠り・私語等をせず真剣に取り組んだか」は、学科平均よりも低い値である通り、学生の中には、授業に関係のないことを話す学生もいたのは確かである。演習は、要介護者と介護者役になって行うため、会話は欠かすことができない。私語と演習上必要な会話との線引きが難しいと感じることも多い。

(3) 次年度に向けての取り組み

本科目は、授業のほとんどが演習中心で行い、介護実習室の準備、後片づけを含めて、介護技術の必要な知識と技術を結び付ける重要な科目と考えている。学生らも、その点については同じ認識で受講しているものと考えている。ただ、授業形態が演習の場合、授業に必要な話なのか、単なる私語なのかをはっきりさせることは重要である。今後は、学生への指導を徹底したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		生活支援技術C	39名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

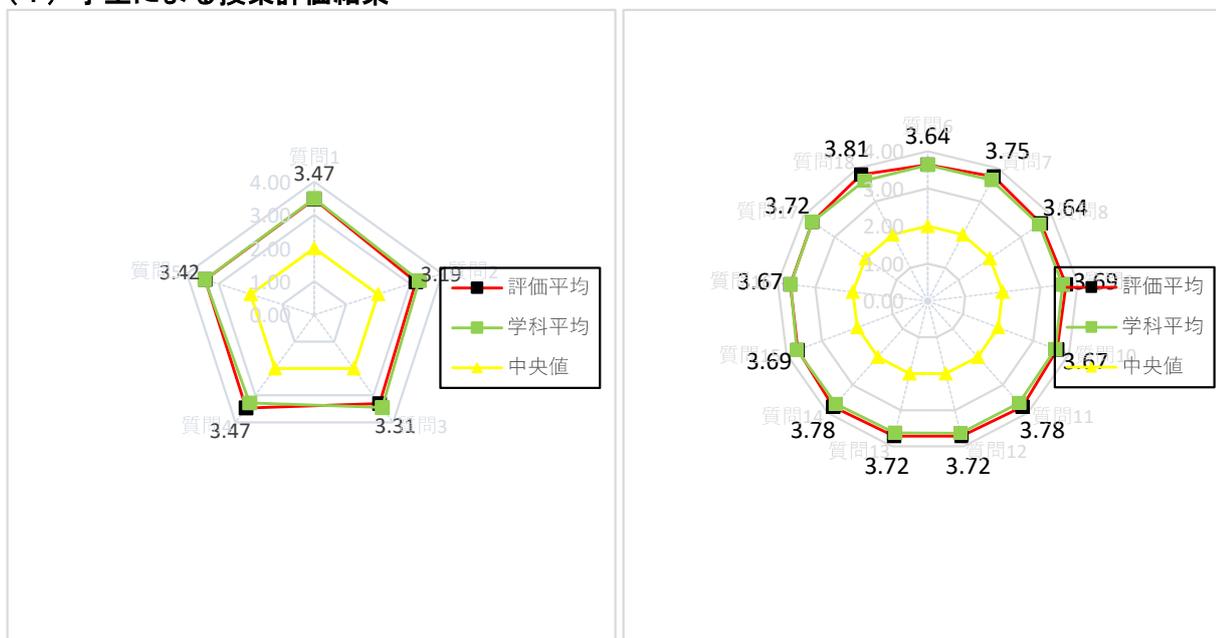
授業評価はおおむね学科平均と同様の結果となった。
 質問15、16については、学科平均よりやや低い結果となった。
 本科目は、介護技術を学ぶ実技系の科目である。40名近くの学生を教員一人で担当している。
 全体が理解できるように授業には、動画を活用した説明等も行った。各班をまなりながら、個別に指導を行っていったが、説明に時間がかかり、全体を平等に指導できなかったことが、今回の結果につながったと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

評価の低かった項目については、動画の活用を継続していく。教員一人では十分に指導できない面に関しては、必要に応じ理解度の高い学生の協力を得ながら学生双方の学びを促進していく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		生活支援技術G	36名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

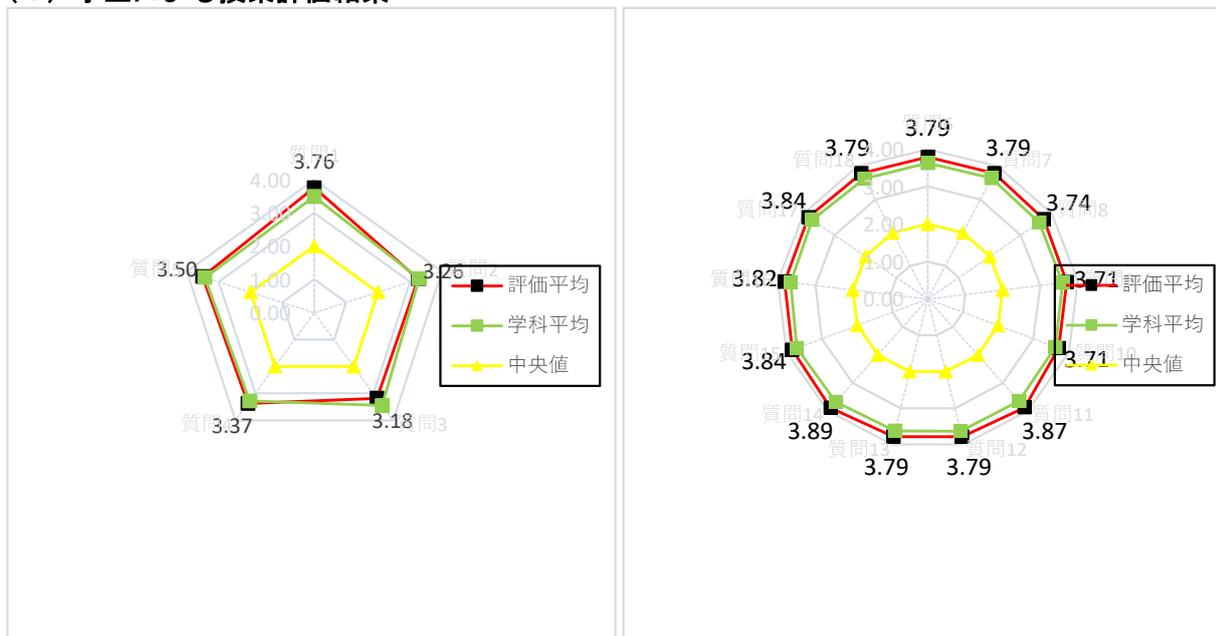
学生の自己評価では欠席、シラバスの活用の項目に対しが15%が低く評価をした。教員への評価では双方向的なやり取りに一人2の評価が付き、自由記述では、良かった、楽しかったとの記述があった。

(3) 次年度に向けての取り組み

資格に影響し、命に係わる授業でもあるので、欠席がないように頻回に指導する。さらに双方向的なやり取りを行う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護過程 I	39名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

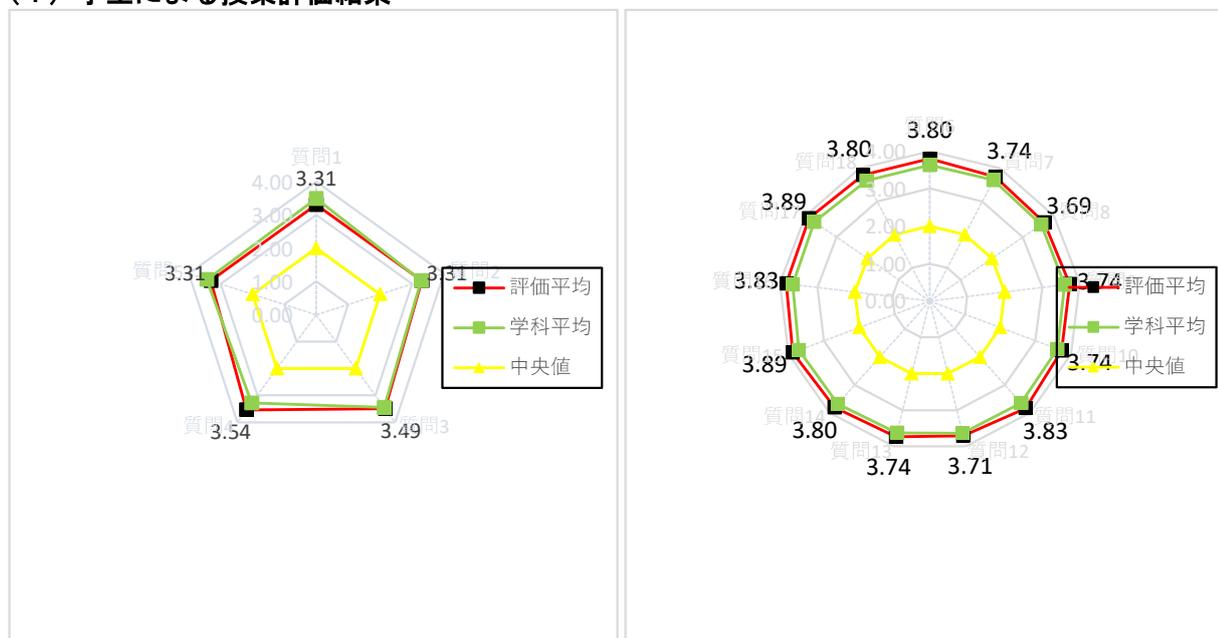
この科目は1年前期に開講され、介護福祉の知識や技術を実際の利用者支援に向けてどのようにいかしていくかを考える授業である。学生の授業参加度については、学科平均を下回っている項目が3項目あり、上回っている項目は、質問1「授業の欠席」のみであった。評価が一番低かったのは、質問3「授業中に居眠り・私語」であった。しかしながら、授業全体にわたって目立った居眠りや私語は多くなかった印象であるため、真剣に取り組めない時間があったことの反省が含まれていると考える。授業内容および教員の対応については、ほとんどの項目において学科平均を上回っている。学科平均を下回ったのは、質問10「視聴覚機器や板書の使い方」のみであり、質問9「授業を分かりやすくする工夫」を加えた2項目が最低評価点であった。一方、最高評価は質問14「学生の質問等に誠実に対応」であった。介護過程は、日本人でも難しい内容であるため自分なりに思考過程を理解していく必要がある。質問の機会を作りつつ、これからもわかりやすい授業を試行錯誤を続けることが必要であると考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

利用者の生活を知ることから始まり、ケアプランの評価までの流れを理解するだけでも難しい。介護過程はI～IVまで展開されているため、徐々に理解が深まっていくものではあるが、基本的なことは、はじめに理解する必要がある。一連の流れを理解するためには、多くの資料が必要となり、教科書の表をPPにするとどうしても小さくなる。資料作成も含めて今後はわかりやすい授業の構築を検討したい。評価が高かった質問14「学生の質問等に誠実に対応」においては、引きつづき高評価をいただけるよう努めたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護過程Ⅲ	36名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

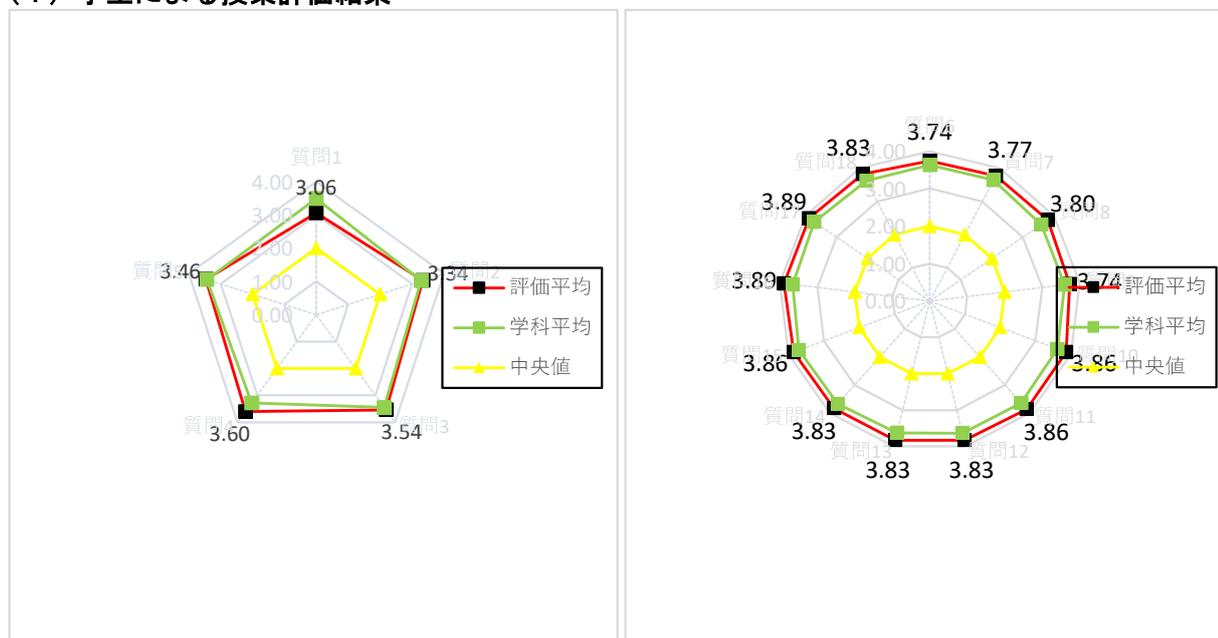
本科目は、通年開講科目で、前期は専任教員が担当し、後期は5名の外部講師が担当している。前期は、1年次に学んだ介護過程の基本を基に、介護実習で実践する介護過程の展開に向けて、事例を用いてその理解を深めている。後期は介護福祉現場で実際に実習指導や職員指導に当たる方に、介護福祉現場（5カ所：5種類の事業所や施設）での介護過程の展開の実際を丁寧に紹介・指導していただいております。学生にとっては、現実的な学びが多い授業となっている。教員に対する授業評価は、高い数値であり、自由記述には「楽しい授業だった。知識も増えた」、「介護過程の流れが1年生の時よりわかった。介護実習のためにも国家試験のためにも良い授業だと思う」というコメントもあり、学生が、ある程度授業に満足したことがうかがえる。実際、学生から、「介護過程Ⅲの授業は勉強になる」という声を聴くことは少なくなかった。学んだことが、介護実習や将来就職した際にも役立つことがわかっているだけに、学生は興味深く受講していたのではないだろうか。

(3) 次年度に向けての取り組み

現在の授業スタイルは、学生に好評であるため、次年度も続けたい。特に、後期に介護現場の指導者の講義を受けることは貴重な機会であり、それまでの介護過程の展開の学びをより深く広く理解することにつながっている。学生の進路決定にもかなり影響があることも実感している。学生にも、どのような事業所・施設の介護過程の展開を知りたいのかを聞き取りながら、より授業内容を充実させたいと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護過程IV	36名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

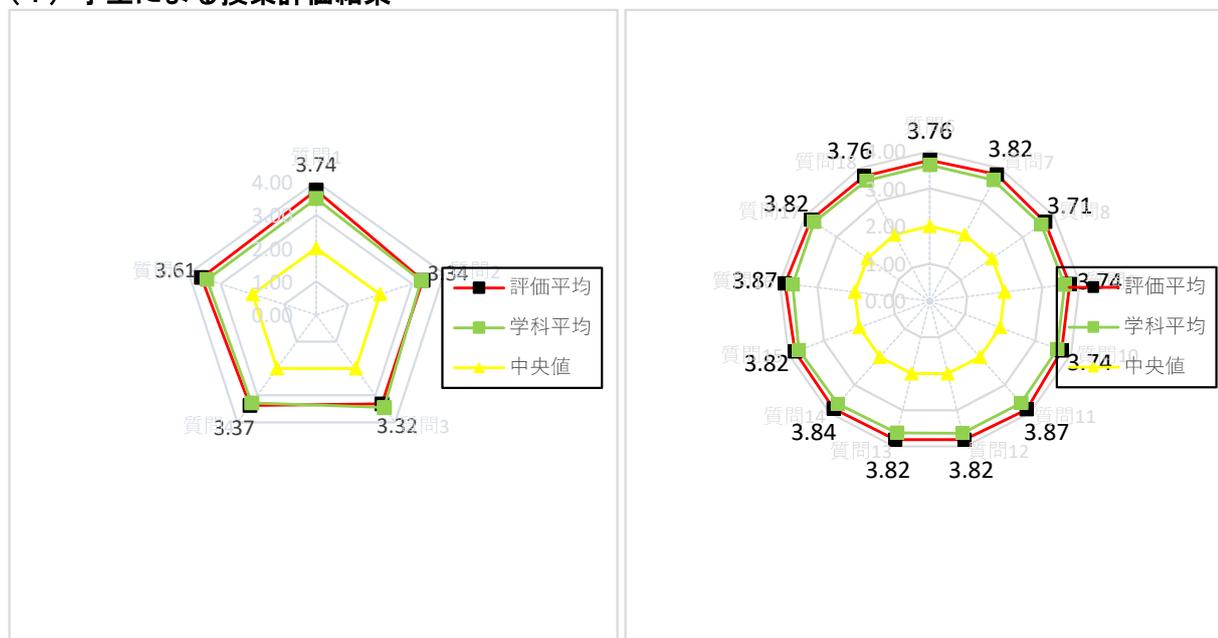
この科目は、介護過程の展開の必要性を理解し、介護福祉士としての専門性を自覚し、施設・在宅における介護計画、介護予防計画を立案することができること、また、ケアマネジメントのシステムを理解し、さまざまな場面で同職種、他職種との連携を図ることができるようになることを狙いとしている。学生は、介護実習での介護過程の立案と実践を経験し、さらに、その経験を踏まえたうえで、あらたに事例問題を通して、介護過程の展開を深く学ぶ。そのために、グループワークを多く取り入れている。そこで、様々な考え方があること、チームで連携することの重要性を学生人感じてもらいたいと考えている。自由記述の中には、「グループワークの時に、自分の意見やグループメンバーの意見をシェアすることができ、アセスメントや介護計画についてさらに考えることができた」というコメントがあったが、グループワークの後のグループ発表の際も、真剣に聞く学生の姿が多く見られ、メモをとりながら自分たちのグループの発表内容と比較・考察する様子もあった。

(3) 次年度に向けての取り組み

この科目は、1年生の前期から学んできた介護過程の展開の仕上げと言える科目である。介護実習で学生全員が介護過程の展開を実践し、その難しさと意義を実体験の中で感じたうえでの学びである。介護実習で学んだそれぞれの経験を基に行うグループワークは、個々の発言に自信を持ち、同時にグループメンバーの意見にも共感し、介護実習に行く前のそれとはまた異なる雰囲気、ディスカッションも活発であった。今後もこの方法を取り入れた授業を行いたいと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護総合演習 I	39名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

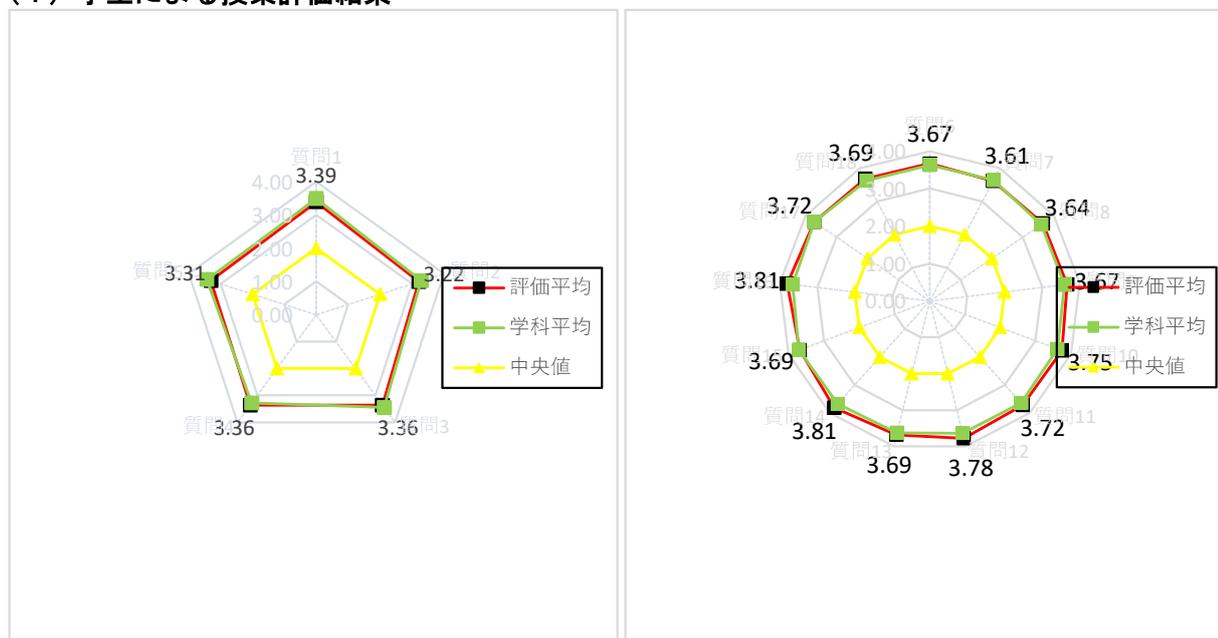
この科目は、介護実習の指導と他科目での学びの統合化を行う科目である。学生の授業参加度については、学科平均を下回っている項目が多く、上回っている項目は、質問1「授業の欠席」であった。評価が一番低かったのは、質問3「授業中に居眠り・私語」であった。授業において、全体的に目立った居眠りや私語は多くなかった印象であるため、真剣に取り組めない時間があったことの反省が含まれていると考える。授業内容および教員の対応については、すべての項目において学科平均を上回っている。特に評価が高かった項目は、質問11「教科書・配布資料等は役に立ったか」質問16「双方向的なやり取りをしながら、授業を行ったか」であった。一方、最も評価が低かった項目は、質問8「授業は興味・関心が持てる工夫がされていたか」であった。学生にとって貴重な体験の機会となる実習がスムーズに行えるよう、そして理解が深まるようにしていきたいと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

実習準備のための配布資料は、留学生にもわかるように準備した。そのことが高評価につながったと考える。実習準備はもちろんであるが、実習後の振り返るにつながる「介護総合演習Ⅱ」とのつながりも大事にし、実習の経験が深い学びとなるよう工夫していきたい。評価が高かった質問11「教科書・配布資料等は役に立ったか」質問16「双方向的なやり取りをしながら、授業を行ったか」においては、引きつづき高評価をいただけるよう努めたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護総合演習Ⅲ	36名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

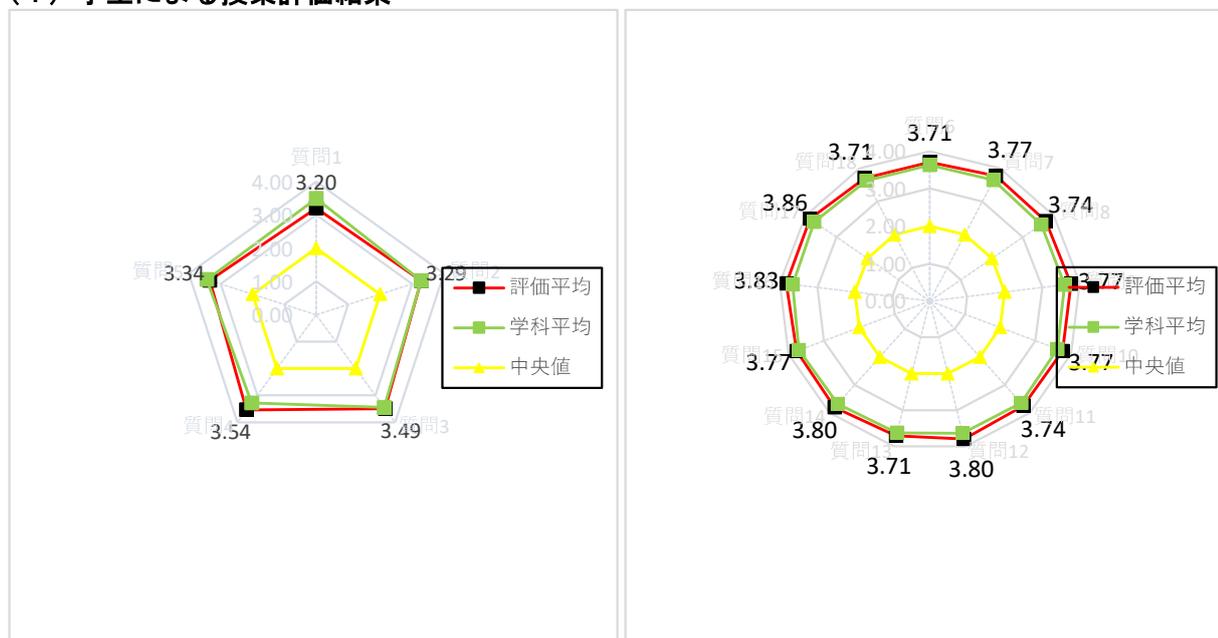
この科目では、各領域で学ぶ知識と技術の統合し、介護実習での学びを深化させるための準備を含め、介護の専門職として思考や態度についても考え、介護実数での実践にむけて、様々な視点から学習している。評価を見ると、教員に対する評価は、学科平均値とほぼ同様の評価である。一方、自己評価は、学科平均値よりも若干低い値となっている。授業の中で、実習準備としての調べ学習や書類作成を行うが、これらは自分で工夫すると言うよりも、教員に言われたことを提出期日に間に合うように作成・準備するということが多く、学生が工夫すると言う意識はほとんどないものと考えられる。また、その際、わからないことをクラスメイト同士確認する際に私語が多くなるのも事実である。特に、実習書類の作成時など、教員が、質問のある学生に対応している際、他の学生は、書類の準備が終わった者同士、関係のない話をしていることもあり、教員が注意することも時々あった。

(3) 次年度に向けての取り組み

留学生の多いクラスでの、実習の事前指導は、非常に難しいと感じることが多い。学生は、基本的に真面目に受講しているものの、日本人だとすぐに終わるような書類作成も、留学生の場合は、かなりの時間を要している。ある場面においては、日本人学生が留学生をサポートするなど、授業の進め方を再考する必要性を感じている。場合によっては、補習の時間を確保することも必要だと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護総合演習Ⅳ	36名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

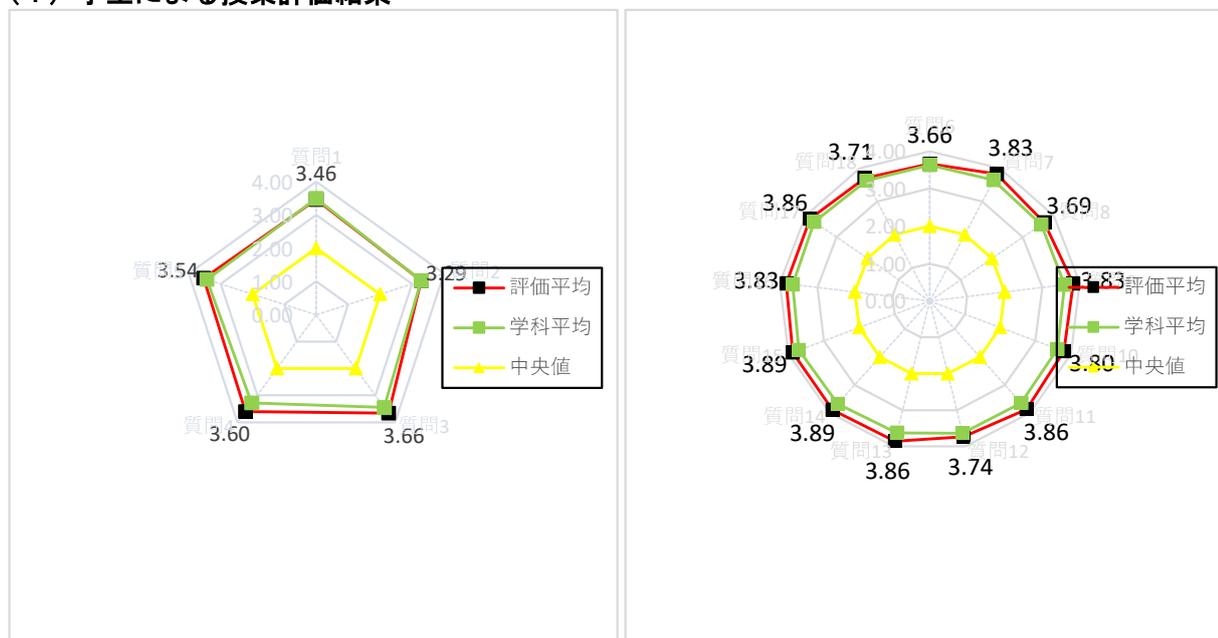
介護実習Ⅱにおける利用者との関わりを通して、利用者理解・生活支援技術の実践場面を分析し、実習目標の到達度を確認することを狙いとした科目である。また、介護実習で行った個別の介護過程の展開を事例研究としてまとめることも、この科目の重要な学習である。教員への評価は、学科平均とほぼ同様であるが、自己評価は、やや低い数値となっている。事例研究をまとめるスピードは学生それぞれ異なり、プレゼンテーションの内容にも多少の違いはあったものの、学生の受講態度は決して悪かったという印象はない。国家試験勉強の疲れ等も有ってか、欠席がやや多かったことが要因かと思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生の自己評価を上げるために、シラバスや到達目標の確認を行い、学生個々が満足できる事例研究のまとめの工夫ができるようサポートしたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護実習Ⅱ	36名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

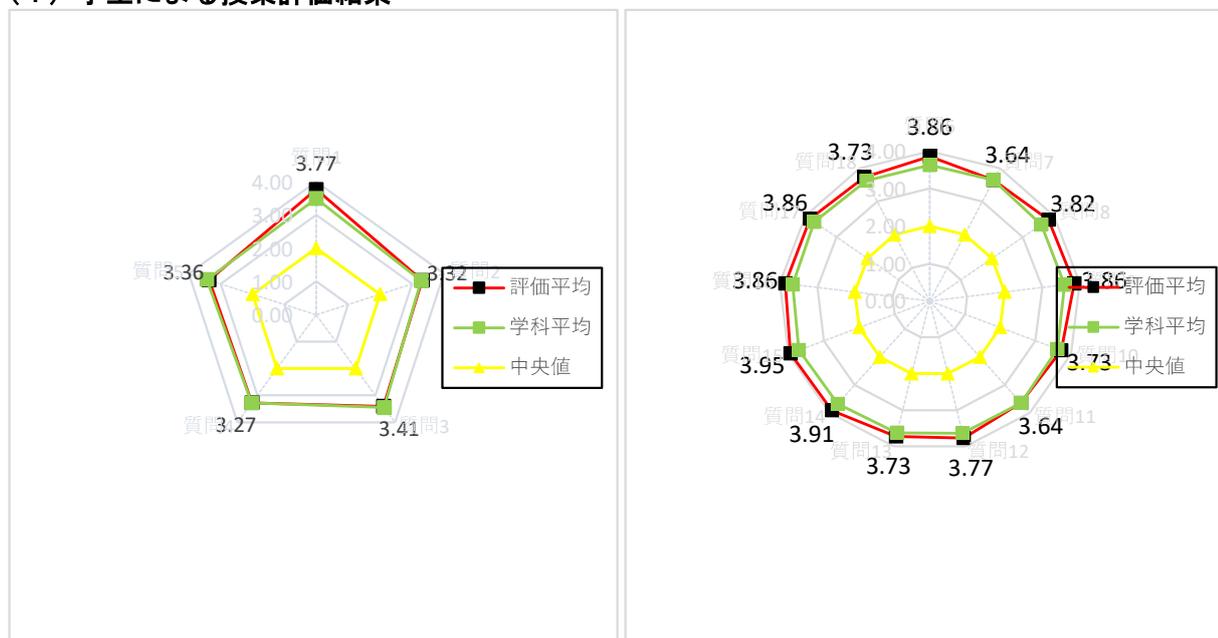
本科目は、個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれをふまえた計画の修正といった介護過程を展開することを狙いとし、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得するものである。そのため、学生自身の事前準備や実習中の態度から、学生らの頑張りを感ずることも多く、教員も学生の実習が順調に進むように個々の学生の特性に合わせ、実習指導者とも連携を取りながらサポートしていた。そのことが、自己評価、教員への評価とも、学科平均値と同等もしくは高い評価となっていると考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

留学生を含め、多様な学生が在籍しており、介護実習についても様々な対応が求められるが、今後も、実習指導者と学生についての情報を共有し、連携を密に図りながら、有意義な介護実習となるよう学生をサポートしたいと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		リラクゼーション（演習を含む）	22名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

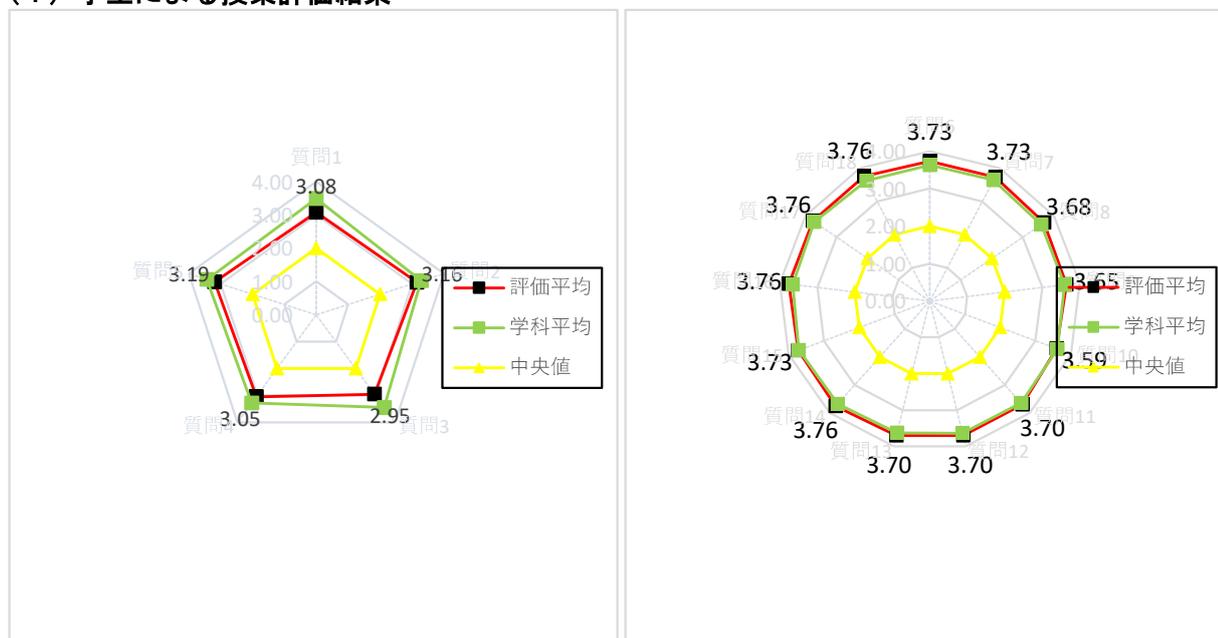
この科目は、資格取得には直接関係しない選択科目。授業はシラバスに沿いつつ、学生の意見や希望を取り入れながら実施した。教員に対する授業評価が高い数値であるが、これは、講義よりも演習（実践）を多く取り入れたことと、学生が授業自体にストレスを感じることなく、実際にリラクゼーションを実感することを重視して授業を行ったためと推測される。また、受講者は20名強であったため、学生とのやり取りも十分に行える環境であったこともその要因であろう。自由記述には、「ハンドマッサージなどを学ぶことができ、今後、実習や職場でも活かせると感じた」、「いいリラクゼーション方法を知ることができた」という肯定的意見があり、授業での学びを今後に活かしたいと考える学生がいたことがわかった。一方、学生自身の自己評価は、質問1「授業は年会欠席したか」以外は、学科平均値よりも低くなっている。リラクゼーションを体感させるための雰囲気づくりを心がけたのだが、それが逆にこの授業に対する学生自身の積極的態度に繋がらなかったのではないだろうか。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業の方向性は、今年度同様継続したい。今後も、学外授業やプレゼンテーションを組み入れるなどして単なる座学にするつもりはないが、それとは別に、学生自身の主体的行動を促すような内容を検討したいと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		人間の尊厳と自立	39名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

37/38 (97%) の回答であった。

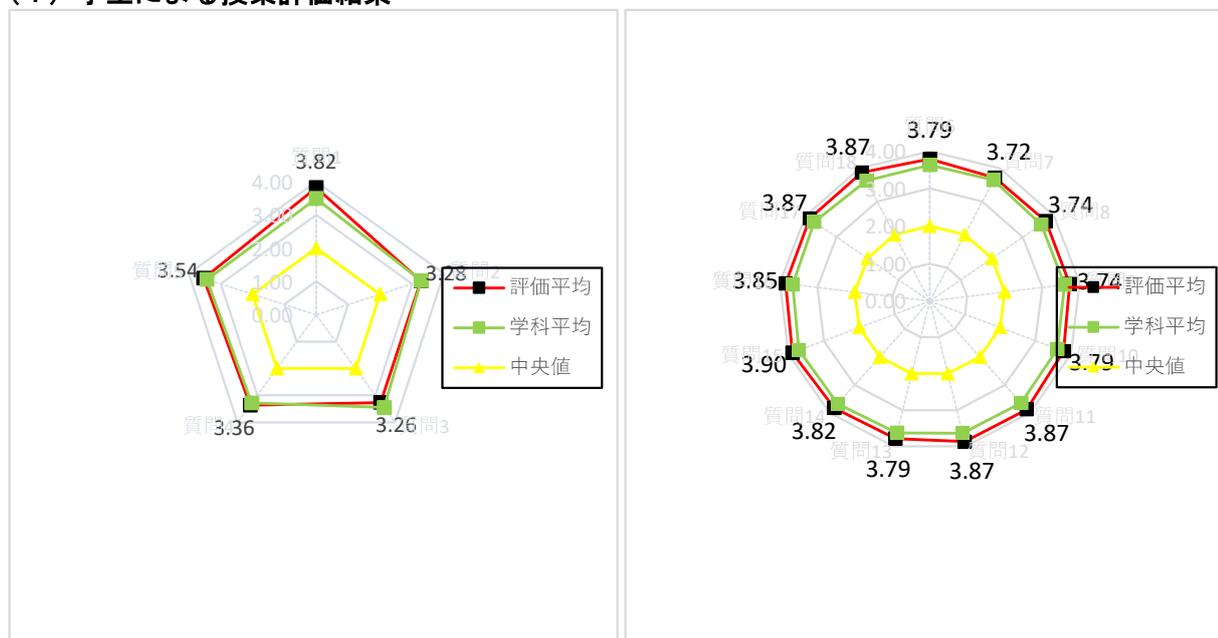
質問1～質問5において、学科平均を下回っていた。質問6～18は、学科平均と変わらなかった。本科目は、倫理や道徳を扱う科目であるため、留学生にとっては母国の文化や価値観のちがいに戸惑ったと思われる。また、言語や概念が日本固有の内容があるため、担当教員としてもいかにわかりやすく伝えられるのか苦心した。

(3) 次年度に向けての取り組み

自由記述などにおいては、「難しい内容をわかりやすく伝わった」という記載もみられた。留学生は、アルバイトを通じて、日本の介護現場を体験している。授業においては、グループワークや事例検討を通じて、介護における倫理や道徳について取り上げ、学生間でシェアを図れるように工夫した。今後の課題としては、本科目においては、日本人と留学生の授業理解のギャップがある程度あること（文化の相違）、また留学生館においても日本語力の差があることがあり、いかにグループワークや事例検討をとおしてそのギャップを少なくできるか工夫を図ることだと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		人間関係とコミュニケーション I	39名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

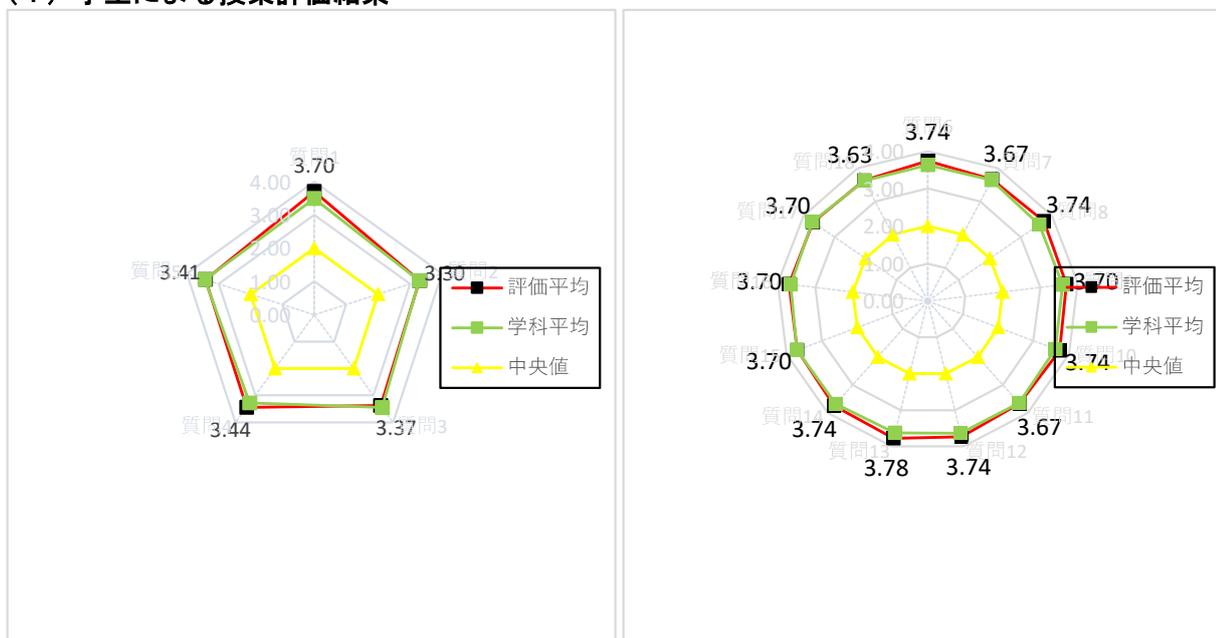
質問2、3、4については、学科平均より低い結果となった。留学生も多いクラスであり、シラバスについて十分に理解させることが出来なかったことが原因であると考えられる。授業を理解するための自身の工夫については、自分でどのような学習が必要かをきちんと理解させることが出来なかったことが原因であると考えられる。その他の項目については、学科平均よりおおむね高い傾向となった。本科目では、学生同士の学び促進を目的に、グループワーク等のワークを多めに実施した。ワークで出た学生の疑問に対し、その都度対応し、またクラス内でも共有するなどの取り組みを行ったことが今回結果につながったと考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

シラバスの活用方法について、学生が理解しやすいような表現や説明を行っていく。また、講義時に次回の講義についての説明を行い学生が自身で予習や復習ができるように促していく。評価の高かった項目については、次年度もグループワーク等を多く取り入れ、学生同士の学びを促進し、また学生同士の疑問点を共有し、クラス全体の学びを促進できるように取り組んでいく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		人間関係とコミュニケーションⅡ	39名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

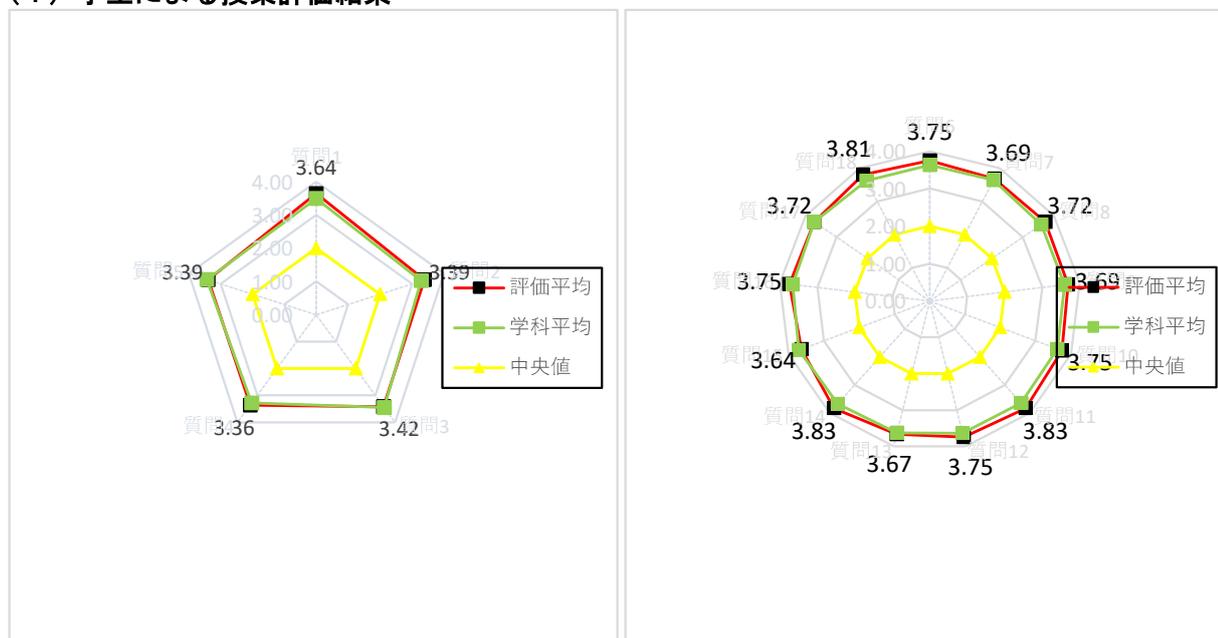
授業評価は、おおむね学科平均と同様の結果となった。自由記述では、「授業を理解するための工夫があり大変良かった」「発表があり、人前で話すことの訓練になった会話の練習や留学生の日本語での会話の練習になった」との意見も見られた。本科目では、コミュニケーション技術の向上を目的にグループワークや発表等を多く取り入れた。授業中の学生同士の理解促進やグループワークでのコミュニケーションの機会や発表の機会を多めに取り入れたことが、今回の結果につながったと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も、グループワークや発表等を多く取り入れ、授業中の学生同士の理解促進やグループワークでのコミュニケーションの機会や発表の機会を多めに取り入れていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護予防支援学	36名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

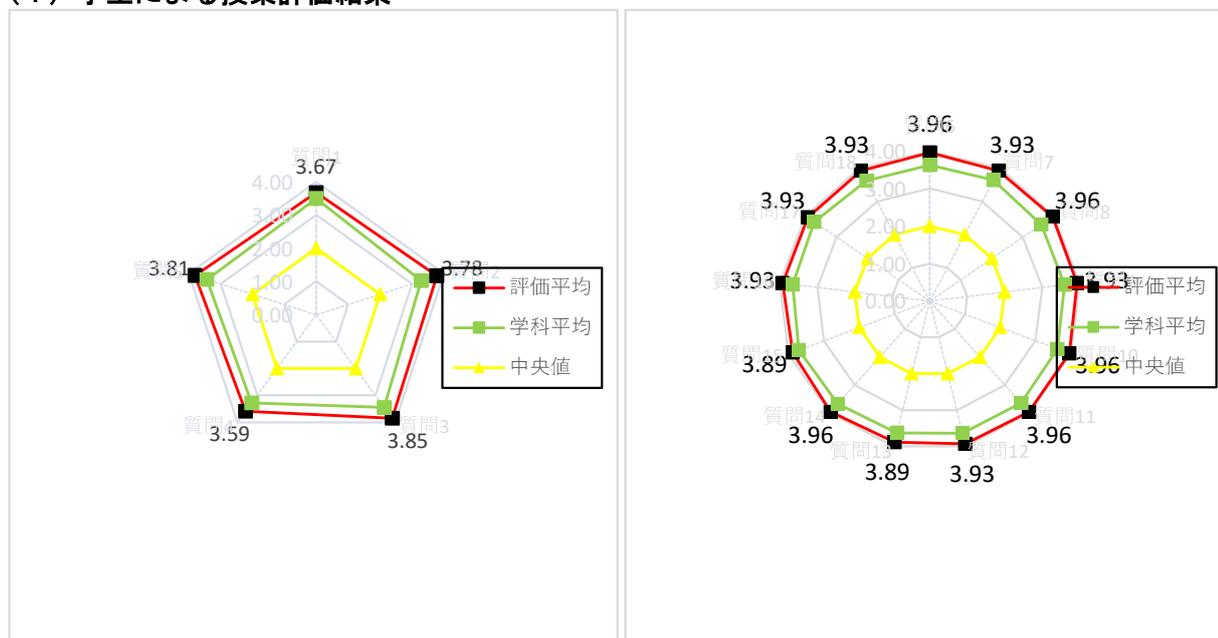
質問4、15の項目については、学科平均よりやや低い結果となった。本科目は、オムニバスで実施しており、各回で講義テーマや教員も入れ替わる授業である。教員により、授業方法等も違い、また各回で教員も入れ替わるため、授業以外での質問が行いにくい傾向にある。学生の疑問を拾いやすいような取り組みが不十分であったことが今回の結果につながったと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業でも学生が質問し、学びを促進できるように、主担当の教員が学生の疑問を拾い上げ、各担当の教員とつなぐ工夫を行っていく。また、復習や予習を自主的に行えるように、シラバスを活用し、学生が自身の学習計画をイメージできるようにうながしていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		日本文化事情（演習含む）	28名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

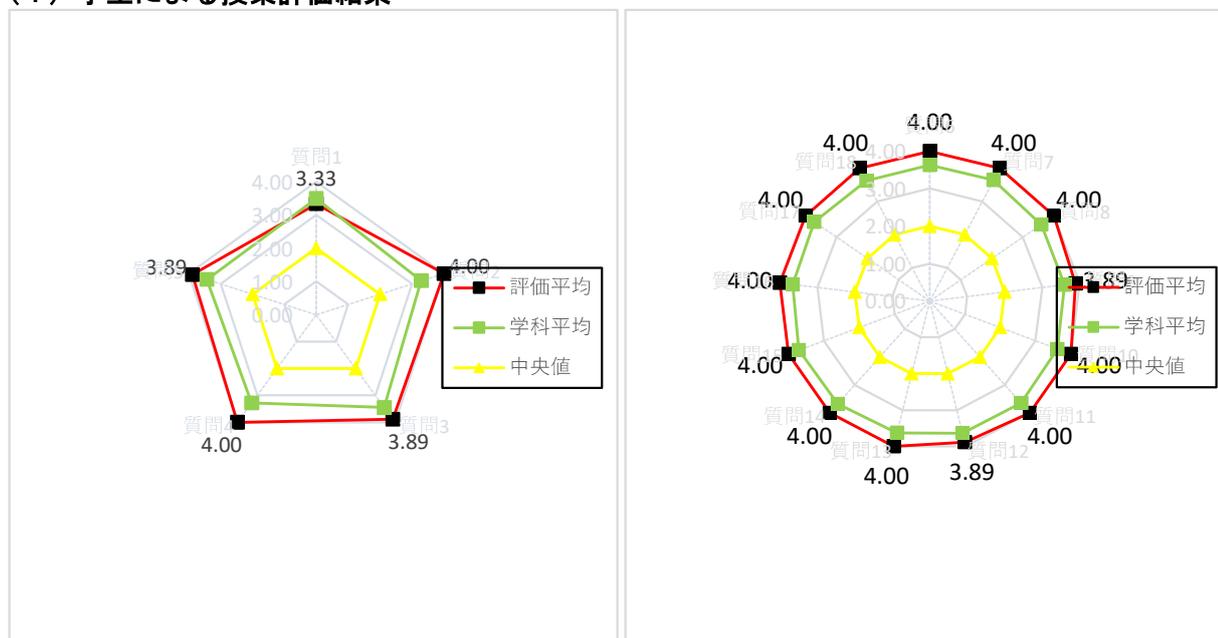
この授業は、受講生のほとんどが介護福祉コースと多文化コースの留学生である。昨年ほどではないが、ビザの申請手続き等で今回も留学生の入国が時間差で遅れ、受講生全員が揃って対面授業を行える日数は限られていた。入国が遅れている学生に対しては、TEAMSを利用し、資料の配布、レポートの指示などを行いながらサポートした。学生たちの学習に向かう意欲は大変高く、理論学習においてもワークショップにおいても「アクティブラーニング（対話的・主体的な学び）型の授業スタイル」を展開することができた。日本の文化を15回で網羅することは難しいために、学生たちの興味関心が高い分野を取り上げたり、文化・教育・観光等、学生たちの今後のキャリアに生かせるようなテーマを可能な限りシラバスに取り込んだ。また、介護現場や旅行観光業に就く学生も多いために、高齢者との交流や異文化交流に生かせるクリニカルアート（臨床美術）のプログラムも体験させた。学生の授業に対する評価は予想以上に高い。シラバスの内容や、対話を多く取り入れた授業展開、会話を重視したアートワークショップ等が、学修成果につながったと捉えている。学生の満足度は非常に高い。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は、介護福祉コースの留学生に加え、多文化コースの留学生が大幅に増える。留学生の入国の時間差が生じることも念頭に置き、入国が遅れる学生に対しては、TEAMSを利用し、資料の配布、レポートの指示などを行っていく。留学生の国籍は複数に及び、文化的な背景、宗教、そして日本語能力の高さの違いを踏まえ、臨機応変な対応が次年度も求められると思われる。また、日本人学生との交流も大切にしなければならない。そのため、理論学習においてもワークショップにおいても、分かりやすい日本語を使ったり、資料にルビをふるなど「合理的な配慮」を心がけたい。また、積極的なコミュニケーションを促すために「アクティブラーニング（対話的・主体的な学び）型の授業スタイル」を継続する。シラバスの内容も、15回という授業回数の中で学生たちの興味関心や今後のキャリアに生かせるようなテーマを精選して計画したい。加えて、クリニカルアート（臨床美術）のプログラムを通して、年齢や国籍を超えたコミュニケーションツールとしてアートが活用できるということへの気づきも促したい。ダイバーシティーを意識した授業を今後も展開したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		多文化理解 I	16名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

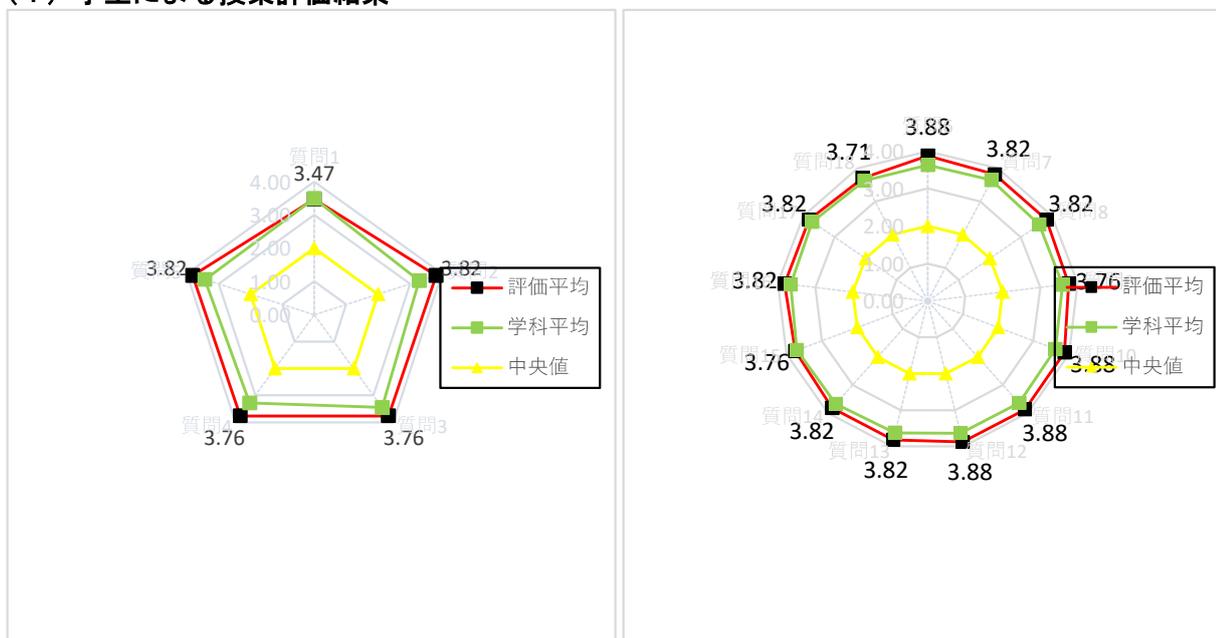
本授業は実務家教員（外部講師）と本学教員によるオムニバス授業で海外や国内の政治・経済ニュース、文化事情を取り上げ、グローバル社会の中で国際人に必要なメディアリテラシーの習得を目指している。実務家教員の一人は官公庁で国際交流の実務を担当し、国際交流事業や外国人の支援にあたっており、長年の経験を基に、地域での国際交流活動の実際、異文化理解について講義している。もう一人は英語教育等、日本での長年の経験を活かし、国内外の文化比較と多文化社会について講義している。本学教員は学生の特性を活かし日本の歴史文化に触れ、双方の文化の違いを体感させながら学生同士の相互理解を深めるように講義している。これらの学びをもとに講義と演習を組みあわせグループディスカッションなど交え、学びの報告・発表を行っている。学生の自己評価は、質問1の授業への出席を除き、学科平均と比べて非常に高かった。実際の授業でも留学生は時々欠席があるため、それぞれの自己評価は妥当である。質問6以降は、昨年の数値（自己評価3.67、総合評価は3.5）より高かった。評価全般は学科平均よりも高値でほとんどの項目が4と非常に高評価であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業評価が非常に高かったことから、次年度も今年度の結果を励みに3教員が連携、情報を共有して各担当回の内容の一層の充実を図る。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		プレゼンテーション概論	17名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

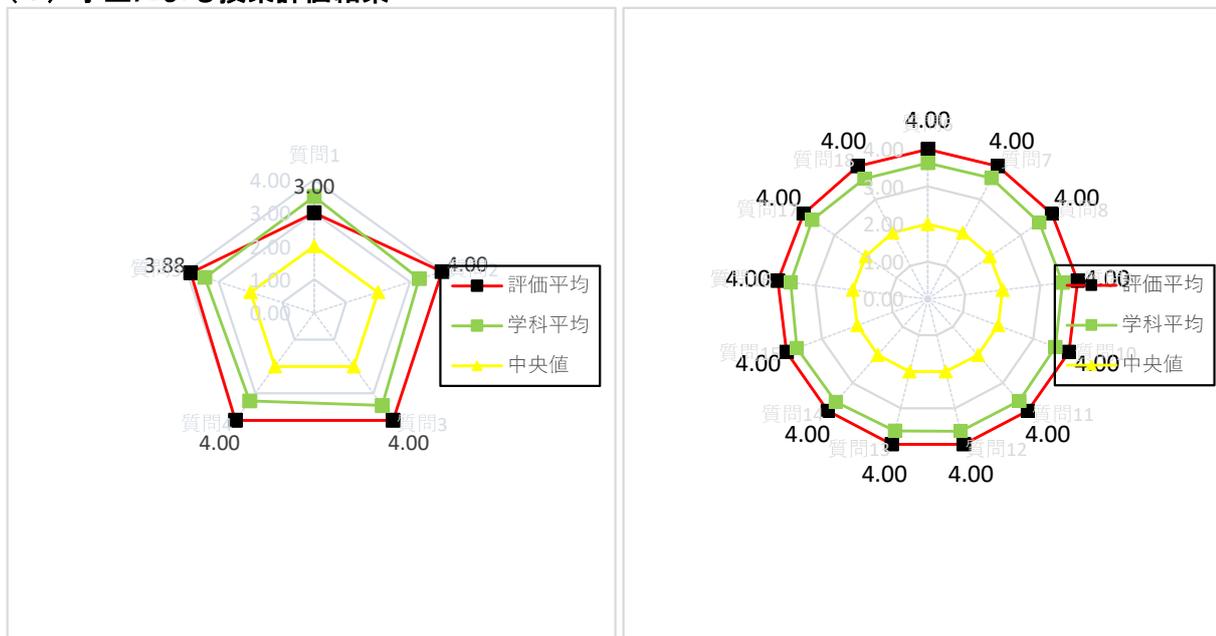
学生の自己評価並びに授業評価は、いずれも平均あるいは平均以上を得ている。授業では、コミュニケーションを重視したプレゼンテーションの基礎学習を進め、各課題発表、話題提供などのコミュニケーションを図ってきた。

(3) 次年度に向けての取り組み

昨年同様に展開する予定であるが、学生の状況を判断して、適宜方法を工夫したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		プレゼンテーション演習	16名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

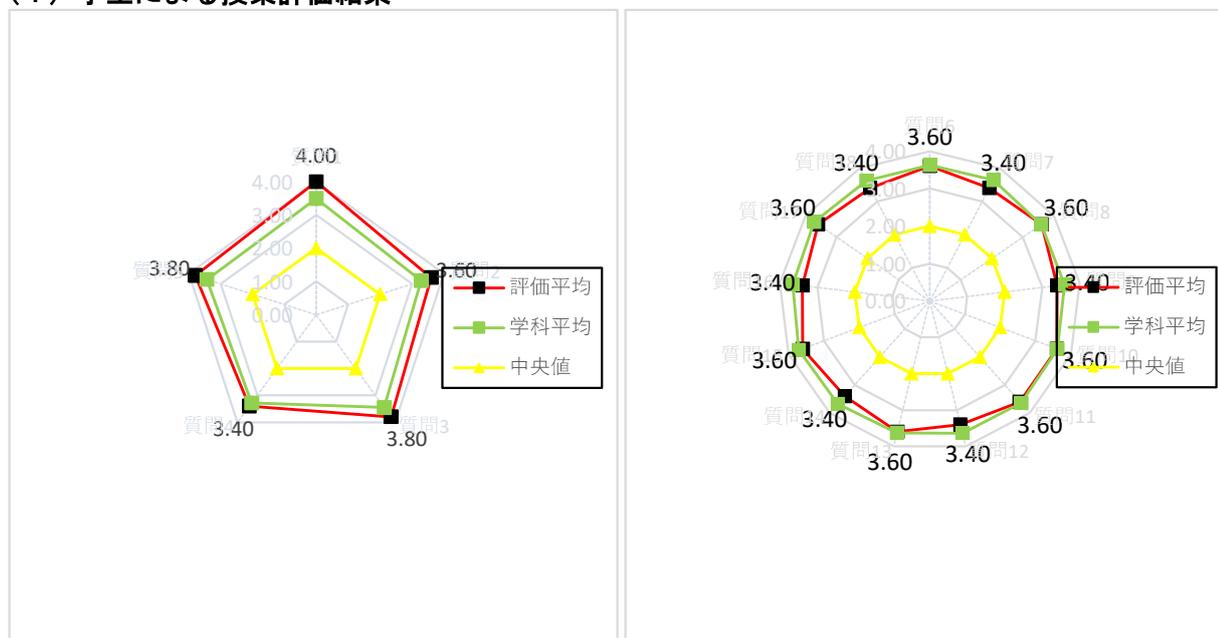
質問1の自己評価以外は高い評価を得ている。授業は、テストに沿ってプレゼンテーション用のパワーポイントを作成し、後半では練習課題から実際イベントで使用するポスター製作を行っている。学生にとって授業で取り組んだポスターが実際に活用されるまでを体験的に学習できていることが評価を得ているものと考えられる。一方では、オムニバス形式の学習のため、授業欠席があることから、授業への関心が高まるよう展開に工夫が必要と考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

パワーポイント作成の基礎スキルを中心とした学習であるが、ある程度理解がある内容については割愛するなどして、製作等への取り組みを増やしてみたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		応用プレゼンテーション演習	5名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

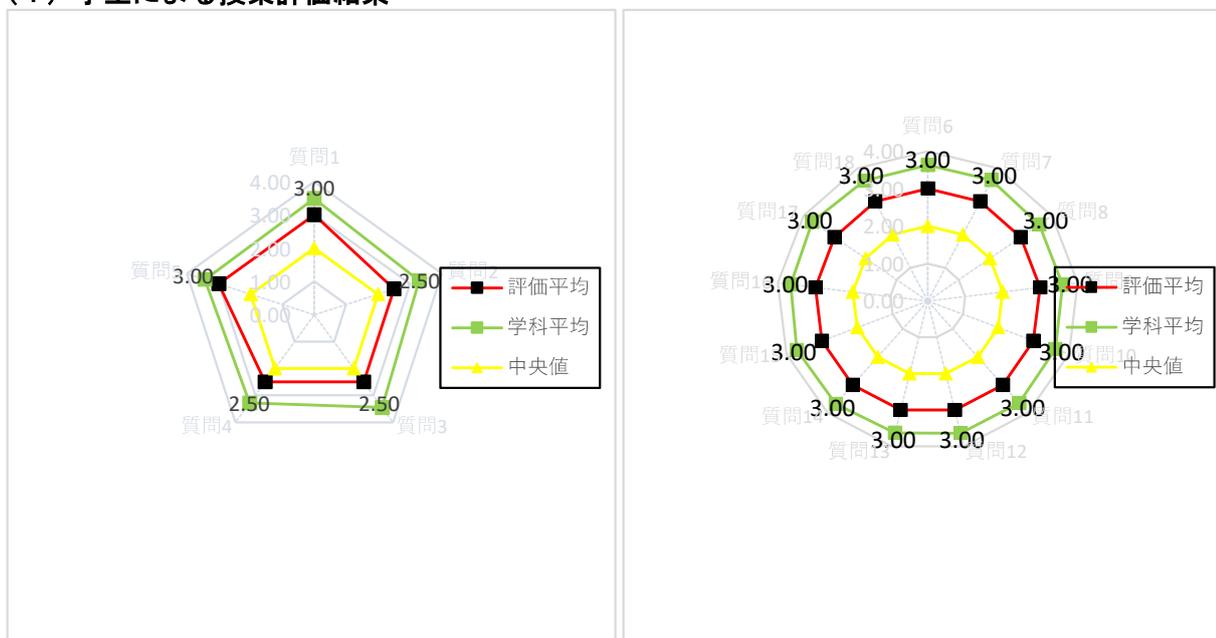
本授業は、プレゼンテーション概論と同演習で修得した知識と技術を基に、実践的なプレゼンテーション力を身に付けることを目的に学内外のイベント、観光プランなど具体的な企画を各自が行うことで実践力を養っている。前半では、観光プランを作成し、そのプランを学生自身が体験して地域観光の魅力を確認して学びを深める。本授業の受講者は昨年は2名と非常に少なかったが、今年は受講者が5名と増えて依然少ないものの、コースの学生数が少なく、受講状況に改善が見られたといえる。学生の自己評価は概ね高く質問4以外は学科平均より高値であった。質問6以降の授業評価については、全て学科平均より高値を示した。自己評価、授業評価を昨年の結果と比べると、昨 years が4.0, 3.0、今年が3.8, 3.6となり、昨年度より自己評価（1人のデータ）は低く、授業の満足度はあがっていた。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は身近な地域での学外の観光プランや地域観光の活性化について学生自身が関心を持って取り組めるテーマでグループワークやプレゼンテーションの実践を積めるよう検討し、授業の充実を図りたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		多文化共生とSDGs	6名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

履修者数が少ないので、妥当な評価をすることは難しいが、学生の評価はいずれも低いものとなっている。この科目は、学際的領域を取り扱う内容であり、学生にとっては全体像を把握することが難しい内容と考える。身近な話題から考えらるようにして、グループワークを入れて展開したが、これが返って単なる世間話や雑談の場ように捉えられたのかもしれない。

(3) 次年度に向けての取り組み

学習内容をより焦点化して、学生に何を考えればよいか各回のテーマを明確にして、ヒントを与えて話し合いが展開できるようにしていきたい。また、受講者の状況に応じて適宜方法を工夫していきたい。

西九州大学短期大学部

令和5年度 学生による授業評価アンケート調査結果報告

令和6年9月3日

IR室

【質問事項】

1. 授業は何回欠席しましたか。
【評価 4: 0回、3: 1回、2: 2~3回、1: 4回以上】
2. シラバス（授業計画）を活用しましたか。
【評価 4: 0回、3: 1回、2: 2~3回、1: 4回以上】
3. 授業中に居眠り・私語等をせず真剣に取り組みましたか。
【評価 4: 0回、3: 1回、2: 2~3回、1: 4回以上】
4. あなたはこの授業を理解するために自分で何か工夫をしましたか。
【評価 4: そう思う、3: だいたいそう思う、2: あまりそう思わない、1: そう思わない】
5. あなた自身の総合自己評価
【評価 4: 良い、3: やや良い、2: やや悪い、1: 悪い】
6. シラバス（授業計画）について説明がありましたか。
【評価 4: そう思う、3: だいたいそう思う、2: あまりそう思わない、1: そう思わない】
7. 教員は授業の到達目標を明確にして、授業を展開していましたか。
【評価 4: そう思う、3: だいたいそう思う、2: あまりそう思わない、1: そう思わない】
8. 授業は興味・関心が持てる工夫がされていましたか。
【評価 4: そう思う、3: だいたいそう思う、2: あまりそう思わない、1: そう思わない】
9. 授業は分かりやすくする工夫がされていましたか。
【評価 4: そう思う、3: だいたいそう思う、2: あまりそう思わない、1: そう思わない】
10. 視聴覚機器や板書の用い方は適切でしたか。
【評価 4: そう思う、3: だいたいそう思う、2: あまりそう思わない、1: そう思わない】
11. 教科書・配布資料等は役に立ちましたか。
【評価 4: そう思う、3: だいたいそう思う、2: あまりそう思わない、1: そう思わない】
12. 声の大きさ・明瞭さ・話す速さは適切でしたか。
【評価 4: そう思う、3: だいたいそう思う、2: あまりそう思わない、1: そう思わない】
13. 授業の進む速さは適切でしたか。
【評価 4: 十分、3: だいたい十分、2: やや不十分、1: 不十分】
14. 学生の質問等に誠実に対応しましたか。
【評価 4: 十分、3: だいたい十分、2: やや不十分、1: 不十分】
15. 公平に学生に対応しましたか。
【評価 4: 十分、3: だいたい十分、2: やや不十分、1: 不十分】
16. 教員は双方向的なやり取りをしながら、授業を行っていましたか。
【評価 4: 十分、3: だいたい十分、2: やや不十分、1: 不十分】
17. 教員は熱心に授業に取り組んでいましたか。
【評価 4: そう思う、3: だいたいそう思う、2: あまりそう思わない、1: そう思わない】
18. この授業を総合評価してください。
【評価 4: 良い、3: やや良い、2: やや悪い、1: 悪い】

【令和 5(2023)年度授業評価アンケート回答結果】

(前期科目)

	開講科目数		延べ履修者数		回答科目数		回答者数		回答者率	
	共通	専門	共通	専門	共通	専門	共通	専門	共通	専門
地域	5	59	220	1,687	4	60	180	1,665	81.8%	98.7%
幼保	5	45	270	1,603	5	58	257	1,521	95.2%	94.9%
西九短	10	104	490	3,290	9	118	437	3,186	89.2%	96.8%

※通年科目を除く

(後期科目)

	開講科目数		延べ履修者数		回答科目数		回答者数		回答者率	
	共通	専門	共通	専門	共通	専門	共通	専門	共通	専門
地域	11	76	495	2,005	10	74	422	1,647	85.3%	82.1%
幼保	12	61	413	2,112	9	51	321	791	77.7%	37.5%
西九短	23	137	908	4,117	19	125	743	2,438	81.8%	59.2%

※通年科目を含む

【学生回答による項目別評価平均値】

(前期科目)

質問	共通教育科目		地域生活支援学科 (専門科目)		幼児保育学科 (専門科目)	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
1	3.6	0.72	3.61	0.71	3.39	0.82
2	3.19	0.91	3.41	0.78	3.21	0.84
3	3.41	0.79	3.44	0.73	3.43	0.67
4	3.25	0.83	3.47	0.64	3.29	0.74
5	3.39	0.66	3.49	0.56	3.38	0.63
6	3.59	0.7	3.74	0.49	3.64	0.62
7	3.61	0.65	3.73	0.46	3.61	0.61
8	3.53	0.71	3.7	0.48	3.57	0.65
9	3.54	0.71	3.71	0.49	3.59	0.64
10	3.58	0.67	3.74	0.46	3.6	0.64
11	3.65	0.64	3.77	0.44	3.62	0.62
12	3.62	0.67	3.76	0.46	3.62	0.63
13	3.58	0.69	3.72	0.48	3.61	0.63
14	3.61	0.68	3.81	0.41	3.67	0.6
15	3.69	0.63	3.78	0.42	3.68	0.59
16	3.59	0.66	3.78	0.45	3.63	0.63
17	3.69	0.63	3.81	0.4	3.69	0.58
18	3.59	0.65	3.74	0.46	3.6	0.61

質問5 総合自己評価

質問18 授業の総合評価

(後期科目)

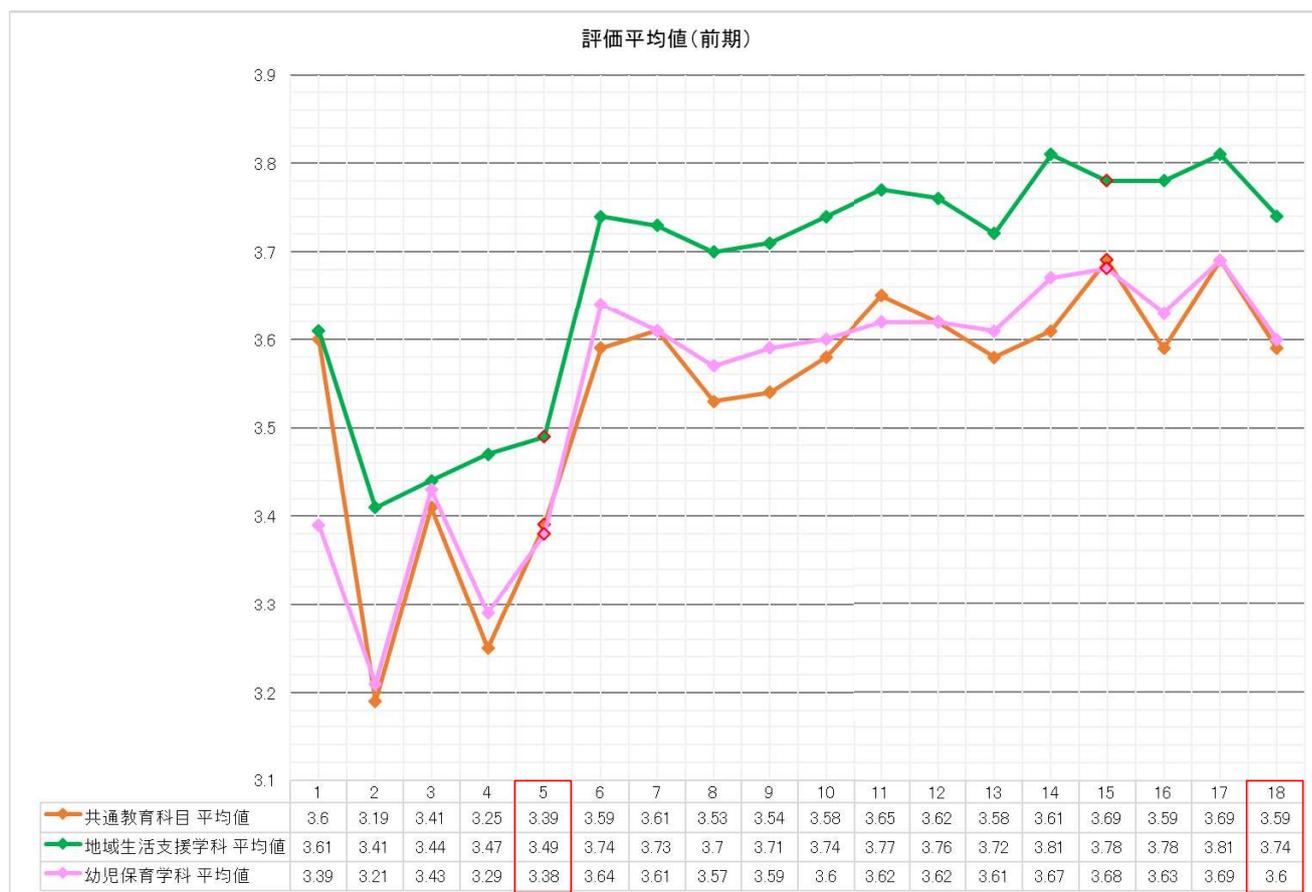
質問	共通教育科目		地域生活支援学科 (専門科目)		幼児保育学科 (専門科目)	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
1	3.49	0.8	3.52	0.76	3.33	0.85
2	3.29	0.85	3.42	0.76	3.23	0.82
3	3.45	0.72	3.47	0.7	3.43	0.65
4	3.28	0.8	3.5	0.62	3.29	0.72
5	3.43	0.62	3.5	0.56	3.38	0.61
6	3.63	0.63	3.72	0.5	3.65	0.59
7	3.64	0.59	3.72	0.47	3.63	0.58
8	3.59	0.64	3.69	0.5	3.58	0.62
9	3.6	0.63	3.71	0.49	3.6	0.61
10	3.62	0.61	3.72	0.48	3.61	0.62
11	3.65	0.61	3.75	0.46	3.63	0.6
12	3.64	0.62	3.73	0.48	3.63	0.6
13	3.63	0.62	3.72	0.5	3.62	0.61
14	3.68	0.59	3.77	0.44	3.67	0.57
15	3.71	0.56	3.77	0.44	3.68	0.57
16	3.66	0.59	3.76	0.46	3.63	0.61
17	3.72	0.55	3.79	0.43	3.69	0.57
18	3.62	0.59	3.72	0.48	3.62	0.59

※通年科目を含む

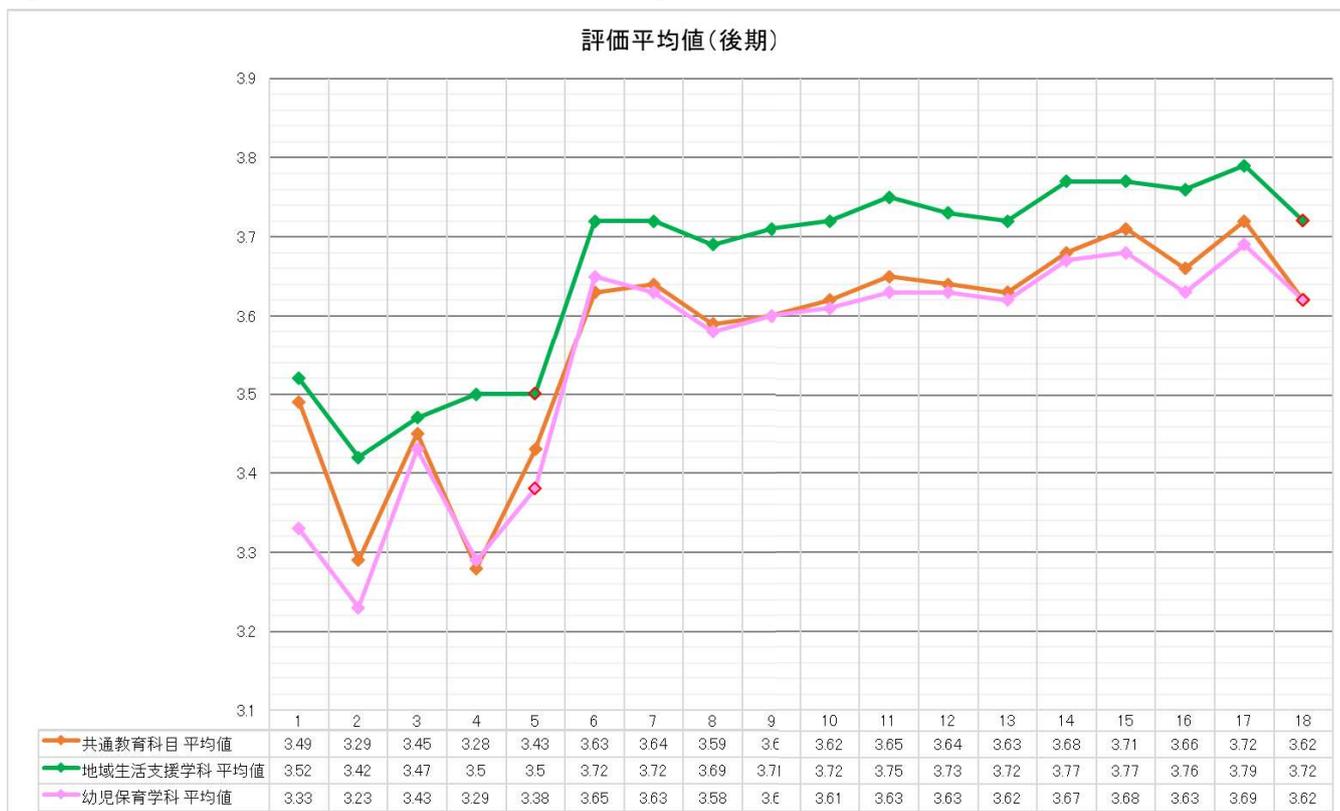
質問 5 総合自己評価

質問 18 授業の総合評価

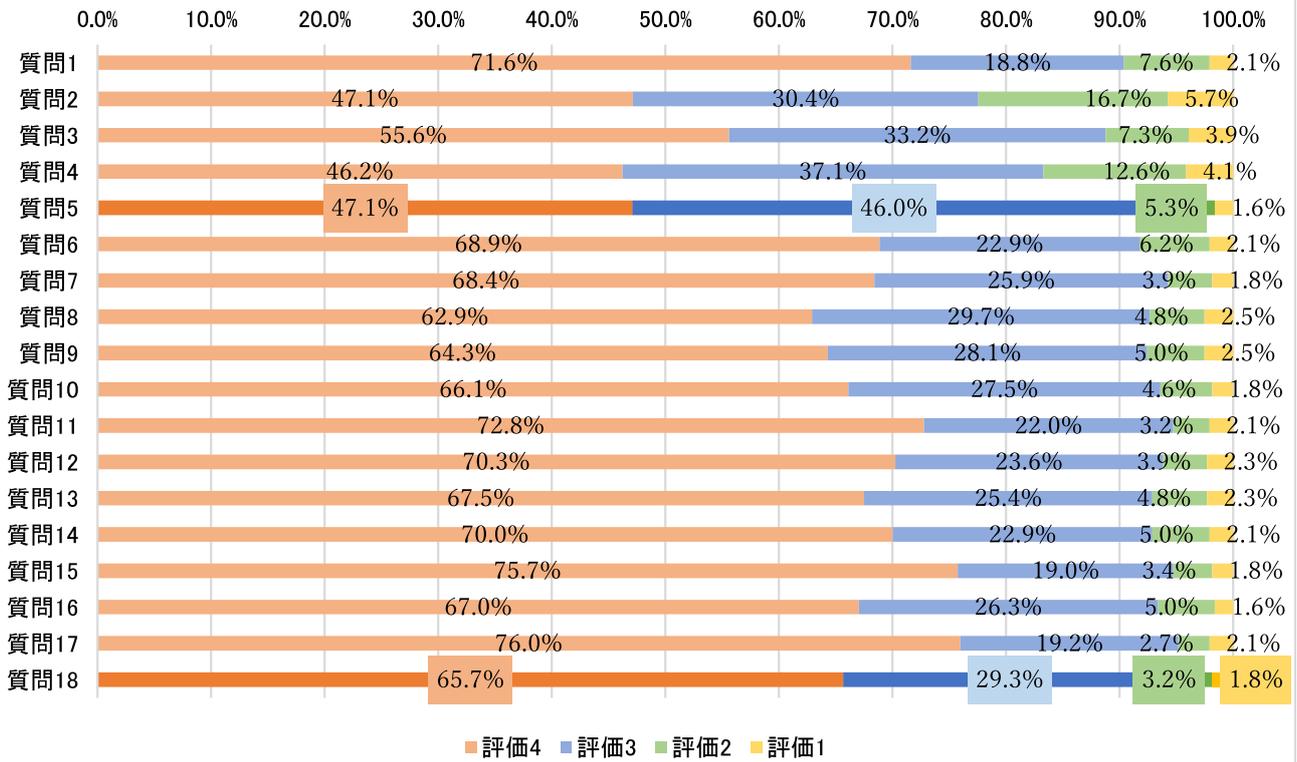
【学生回答による項目別評価平均値】



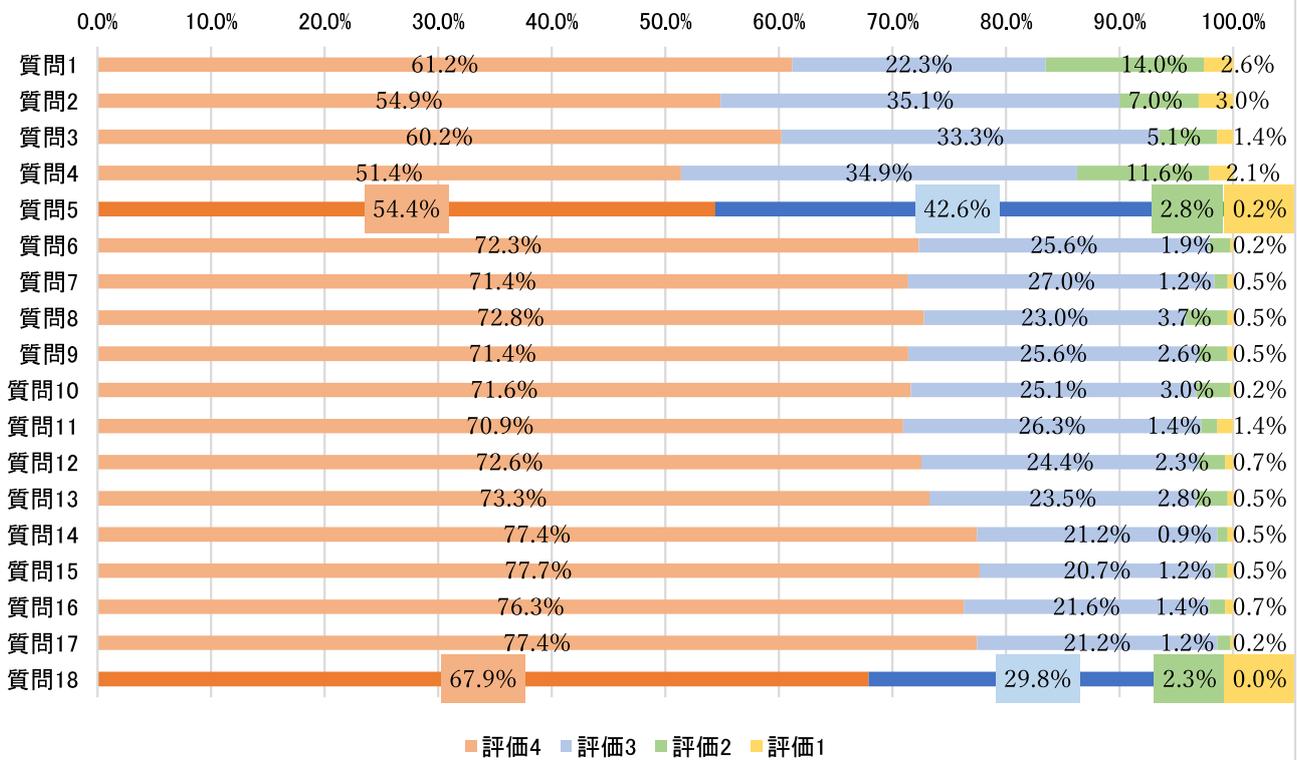
【学生回答による学年別学期ごとの回答割合】



共通教育科目1年前期



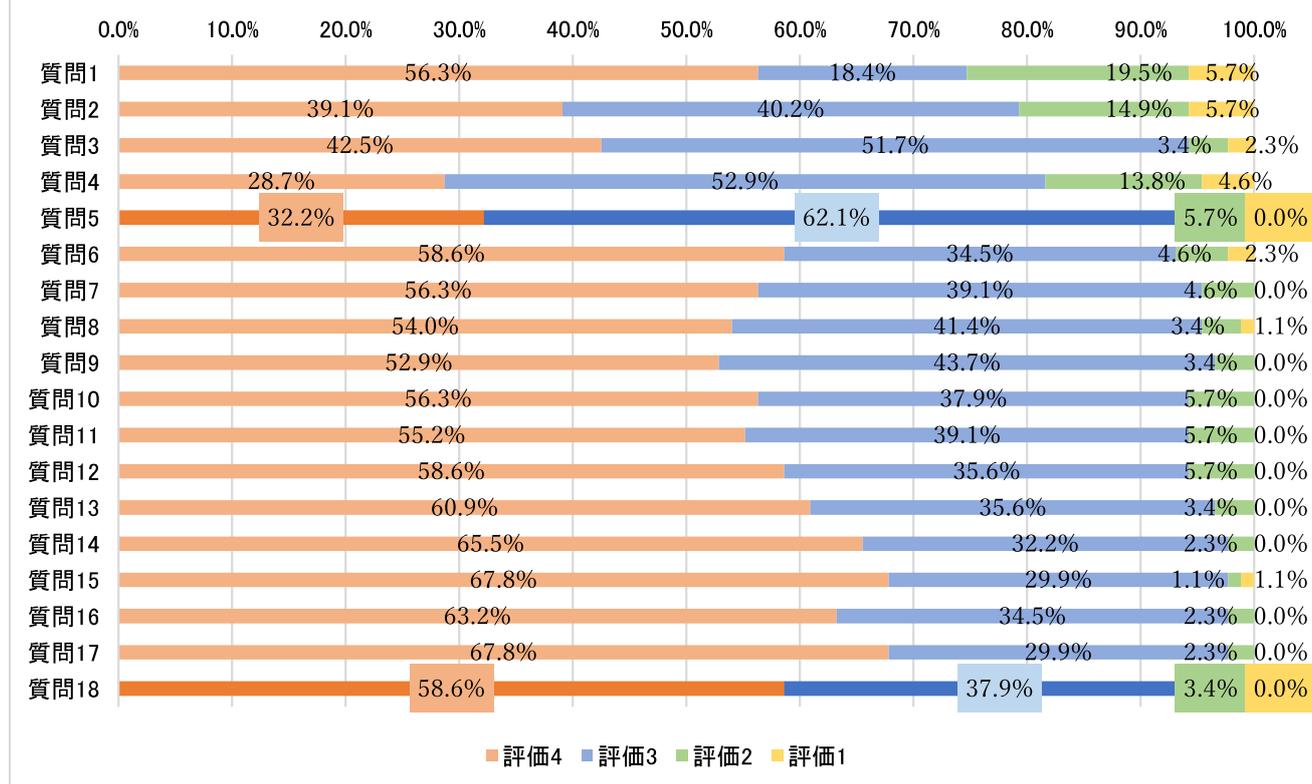
共通教育科目1年後期



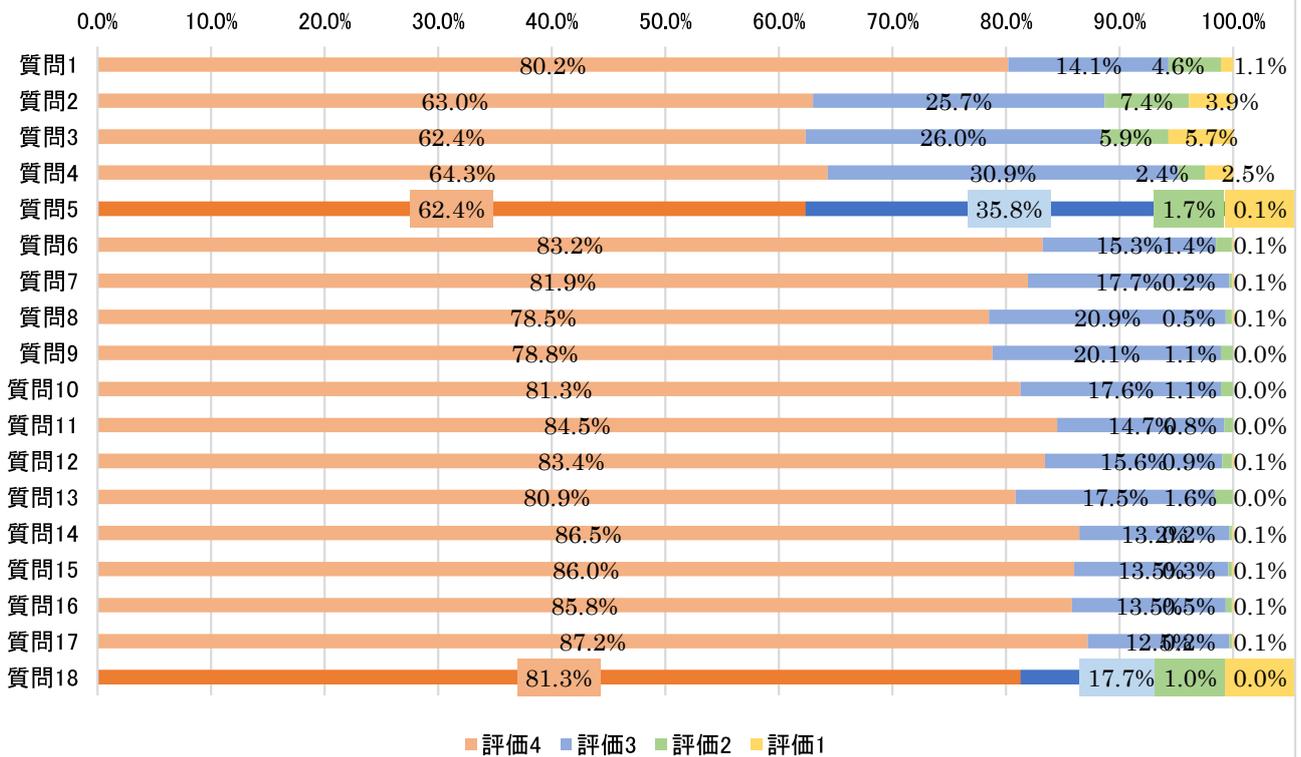
共通教育科目 2 年前期

実績なし

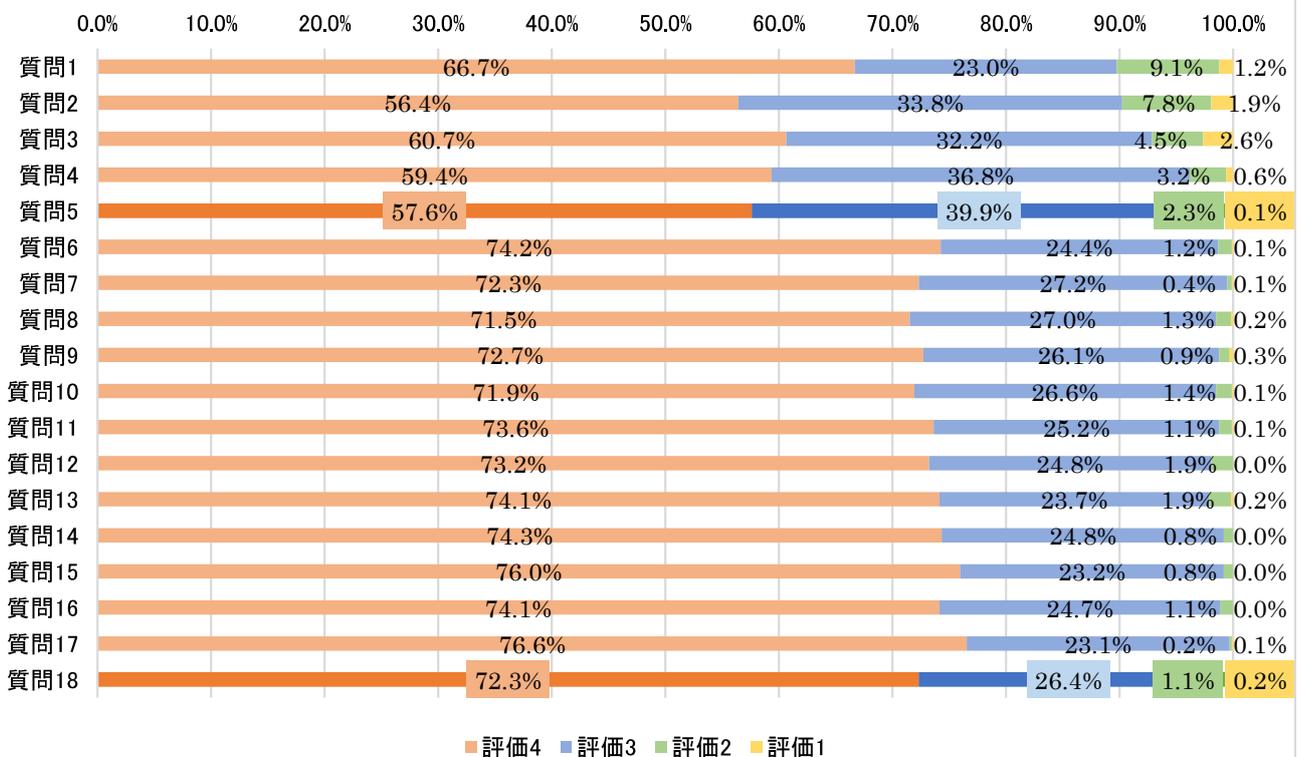
共通教育科目2年後期



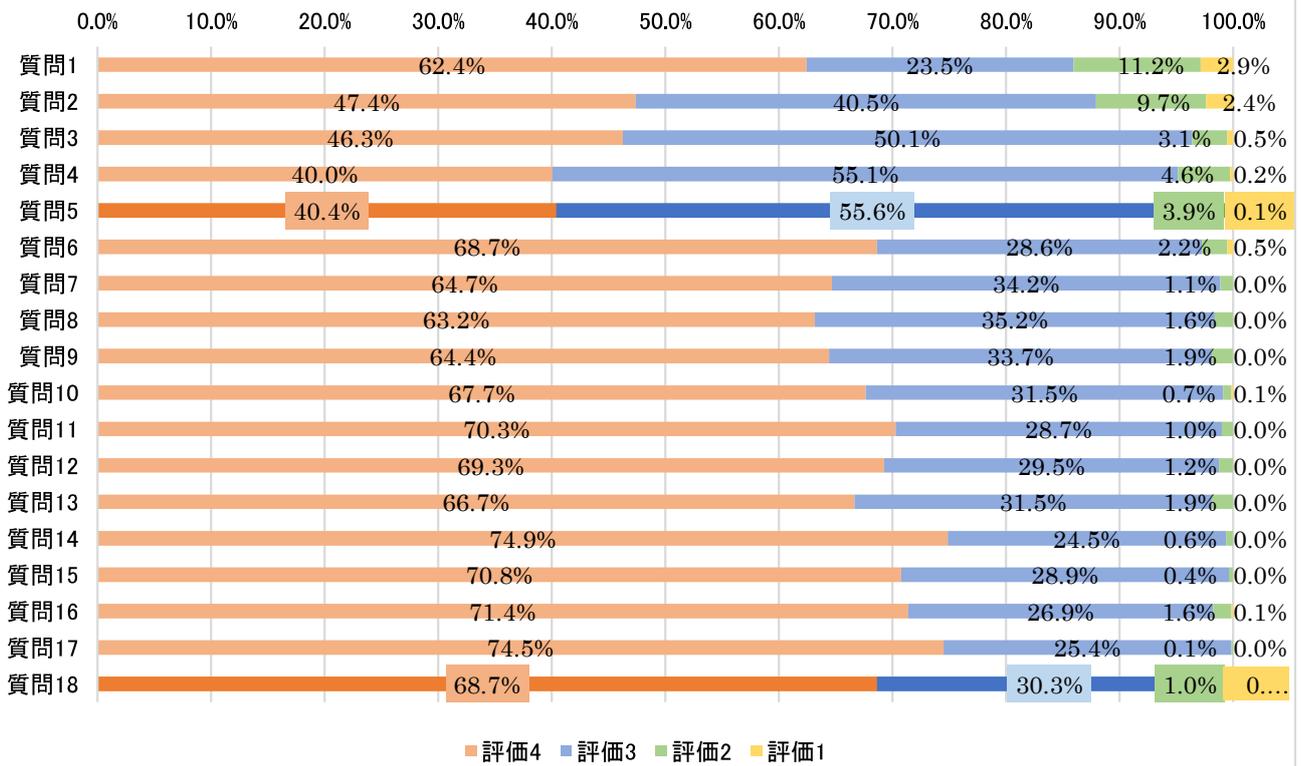
地域生活支援学科1年前期（専門教育科目）



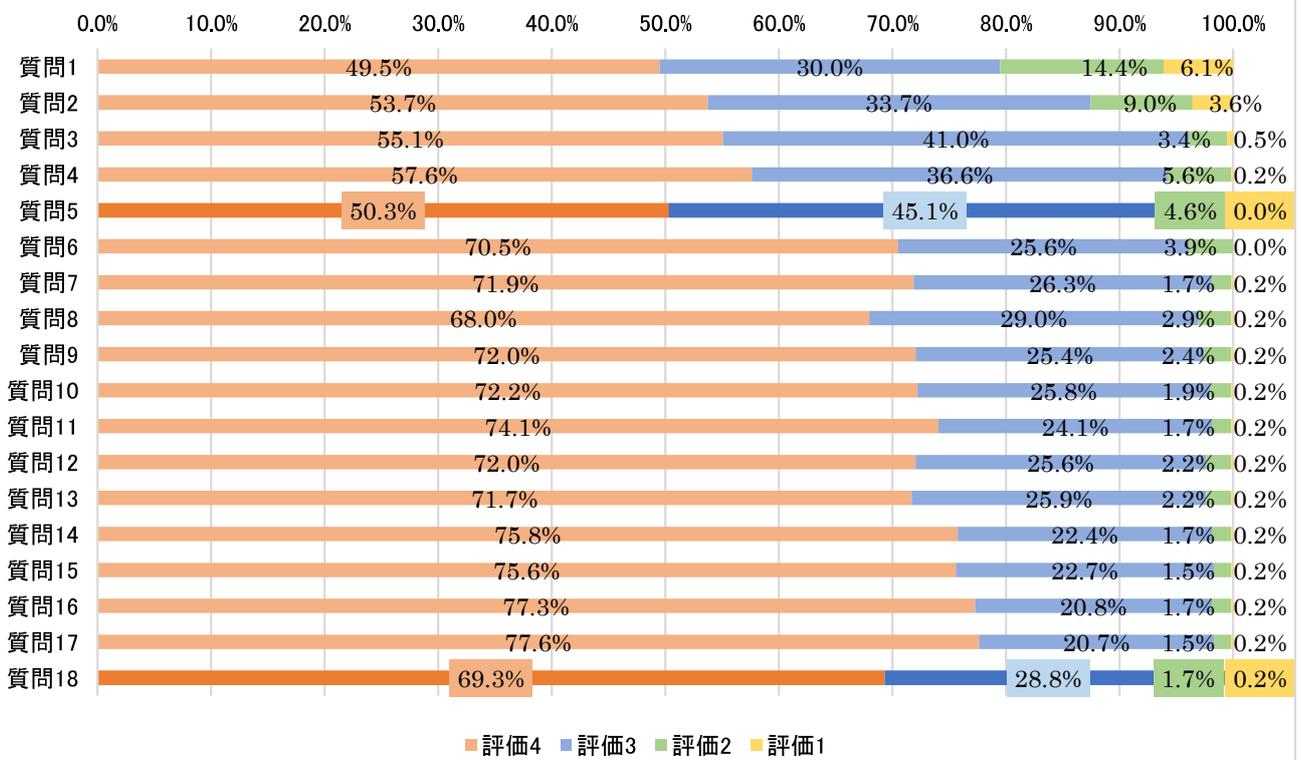
地域生活支援学科1年後期（専門教育科目）



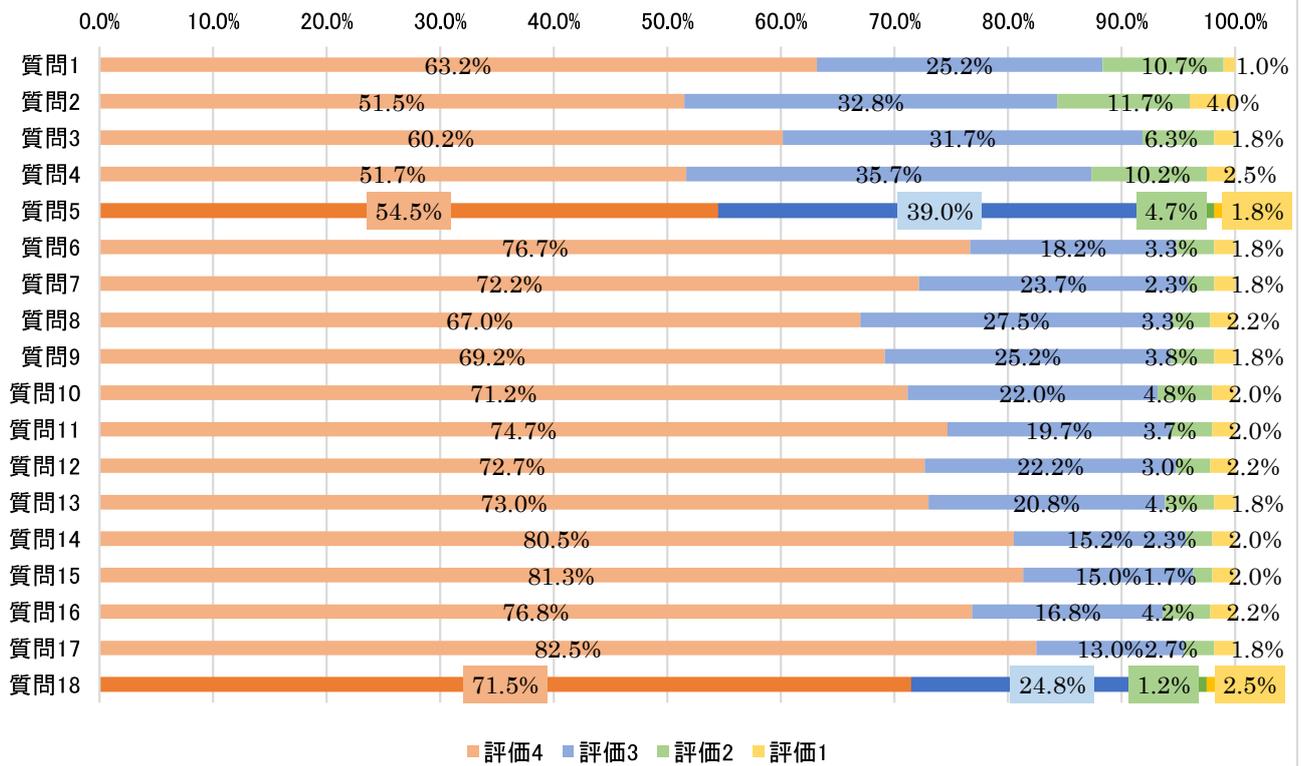
地域生活支援学科2年前期（専門教育科目）



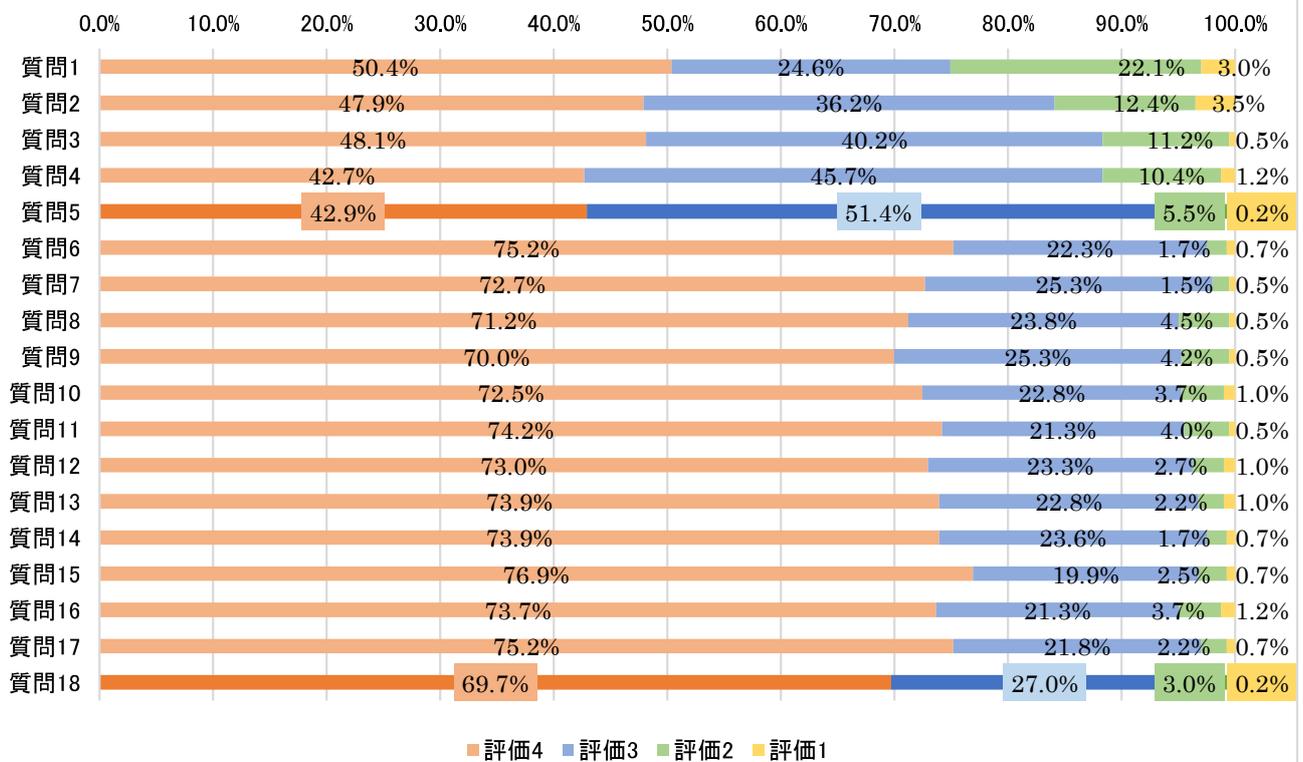
地域生活支援学科2年後期（専門教育科目）



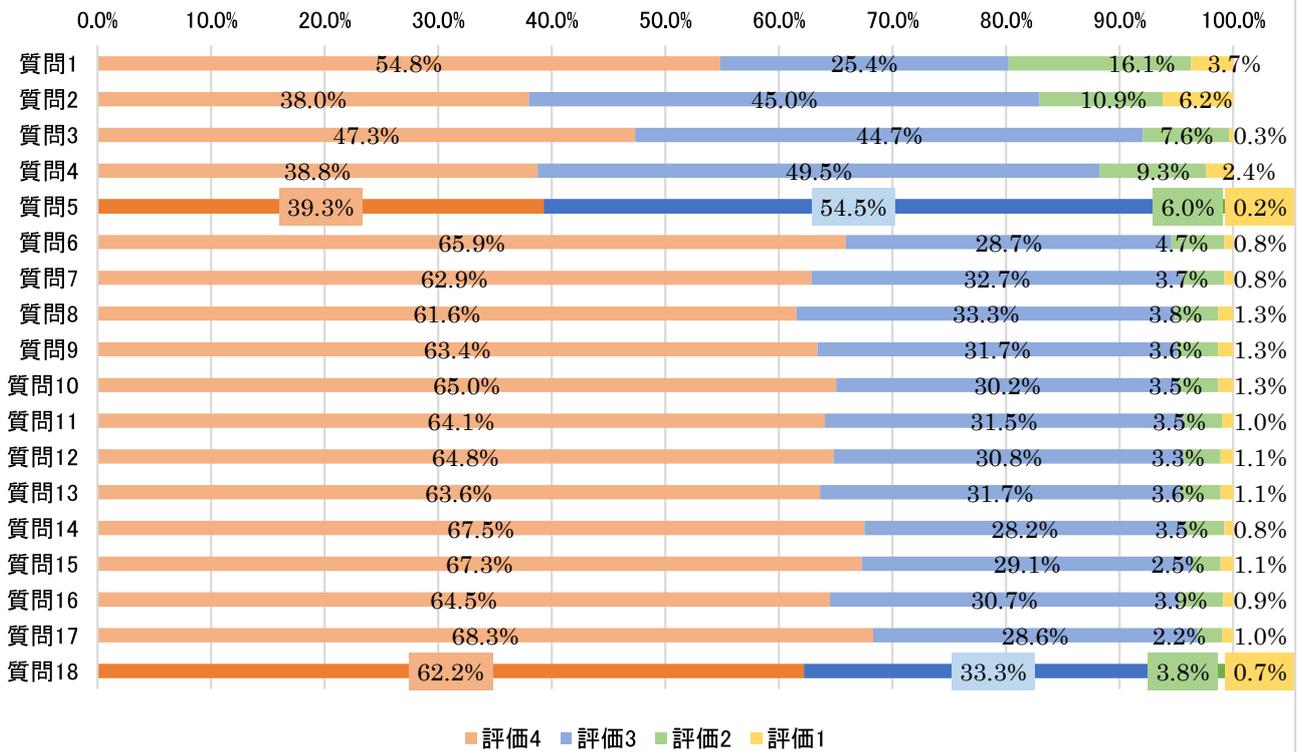
幼児保育学科1年前期（専門教育科目）



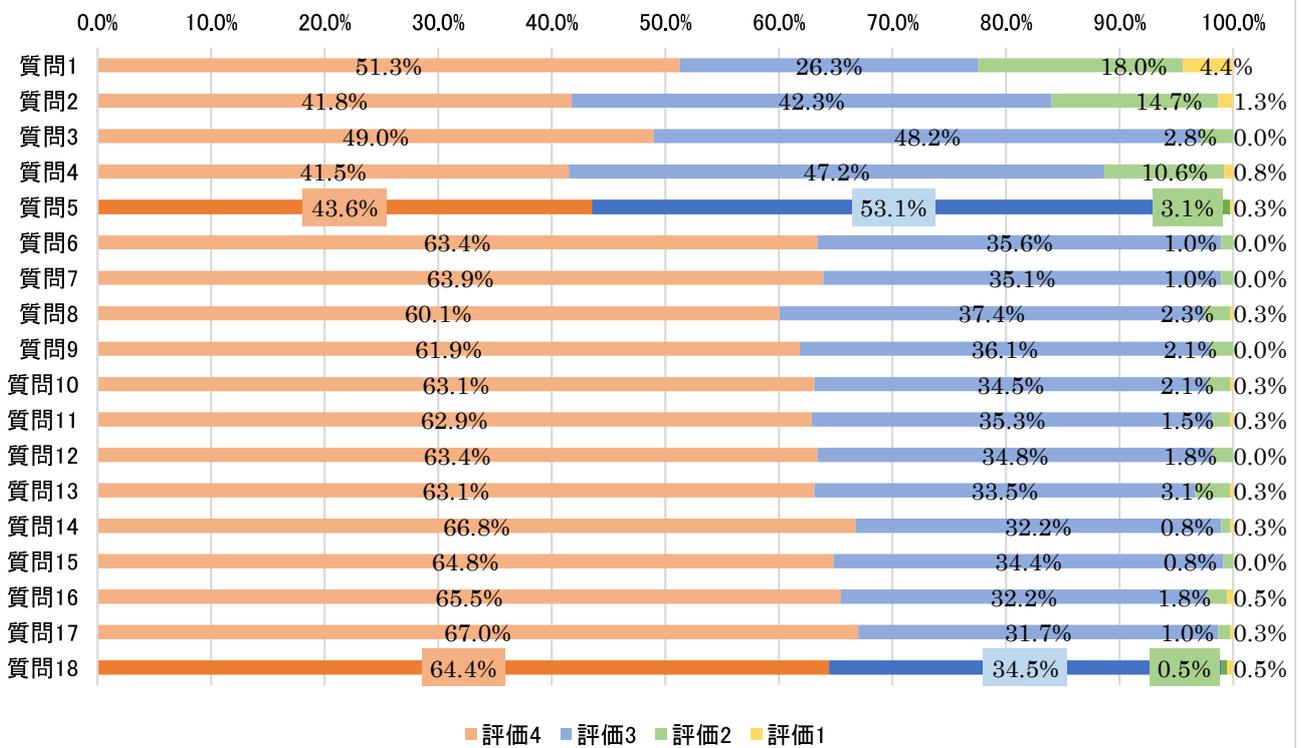
幼児保育学科1年後期（専門教育科目）



幼兒保育学科2年前期（専門教育科目）



幼兒保育学科2年後期（専門教育科目）



分析に基づく検証評価・改善について

地域生活支援学科

評価・成果等	課題・問題点等	今後実行可能な改善事項等
<p>それぞれの科目について、各担当者は昨年度のデータに基づいて課題と改善策を立てて試行錯誤しながら改善充実に努めている。基幹科目では、外部との日程調整があるなかで、ほぼ計画通りにコース間での協同学習を強化することができた。</p>	<p>学習内容によっては、単に学生の座学や演習などの好き嫌いから授業を評価する傾向もある。とりわけ留学生が増加するなか、評価の動向や観点については十分留意しなければならない。各コースの資格につながる科目の改善充実はもとより、高等教育として実践的な付加価値の充足改善（コース間協同学習）の特色づくりは対外的には弱いと考えられる。</p>	<p>学生本位の教育が、学生からの単なる人気取りにならないよう、シラバスなどを活用した学習への理解、成果の獲得・質の向上を目指し、各科目担当での対応に努める。授業が科目担当者の所有物にならないよう、情報共有に努め、学科としての学びの特色について充実改善を図っていく。</p>

幼児保育学科

評価・成果等	課題・問題点等	今後実行可能な改善事項等
<p>今回初めて、学生の授業への取り組み、教員の授業方法およびパフォーマンスの双方において、地域生活支援学科とくравте、相対的に低い評価となった。</p> <p>専門教育科目について、学生の回答を期別に比較すると、学生の授業への取り組み、教員の授業方法およびパフォーマンスのすべてにおいて、1年前期・1年後期・2年後期と学年が進むに連れて、評価は低くなっていく。そして、2年後期になると、それまでの低評価がわずかではあるが、改善される傾向がみられる。</p>	<p>地域生活支援学科にくравте、学生の授業への取り組み、教員の授業方法およびパフォーマンスに対する評価が相対的に低くなったのは、新たな課題である。</p>	<p>まず、今回の授業評価結果を学科で共有することが急務である。そのうえで、学科FDをおこない、改めて学生の実態を把握、学生の実態を踏まえた授業改善を進めていく。</p>

編集者一覧

令和6年度 FD委員会

FD委員会委員長	武富 和美	教授
副学長・地域生活支援学科長	平田 孝治	教授
幼児保育学科長	野口 美乃里	教授
地域生活支援学科	西岡 征子	教授
幼児保育学科	春原 淑雄	准教授
事務局・次長	大石 妙子	

西九州大学短期大学部

令和5年度 学生による授業改善のための授業評価結果に関する報告書

編集日 令和6年9月18日（水）

編集・発行 西九州大学短期大学部 教務課

〒840-0806 佐賀県佐賀市神園三丁目18-15

電話 0952-37-9614（教務課直通）

URL https://www.nisikyu-u.ac.jp/junior_college/

メール kyomu_info@nisikyu-u.ac.jp